JVC

ネットワークビデオレコーダー

型名 **VR-X8500**

Milestone XProtect Smart Client ユーザーマニュアル

本書では、ビューワー "Smart Client" について、VR-X8500 取扱説明書（操作・設定編）に掲載されていない詳しい操作方法や応用操作について説明しています。
本書は Milestone Systems A/S が作成した取扱説明書をオリジナルのまま掲載しており、すべての XProtect VMS 製品が対象となっています。
本機で採用している XProtect Express+ では対応していない機能に関する記載も含まれていますので、ご注意ください。

B5A-3750-00

目次

著作権、商標、および免責条項 19
概要 20
このマニュアルについて 20
概要 20
ライセンス 20
要件と注意事項 20
インストール 20
設定 20
最適化 20
操作 20
トラブルシューティング 21
アップグレード 21
FAQ 21
XProtect Smart Client (説明付き) 21
新しい機能 22
XProtect Smart Client 2020 R3 22
機能概要 24
アドオン製品 32
XProtect Smart Wall(説明付き) 32
XProtect Access(説明付き) 33
XProtect LPR(説明付き) 34
XProtect Transact(説明付き) 34
ライセンス 35
XProtect Smart Clientライセンス 35
アドオン用のライセンス 35
要件と注意事項 36
最低限のシステム要件 36

監視システムの別の特徴 36
インストール 37
XProtect Smart Clientをインストールする 37
設定 38
設定モード オーバービュー 38
設定ウィンドウ 39
アプリケーション設定 39
ペイン設定 42
機能設定 42
タイムライン設定 44
エクスポート設定 44
スマートマップの設定 45
キーボード設定 46
検索設定 47
ジョイスティック設定 48
入退室管理設定 50
アラームマネージャーの設定 50
拡張設定 50
言語設定 54
右から左に読む言語 (説明付き) 54
ヘルプの無効化 55
ビュー(設定) 55
ビュー(説明付き) 55
ビューグループ間で検索 56
ビューグループの作成 57
ビューの作成 58
ビューまたはグループのコピー、名前の変更、削除 59
コンテンツをビューに追加 59
カメラをビューに追加 60

画像をビューに追加 61
テキストをビューに追加 65
Webページをビューに追加する 65
ビューにオーバーレイボタンを追加する 68
カメラツールバーを完全に非表示にする 68
ショートカット番号をビューに割り当て 69
簡易モードでのビューの追加または編集をする 69
カメラ(設定) 70
カメラ設定 70
フレームレート効果(説明付き) 74
境界ボックス(説明付き) 74
境界ボックスプロバイダー(説明付き) 75
オーバーレイボタン(説明付き) 75
サウンド通知(説明付き) 75
音声(設定) 76
音声設定 76
ブックマーク(設定) 77
詳細なブックマークを有効にする 77
カメラナビゲーター(設定) 78
カメラナビゲーターをビューに追加 78
カメラナビゲータの設定 79
画面自動切替(設定) 79
カルーセルをビューに追加 79
自動切替設定 80
ホットスポット(設定) 80
ホットスポットをビューに追加 80
ホットスポット設定 81
PTZプリセット(構成) 81
PTZプリセットの追加 81

PTZプリセットの編集 82
PTZプリセットの削除 83
パトロールプロファイル(構成) 83
パトロールプロファイルを追加する 83
パトロールプロファイルを削除する 84
パトロールプロファイルを編集する 84
アラームとイベント(設定) 86
表示するアラームを追加 86
アラームリストの設定 86
アラームプレビューの設定 87
スマートマップ(設定) 88
マップとスマートマップの違い(説明付き) 88
スマートマップをビューに追加 89
スマートマップの背景地図を変更する 89
背景地図(説明付き) 90
背景地図の種類(説明付き) 90
OpenStreetMapタイルサーバー(説明付き) 90
OpenStreetMapタイルサーバーの変更 91
スマートマップでレイヤーを表示または非表示する 92
スマートマップのレイヤー(説明付き) 93
レイヤーの順番(説明付き) 93
スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする 93
スマートマップのデフォルト設定を指定 94
カスタムオーバーレイの追加、削除および編集 94
カスタムオーバーレイ(説明付き) 94
カスタムオーバーレイおよび場所 95
スマートマップでカスタムオーバーレイを追加する 95
カスタムオーバーレイへ場所を追加する(スマートマップ) 96
スマートマップ上でのカスタムオーバーレイの削除 97

シェープファイルのエリアをより見やすくする(スマートマップ) 97
カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置の調整をする 98
スマートマップ上のカメラの追加、削除または編集 98
スマートマップにカメラを追加する 99
カメラの視野および方向を変更する 101
カメラ用アイコンの選択または変更 101
カメラに関する情報を表示または非表示にする 102
カメラをスマートマップから削除する 102
スマートマップ上のリンクの追加、削除および編集 103
スマートマップ上のリンク(説明付き) 103
スマートマップの場所またはマップへリンクを追加する 104
スマートマップのリンクを編集または削除する 104
スマートマップ上の場所の追加、削除および編集 105
スマートマップ上の場所(説明付き) 105
スマートマップのホームの場所(説明付き) 105
スマートマップに場所を追加する 105
スマートマップ上の場所を追加、編集または削除する 106
場所同士の間のリンク(説明付き) 106
スマートマップ上の建物の追加、削除および編集 106
スマートマップ上の建物(説明付き) 106
スマートマップに建物を追加する 107
スマートマップ上での建物の編集 107
スマートマップ上の建物を消去します。 108
建物のレベルとカメラの管理(スマートマップ) 109
建物のカメラとレベル(説明付き) 109
フロアプランおよび建物内のカメラ(説明付き) 109
建物にレベルを追加、あるいは削除する(スマートマップ) 109
建物内のレベルの変更順序(スマートマップ) 110
建物のためのデフォルトレベルを設定する(スマートマップ) 110

フロアプランをレベルに追加(スマートマップ) 111
フロアプランの削除(スマートマップ) 112
建物にカメラを追加する(スマートマップ) 113
マップ(設定) 113
マップをビューに追加 113
マップ設定 114
マップツールボックス(説明付き) 116
マップ-右クリックメニュー(説明付き) 116
マップの背景を変更する 116
マップの削除 117
マップのエレメントの追加と削除 117
ホットゾーンをマップに追加 118
マップのエレメントの外観の変更 119
マップ上でのラベルの編集と回転 121
マップのテキストを追加/編集 121
Matrix (設定) 122
Matrixをビューに追加 122
Matrix設定 122
XProtect Smart Wall(設定) 123
Smart Wall概要をビューに追加 123
Smart Wallモニターのレイアウトを変更 124
XProtect Smart Client - Player (設定) 126
XProtect Smart Client – Playerでのビューの管理 126
プロジェクトペイン(説明付き) 126
ページビューの説明 127
概要ペイン(説明付き) 127
デジタル署名(説明付き) 128
XProtect Access(設定) 128
アクセスモニターをビューに追加 128

アクセスモニター設定 129
アクセスモニター設定の変更 129
ビューのカスタマイズ 130
カードホルダー情報の管理 130
アクセスリクエスト通知をオンまたはオフにする 131
XProtect LPR(設定) 131
LPRカメラをビューに追加する 131
LPR表示設定の調整 131
マップでLPRサーバーのステータスを有効にする 132
LPR固有のエレメントを有効にする 132
XProtect Transact(設定) 134
入門:XProtect Transact 134
XProtect Transact試用版ライセンス 135
トランザクションのビューを設定 135
トランザクションビューアイテムの設定の調整 137
スクリプト 138
ログインのスクリプト化(説明付き) 138
ログインのスクリプト-パラメータ 138
ナビゲーション用のHTMLページのスクリプト 142
最適化 146
ハードウェアアクセラレーションの有効化 146
ハードウェアアクセラレーション(説明付き) 146
ハードウェアアクセラレーション設定をチェックします 146
オペレーティングシステムの確認 147
CPU Quick Syncのサポート確認 147
デバイスマネージャの確認 148
NVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。 149
BIOSでIntelディスプレイアダプタを有効にする 150
ビデオドライバを更新します 150

モジュール設定の確認 151
アダプティブストリーミングの有効化 151
アダプティブストリーミング(説明付き) 151
アダプティブストリーミング設定の確認 152
利用可能なビデオストリームの確認 153
システムの監視 154
クライアントリソースのモニタリング 155
Milestone Federated Architectureのあるシステムモニター(説明付き) 155
操作 156
ログイン 156
初めてのログイン(説明付き) 156
ログイン認証(説明付き) 156
入退室管理システム(説明付き) 156
ログインおよびログアウト 156
XProtect Smart Clientにおけるタブ 157
ライブタブ(説明付き) 158
[再生]タブ(説明付き) 158
[検索]タブ(説明付き) 158
[アラーム マネージャー]タブ(説明付き) 159
システムモニタータブ(説明付き) 159
入退室管理タブ(説明付き) 159
ナンバープレート認識(LPR)タブ(説明付き) 160
Transactタブ(説明付き) 160
XProtect Smart Clientの紹介 161
バージョンおよびプラグイン情報の表示 161
ユーザーの権限(明記済み) 162
XProtect Smart Clientのモード(説明付き) 162
ライブタブの概要 163
再生タブの概要 164

ビューおよびビューグループ(説明付き) 165
ビューとショートカット(説明付き) 166
ビューの内容 166
カメラツールバーオーバービュー 168
タスクボタンの概要 169
アプリケーションボタンの概要 170
ステータスウィンドウ(説明付き) 172
キーボードショートカット(説明付き) 174
カメラのナビゲーション 175
ホットスポット(説明付き) 175
ホットスポットの使用 176
カメラナビゲータ(説明付き) 176
カメラナビゲーターの使用 177
画面自動切替(説明付き) 177
画面自動切替を使用する 178
デジタルズーム(説明付き) 178
デジタルズームの使用 179
仮想ジョイスティックおよびPTZオーバーレイボタン(説明付き) 180
生のビデオを閲覧する 181
ライブビデオ(説明付き) 181
カメラインジケータ(説明付き) 181
ビデオの手動録画 182
枚のスナップショットを撮る 183
インシデントの調査 183
タイムライン(説明付き) 183
タイムナビゲーションのコントロール(説明付き) 185
タイムラインのブックマーク(説明付き) 186
録画されたビデオを見る(説明付き) 186
再生タブ 187

[ライブ]タブ 188
[検索]タブ 188
タイムラインとは別に録画されたビデオを表示 188
カメラまたはビューから検索を実行 189
検索結果の調査 189
タイムラインとMilestone Interconnect(説明付き) 190
Milestone Interconnectからデータを取得する 190
エビデンスビデオの作成 191
ビデオ、音声、静止画像のエクスポート 191
エクスポート中に録画でエリアをマスクする 192
ウィンドウ設定のエクスポート 193
XProtectフォーマットの設定 194
ストーリーボードのエクスポート(説明付き) 195
ストーリーボードのエクスポート 195
エクスポートされたビデオの表示 196
監視レポートの印刷または作成 198
単一カメラからレポートを印刷 198
検索結果からレポートを作成 199
画像をクリップボードにコピー 200
XProtect Smart Clientでの検索 200
ビデオの検索 201
モーションの検索 205
スマート検索とモーションしきい値(説明付き) 208
ブックマークの検索 208
アラームの検索 210
イベントの検索 210
人物の検索 211
車両の検索 211
特定の場所で録画されたビデオを検索 212

マージされた検索結果 (説明付き) 212
検索基準の一部またはすべてに一致 (説明付き) 213
検索タブのタイムライン(説明付き) 214
検索結果から利用できるアクション(説明付き) 215
検索中に境界ボックスを表示/非表示にする 215
検索結果からビデオをプレビュー 216
検索中にカメラの位置を特定する 218
カメラアイコン(説明付き) 220
検索結果のブックマーク 221
検索結果のブックマークを編集する 223
検索結果のスナップショットを撮る 224
別個のウィンドウで検索結果を開く 225
検索条件の管理 225
検索条件の保存 226
保存した検索条件を探して開く 227
保存した検索条件の編集または削除 229
[再生]タブと検索時間の同期 230
ビュー 231
ビューとカメラの検索(説明付き) 231
一時的に各カメラを変更 232
カメラの切り替え 232
オープンなビューの間にビデオを送信する 232
表示間のビューを送信 233
マルチプルウィンドウ/ディスプレイ(説明付き) 233
ブックマーク 236
ブックマーク(説明付き) 237
ブックマークウィンドウ 237
ブックマークを追加または編集する 240
ブックマークを削除 241

イベントおよびアラーム 242
アラーム(説明付き) 242
アラームリスト(説明付き) 242
アラームリストのサーバー(説明付き) 243
アラーム状態(説明付き) 243
アラームのフィルタリング 243
アラームへの応答 244
アラームの詳細の表示および編集 244
アラームを確認 245
特定のイベントタイプで新しいアラームを全て無効にする 246
マップでアラームを無視する 247
アラームを閉じる 247
アラームレポートを印刷する 247
アラームの統計を取得する 248
マップ上のアラーム(説明付き) 248
スマートマップ上のアラーム(説明付き) 249
イベント(説明付き) 249
イベントのマニュアル起動 249
エビデンスロック 250
エビデンスロック(説明付き) 250
エビデンスロックの作成 250
エビデンスロックを表示する 252
エビデンスロックを編集する 253
エビデンスロックのあるビデオを再生する 253
エビデンスロックをエクスポートする 253
エビデンスロックを削除する 254
エビデンスロック設定 254
エビデンスロックフィルター 255
エビデンスロックのステータスメッセージ 256

プライバシーマスク 257
プライバシーマスク(説明付き) 258
プライバシーマスクの適用と除去 259
PTZと魚眼レンズ 262
魚眼レンズ画像(説明付き) 262
お気に入りの魚眼レンズの位置の定義 263
PTZおよび魚眼レンズ画像(説明付き) 263
PTZ画像(説明付き) 263
PTZカメラをPTZプリセット位置に移動 264
ロックされたPTZプリセット(説明付き) 264
PTZパトロールの開始、停止、または停止 264
PTZパトロールの停止 264
手動パトロール(説明付き) 265
手動パトロールの開始および停止 265
パトロールの一時停止 266
予約済みPTZセッション(解説済み) 268
PTZセッションの予約 269
PTZセッションのリリース 269
仮想ジョイスティックおよびPTZオーバーレイボタン(説明付き) 269
音声 270
音声(説明付き) 270
相手と話す 270
スマートマップ 271
スマートマップ(説明付き) 271
スマートマップと検索(説明付き) 271
ズームイン&ズームアウト 273
1台のカメラからビデオをプレビューする 274
複数のカメラからのビデオプレビュー 274
スマートマップでカメラのビデオを閲覧するにはホットスポットを使用します。 275

スマートマップの場所に移動 275
スマートマップ上のカメラにアクセス 276
スマートマップ上でカスタムオーバーレイに飛ぶ 277
以前の場所に後戻りする(説明付き) 277
マップ 278
マップ(説明付き) 278
エレメントとマップの関係 279
マップ概要ウィンドウ(説明付き) 282
マップからフロートウィンドウへカメラを送信 282
マップのカメラから録画されたビデオを表示 283
ステータス詳細の表示 283
ズームと自動最大化 283
Matrix 284
Matrix(説明付き) 284
Matrixコンテンツを表示(説明付き) 284
ビデオをMatrix受信者に手動で送信 285
XProtect Smart Wall 285
Smart Wall概要(説明付き) 286
Smart Wallコンテンツの表示 286
Smart Wallモニターの切断 287
Smart Wall表示オプション 287
Smart Wallでのコンテンツの表示 288
Smart Wallでカメラを追加または変更 288
ビュー全体をSmart Wallに追加 291
Smart Wallで他のコンテンツタイプを追加または変更 292
Smart Wallにテキストを表示 294
Smart Wallのアラーム(説明付き) 295
ブックマークをSmart Wallに送信 296
スマートマップとSmart Wall(説明付き) 297

マップまたはスマートマップをSmart Wallにドラッグ 298
Smart Wallの上でコンテンツを表示するのをストップする 299
XProtect Smart Client - Player 300
XProtect Smart Client – Playerの概要 301
での検索XProtect Smart Client – Player 302
デジタル署名の検証 303
データベースまたは以前にエクスポートされていたエビデンスを表示する 305
XProtect Access 305
ライブタブの入退室管理(説明付き) 305
マップを使用したドアのモニタリング 306
入退室管理イベントの調査 306
入退室管理イベントの検索とフィルタリング 306
イベントリスト(説明付き) 307
アクセスレポートのエクスポート 307
イベントリストのライブ更新モードの切り替え 308
ドア状態の監視と制御 308
ドアリスト(説明付き) 309
カードホルダーの調査 309
アクセスリクエスト通知(説明付き) 310
アクセスリクエスト通知管理(説明付き) 310
アクセスリクエストへの応答 311
XProtect LPR 311
ライブタブのLPR(説明付き) 311
検索タブのLPR(説明付き) 311
LPRタブ(説明付き) 312
LPRイベントリスト(説明付き) 312
LPRイベントのフィルタリング(説明付き) 312
ナンバープレート一致リストを編集 313
ナンバープレート一致リストをインポートまたはエクスポートする 313

LPRイベントをレポートとしてエクスポートする 314
アラームマネージャタブのLPR 315
LPR認識を表示 315
XProtect Transact 316
XProtect Transactの概要 316
ライブトランザクションを観察する 317
トランザクションの調査 318
ビューのトランザクションの調査 318
検索とフィルターを使用したトランザクションの調査 319
無効なソースからのトランザクションの調査 320
トランザクションイベントの調査 321
トランザクションアラームの調査 322
トランザクションの印刷 323
トラブルシューティング 324
インストール (トラブルシューティング) 324
エラーメッセージと警告 324
ログイン(トラブルシューティング) 324
エラーメッセージと警告 324
Milestone Federated Architecture 326
エクスポーティング(トラブルシューティング) 326
エラーメッセージと警告 327
検索(トラブルシューティング) 328
エラーメッセージと警告 328
スマートマップ(トラブルシューティング) 329
エラーメッセージと警告 329
Webページ (トラブルシューティング) 329
XProtect Smart Wall(トラブルシューティング) 330
XProtect Transact(トラブルシューティング) 331
エラーメッセージと警告 331

アップグレード 332
XProtect Smart Clientアップグレード 332
FAQ 333
FAQ: アラーム 333
FAQ: 音声 333
FAQ: ブックマーク 334
FAQ: カメラ 334
FAQ: デジタルズーム 335
FAQ: 表示とウィンドウ 335
FAQ: エクスポート 336
FAQ: マップ 337
FAQ: 通知 337
FAQ: 検索 338
FAQ: スマートマップ 341
FAQ: ビュー 342
用語集 344

著作権、商標、および免責条項

Copyright © 2020 Milestone Systems A/S

商標

XProtectはMilestone Systems A/Sの登録商標です。

MicrosoftおよびWindowsは、Microsoft Corporationの登録商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。AndroidはGoogle Inc.の商標です。

本文書に記載されているその他の商標はすべて、該当する各所有者の商標です。

免責条項

このマニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生する危険の責任はすべてその使用者にあるものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事項も保証するものではありません。

Milestone Systems A/Sは、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったく偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の契約条件が適用される可能性があるサードパーティ製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細はお使いのMilestoneシステムインストールフォルダーにあるファイル3rd_party_software_terms_and_conditions.txtを参照してください。

概要

このマニュアルについて

このユーザーマニュアルはオXProtect Smart Clientペレータ用ですがXProtect Smart Client、設定、メンテナンス、およびトラブルシューティングへの責任を持つシステム管理者およびインテグレータにもお使いいただけます。なお、設定のほとんどは、Management Clientで行われます。詳細については、XProtect VMS管理者マニュアルを参照してください。

このマニュアルでは、ユーザーインターフェイス要素の配置に言及する場合、左から右に向けてインターフェイスを使用しているものと想定しています。ページ54の右から左に読む言語 (説明付き)も参照してください。

マニュアルのその他のセクションには何がありますか?

概要

最新版の新機能や、アドオン製品などの、XProtect Smart Clientについての情報を紹介。

ライセンス

XProtect Smart Clientのライセンスに関するすべての重要な情報。

要件と注意事項

XProtect Smart Clientのインストール前に注意すべきこと。例えば、システム要件など。

インストール

XProtect Smart Clientのインストール方法に関する情報。

設定

構成の大半はシステム管理者がXProtect Management Clientで行いますが、ビューやアプリケーション設定といった一部の要素は、ユーザー自身がXProtect Smart Clientで構成できます。

最適化

ハードウェアアクセラレーションの有効化など、ユーザーエクスペリエンスを最適化するために実行できること。

操作

このセクションでは、XProtect Smart Clientで機能を使用する方法について説明します。録画ビデオの再生方法、詳細な検索の実行、ビデオ録画と静止画像のエクスポート方法などです。

トラブルシューティング

エラー メッセージが表示されるなど、問題が発生することもあります。問題が起きた場合は、サポートに連絡する前に、トラブルシューティングセクションを参照してください。

アップグレード

アップグレードが必要な場合の情報。

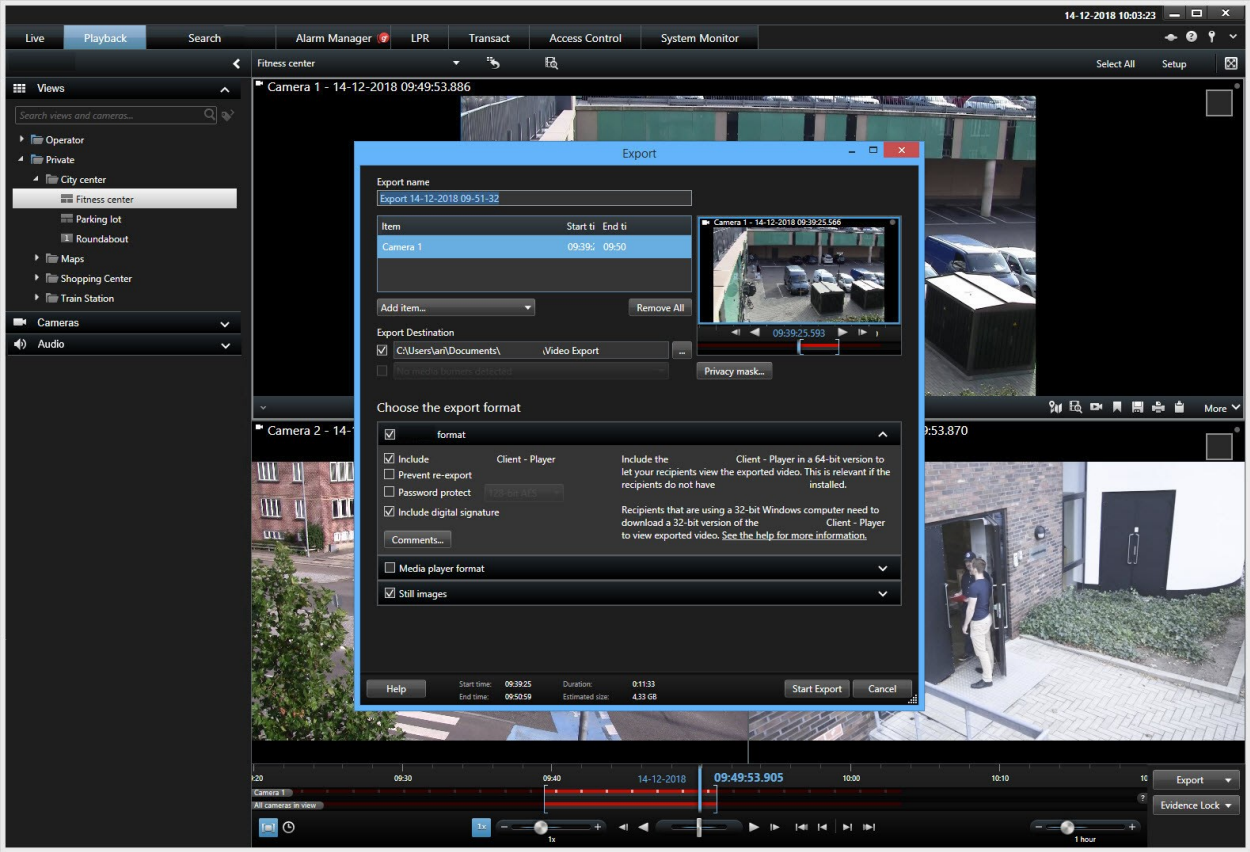
FAQ

ここでは、よく尋ねられる質問に対する回答の一部を閲覧できます。

XProtect Smart Client (説明付き)

XProtect Smart Clientは、IP監視カメラの管理に役立つよう設計されたデスクトップ アプリケーションです。ライブおよび録画ビデオへのアクセス、カメラおよび接続済みセキュリティデバイスの即時コントロール、録画とメタデータの詳細検索能力をユーザーに与えることにより、セキュリティインストールに対する直感的なコントロールを提供します。

XProtect Smart Clientは適応力の高いユーザーインターフェースを、複数の言語で使用できます。各オペレータの作業に応じて最適化し、特定のスキルや権限レベルに応じて調節が可能です。



ライトやダークのテーマを選択することで、特定の任務環境のためにビューをカスタマイズすることをインターフェイスが許可します。また、作業用に最適化されたタブや、統合ビデオタイムラインによって、監視の操作が簡単になります。

MIP SDKを使用すると、さまざまなタイプのセキュリティおよびビジネス システム、ビデオ分析アプリケーションを統合し、XProtect Smart Clientを介して管理できます。

XProtect Smart Clientはオペレーターのコンピュータにインストールされなければなりません。サーヴェイランスシステム管理者はManagement Clientを通じて、サーヴェイランスシステムへのアクセスを管理します。

新しい機能

XProtect Smart Client 2020 R3

複数カテゴリ検索:

- 複数検索カテゴリを適用すると、検索カテゴリすべて、または一部を一致させ、検索結果を正確にしたり範囲を拡張したりできます。ページ213の検索基準の一部またはすべてに一致 (説明付き)も参照してください
- 重複している検索結果は単一の検索結果にまとめ、検索結果リストを短くできます
- マージされた検索結果には、複数のイベント時間が含まれており、そのすべてが関連のある検索カテゴリを明確に示します。たとえば、[モーション イベント時間1]と[モーション イベント時間2]などです

> 複数カテゴリ検索は、XProtectCorporateまたはXProtectExpertを使用している場合に利用できます。

検索結果のサムネイルとプレビュー エリアの両方に境界ボックスが現れます。ページ215の検索中に境界ボックスを表示/非表示にするも参照してください

エクスポート中のより強い暗号化:

- XProtect形式を使用してビデオデータをエクスポートする場合は、デフォルトで暗号化基準256ビットAESが使われます。

XProtect Smart Clientでウクライナのユーザー インターフェイスも利用できるようになりました。ページ54の言語設定も参照してください。

XProtect Smart Client 2020 R2

検索:

- 新しい検索カテゴリ: 既存の検索カテゴリに加え、アラーム、イベント、人物、車両、そして特定の場所で録画されたビデオの検索も可能となります。ページ200のXProtect Smart Clientでの検索を参照。
- XProtect Smart Client内での検索活動は、監査ログ(XProtect Management Clientで使用可能) に記録されます。

検索結果の地理的情報について把握:

- スマートマップを使用している場合、検索結果を調査しながらカメラの地理的位置を表示することができます。「ページ218の検索中にカメラの位置を特定する」を参照してください
- カメラが高層建築物の内部に配置されている場合、建物内のどの階のどの場所にカメラが配置されているかが表示されます

カメラをスマートマップから削除し、サーバーに保存されている地理的位置情報をクリアします。「ページ102のカメラをスマートマップから削除する」を参照してください

ビューの管理：ビューをセカンダリディスプレイ/モニターに送信する際には、誤ったディスプレイ/モニターにビューが送信されないよう、プライマリモニターが青い枠線で強調表示されます。

XProtect Smart Client 2020 R1

検索条件の保存：

- 検索条件の保存時には、選択したカメラと時間範囲も常に一緒に保存されます。「ページ226の検索条件の保存」を参照してください。
- システム管理者は、役割に沿って誰が検索結果を保存、編集、削除できるのかを指定できます。
- 1つのウィンドウで、保存した検索条件を検索・管理できます。「ページ227の保存した検索条件を探して開く」と「ページ229の保存した検索条件の編集または削除」を参照してください。

アラームのデスクトップ通知：

- これをサーバー側で有効にした場合、VMSシステムに特定の優先度のアラームが発生するたびにデスクトップ通知が表示されます。
- デスクトップ通知をクリックするとアラームウィンドウに直接移動し、ここで該当するアラームにすばやく応答できます。「ページ244のアラームへの応答」と「ページ337のFAQ: 通知」を参照してください。

カメラインジケータの改良：

- ビデオストリームのタイプまたはステータスがより明確に示されるよう、ビデオストリームインジケータが改良されました。
- 新しいインジケータでは、色覚異常を持つユーザーも各種インジケータを見分けることができます。

「ページ181のカメラインジケータ(説明付き)」を参照してください。

ヘルプシステムは新しいMilestoneドキュメントポータルにリンクされています:

- VMSシステムがオンラインの場合、ヘルプシステムは当社の新しいドキュメントポータルに直接リンクされます。ここでは、複数の言語に対応したMilestoneソフトウェアマニュアルとガイドのすべてにアクセスできます
- VMSシステムがインターネットから切断されている場合、ヘルプシステムはオフラインモードで開きます
- ポータルにアクセスするには、https://doc.milestonesys.com/に移動します

セキュリティ:

- HTMLスクリプトはシステム管理者しか有効にできないため、悪意を持っている可能性のあるオペレータによるコンテンツへのアクセスを防止したり、アクセスより効果的に管理したりできます。

機能概要

XProtect Smart Clientでどの機能を利用できるかは、付与されているユーザー権限、または以下のどの製品を使用しているかに応じて異なります。

- XProtect Corporate
- XProtect Expert
- XProtect Professional+
- XProtect Express+
- XProtect Essential+

XProtect VMSで利用できる機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

名前	説明
ワークスペース	タスク指向タブ: • ライブ • 再生 • 検索 • アラームマネージャ • システムモニター XProtectアドオンのタブ: • XProtect Accessへの入退室管理 • XProtect LPRのLPR • XProtect Transactへのトランザクト
一般的な機能とパーソナライゼーション	• テーマの明暗を切り替える • 簡易/詳細ワークスペースを切り替える • XProtect Smart Clientの一般的な動きと外見をカスタマイズします(例: コントロールペインと機能が利用できるかどうか)。これは、Smart Clientプロファイルでシステム管理者が中央から強制することもできます

名前	説明
	• マルチキャスティング、ハードウェアアクセラレーション、ビデオ診断オーバーレイ、タイムゾーン設定など、アプリケーションの詳細設定をすることができます。 • 特定のウィンドウやウインドウ内のカメラを選択するショートカットを使う • カメラやビューを検索し、臨機応変にカメラの一時ビューを作成する • キーボードショートカットを作成してコマンドを手早く実行する • ジョイスティックコントロールを設定する • アラームと入退室管理通知の動作設定ができます。 • アプリケーションの言語は変更可能です。
処理を見る	• モニターまたはビュー1つあたり1～100台のカメラのビデオを表示するビューを設定 • システムを使用する他のオペレータがビューにアクセスできる、共有カメラ及びプライベートカメラのビューの集中ストレージ • 縦型横型の両モードで4:3または16:9の画面設定に最適化した、様々なビューのレイアウトから選択 • 従のウィンドウを独立した再生モードや同期モードで操作することが可能な、複数のウィンドウに対応 • カメラのビューを異なる複数のモニターに配信 • カメラ以外の他のコンテンツタイプ(アラーム、カメラナビゲーター、画面自動切替、ホットスポット、HTMLページ 、画像、スマートマップ、マップ、Matrix、ビデオウォール、テキストなど) を追加する • 全画面表示モードへの切り替え • 1つのビューから別のビューにカメラをドラッグ&ドロップすることで、あるいは、カメラを[カメラ]ペインから他のビューアイテムにドラッグすることで、即座にビュー内のカメラを調整して最適なインシデントの監視を行う
Matrix	Matrixを通して、どのカメラからネットワーク上のどのMatrix受信者ともビデオを送受信できます。
アラームの処理	• セキュリティとシステム関連のアラームについて、全体の概要をはっきり把握してください

名前	説明
	• アラームリストまたはデスクトップ通知を使用してアラームに応答し、アラームの原因となったインシデントのプレビューを表示します。 • アラームリストおよびアラームプレビューは[アラームマネージャ]タブにありますが、どのビューにも追加することができます。 • 優先度やソースなどによりアラームの抽出や並べ替えを行う • [検索]タブでアラームを検索する • 即座に行動できるようにアラームによる指示を受け取る • 上位部門へのアラームの報告と転送 • インシデントの文書化のためにアラームレポートを作成する • 特定のデバイスからのアラームを抑制する • Milestone Federated Architecture™を使用している場合、接続しているサイトすべてにわたるアラームの概要を把握する
音声	ライブモードで双方向音声に対応している場合、次のことができます: • カメラに接続されたマイクからライブ音声を録音する • オペレータのマイクから1台以上のカメラのスピーカーで音声を再生する
ブックマークと検索	• ライブモード、再生モード、検索モードでインシデントにブックマークを付ける。簡単に特定/共有できるよう、ブックマークにメモを追加する • 複数の検索結果に一度にブックマークを付ける • 検索とその他のアクション(例: 詳細の編集や録画のエクスポート)でブックマークを見つける
境界ボックス	境界ボックスを有効にすると、カメラ画像内のオブジェクトの特定がしやすくなります。境界ボックスは、オブジェクトを囲む黄色い長方形として表示されます。
カメラナビゲーター	特定のエリア、例えば間取り図をカバーするすべてのカメラを順に切り替えます。これは例えば、ビル内部を移動する不審者を追跡するときに便利です。その人が移動すると、次のカメラに切り替えることができます。
画面自動切替	1つのビューアイテムで選択した複数のカメラを見て回りたい場合は、画面自動切替を設定します。

名前	説明
集中検索	• ［検索］タブで詳細検索を実行し、検索結果に応じて即座にアクションを講じます(検索結果のブックマーク付けやエクスポートなど) • スマートマップでは、検索しながらカメラの地理的位置を表示することができます • 検索基準のすべてまたは一部一致 (説明付き)
デジタルズーム	デジタルズームを使用して詳細を確認します。
エビデンスロック	• 一定のタイムインターバルで、数台選択したカメラについて録画を削除しないようにする • エビデンスロックを管理しやすくするため、詳細を追加することができます • エビデンスロック付きのビデオを1ステップの操作でエクスポートする
エクスポートと印刷	• エクスポートしたビデオを当局がXProtect Smart Client - Playerで再生できるよう、ビデオをXProtect形式でエクスポートする. XProtect Smart Client - Playerはエクスポートに含まれています • 他のメディアプレイヤーでビデオを再生できるよう、ビデオをAVIまたはMKV形式でエクスポートする • 検索結果からビデオをエクスポートする • エクスポートにコメントを追加する • エクスポートしたビデオの暗号化とパスワードによる保護 • エクスポートしたビデオにデジタル署名を追加して、そのビデオが編集、改ざんされていないことをエクスポートの受信者に証明する • 静止画像をJPEGファイルでエクスポート • 静止画像や監視の詳細、コメントなどを含むインシデントの印刷
ハードウェアアクセラレーション	ハードウェアアクセラレーションによるデコーディングを使ったビデオレンダリングにより、ビデオの画質と表示パフォーマンスを向上します。主に、高フレームレートおよび高解像度のビデオストリームを、複数閲覧する場合に便利です。

名前	説明
ホットスポット	• ホットスポットを使用して、ビュー内のカメラのフォーカスを当てます。これによって、例えばビュー内にある別のカメラが低画質/低フレームレートであった場合に、ビデオを拡大したり高画質、高フレームレートで見ることが可能になります • ローカルホットスポットによって、現在のビューでカメラを表示することができます • グローバルホットスポットによって、どのビューやディスプレイでもカメラを表示することができます
HTMLページ	HTMLページをビューに組み込みます(例: 複数のカメラセットとオンラインニュースを組み合わせる)。
個別再生	メインウィンドウでタイムラインとは別に録画されたビデオを表示[ライブ]および[再生]タブの両方で可能です。
入力、出力、イベント制御	• 外部ユニットからの入力を用いて、VMSシステム内でルールをトリガーする(記録を開始するためのルールなど) • 出力デバイスの機能を有効化または無効化します(例: サイレンの開始または停止)。出力デバイスは手動で、またはサーバー側のルールを設定することで管理できます
ログイン認証	ログイン中のXProtect Smart Clientのオペレータは別の人物またはスーパーバイザーによりシステムへのアクセス権を与えられなければならないと強制することによって、システムのセキュリティを高めます。
手動録画	[ライブ]および[再生]タブで、カメラから手動でビデオを録画します。
機能	• 複数レイヤーのインタラクティブなマップを追加して、カメラの位置の表示や全システムコンポーネントの制御が可能 • マップは市町村、通り、ビル、部屋を表示することが可能 • マップの機能はXProtect Smart Wallと統一
モーション検知とスマートサーチ	• [検索]タブでモーション付き録画を検索する • [検索]タブで、選択領域内にモーションが見られる録画を検索する

名前	説明
再生のタイムライン	• タイムラインを使って録画を操作する • ビデオを早くまたはゆっくり再生する • 日付と時間へジャンプする • 前後の画像にジャンプする • 最初または前回のシーケンスジャンプする • タイムラインのタイムスパンを設定 • カラーマーカーによって、録画、モーション、ブックマークの視覚的概要を得る • エクスポート、エビデンスロック、ストレージデバイスと相互接続されているシステムからのビデオ取得のタイムインターバルを選択する
プライバシーマスク	エクスポート中、人物の特定ができるものを隠すなど、録画の特定エリアをマスクすることができます。これは、1度につき1つのカメラで行います。
PTZ	• プリセットを介して既定の位置に移動する • 操作にジョイスティックを使う • キーボードショートカットとジョイスティックのボタンにコマンドを割り当てる • ナビゲーションへのオーバーレイボタン追加 • ズームイン＆ズームアウト • PTZプリセットまたはパトロールプロファイルの管理 • パトロールの停止、開始、一時中断 • パトロールスキームを実行しているカメラを手動でコントロールする • PTZカメラを制御している人は誰か、いつリリースされるかを確認する • PTZコントロールをロック • 補助コマンドによってカメラを洗う、または拭く
スマートマップの機能	• Bing Maps、OpenStreetMap、Google Mapsのサービスによって、カメラとナビゲーションの地理的概要を把握する

名前	説明
	• 例えば都市の境界を表現するために、地理参照したShapefileやCAD描画を追加する • カメラの位置を性格に把握できるよう、ビル、レベル、間取り図を追加する • ロケーションのリンクを追加して関心のある場所にすばやく移動する • カスタムオーバーレイとカメラに、XProtect Smart Clientの様々な場所からジャンプする • いくつかのカメラを一度に選択し手早くビデオをプレビューする • スマートマップ上の異なるレイヤーをオンまたはオフにします。 • Milestone Federated Architecture™を使って、スマートマップ上で、接続されたサイトをまたがってすべてのカメラを表示します。
スナップショット	[ライブ]および[再生]タブのカメラからその場でスナップショットを撮ります。
ストーリーボーディング	同じエクスポートの複数のカメラから得た、異なる、あるいは重複するタイムインターバルのビデオシーケンスを含みます。
システムモニター	お使いのサーバー、接続しているデバイス、XProtect Smart Clientを実行しているコンピューターの現在の状態の概要を得られます。これにはシステムのパフォーマンスが含まれています。
XProtect Smart Wall	XProtect Smart Wallでビデオウォールの設定ができ、ビデオの共有、アラーム、マップ、ブックマーク、テキスト情報を他のオペレータと共有することができます。
ユーザーインタフェイス言語	対応言語: • アラビア語 • ブルガリア語 • クロアチア語 • 中国語(簡体字) • 中国語(繁体字)

名前	説明
	• チェコ語 • デンマーク語 • オランダ語 • 英語 • ペルシア語 • フィンランド語 • フランス語 • ドイツ語 • ヘブライ語 • ヒンディ語 • ハンガリー語 • アイスランド語 • イタリア語 • 日本語 • 韓国語 • ノルウェー語 • ポーランド語 • ポルトガル語(ブラジル語) • ロシア語 • セルビア語 • スロバキア語 • スペイン語 • スウェーデン語 • タイ語 • トルコ語 • ウクライナ

名前	説明
ヘルプの言語	ヘルプ機能([F1]キー)が利用可能な言語: • アラビア語 • チェコ語 • 中国語(簡体字) • 中国語(繁体字) • デンマーク語 • オランダ語 • 英語 • フランス語 • ドイツ語 • イタリア語 • 日本語 • 韓国語 • ポーランド語 • ポルトガル語(ブラジル語) • ロシア語 • スペイン語 • スウェーデン語 • トルコ語

アドオン製品

Milestoneは、追加機能を与えるため、完全にXProtectを統合したアドオン製品を開発しました。アドオン製品へのアクセスは、ソフトウェアライセンスコード(SLC)によって制御されます。

XProtect Smart Wall(説明付き)

使用可能な機能は、使用しているシステムによって異なります。詳細については、

https://www.milestonesys.com/solutions/platform/product-index/を参照してください。

XProtect Smart Wallは高度なアドオンツールです。組織で特有のセキュリティ要件を満たすことのできるビデオウォールを作成できるようになります。Smart Wallは、VMSシステム内のすべてのビデオデータの概要を提供します。概要は複数のオペレータ間で共有できます。

XProtect Smart Wallでは、オペレータはXProtect Smart Clientで利用できるほぼすべてのコンテンツタイプ(ビデオ、画像、テキスト、アラーム、スマートマップなど) を共有できます。

最初に、XProtect Management Clientでシステム管理者がXProtect Smart Wallを構成します。これにはSmart Wallのレイアウトとカメラを各種モニターに分散する方法をコントロールするプリセットが含まれます。XProtect Smart Clientでオペレータは、各種プリセットを適用することでSmart Wallに表示する内容を変更できます。表示の変更は、自動的にプリセットを変更させる機能を持つ「ルール」を用いて制御することもできます。

Smart Wall概要では、オペレータは簡単なドラッグ＆ドロップ操作で特定のコンテンツまたはビュー全体をSmart Wallモニターに追加できます。

XProtect Access(説明付き)

XProtect Accessに対するベンダー固有のプラグインが存在するベンダーからの入退室管理システムで、XProtect Accessを使用することができます。

XProtect Accessでは、1つ以上の入退室管理システムのイベントがXProtect動画管理ソフトウェアの機能に統合されます。入退室管理システムからのインシデントにより、XProtectシステムでイベントが生成されます。

- ライブタブでは、ドアに関連付けられたカメラからリアルタイムで入退室管理イベントを監視できます。設定モードでは、オーバーレイボタンを使用して、アクセスモニタービューアイテムをカスタマイズできます。マップビューアイテムでは、入退室管理ユニットをマップまでドラッグできます。
- 入退室管理タブでは、イベント、ドア状態、またはカードホルダーを表示および調査できます。イベントを検索またはフィルタリングして、関連する映像を表示できます。エクスポートのためにイベントのレポートを作成できます。

- あるユーザーがアクセスを要求し、システムがそのように構成されている場合、カメラフィードの隣に関連情報の一覧ともに別に通知がポップアップ表示されます。ドアのロックおよびロック解除などの入退室管理コマンドをトリガーできます。使用可能なコマンドはシステム構成によって異なります。

XProtect LPR(説明付き)

LPRタブでは、検索とフィルタリングを使用して、お使いのLPRカメラからのLPRイベントを調査でき、関連付けられたビデオ録画とナンバープレート認識データを表示できます。一致リストを最新の状態に保ち、レポートを作成します。

このタブにはLPRイベントリスト、個別のLPRイベントに関連付けられたビデオのLPRカメラでのプレビューがあります。プレビューの下には、ナンバープレートに関する情報が、関連付けられているナンバープレート一致リストの詳細と共に表示されます。

イベントリストには、期間、国モジュール、LPRカメラ、ナンバープレート一致リストでフィルターをかけることができます。検索フィールドを使用して、特定のナンバープレート番号を検索することができます。デフォルトでは、このリストには直前1時間のナンバープレート認識イベントが表示されています。

関連するイベントをPDF形式で指定し、エクスポートすることができます。

ナンバープレート一致リスト機能を使用すると、既存の一致リストを更新できます。

XProtect Transact(説明付き)

XProtect TransactはMilestoneのIPビデオ監視ソリューションのアドオンで、継続的なトランザクションを観察し、過去のトランザクションを調査できます。トランザクションは、詐欺を証明したり、犯人のエビデンスを提示したりするといった場合、トランザクションを監視するデジタル監視動画にリンクされます。トランザクションラインと動画画像の間には1対1の関係があります。

トランザクションデータは、さまざまなタイプのトランザクションソースから発生します。一般的には、POSシステムやATMなどです。トランザクションラインを選択するときには、各関連付けられたカメラのビデオ静止フレームがビデオビューアに表示され、録画を確認できます。ビデオプレビューアの下に、選択されたラインに関連付けられたトランザクションがレシートとして表示されます。

ライセンス

XProtect Smart Clientライセンス

インストールおよび使用にはライセンスは不要ですXProtect Smart Client。ライセンスの登録およびアクティブ化は、XProtect®監視カメラ管理ソフトウェアシステムのインストール中に、システム管理者が実行します。

アドオン用のライセンス

XProtectアドオンには追加のライセンスが必要です。このライセンスはXProtect Management Clientでアクティベートする必要があります。これはたいてい、システム管理者のタスクです。

要件と注意事項

最低限のシステム要件

各種システム コンポーネントの最低システム要件については、Milestone Web サイト (https://www.milestonesys.com/systemrequirements/) をご覧ください。

システムに関する情報を確認します。

DirectXオペレーティングシステムとDirectxのオペレーティングシステムとバージョン、およびインストールされているデバイスおよびドライバなど、お使いのシステムに関する情報を表示するには:

1. [スタート]メニューを開き、「**dxdiag**」と入力します。
2. **dxdiag**のテキストをクリックして、**[DirectX**診断ツール**]**ウィンドウを開きます。

3. [システム]タブでシステム情報を表示します。

監視システムの別の特徴

XProtect Smart Clientで使用できる機能のほとんどは、XProtect製品のすべてのバージョンで使用可能ですが、ご利用のXProtect製品により変わる機能もあります。詳しくは、システム管理者に確認してください。

- 主要機能の概要：https://www.milestonesys.com/solutions/platform/product-index/
- 詳細な製品比較チャート：https://content.milestonesys.com/media

> [検索]フィールドで「比較チャート」と入力します。

インストール

XProtect Smart Clientをインストールする

XProtect Smart Clientを使用するには、事前にコンピュータにインストールする必要があります。XProtect Smart Clientを監視システムサーバーからダウンロードして使用するコンピュータへインストールします。

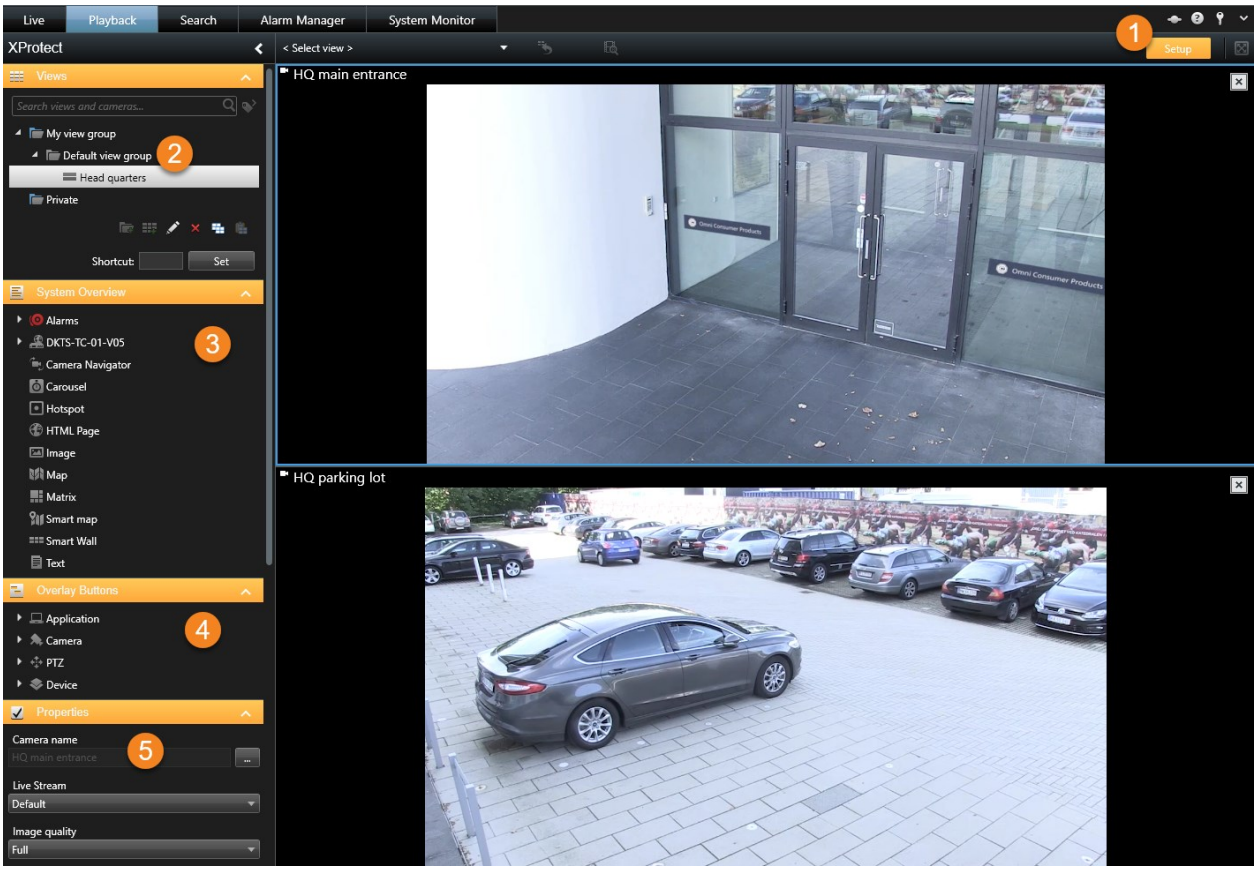
> Milestoneでは、使用中のXProtect監視システムにあるすべての新機能を利用するため、常に最新バージョンのXProtect Smart Clientを使用することをお勧めしています。

1. ブラウザを開き、URLまたはIPアドレスを使用してマネージメントサーバーに接続します。
2. 以下のいずれか1つを実行します：
   - ローカルサーバー(*http://localhost/installation*)
   - IPリモートサーバーのアドレス (*http://[IP_address]/installation*)
3. 「ようこそ」ページで、[言語]をクリックして、使用する言語を選択します。XProtect Smart Client「設定」ウィザードが起動します。
4. ウィザードで、インストール手順に従ってください。ウィザードがインストールパスを推奨します。通常は、推奨されたインストールパスを使用します。ただし、アドオン製品を以前に使用したことがある場合、このパスが有効ではなくなっていることがあります。

設定

設定 モード オーバービュー

設定 モードでは、デバイスと他のタイプのコンテンツ向けにビューを作成できます。また、オーバーレイ ボタンを追加し、カメラや他のタイプのデバイスのプロパティを設定できます。



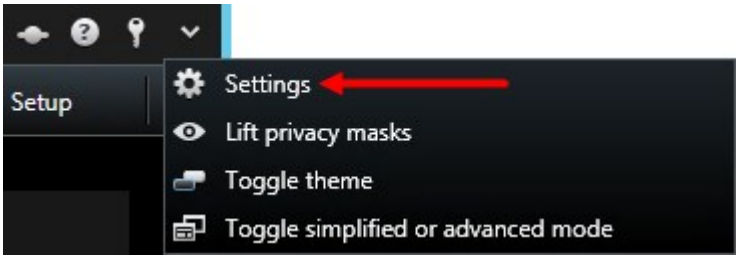
番号	説明
1	設定 モードに入ると、ユーザー インターフェイスの一部がハイライトされます。
2	ビューと、ビューのグループを作成します。ページ57のビューグループの作成またはページ58のビューの作成も参照してください。
3	カメラと他のタイプのデバイスおよびコンテンツをビューに追加します。ページ59のコンテンツをビューに追加も参照してください。

番号	説明
4	補助コマンドをトリガーするため、オーバーレイ ボタンをカメラに追加します。ページ75のオーバーレイボタン(説明付き) も参照してください。
5	カメラのプロパティを設定します。ページ70のカメラ設定 も参照してください。

設定ウィンドウ

設定ウィンドウによって、たとえば、言語の選択、ジョイスティックの設定、キーボードショートカットの設定などそれぞれのタブで使用する機能や要素を管理できます。

アプリケーションツールバーから、設定ウィンドウを開きます。



アプリケーション設定

アプリケーションの設定を使用すると、XProtect Smart Clientの全体的な動作や外観をカスタマイズできます。

使用できる場合、サーバーに従う列で、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
アプリケーションの最大化	アプリケーションのツールバーの [フル画面モードの切り替え] ボタンをクリックして、画面を最大化した場合のXProtect Smart Clientの動作を指定します。[全画面に最大化]を選択すると、XProtect Smart Clientを最大化したとき、スクリーン上にあるWindowsのタスクバーが覆われます。 最大化は、全画面表示と同じではありません。

名前	説明
カメラエラー メッセージ	XProtect Smart Clientによってカメラ関連のエラーメッセージがどのように表示されるかを指定します。これらは、カメラ画像の上に重ねて、または黒い背景上に表示するか、あるいは完全に非表示にできます。 カメラのエラー メッセージを非表示にすると、カメラへの接続が失われたことをオペレーターが見落としてしまうリスクが生じます。
サーバー エラー メッセージ	XProtect Smart Clientによってサーバー関連のメッセージテキストがどのように表示されるかを指定します。これらは、オーバーレイとして表示することもできますし、完全に非表示にすることもできます。
ビデオインジケータのデフォルト	カメラのタイトルバーに緑色のビデオインジケーターを表示するかどうかを指定します。カメラへの接続が確立されると、ライトが点灯します。 設定モードでカメラプロパティを調整することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
カメラのタイトルバーのデフォルト	カメラのタイトルバーを表示するか、または非表示にするかを選択します。タイトルバーには、カメラの名前が表示され、色付きのインジケータは際立ったイベント、検出されたモーションやビデオを意味します。 設定モードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
タイトルバーに現在の時刻を表示	タイトルバーに(XProtect Smart Clientを実行しているコンピューターの) 現在の日付と時刻を表示するかどうかを指定します。
空のビュー位置に表示	ビューに空白の位置が存在する場合に、何を表示するか(ロゴを選択できるようにするか、または単に黒い背景を表示するかなど) を指定します。
グリッドスペー	ビュー内でそれぞれのカメラ位置を隔てる境界線の厚さを指定します。

名前	説明
サーの表示	
デフォルトの画質	XProtect Smart Clientでビデオを視聴する際のデフォルトの画質を指定します。画質は帯域幅の使用にも影響する点に注意してください。XProtect Smart Clientをインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。 設定モードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
デフォルトのフレームレート	XProtect Smart Clientで表示されるビデオのデフォルトフレームレートを選択します。 設定モードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
PTZクリックモード	お使いのPTZカメラのデフォルトのPTZクリックモードを指定します。オプションは、クリックして中央揃えまたは仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルトPTZクリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。
開始モード	ログイン後、XProtect Smart Clientがどのように開かれるかを指定します。. フルスクリーンモード、ウィンドウモード、または最後に使用したモードから選択できます。
ビューを開始	ログイン直後に、XProtect Smart Clientにビューを表示するかを指定します。最後に使用したビュー、ビューなし、またはログインした後に決定するビューから選択できます。
マウスポインタを非表示	操作が一定時間行われない際に、マウスポインターを非表示にするかどうかを指定することが可能となります。マウスポインタを非表示にするまでの経過時間を指定できます。デフォルトオプションは5秒後です。選択肢は以下のとおりです： • 設定しない • 5秒後 • 10秒後 • 20秒後 • 30秒後 アイドル時間の後にマウスを動かすと、ただちに有効になります。

名前	説明
スナップショット	スナップショット機能を使用するかどうかを指定します。スナップショットとは、特定の時点における、カメラからのビデオのフレームをその場でキャプチャしたものです。
スナップショットへのパス	スナップショットを保存する場所を示すパスを指定します。
オンラインヘルプ	XProtect Smart Clientでヘルプを利用可能にするかどうかを設定します。ヘルプを無効にすると、**[F1]**を押しても何も起こりません。また、コンテキスト依存のリンクや**[ヘルプ]**ボタンも表示されません。
ビデオチュートリアル	をクリックした際に、XProtect製品に関するビデオチュートリアルにアクセスできるかどうかを指定します。

ペイン設定

ペインの設定では、特定のタブでペインを表示するかどうかを指定できます。

> 一部のペインには、使用できない機能も含まれていますが、これはユーザー権限か、接続している監視システム(ページ36の監視システムの別の特徴を参照) のどちらかが原因です。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、機能列には、ペインの名前が一覧表示されます。さらに、設定列では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

使用できる場合、サーバーに従う列で、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能設定

機能の設定では、の特定のタブに表示する機能(たとえば、ライブXProtect Smart Clientタブに再生) を指定できます。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、機能列には、機能の名前が一覧表示されます。さらに、設定列では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

使用できる場合、サーバーに従う列で、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能：

名前	説明
ライブ>カメラ再生	ライブタブで、個別のカメラで録画されたビデオを再生できる機能。
ライブ>オーバーレイボタン	スピーカーの起動、イベント、出力、PTZカメラの移動、カメラからのインジケーターを消去する際に、ライブタブでオーバーレイボタンを表示および使用する機能。
ライブおよび再生 > ブックマーク	簡易または詳細ブックマークをビュー位置ツールバーから追加するか(「ブックマーク(説明付き)」を参照)、ライブおよび/または[再生]タブにある、用意されたオーバーレイボタンで追加するかを選択します。[再生]タブでこのオプションを有効/無効にすると、[検索]タブで対応するボタンが有効かどうかを制御できます。 ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマーク追加へアクセスできない場合があります。
ライブおよび再生>印刷	ライブおよび再生タブから印刷する機能。[再生]タブでこのオプションを有効/無効にすると、[検索]タブで対応するボタンが有効かどうかを制御できます。
ライブおよび再生>バウンディングボックス	すべてのカメラで、境界ボックスをライブビデオで表示する機能はライブタブにあり、録画済みのビデオで表示する機能は再生タブにあります。境界ボックスは、たとえば対象物を追跡する場合などに便利です。 バウンディングボックス機能が使用できるのは、特定の監視システムおよびメタデータをサポートしているカメラに接続されている場合だけです。お持ちのユーザー権限によっては、一部のカメラから境界ボックスへのアクセスが制限される場合があります。
再生>個別再生	デフォルトではビュー内のすべてのカメラが時間内の同じ点(再生時刻)から録画を再生するのに対し、再生タブで個別のカメラの録画を独立して再生する機能です。
設定>オーバーレイボタンの編集	設定モードで、新規または既存のオーバーレイボタンを追加する機能。オーバーレイボタンを追加するには、オーバーレイのリストが利用可能に設定されている必要があります(これは設定ウィンドウのペインタブで行います)。
設定>ビデオバッファリングの編集	ビデオバッファを編集する機能は、設定モードのカメラプロパティの一部です。ライブビデオバッファを編集するには、セットアップタブのプロパティペインが利用できるようになっていなければならない点に注意してください(これは、設定ウィンドウズのダイアログのペインタブで設定します)。

タイムライン設定

タイムラインの設定では、一般的なタイムラインの設定を指定できます。

使用できる場合、サーバーに従う列で、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
受信音声	タイムラインに受信音声を表示するか、または非表示にするかを選択します。
送信音声	タイムラインに送信音声を表示するか、または非表示にするかを選択します。
追加情報	追加情報を他のソースに表示するか非表示にするかを選択します。
追加マーカー	追加マーカーを他のソースに表示するか非表示にするかを選択します。
ブックマーク	タイムラインにブックマークを表示するか、非表示にするかを選択します。
モーション表示	タイムラインにモーションインジケータを表示するか、非表示にするかを選択します。
すべてのカメラのタイムライン	すべてのカメラのタイムラインを表示するか、非表示にするかを選択します。
再生	再生中に空白をスキップするかどうかを選択します。

エクスポート設定

エクスポートの設定では、一般的なエクスポートの設定を指定できます。

サーバーに従う列を使用できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうかが決まります。

名前	説明
エクスポート先	エクスポート先のパスを選択します。
プライバシーマスク	エクスポートされたビデオで、プライバシーマスクがかけられたエリアをカバーしたい場合は、選択します。

名前	説明
	ここで追加したプライバシーマスクは、現行のエクスポート、および選択されたビデオにのみ適応されます。エクスポートは、システムアドミニストレーターによってプライバシーマスクが設定されたビデオをすでに含んでいる可能性があります。これらのプライバシーマスクタブは、Management Clientにおけるプライバシーマスクタブで設定されています。
メディアプレーヤーのフォーマット	メディアプレイヤーのフォーマットでエクスポートできるかどうかを選択します。
メディアプレーヤーのフォーマット- ビデオのテキスト	メディアプレイヤーのフォーマットでエクスポートする場合に、ビデオのテキストをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。ビデオテキストにおいては、ユーザーはエクスポートされた録画においてオーバーレイテキストを追加することができます。
メディアプレーヤーのフォーマット - ビデオコーデックのプロパティ	メディアプレイヤーフォーマットにてエクスポートする場合には、コーデック設定を利用可能にするか、しないかを選択します。コーデックのプロパティは、選択されたコーデックに依存します。すべてのコーデックがこのオプションをサポートしているわけではありません。
XProtect フォーマット	XProtectのフォーマットでエクスポートできるかどうかを選択します。
XProtect フォーマット - プロジェクトのコメント	XProtectのフォーマットでエクスポートする場合に、プロジェクトのコメントをオプション、必須、または使用不可のどれにするかを選択します。
XProtect フォーマット - デバイスのコメント	XProtectのフォーマットでエクスポートする場合に、デバイスのコメントをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。
静止画像エクスポート	静止画像をエクスポートできるかどうかを選択します。

スマートマップの設定

Bing MapsキーまたはGoogle Mapsクライアント ID、あるいは使用するBing Maps APIもしくはGoogle Maps API用のキーを入力します。

これらの設定は、管理者によってManagement Clientで許可されている場合に限り編集できます。

名前	説明
OpenStreetMap 背景地図	OpenStreetMapを背景地図として利用できるかどうかを特定します。[利用不可]を選択すると、XProtect Smart Clientはオプションとして表示しません。
OpenStreetMap サーバー	OpenStreetMapで、システム管理者が指定したものとは別のタイルサーバーを使用する場合(「ページ91のOpenStreetMapタイルサーバーの変更」を参照)、ここにサーバーアドレスを入力します。
レイヤー追加時にロケーションを作成する	ユーザーがカスタムオーバーレイを追加時、ロケーションを作成するかどうかを指定します。さらに情報が必要な時には、ページ94のカスタムオーバーレイの追加、削除および編集を参照
Bing Mapsキー	Bing MapsAPI用に生成したプライベート暗号化キーを入力または編集します。
Google Maps用クライアント**ID**	Google Static Maps API用に生成したクライアントIDを入力または編集します。
Google Maps用プライベートキー	Google Static Maps API用に生成したプライベート暗号化キーを入力または編集します。
キャッシュされた**Smart Map**ファイルを削除する	地理的背景としてGoogle Mapsを使用している場合、ファイルはキャッシュされません。 スマートマップはローカルコンピュータのキャッシュフォルダーに保存されるため、より早く読み込めます。キャッシュされたファイルをどのくらい頻繁に削除するかにを指定する際、この設定を利用します。

キーボード設定

キーボードの設定によって、XProtect Smart Clientの特定の操作に対して独自のショートカットキーの組み合わせを割り当てることができます。XProtect Smart Clientには、すぐに使用できる少数の標準のキーボードショートカットも用意されています(ページ174のキーボードショートカット(説明付き)を参照)。

名前	説明
ショートカットキーを押す	特定のアクションに対するショートカットとして使用するキーの組み合わせを入力します。
新しいショートカットを使用	選択すると、ショートカットの適用方法を定義します。 • グローバル: XProtect Smart Clientのすべてのタブで • 再生モード: 再生タブでのみ • ライブモード: ライブタブでのみ。 • 設定モード: 設定モードでのみ
カテゴリ	コマンドカテゴリを選択してから、関連付けられたコマンドを1つ選択します。リストにあるすべてのビューについて個々のビューのキーボードショートカットを作成する場合は、[ビュー]を選択します。すべてのカテゴリ コマンドの中には、特定の条件でキーボードショートカットを使用したときだけ動作するものがあります。例えば、PTZ関連のコマンドに割り当てたキーボードショートカットは、PTZカメラを使用しているときにしか機能しません。
パラメータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、選択されたカメラビュー項目をコピーするパラメータのウィンドウとビュー位置を指定する場合、2;1を入力すると、最初のビュー位置(ビュー位置1)で、カメラがフロートウィンドウ(ウィンドウ2)にコピーされます。

検索設定

検索設定では、検索機能の特定部分の動作(通常は[検索]タブ)をカスタマイズできます。

名前	説明
プレビューエリアでビデオクリップを自動再生	デフォルトでは、検索結果を選択すると、プレビューエリアのビデオがイベント時刻にて一時停止します。再生を自動的に再開させる場合は、[はい]を選択します。
プレビューエリアでビデオクリップをループさせる	検索結果からビデオのプレビューを表示した場合、デフォルトではビデオクリップは1度しか再生されません。これをループ再生させるには[はい]を選択します。

ジョイスティック設定

PTZカメラの多くはジョイスティックに対応していますが、中にはジョイスティックでコントロールできないカメラもあります。

XProtect Smart Clientが新しいジョイスティックを検知すると、そのジョイスティックに対するデフォルトのパン/チルト/ズーム(PTZ) 設定が自動的に追加されます。ただし、XProtect Smart Clientジョイスティックの設定によって、使用しているすべてのジョイスティックの設定をカスタマイズできます。

名前	説明
ジョイスティックの選択	使用可能なジョイスティックのリストから選択します。
Axis設定:名前	次の3つの軸があります。 • X軸(水平) • Y軸(垂直) • Z軸(奥行きまたはズームレベル)
Axis設定:反転表示	選択すると、ジョイスティックを移動するときにカメラが移動するデフォルトの方向を変更します。例えば、ジョイスティックを右へ動かすとPTZカメラが左へ移動し、ジョイスティックを手前へ動かすとPTZカメラは下へ移動するよう選択します。
Axis設定:絶対値	選択すると、相対位置方式(ジョイスティックを移動すると、オブジェクトの現在の位置に基づいて、ジョイスティック制御オブジェクトが移動)ではなく、固定位置を使用します。
Axis設定:アクション	軸の機能を選択します。カメラのPTZパン、カメラのPTZチルト、カメラのPTZズーム、または操作なし。

名前	説明
Axis設定:プレビュー	選択した設定の効果をテストできます。テストする軸の機能を選択したら、ジョイスティックを該当する軸に沿って動かすと、青のバーの動きによって効果を確認できます。
デッドゾーン設定:パン/チルト	ジョイスティックのパンおよびチルト機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。Axis設定プレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
デッドゾーン設定:ズーム	ジョイスティックのズーム機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。Axis設定プレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
ボタン設定:名前	ボタンの名前。
ボタン設定:アクション	目的のジョイスティックボタンのうち、使用可能なアクションを1つ選択します。
ボタン設定:パラメータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、選択されたカメラビュー項目をコピーするパラメータのウィンドウとビュー位置を指定する場合、2;1を入力すると、最初のビュー位置(ビュー位置1)で、カメラがフロートウィンドウ(ウィンドウ2)にコピーされます。
ボタン設定:プレビュー	適切なボタンを設定しているか確認するには、ジョイスティックで該当するボタンを押します。関連するボタンが、プレビュー列で青色で表示されます。

入退室管理設定

XProtect Smart Clientでアクセスリクエスト通知をポップアップ表示させるかどうかを選択します。

> [サーバーに従う]フィールドが選択されている場合は、システム管理者が[入退室管理通知を表示する]設定を制御します。

アラームマネージャーの設定

名前	説明
アラームが発生した数秒前のビデオの再生を開始します。	アラームがトリガーされる前にビデオ再生を開始します。これは、ドアが開く前の瞬間を視聴したい場合などに便利です。
最新のアラームのプレビューを表示	アラームリストでどのアラームが選択されているかに関係なく、最新のアラームのプレビューを表示するかどうかを指定します。
音声通知の再生	アラーム発生時に音声通知を再生するかどうかを指定します。
アラームのデスクトップ通知を表示	アラームのデスクトップ通知を表示させるかどうかを指定します。これらは、XProtect Smart Clientの稼働時にしか表示されません。 フィールドがグレー表示になっている場合、システム管理者がXProtect Management Clientでこれをロックしていることを意味します。
サーバー設定の使用	このチェックボックスは、システム管理者がXProtect Management Clientで指定した設定を使用したい場合に選択します。

拡張設定

[拡張]設定では、XProtect Smart Clientの設定を詳細にカスタマイズできます。詳細設定とその操作方法がよく分からない場合は、デフォルト設定のままにしてください。一部の監視システムに接続する場合は、サーバーに従う列を確認してください(ページ36の監視システムの別の特徴を参照)。この列を使用して、XProtect Smart Clientが、Management ClientのSmart Clientプロファイルで設定された監視システムサーバーの推奨設定に従うようにすることができます。特定の設定がすでにサーバーによって制御されているという場合もあります。この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
マルチキャスト	システムでは、録画サーバーからクライアントへのライブストリームのマルチキャストをサポートしています。多数のXProtect Smart Clientユーザーが同じカメラからのライブビデオを再生しようとする場合に、マルチキャストによってシステムリソースの消費量を大幅に低減できます。マルチキャストは、複数のクライアントが同じカメラからのライブビデオを頻繁に要求し、Matrix機能を使用する場合に特に便利です。 マルチキャストは、記録されたビデオ/音声ではなく、ライブストリームでのみ可能です。 [有効]がデフォルトの設定です。Management Clientでは、サーバーからクライアントへのマルチキャストを使用可能にするには、録画サーバーおよびカメラを有効にする機能を持たせる必要があります。 [無効]: マルチキャストは使用できません。
ハードウェアアクセラレーション	ハードウェアアクセラレーションデコードが使用されているかどうかを制御します。多数のカメラがあるビューでは、CPUの負荷が高くなります。ハードウェアアクセラレーションは、一部のCPU負荷をグラフィックスプロセッシングユニット(GPU)に移動します。これにより、コンピュータのデコード能力とパフォーマンスが上がります。主に、高フレームレートおよび高解像度の複数のH.264/H.265ビデオストリームを表示する場合に便利です。 [自動]がデフォルトの設定です。コンピュータのデコードリソースをスキャンし、使用可能な場合は常にハードウェアアクセラレーションを有効にします。 [オフ]はハードウェアアクセラレーションを無効にします。CPUのみがデコードを処理します。
最大デコードスレッド	ビデオストリームのデコードに使用されるデコードスレッドの数を制御します。このオプションによって、ライブおよび再生モードのマルチコアコンピュータのパフォーマンスが改善できます。実際のパフォーマンスの改善は、ビデオストリームによって異なります。この設定は、H.264/H.265のような高度にコード化された高解像度ビデオストリームを使用している場合に主に適用されます。この場合、大幅なパフォーマンスの改善が見られる可能性があります。たとえば、JPEGまたはMPEG-4などを使用している場合は効果が低くなります。マルチスレッドでのデコードには一般に大量のメモリが必要になることに注意してください。最善の設定は、使用しているコンピュータのタイプ、表示する必要のあるカメラの数、これらのカメラに使用される解像度およびフレームレートによって異なります。 [標準]では、コンピュータのコア数にかかわらず、カメラ位置当たり1つのコアのみが使用されます。 [自動]がデフォルトの設定です。自動では、カメラ位置ごとにコアと同じ数のスレッドが使用されます。ただし、最大スレッド数は8であり、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック(圧縮/解凍テクノロジー)によってこれより少なくなることがあります。 上級ユーザーは、8スレッドを上限に、使用するスレッド数を手動で選択できます。選択する数は最大数を表し、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック(圧縮/解凍テクノロジー)によってこれより少なくなることがあります。

名前	説明
	この設定は、すべてのビュー、ライブおよび再生モードでのすべてのカメラ位置に影響を与えます。カメラ位置またはビューの設定を個別に指定することはできません。この設定は、すべてのカメラ位置およびビューに対し同様に適しているとは限らないため、効果を監視し、必要に応じて、パフォーマンスの改善とメモリー使用量との最適なバランスを達成するよう設定を再調節することをお勧めします。
アダプティブストリーミング	アダプティブストリーミングの使用時にコントロールを行います。多数のカメラがあるビューでは、CPUとGPUの負荷が高くなります。アダプティブストリーミングを使用すれば、ビューアイテムによって要求された解像度に最も近い解像度がXProtect Smart Clientによって自動的に選択されます。これによってCPUとGPUの負荷が軽減するため、結果としてコンピュータのデコード能力とパフォーマンスが上がります。 [無効]がデフォルトの設定です。自動ストリーム選択は行われていません。 [有効]に設定すると、利用可能なストリームのXProtectシステム設定がスキャンされ、選択したビューに最も近いものが選択されます。 アダプティブストリーミングは、ひとつのストリームを利用できる場合にのみ有効にできますが、アダプティブストリーミングを活用するにはカメラ1台につき2つ以上のストリームが必要です。 この設定は、ライブモード時にすべてのビューに適用されます。
インターレースの解除	インターレースは、画面で画像をどのように更新するかを決定します。まず画像の奇数行をスキャンして画像を更新し、次にすべての行をスキャンしていきます。スキャン時に処理する情報が少なくなるため、より高速のリフレッシュレートが可能になります。ただし、インターレースによってちらつきが発生したり、画像のラインの半分だけが変化する場合があります。インターレースを無効化すると、ビデオはノンインターレース形式に変換されます。多くのカメラでインターレースビデオが生成されないため、このオプションがインターレースされていないビデオの質やパフォーマンスに影響を与えることはありません。 フィルターなしがデフォルト設定です。インターレースの無効化が適用され、オブジェクトを移動したときの画像の端が特徴的なギザギザ状に表示されます。これは、画像全体の偶数および奇数の行を組み合わせて完全な解像度の画像が構成されるためです。ただし、これらは同時にカメラによってキャプチャされないので、物体が動いていると、2本の行間で調整されないため、端がギザギザに見えます。パフォーマンスへの影響：なし。 トップフィールドの垂直伸張: このオプションでは、偶数行のみを使用します。各奇数行は前の(偶数)行から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響：ポスト処理が必要な行数が半分になるため、[フィルターなし]オプションと比較してパフォーマンスへの影響は

名前	説明
	少なくなります。 ボトムフィールドの垂直伸張: このオプションでは、奇数行のみを使用します。各偶数行は前のライン(奇数) から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響：ポスト処理が必要な行数が半分になるため、[フィルターなし]オプションと比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。 コンテンツの適応: このオプションでは、端がギザギザに表示される画像部分にフィルターを適用します。端がギザギザに表示される領域が検知されなければ、画像は処理されず渡されます。端のギザギザがなくなり、端がギザギザになる傾向がない画像部分では完全垂直解像度が維持される効果があります。パフォーマンスへの影響：デコードおよびレンダリングされるフレーム当たりの総CPU使用量がおよそ10％上がるため、[フィルターなし]オプションに比べ影響が大きくなります。
ビデオ診断オーバーレイ	選択したビューでビデオストリームの設定とパフォーマンスレベルを表示します。設定の検証または問題の診断を行う必要がある場合に便利です。 次のオプションから選択します。 非表示: ビデオ診断オーバーレイはありません。デフォルト設定。 レベル1: フレーム数/秒、ビデオコーデック、およびビデオ解像度。 レベル2: フレーム数/秒、ビデオコーデック、ビデオ解像度、マルチキャスト、およびハードウェアアクセラレーション状態。 レベル3: デバッグレベル。主にシステム管理者がシステムパフォーマンスをトラブルシューティングまたは最適化するためのものです。
時間ゾーン	事前に定義された時間帯またはカスタム時間ゾーンを選択します。使用できるオプションは以下のとおりです。 ローカル:XProtect Smart Clientを実行しているコンピュータの時間帯 サーバー時間ゾーン：サーバーの時間ゾーンです UTC カスタム時間ゾーン：特定の時間帯が必要な場合、このオプションを選択してから、カスタム時間ゾーンフィールドの使用可能な時間帯のリストから選択します。
カスタム時間ゾーン	時間帯フィールドでカスタムを選択していると、コンピュータに知られている任意の時間帯を選択できます。別の時間帯にいる2人のユーザーがインシデントを表示したい場合、同じ時間帯にすれば同じインシデントを見ていることを簡単に確認できるので、これが便利です。

名前	説明
PDFレポートのフォーマット	PDFレポートのフォーマットとして、A4またはレターを選択します。例えば、XProtect Accessからのイベントのレポートを作成できます。
PDFレポートのフォント	PDFレポートで使用するフォントを選択します。
ロギング(テクニカルサポート)	アプリケーション イベントのロギングを有効にします (たとえば、アラームがトリガーされた場合)。これは主にテクニカル サポートがXProtect Smart Clientで発生した問題のトラブルシューティングを行う際に役立ちます。 3種類のログ ファイルがあります。 • ClientLogger.log • MIPLogger.log • MetadataLogger.log ログは、XProtect Smart Clientがインストールされているマシンのここにあります。 C:\ProgramData\Milestone\XProtect Management Client\Logs. これらのログは、XProtect Management Clientのシステム ログとは異なります。

言語設定

XProtect Smart Clientの言語バージョンを指定します (ユーザー インターフェイス要素を右から左に表示するかどうかなど)。使用できる言語のリストから選択し、XProtect Smart Clientを再起動して変更を反映します。

右から左に読む言語 (説明付き)

XProtect Smart Clientで利用できる言語の一部では、右から左に向けて読むインターフェイスがサポートされています。以下の言語が含まれます:

- アラビア語
- ペルシア語
- ヘブライ語

この設定は、[設定]ウィンドウ > [言語] タブで変更できます。インターフェイスを右から左に設定すると、ボタン、ツールバー、ペインが逆向きになります。

ヘルプの無効化

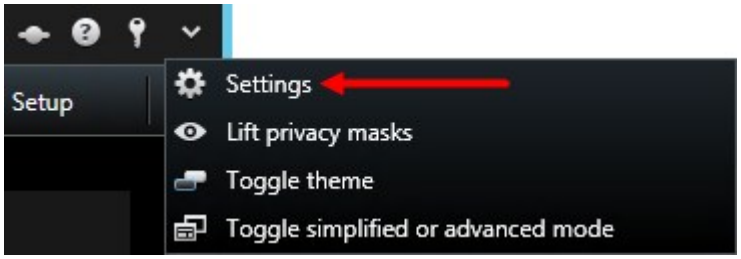
オペレータがヘルプ機能を利用できないようにするため、ヘルプを無効化することができます。これにより**[F1]**を押しても何も起こらず、また、コンテキスト依存のリンクや**[ヘルプ]**ボタンも表示されなくなります。必要に応じてヘルプを再度有効にすることもできます。

要件

ヘルプは、サーバー側でもシステム管理者が有効無効を制御することができます。ヘルプは、システム管理者がこの設定をロックしていない場合に有効または無効にすることができます。

手順：

1. [設定]ウィンドウを開きます。これは**[アプリケーション]**タブで開きます。



2. **[オンライン ヘルプ]**リストで、**[利用不可]**を選択します。
3. ダイアログを閉じます。
4. ヘルプが無効になっているかテストするには、**[F1]**を押し、何も起こらないことを確認します。

ビュー(設定)

設定モードでは、ビューグループとビューを作成し、どのカメラまたはどのコンテンツタイプを各ビューに含めるべきかを指定できます。

ビューとグループを編集できるかどうかは、ユーザー権限によって異なります。ビューまたはグループを作成できる場合は、その編集も可能です。

ビュー(説明付き)

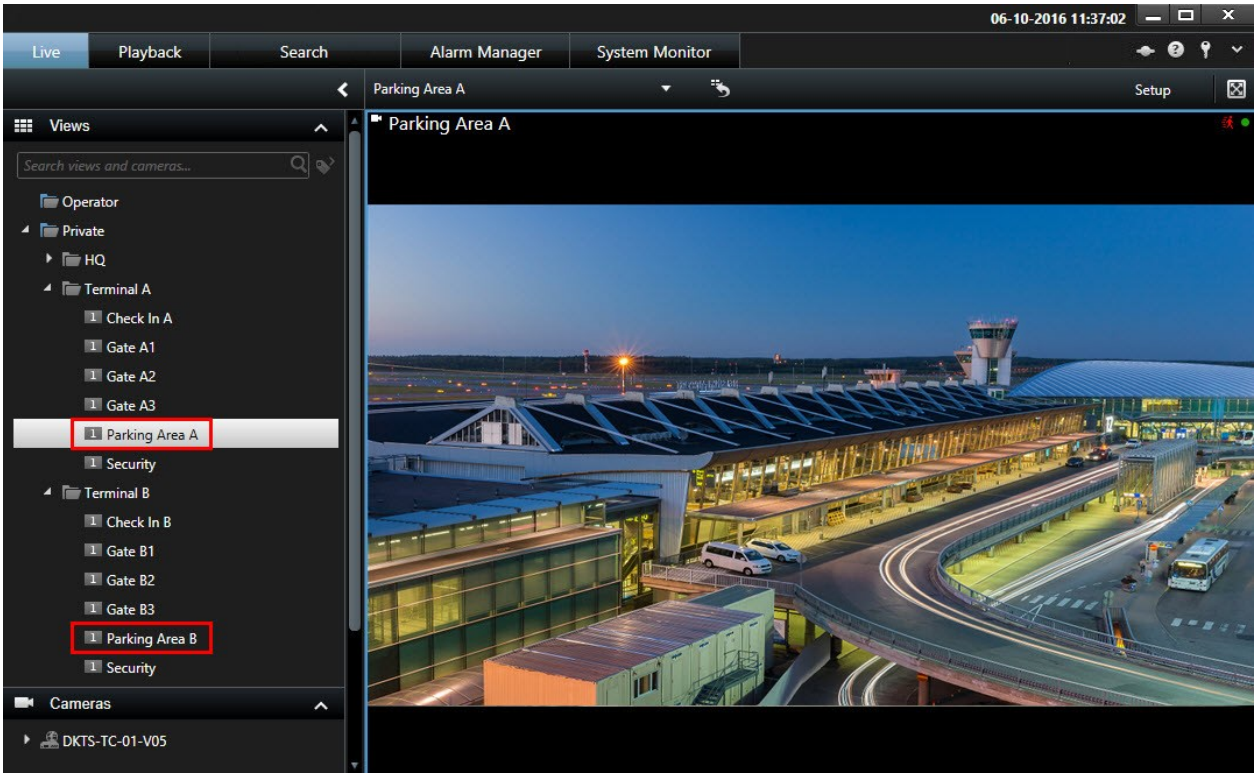
ビューには、プライベートビューと共有ビューがあります。

- プライベートビューは、そのビューを作成したユーザーだけがアクセスできます。ビューをプライベートにするには、プライベートフォルダ内でビューを作成します。
- 共有ビューは、同じビューを多数のXProtect Smart Clientユーザーと共有できます。お使いの監視システムのタイプによって:
  - 共有またはデフォルトグループという名前のついた、共有ビューのデフォルトフォルダがある場合もあります
  - 共有ビューは、すべてのXProtect Smart Clientユーザーで共有できる場合と、特定のXProtect Smart Clientユーザーのみが選択された共有ビューにアクセスできる場合があります。通常、組織内で、共有ビューを作成して編集できる権限を持つユーザーは限られています。例えば、ユーザーがそれぞれ自分のビューを作成する必要がないよう、システム管理者が複数の共有ビューを作成して維持する場合があります

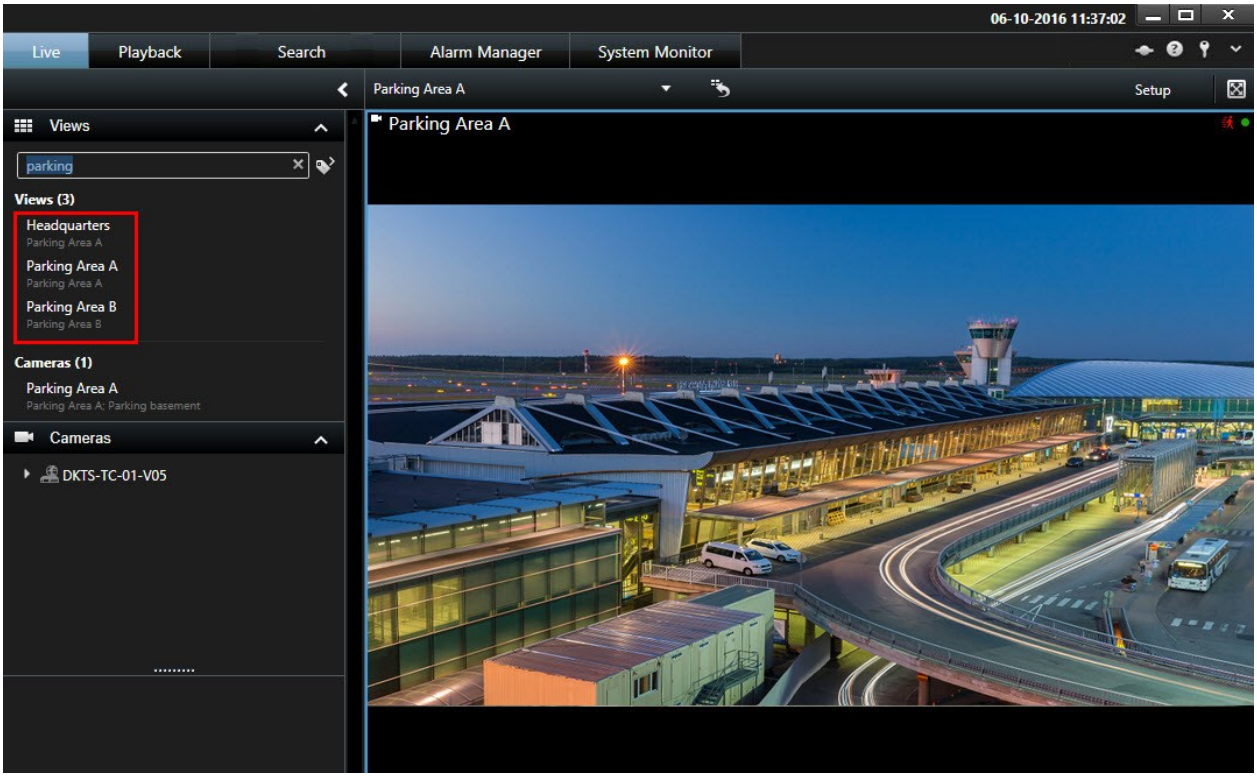
全てのユーザーが監視システムのカメラにアクセスできるとは限りません。共有ビューに含める機能のうち、一部の機能は以前のバージョンの XProtect Smart Clientではサポートされていない場合があります。共有するユーザーに必要な権限があり、同じXProtect Smart Clientバージョンを実行していることを必ず確認してください。

ビューグループ間で検索

ビューグループが大規模または複雑な構造をしている場合、この検索機能によってナビゲーションが容易になるほか、複数の階層にわたってビューとカメラを検索できるようになります。



下の例は、関連するビューの概要が必要な場合に、複雑な階層構造をナビゲートする代わりの検索のメリットを示しています。



特定のカメラまたはビューアイテムタイプが含まれるビューを検索することができます(たとえば、PTZカメラ、または特定のメーカーのカメラが含まれるすべてのビューを表示したりできます) 。

最後に、キーワードを検索することもできます。

最上位のフォルダーの背景が赤くなっている場合 、これが保護されていることを意味します。

保護されている第1階層フォルダでビューにアクセスすることはできますが、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集することはできません。

ビューグループの作成

お使いのXProtect Smart Clientは、(ビューを追加することのできる) ビューグループが表示されるよう事前構成されている可能性があります。ただし、ビューを整理しやくすくなるよう、独自のビューグループを作成することもできます。

例

高層ビルにおいてカメラが10階層に設置されている状況を想像してみてください。このような状況では、階層ごとにビューグループを作成し、これらに適宜に名前を付けることになるでしょう: 1階、2階、3階など。

1. 設定モードのビューペインで、グループを追加する個人または共有の第1階層フォルダを選択します。
2. グループの新規作成をクリックします。

   新グループという名前の新しいグループが作成されます。
3. 選択して、新グループをクリックして、名前を上書きします。
4. これで、このグループ内でビューを作成できるようになりました。

ビューの作成

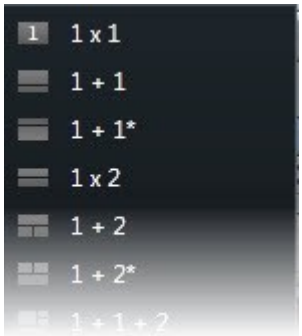
XProtectSmartClientでビデオの表示または再生をするには、まず必要なカメラを追加するところにビューを作成する必要があります。

要件

ビューを作成する前に、ビューを追加できるグループが必要です。詳細については、ページ57のビューグループの作成を参照してください。

手順：

1. 右隅の設定をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. ビューペイン内で、ビューを追加したいグループを選択します。
3. 新しいビューを作成するには、 をクリックします。
4. レイアウトを選択します。レイアウトはアスペクト比、通常のコンテンツまたは縦長のコンテンツ(高さが幅より大きい場合)に対して最適化されているかどうかに基づいてグループ化されます。

5. デフォルトの新しいビューの名前を上書きして、ビューの名前を入力します。
6. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

ビューまたはグループのコピー、名前の変更、削除

> ビューは、同一のセッション内でコピーできます。ビューをXProtect Smart Clientから別のクライアントへコピーすることはできません。

ビューがあり、それを再利用する場合、コピーすることができます。また、ビューのグループやプライベートビューを共有ビューにコピーすることもできます。

1. 設定モードのナビゲーションペインで、ビューを選択します。
2. コピーをクリックします。

   あるいは、CTRL+Cを押します。
3. ビューをコピーする場所に移動して、貼り付けを選択します。

   あるいは、CTRL+Vを押します。

   > 代わりに、ビューを選択して、別のフォルダーへドラッグすることも可能です。

4. コピーしたビューの名前は、デフォルトで、元の名前に(2)が付きます。名前を変更するには、名前の変更をクリックします。

   あるいは、右クリックして、名前変更を選択します。

- ビューを削除するには、関連するビューを選択し、削除をクリックするか、

  右クリックして、削除を選択します。

> グループを削除すると、そのグループ内のすべてのビューとサブグループも削除されます。

コンテンツをビューに追加

ビューには、アラーム、ホットスポット、スマートマップといった、カメラ以外のコンテンツタイプも追加できます。

- ページ60のカメラをビューに追加
- ページ79のカルーセルをビューに追加
- ページ78のカメラナビゲーターをビューに追加
- ページ86のアラームとイベント(設定)
- ページ61の画像をビューに追加
- ページ80のホットスポットをビューに追加
- ページ113のマップをビューに追加
- ページ89のスマートマップをビューに追加
- ページ65のテキストをビューに追加
- ページ65のWebページをビューに追加する
- ページ68のビューにオーバーレイボタンを追加する

カメラをビューに追加

カメラからのビデオを表示するには、まずはカメラにビューを追加する必要があります。

1. 設定モードで、カメラを追加するビューを選択します。
2. 概要ペインで、該当するサーバーを展開して、そのサーバーで使用できるカメラを一覧表示します。

   サーバーが赤色のアイコンで表示されている場合は、利用できず、そのサーバーのカメラからは表示できません。

3. リストからカメラを選択し、これをビュー内のビューアイテムにドラッグします。カメラからの画像は、選択したビューアイテムに表示されます。

   ビデオの一部がぼやけていたりグレー表示になっていたりするのは、システム管理者がこの部分にプライバシーマスク(「ページ258のプライバシーマスク(説明付き)」を参照)をかけているからです。

4. プロパティペインで、カメラのプロパティ(画質やフレームレートなど)を指定できます。詳細情報は、ページ70のカメラ設定を参照してください。
5. 追加したい各カメラに対して、上記のステップを繰り返します。
6. 複数のカメラをビューに追加するには(例:カメラフォルダー内の全カメラ)、フォルダーをビューにドラッグします。ビュー内で、十分な数のビューアイテムが利用可能になっていることを確認してください。

どのカメラをビューに含めるかは、さまざまなカメラをビューアイテムにドラッグすることで容易に変更できます。

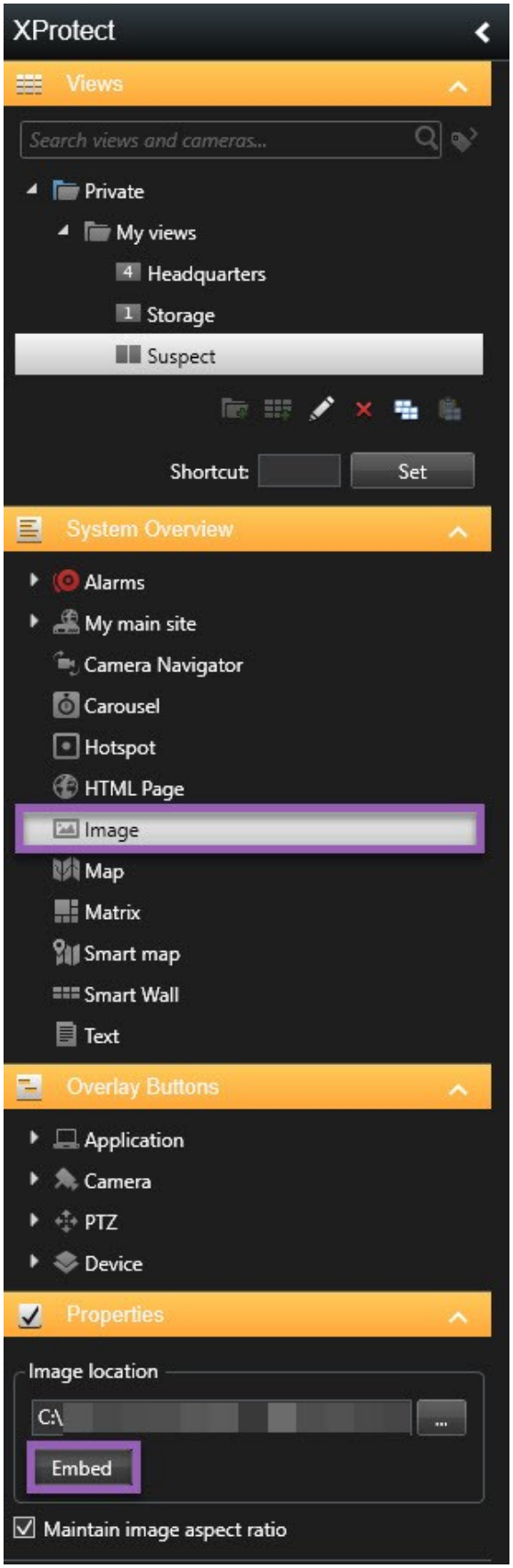
画像をビューに追加

ビューには静止画像を表示することができます。たとえば、不審者のスナップショットまたは緊急避難用出口の図を共有する場合に有用です。

手順：

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。

2. ［システム概要］ペインで、画像アイテムをビューアイテムにドラッグします。ウィンドウが表示されます。


XProtect
Views
Search views and cameras...
Private
My views
Headquarters
Storage
Suspect
Shortcut:
Set
System Overview
Alarms
My main site
Camera Navigator
Carousel
Hotspot
HTML Page
Image
Map
Matrix
Smart map
Smart Wall
Text
Overlay Buttons
Application
Camera
PTZ
Device
Properties
Image location
C:\
...
Embed
Maintain image aspect ratio

3. 追加したい画像ファイルを探し、これを選択します。
4. 〖開く〗をクリックします。これで、画像がビューアイテム内に表示されます。
5. イメージファイルの場所にアクセスできない他の人に対して、画像を使えるようにするには、プロパティペインで、埋め込みをクリックします。ファイルはシステム内に保存されます。
6. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

テキストをビューに追加

テキストは、ビュー内の1つまたは複数のビューアイテムに追加できます。たとえば、メッセージまたは手順をオペレータに送信したり、セキュリティ担当者の作業スケジュールを投稿する場合に有用です。最大1000文字まで使用できます。

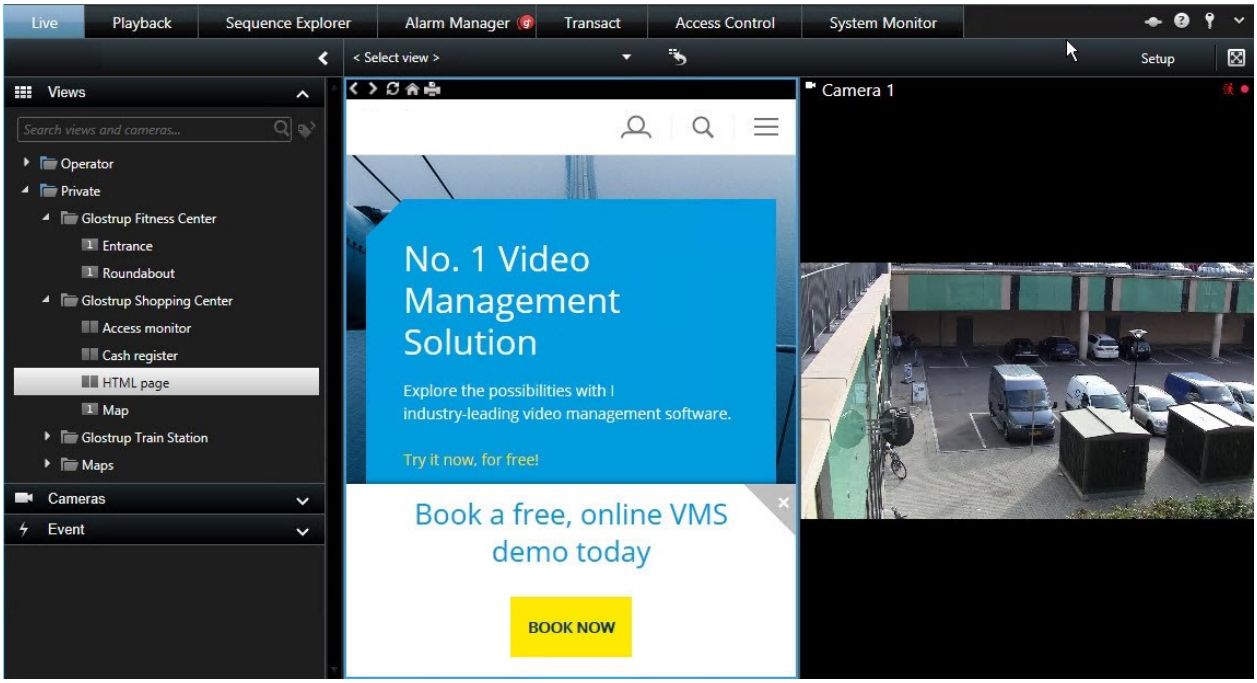
手順：

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。
2. 〖システム概要〗ペインで、テキストアイテムを(テキストを表示させたい)ビューアイテムにドラッグします。ウィンドウが表示されます。
3. テキストを入力します。
4. [保存] をクリックします。
5. 保存後にテキストを変更する場合は、設定モードで、プロパティペインのテキストの編集 をクリックします。

> MicrosoftWordやMicrosoftExcelなどの製品から表を挿入することはできますが、表の変更はできません。

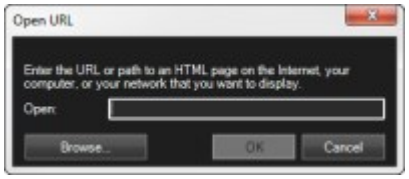
Webページをビューに追加する

Webページをビューに追加できます (HTML、PHP、ASPページなど)。これは、オンライン手順を提供したり、カメラまたは他のタイプのコンテンツと組み合わせて会社のWebページを表示したりする際に役立ちます。



手順：

1. 変更したいビューを開きます。
2. 設定をクリックして設定モードに移ります。
3. [システム概要]ペインで[HTMLページ]項目をクリックし、ビュー項目のいずれかにドラッグします。ウィンドウが表示されます。



4. [開く]フィールドで、WebページのWebアドレスを入力します。

> ローカルコンピューター、ネットワーク、またはFTPサーバーに格納されているWebページを使用するには、そのWebページのプロパティで表示モードが[互換性]に設定されていることを確認してください。ページ67のWebページのプロパティを参照してください。さもなければ、エラーメッセージが表示されます。ページ329のWebページ(トラブルシューティング)を参照してください。

5. OK をクリックします。
6. プロパティを設定するには、[プロパティ]ペインを展開します。
7. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

Webページのプロパティ

名前	説明
編集	新しいURLまたはWebページのファイルの場所を指定します。

表示モード	Webページを表示するブラウザー エンジンを選択します。2つのオプションがあります:
	• 標準 - この設定ではMicrosoft Edgeを使用します。WebページがWebサーバー上にあり、使用されているネットワークプロトコルがHTTPまたはHTTPSのいずれかの場合に[標準]を選択します。
	• 互換性 - この設定ではInternet Explorerを使用します。以下のWebページの場合は[互換性]を選択します:
	  • はローカルに保存されます
	  • HTTPとHTTPS以外のネットワークプロトコルを使用している
	  • 以下とインタラクティブになるよう意図されたスクリプトが含まれているXProtect Smart Client
	  • HTMLの古いバージョンを使用している

スケーリング	Webページのスケーリングを選択します。最適なスケーリングは、インポートされたWebページのコンテンツと、その表示方法によって異なります。 この設定は、互換性モードでのみ利用できます。
ツールバーを非表示にする	チェックボックスを選択して、インポートされた各Webページの上に挿入されるナビゲーション ツールバーを非表示にします。

ビューにオーバーレイボタンを追加する

ライブタブのビュー内の個別のカメラ位置にマウスを移動させた時に表示されるオーバーレイボタンで、スピーカー、イベント、出力などをアクティブ化することができます。

必要な数のボタンを追加できます。

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。
2. [オーバーレイボタン]ペインでアクションを選択し、カメラビューアイテムにドラッグします。
3. マウスを離すと、オーバーレイボタンが表示されます。ボタンのサイズを変更する場合は、表示されるハンドルをドラッグします。

4. オーバーレイボタンのテキストを変更するには、テキストをダブルクリックして上書きし、続いてチェックボックスを選択して保存します。元に戻すには、キャンセルボタンをクリックします。保存するときには、テキストはボタンで最大限のサイズになります。
5. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

カメラツールバーを完全に非表示にする

ビューアイテムのカメラツールバーをユーザーが最少化した場合、ツールバーは、現在のセッション内でこのユーザーにのみ最少化されたままになります。ただし、ビューアイテムへアクセスできるすべてのユーザーに対して、特定のビューアイテムを完全に非表示にすることもできます。

手順：

1. ライブタブまたは再生タブで、右上端の設定をクリックしてセットアップモードに移ります。
2. ツールバーを非表示にしたいビューアイテムを探します。
3. ツールバーを非表示にするにはをクリックします。
4. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

セットアップモードでおこなった設定はサーバーに保存されるので、変更は他のXProtect Smart Clientオペレーターにも影響します。

ショートカット番号をビューに割り当て

ショートカット番号をビューに割り当てることで、ユーザーは標準的なキーボードショートカットを使用してビューを選択できるようになります(「ページ174のキーボードショートカット(説明付き)」を参照)。

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。
2. [ビュー]ペインで、ショートカットを割り当てたいビューを選択します。
3. [ショートカット]フィールドでショートカット番号を指定し、ENTERを押します。ビュー前面でショートカット番号が括弧内に示されます。
4. 必要に応じて、他のビューにも同じ操作を繰り返します。
5. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

簡易モードでのビューの追加または編集をする

ビューの選択リストで既存のビューまたはカメラを選択または検索できます。ただし、例えばビューの名前の変更やカメラの変更のような、ビューの追加または編集には、詳細モードに切り替える必要があります。

手順:

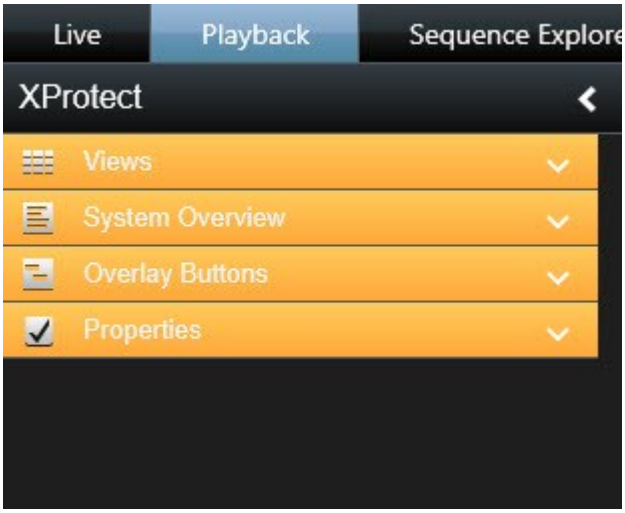
1. ツールバー内で、をクリックし、そしてをクリックして、詳細モードへ切り替えます。
2. 設定をクリックして設定モードに移ります。
3. ビューを追加するには、ページ58のビューの作成を参照してください。
4. ビューを編集するには:
   1. ビューを選択します。
   2. ビューを編集します。
5. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

ボタンを使用できない場合は、詳細モードに切り替えることができません。その場合、システム管理者にご連絡ください。

詳細については、「ページ162のXProtect Smart Clientのモード(説明付き)」を参照してください。

カメラ(設定)

このセクションでの設定は、オーバーレイボタンと[プロパティ]ペインに関連するものです。これらのペインにアクセスするには、[設定]ボタンをクリックして左側のナビゲーションペインを表示してください。



カメラ設定

プロパティペインの設定モードで、選択したカメラのプロパティを表示、編集することができます(ビューで、選択したカメラは太い枠線で示されます)。

名前	説明
カメラ名	選択したカメラの名前を表示します。 カメラを変更するには、省略ボタンをクリックしてカメラ選択ウィンドウを開き、違うカメラを選択。カメラのみを変更し、設定は保持する場合、この方法が便利です。
ライブストリーム	使用可能である場合は、ビューに表示するライブストリームを選択します。サーバーで複数のストリームが設定されている場合、デフォルトまたは使用可能なストリームオプションのいずれかを使用できます。デフォルト以外のオプションを選択する場合、画質またはフレームレート設定を変更できません。
画質	再生されるビデオ画質だけでなく、帯域幅の使用にも影響します。XProtect Smart Clientをインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。 低画質を選択した場合、選択されたカメラのビデオは監視システムサーバー上でJPEGフォーマットへ再エンコードされてから、XProtect Smart Clientへ送信されます。再エンコードには、次のような種類があります:

名前	説明
	フル：デフォルトの設定で、元のビデオと同じ完全な画質です。 高詳細（メガピクセル用）：640ピクセル(VGA)、25％のJPEG品質レベルの出力幅に再エンコードされます。 高：320ピクセル(QVGA)、25％のJPEG品質レベルの出力幅に再エンコードされます。 中：200ピクセル、25％のJPEG品質レベルの出力幅に再エンコードされます。 低：160ピクセル、20％のJPEG画質レベルの出力幅に再エンコードされます。 高さは、元のビデオの幅とアスペクト比に合わせて縮尺されます。 ここで選択した画質は、ライブビデオだけでなく録画されたビデオにも適用され、JPEGだけでなくMPEGにも適用されます。ただしMPEGについては、ライブビデオを見ているときにキーフレームだけが再エンコードされ、録画済みのビデオを見ている場合はすべてのフレームが再エンコードされます。 使用する帯域幅を制限するために低めの画質を使用している場合、画像を再エンコードする必要があるため。監視システムサーバーでより多くのリソースを使用します。 ビューにあるカメラの帯域幅使用レベルを簡単に低減するには、1つのカメラの画質を低くしてからすべてに適用ボタンをクリックします。
最大画面で画質を保持	ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、特定のビュー内の他のカメラの位置をダブルクリックして最大化できます。この場合、選択している画質の設定に関係なく、デフォルトでカメラのビデオが最高の画質で表示されます。 選択した画質設定をビデオの拡大表示中にも適用できるようにするには、画質設定のすぐ下にある最大画面で画質を保持ボックスをオンにしてください。
フレームレート	選択したカメラのフレームレートを選択できます。無制限（デフォルト）、中、または低のいずれかを選択してください。ページ74のフレームレート効果（説明付き））、ビデオの画質が異なります。
PTZクリックモード	使用しているPTZカメラに対するデフォルトのPTZクリックモードを選択します。オプションは、クリックして中央揃えまたは仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルトPTZクリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。
魚眼スプリットモード	選択したカメラが魚眼カメラの場合にのみ使用できます。魚眼テクノロジーにより、パノラマ画像を作成、表示できます。XProtect Smart Clientは、1台の魚眼レンズカメラからの最高4つの異なるビューポイントに対応しています。魚眼分割モードのリストを使って、使用する分割モードを選択します： 分割なしではビューポイントが1つ表示されます。

名前	説明
	2つずつでは、同時に4つの異なるビューポイントを表示します。 XProtect Smart Clientのタブのいずれで表示しても、魚眼レンズカメラは同じ画像の1つまたは4つのビューポイントで、指定された通りに表示されます。 魚眼カメラから異なるビューポイントを表示している場合、各ビューポイントの内側をクリックするか、カメラツールバーのPTZプリセットメニューを使用して、各ビューポイントを個別にナビゲートできます。
画像の縦横比を維持	選択すると、カメラポジションのサイズに合わせてビデオが引き伸ばされることはありません。ビデオは録画された時の縦横比(高さと幅の関係)で表示されます。 この場合、カメラによっては、画像の周囲に縦または横向きの黒いバーが表示されることがあります。 このチェックボックスをオフにすると、ビデオはビューの位置に合わせて縮尺されるため若干歪む場合がありますが、ビデオのまわりに黒い棒は表示されません。
モーションで更新	このオプションを選択すると、モーションを検知したときのみ、選択されたカメラのビデオがXProtect Smart Clientのライブタブで更新されます。カメラのモーション検知感度(監視システムサーバーで設定)によっては、CPUの使用量を大幅に減らすことができます。 モーションを感知したときだけビデオを更新するように設定すると、モーションが感知されるまで、カメラのビューの位置に静止画像と一緒に「モーションなし」というメッセージが表示されます。静止画像は灰色でオーバーレイされるので、どのカメラで動きがないかが簡単に識別できます。
モーション検知で音を鳴らす	カメラからのビデオをライブタブで表示している場合、モーションを検知した際に音声通知を受けることができます。 カメラのビデオが実際にXProtect Smart Clientに表示されている場合のみ、音の通知が機能します。そのため、該当するカメラを含むウィンドウを最小化していると、音の通知は機能しません。同様に、あるカメラを最大化しており、そのカメラだけが表示されている場合、他のカメラの音の通知は鳴りません。 常にオフ: モーションを検知しても音による通知を使用しません。 常にオン: カメラがモーションを検知するたびに音声通知を実行します。
イベントで音を鳴らす	この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。 この機能を使用するには、イベント通知が監視システムサーバーで設定されていなければなりません。

名前	説明
	カメラのビデオが実際にXProtect Smart Clientに表示されている場合のみ、音の通知が機能します。そのため、該当するカメラを含むウィンドウを最小化していると、音の通知は機能しません。同様に、あるカメラを最大化しており、そのカメラだけが表示されている場合、他のカメラの音の通知は鳴りません。 カメラからのビデオをライブタブで再生している場合、選択したカメラに関連するイベントが発生したときに、音で通知を受けることができます。 常にオフ: カメラに関連するイベントが発生しても音声による通知を実行しません。 常にオン: カメラに関連するイベントが発生するたびにサウンドによる通知を実行します。
表示設定	デフォルトの表示設定を使用する: タイトルバーと選択されたカメラのビデオインディケーターでデフォルトのセッティングを使用するには、セッティングウィンドウで定義。選択したカメラをデフォルトの設定以外で動作させたい場合は、チェックボックスをオフにして、希望するタイトルバーおよび/またはビデオインジケータを選択します。 タイトルバーの表示: 各カメラ位置の最上部にタイトルバーが表示されます。タイトルバーにより、ユーザーはカメラを簡単に識別できます。ライブタブに表示されるタイトルバーには、さらに、検知したモーションやイベント、カメラが録画しているかなどについての情報が表示されます。ページ181のカメラインジケータ(説明付き)を参照してください。 タイトルバーを表示しないことを選択した場合は、モーションやイベントの視覚的インジケータは表示されません。代わりに、音声による通知を使用できます。 バウンディングボックスレイヤーを表示する: 個々のカメラで、境界のボックスを表示します。[境界ボックスプロバイダー]([ページ75の境界ボックスプロバイダー(説明付き)」を参照)ダイアログボックスを開き、データをカメラに提供する役割を担うメタデータデバイスを指定します。
ビデオバッファリング	プロパティペインのこの部分は表示されません。これを表示するには、[設定]ウィンドウ(「ページ39の設定ウィンドウ」を参照)の[機能]タブに移動し、[設定] > [ビデオバッファの編集]が[利用可能]に設定されていることを確認します。 ライブビデオをジッターなく滑らかに表示するためのビデオバッファを構築できます。 可能であれば、ビデオバッファの使用は避けてください。ビデオバッファによって、ビューに表示されるそれぞれのカメラのメモリ使用を大幅に増加できます。ビデオバッファを使用しない場合は、バッファリングレベルをできるだけ低く保ってください。 ライブビデオをバッファに保存すると、ジッターなく滑らかに表示されますが、バッファを構築することでライブビデオの再生にわずかな遅延が生じます。多くの場合、この遅延は、ビデオで人を見るには問題になりません。ただし、カメラがパン/チルト/ズーム(PTZ)カメラであり、ジョイスティックを使用してカメラを操作している場合は遅延していることが明らかになります。

名前	説明
	ビデオバッファの量を制御できるため、ライブビデオを滑らかに再生することを優先するか(バッファが必要で、わずかな遅延が生じます)、即時PTZおよびジョイスティック操作を優先するか(バッファを必要としませんが、バッファを使用しないためにライブビデオにわずかにジッターが生じることがあります)を選択できます。 ビデオバッファリングを使用する場合、デフォルトのビデオバッファを使用を選択し、次に必要なバッファをなしから2秒の間で選択します。
すべてに適用	すべてに適用ボタンを使って、選択したカメラに対する設定内容をビューにあるすべてのカメラに対して素早く適用できます。

フレームレート効果(説明付き)

フレームレートの選択の効果は以下の通りです:

効果	無制限	中	低
JPEG	すべてのフレームを送信	4フレームおきに送信	20フレームおきに送信
MPEG/H.264/H.265	すべてのフレームを送信	主要フレームのみを送信	主要フレームのみを送信

例:

で[フレームレート]オプションを[低]XProtect Smart Clientに設定しており、システムの管理者がカメラが1秒あたり20フレームのフレームレートでJPEG画像をフィードするように設定した場合、ホットスポットでカメラからのビデオを再生すると1秒あたり平均1フレームで再生されます。次に、システムの管理者がフィードを1秒あたり4フレームと低い値に設定すると、カメラからのビデオを再生すると1秒あたり平均0.2フレームで再生されます。

境界ボックス(説明付き)

境界ボックスとは、たとえばカメラの画像にある対象物を囲む長方形の境界です。XProtect Smart Clientでは、境界ボックスがビデオ内で黄色い枠線として表示されます。

色は、VMSシステムがどのように構成されているかに応じて変化する場合があります。

個々のカメラの境界ボックスは、カメラプロパティの [表示設定]で表示または非表示にできます。

境界ボックスが画面に表示されている場合は、XProtect形式でビデオをエクスポートする際や(ページ194のXProtectフォーマットの設定を参照)、静止画像を印刷する(ページ198の監視レポートの印刷または作成を参照)場合にも表示されます。

境界ボックスプロバイダー(説明付き)

境界ボックスレイヤーを表示するが選択されていることが必要です。ダイアログボックスで、このカメラからのビデオで境界ボックスのデータを提供するメタデータデバイスを有効にします。システム管理者によって定義されたデバイスのリストです。

オーバーレイボタン(説明付き)

ビュー内のカメラポジションにオーバーレイボタンを追加して、補助コマンド(カメラによって定義されるコマンド)をトリガーすることができます。オーバーレイボタンは、監視システムによって異なる場合があります(ページ36の監視システムの別の特徴を参照)。補助コマンドはカメラによって異なります。詳細については、カメラの文書を参照してください。

サウンド通知(説明付き)

使用しているXProtectSmartClientで、次の状態が発生すると音声による通知を受信するよう設定されている場合があります。

- 1台または複数の指定されたカメラでモーションが検知された場合
- 1台または複数のカメラに関連したイベント(ページ249のイベント(説明付き)」を参照)が発生した場合

音声による通知が聞こえたら、特別な注意が必要です。組織内で、音声による通知が使用されているかどうか、またその使用法については、監視システムの管理者までお問い合わせください。

特定のカメラの音声通知を一時的に消音にできます：カメラツールバーで、詳細>サウンド通知>消音の順にクリックします。

> XProtect Smart Clientウィンドウを最小化すると、音声による通知は無効になります。

カメラからの音声による通知を有効に戻すには、再度詳細>音声による通知>消音の順に、再度クリックします。

> 音声通知を消音する機能は、ホットスポット、画面自動切替、またはMatrix(Matrixを参照)位置では使用できません。

音声(設定)

音声設定

> 現在表示しているビューやカメラと関係なく、録音した音声を聞くことができます。再生タブのナビゲーション機能で時間を指定して、どの録音音声を聞くか指定する必要があります。

名前	説明
マイク	音声を聞くマイクを選択します。 マイクのリストにマイク(ハードウェア)なしと表示されている場合は、使用しているコンピュータに、監視システムからの音声を再生するために必要なハードウェアがインストールされていないことを意味します。通常、これは使用しているコンピュータに音声カードが搭載されていないことが原因です。リストにマイクソースなしと表示された場合は、カメラに付いているマイクが使用できないことを意味します。
消音	選択すると、マイクまたはスピーカーを消音します(スピーカーの消音は再生タブでのみ可能です)。
スピーカー	話すスピーカーを選択します。 スピーカーのリストにスピーカー(ハードウェア)なしと表示されている場合は、使用しているコンピュータに、監視システムからの音声を再生するために必要なハードウェアがインストールされていないことを意味します。通常、これは使用しているコンピュータに音声カードが搭載されていないことが原因です。リストにスピーカーソースなし

名前	説明
	と表示された場合は、カメラに付いているスピーカーが使用できないことを意味します。 監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており(それらにアクセスするために必要な権限がある場合)、スピーカーのリストですべてのスピーカーを選択すると、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。
出力	クリックして、話す間だけマウスボタンを押したままにします。
レベルメーター	レベルメーターは、話し手の音声のレベルを示します。レベルが非常に低い場合は、マイクにもっと近づくか、Windowsで音声設定を調整する必要があります。レベルメーターがまったくレベルを示さない場合は、マイクが接続され、正しく設定されていることを確認してください。
選択した音声デバイスへロック	カメラまたはビューを選択すると、対応するマイクおよび/またはスピーカーもデフォルトで選択されます。ただし、再生しているカメラに関わらず、特定のカメラの音声を聞きたい場合は、選択した音声デバイスにロックを選択することができます。 例：犯罪の被害者に対して、カメラAに付いているマイクとスピーカーを通して話を聞き、話しかける必要があるにも関わらず、カメラX、カメラY、およびカメラZを至急確認する必要があります。そして、これらのカメラの一部は別のビューの位置に表示されています。選択した音声デバイスにロックを選択して、カメラAで被害者と話をすると同時に別のカメラを見ることができます。
現在のビューのデバイスのみをリスト	使用している監視システムに多数のマイクやスピーカーがある場合、音声ペインで選択するマイクおよびスピーカーのリストは、非常に長くなることがあります。これを避けるために、現在のビューのデバイスのみをリストを選択して、現在使用しているビューに関連するマイクおよびスピーカーのみが含まれるように、リストを制限することができます。 この意味において現在のビューもフローティングウィンドウやプライマリー、セカンダリーディスプレイとして、あなたが選んだどのビューも含みます。(ページ233のマルチプルウィンドウ/ディスプレイ(説明付き)を参照。).

ブックマーク(設定)

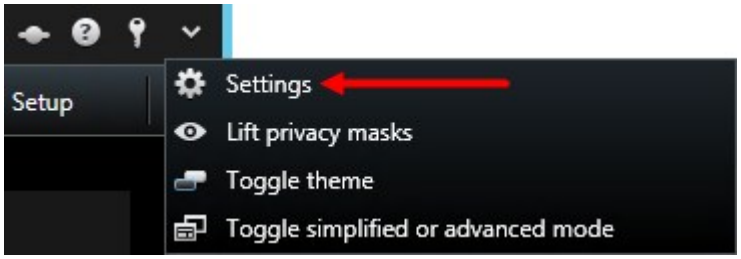
この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

詳細なブックマークを有効にする

ブックマークに名前と説明を付け、デフォルトの時間帯を変更するには、詳細を有効にする必要があります。

手順：

1. 設定ウィンドウを開きます。



2. 機能タブを選択します。
3. ライブビデオの詳細ブックマークを有効にするには、ライブタブのブックマークリストでブックマークの詳細を追加を選択します。
4. 録画ビデオの詳細ブックマークを有効にするには、再生タブのブックマークリストでブックマークの詳細を追加を選択します。
5. 閉じるをクリックします。

カメラナビゲーター(設定)

カメラナビゲーターを使う前に:

1. マップを設定します。ページ113のマップをビューに追加。
2. マップにカメラを追加します。
3. カメラのナビゲーターをビューに追加します。
4. (オプション) カメラナビゲーターにビューをどのように表示したいかについて、プロパティを用いて定義します。「ページ79のカメラナビゲータの設定」を参照してください。

カメラナビゲーターをビューに追加

カメラナビゲータにより、1つのビューの領域に対応するすべてのカメラを追加して、領域の完全な概要を設定できます。たとえば、建物周辺の誰かを追跡する場合に有用です。その人が移動すると、次のカメラに切り替えることができます。詳細については、「ページ176のカメラナビゲータ(説明付き)」を参照してください。

手順:

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。

> カメラナビゲータを最大限に活用して、右側のペインにカメラビューを表示できるようにするには、1x1ビューを選択してください。

2. システム概要ペインで、カメラナビゲータをビューにドラッグします。

3. ホームマップとカメラの選択ウィンドウで、ナビゲーションに使用するマップを選択します。
4. カメラナビゲータを開くたびに、デフォルトのカメラとして選択するカメラをクリックして、**OK**をクリックします。
5. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

カメラナビゲータの設定

[プロパティ](「ページ70のカメラ設定」を参照) ペインでは、カメラナビゲーターにおけるこれらの設定を指定できます。

名前	説明
ホーム マップとカメラ	カメラナビゲータが使用するマップとデフォルトのカメラを表示します。この設定を変更するには、 ボタンをクリックして、ホームマップとカメラを選択するウィンドウを開きます。
カメラインジケータの最大台数	メインビューに含めるカメラの最大台数を選択します。各カメラはカメラのアイコン と共に表示されます。無制限の台数のカメラを表示することができます。
カメラインジケータの方向	カメラの視点から見られるカメラの位置と方向を表示する場合は、選択したカメラに連動を選択します または カメラの位置と向きを上空から見た時のマップのレイアウトに常に反映させる場合は、地図に連動を選択します 現在選択されているカメラが常に中央に表示されます。
プレビューカメラの最大台数	プレビューペインに表示するカメラの最大台数を選択します。画面に表示されるカメラのみがシステムリソースを使用します。表示できるカメラの最大台数は20台です。 プレビューするカメラの台数が増えるほど、より多くのシステムリソースが必要になります。

画面自動切替(設定)

画面自動切替を使用する前に:

1. カルーセルをビューに追加します。
2. 切替に含めるカメラを指定します。

カルーセルをビューに追加

画面自動切替では、定義した速度で画面自動切替のカメラの間を絶えず検索します。

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。
2. [システム概要]ペインで、自動画面切替アイテムをビューアイテムにドラッグします。
3. 画面自動切替の設定ウインドウ内で：
    1. [カメラ]セクションに移動します。
    2. 画面自動切替に追加したい各カメラを見つけてダブルクリックします。
4. 画面自動切替でカメラを表示するシーケンスを定義するには、選択したカメラのリストで、カメラを上下に移動させます。
5. 各カメラが画面自動切替に表示される秒数を入力します。すべてのカメラで同じ値を指定するか、カメラごとに異なる値を指定することができます。
6. **[OK]**をクリックして**[**画面自動切替設定**]**ウィンドウを閉じます。
7. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。
8. (オプション) 画面自動切替の設定の変更をするには、プロパティペインへ移動し画面自動切替設定をクリックします。

自動切替設定

[プロパティ**]**ペイン (ページ70のカメラ設定を参照) で、画面自動切替の設定を指定できます。ライブストリーム、画質、フレームレート、および画像のアスペクト比維持などの設定が、画面自動切替ですべてのカメラに適用されます。

プロパティを表示するには、**[**アイテムを表示**]**を選択し**[**設定**]**をクリックします。

ホットスポット(設定)

ホットスポットを使う前に:

1. ビューにホットスポットを追加する「ページ80のホットスポットをビューに追加」を参照してください。
2. ホットスポットの設定をします。ページ81のホットスポット設定を参照してください。

ホットスポットをビューに追加

ビューにホットスポットが含まれている場合、カメラをクリックすると、カメラからのビデオフィードがホットスポットビューアイテムに高解像度で表示されます。

手順：

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。
2. システム概要ペインで、ビュー内の位置へホットスポットのアイテムをクリックして、ドラッグします。ホットスポットアイコン

を表示する位置：.

3. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。
4. (オプション) ホットスポットのプロパティを設定するには、設定モードでプロパティペインに移動します。

> ホットスポットには高画質を指定し、ビューの他の位置には低画質を指定して、帯域幅を節約することができます。

ホットスポット設定

[プロパティ] (ページ70のカメラ設定を参照) ペインで、ホットスポットの設定を指定できます。ライブストリーム、画質、フレームレート、および画像の縦横比を維持などの設定が、ホットスポットのすべてのカメラに適用されます。

プロパティを表示するには、[アイテムを表示]を選択し[設定]をクリックします。

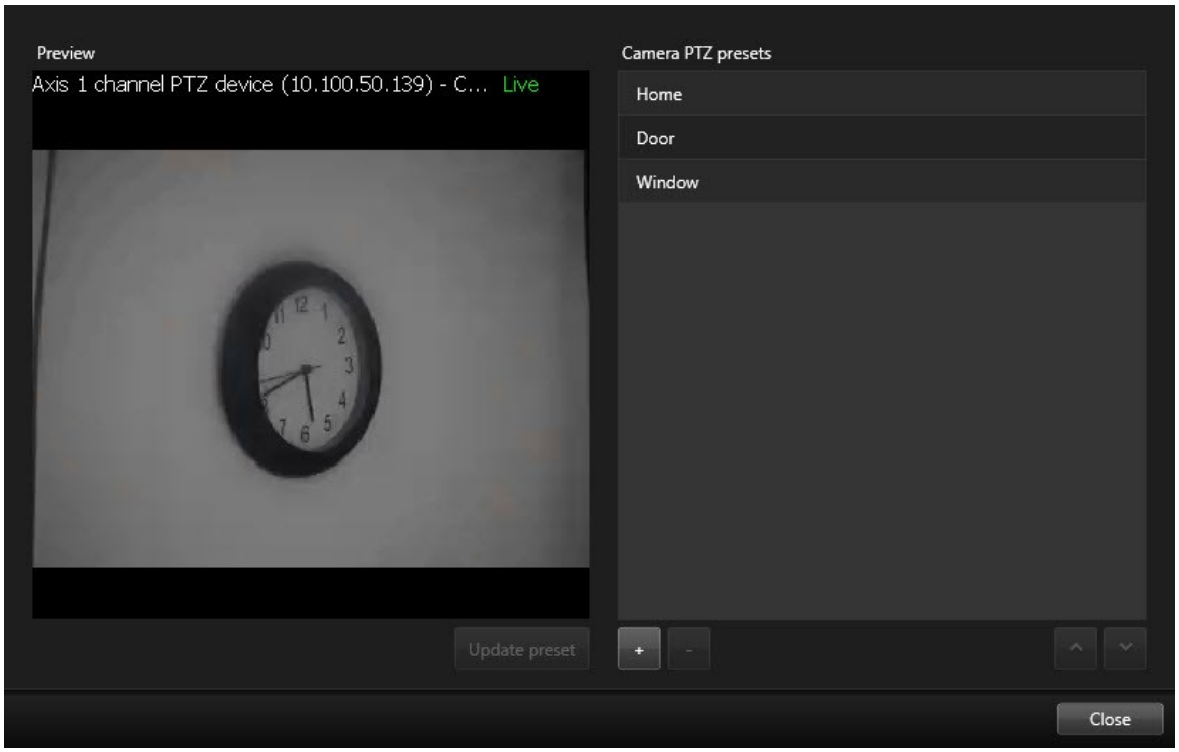
PTZプリセット(構成)

監視システムによっては、(ページ36の監視システムの別の特徴を参照)PTZプリセットを作ったり、編集したり、削除したりできます。

PTZプリセットの追加

追加のPTZプリセットを定義できます：

1. ビューで、新しいPTZプリセット位置を追加する対象のPTZカメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコンをクリックし、PTZメニューを開きます。
3. [PTZプリセットの管理]をクリックしてウィンドウを開きます。



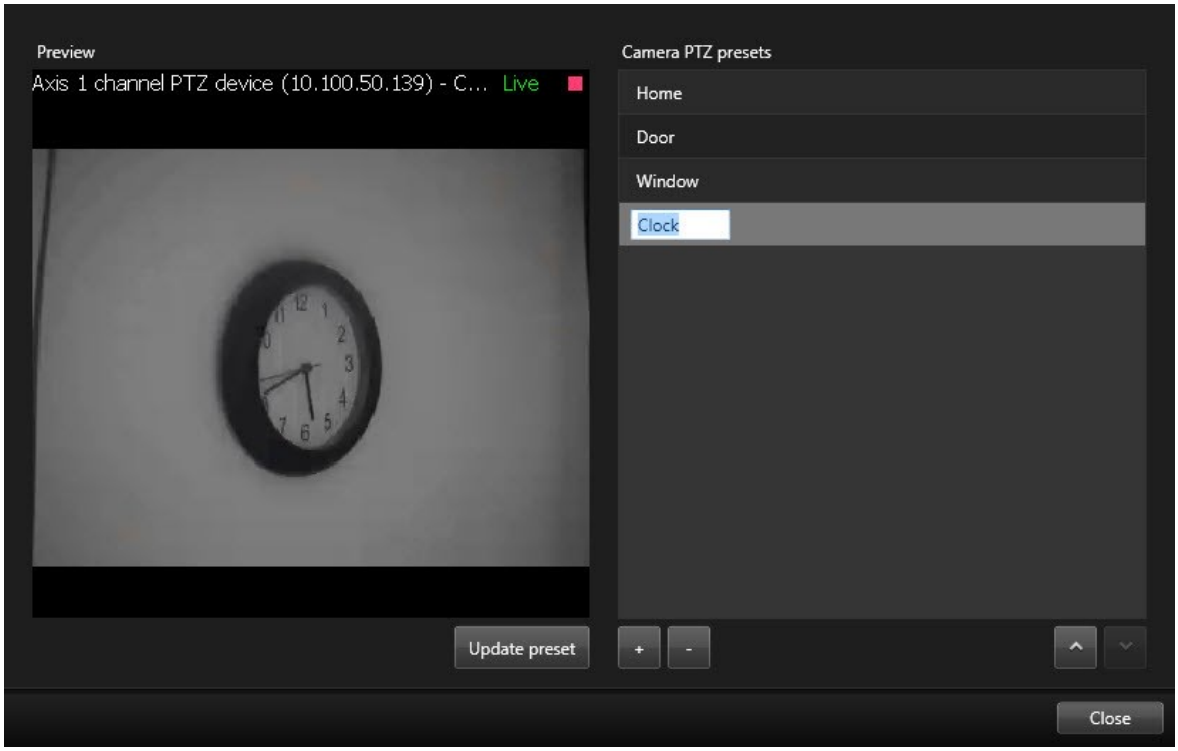
4. をクリックして、新しいプリセットエントリを追加します。
5. PTZプリセットエントリーを選択し、PTZプリセットの新しい名前を入力します。
6. PTZボタンを使用して、関連する位置に移動し、プリセットの更新をクリックして保存します。
7. 矢印を使用して、リスト内でPTZプリセット位置を上下に移動します。リストに含まれるプリセットが多い場合は、この操作が便利です。

PTZプリセットの編集

プリセットの名前変更やプリセット位置の変更など、既存のPTZプリセットを変更できます。

1. ビューで、PTZプリセットを修正したいPTZカメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコンをクリックし、PTZメニューを開きます。
3. PTZプリセットの管理をクリックし、ダイアログボックスでPTZプリセットを選択します。

4. プリセット名を編集するには、PTZプリセット名が強調表示されているのを確認します。テキストをクリックし、既存の名前を上書きします。



5. カメラが正しい位置にない場合は、PTZボタンを使用して目的の位置に移動してから、プリセットの更新をクリックして保存します。
6. 上下矢印を使用して、リスト内でPTZプリセットを調整します。
7. [閉じる]をクリックします。

PTZプリセットの削除

既存のプリセットを削除するには、プリセットを選択し、 をクリックします。

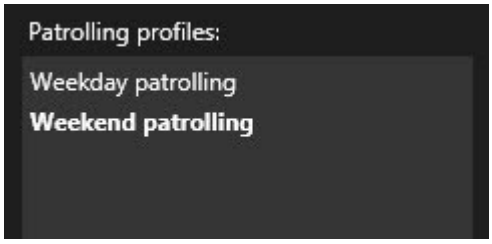
パトロールプロファイル(構成)

監視システムによっては(ページ36の監視システムの別の特徴を参照)、パトロールプロファイルのPTZプリセットの作成、編集、削除が可能です。

パトロールプロファイルを追加する

パトロールプロファイルを追加した場合は、自分と他のユーザーはPTZメニューで新しいパトロールプロファイルを確認できます。

1. ビューで、該当するPTZカメラを選択し、新しいパトロールプロファイルを追加します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコンをクリックし、PTZメニューを開きます。
3. パトロールプロファイルの管理をクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。
4. 次の手順に従い、**OK**をクリックしてパトロールプロファイルの管理ウィンドウを閉じます。
5. パトロールプロファイルでをクリックし、新しいパトロールプロファイルを追加します。
6. プロファイル名を入力し、**Enter**キーを押します。この名前は後からいつでも変更できます。



新しいパトロールプロファイルがパトロールプロファイルリストに追加されます。これで、位置とパトロールプロファイルの他の設定を指定できます。

パトロールプロファイルを削除する

既存のプロファイルを削除するには、プロファイルを選択し、をクリックします。

パトロールプロファイルを編集する

パトロールプロファイルで位置を指定する

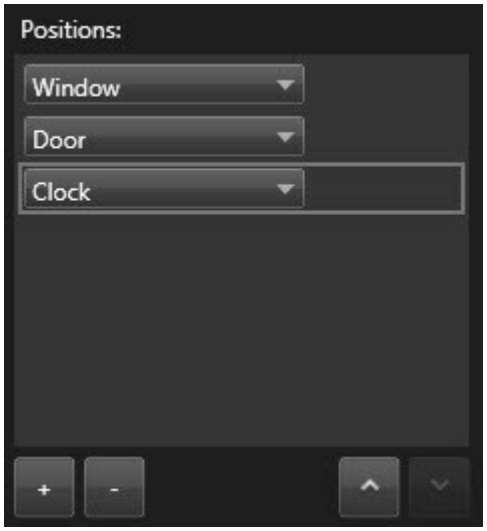
1. パトロールプロファイルを選択します：

2. 位置リストの下でをクリックし、PTZプリセットを追加します。

   PTZプリセットはシステム管理者によって定義されます。またユーザー権限によっては、**PTZ**プリセットの管理ボタンをクリックして定義できます(ページ81のPTZプリセット(構成) を参照) 。

3. ドロップダウンリストでPTZプリセット位置を選択します。

4. パトロールプロファイルですべての必要な位置を選択するまで、プリセットを追加し続けます。



5. 上下矢印を使用して、リスト内でPTZプリセット位置を移動します。

   カメラはリストの最上位のPTZプリセット位置を、カメラがパトロールプロファイルに従ってパトロールを行うときの最初の停止位置として使用します。上から2番目の位置のPTZプリセット位置は、2番目の停止位置というようになっています。

各位置での時間の指定

パトロール時に、PTZカメラはパトロールプロファイルで指定された各位置にデフォルトで5秒間とどまります。

秒数を変更するには：

1. パトロールプロファイルリストでパトロールプロファイルを選択します。
2. 位置リストで時間を変更するPTZプリセット位置を選択します。

3. 位置の時間(秒)フィールドに任意の時間を入力します。
4. 必要に応じて、他のプリセットでも繰り返します。

終了位置の指定

パトロールが終了するときにカメラを特定の位置に移動するように指定できます。この場合は、パトロールプロファイルで終了位置を選択します。

1. パトロールプロファイルリストでパトロールプロファイルを選択します。
2. 終了時に移動で、ドロップダウンリストから終了位置としてプリセットのいずれかを選択します。

> 任意のカメラのPTZプリセットを終了位置として指定できます。パトロールプロファイルで使用するプリセットに制限はありません。終了位置を指定せず、デフォルトの設定をそのまま使用することもできます。終了位置がありません。

アラームとイベント(設定)

表示するアラームを追加

以下のアイテムをビューに追加すると、優先されるアラームのリストを共有して、オペレータがアラーム関連のインシデントに焦点を当てて対応できるようにすることが可能です。通常、以下の両方を同じビューに追加します。

- アラームリストには、アラームの優先リストが表示され、複数のフィルタリングオプションが含まれています。
- アラームプレビューでは、アラームリストで選択されているアラームのビデオをプレビューできます。

> 以下の手順を行うには、2つ以上の位置でビューレイアウトが必要です。

手順:

1. ビューペインで、アラームリストとアラームプレビューを追加したいビューを選択します。
2. 設定をクリックして設定モードに移ります。
3. システム概要ペインでアラームを展開し、アラームリストをビューアイテムまでドラッグします。
4. アラームプレビューを異なるビューアイテムにドラッグします。
5. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

アラームリストの設定

設定モードで、ナビゲーションツリーでアラームまたはイベントをサーバー別にグループ化して表示するかどうか、また同時にいくつのアラームやイベントをリストで表示するかを選択できます。ここで、アラームリストにアラームやイベントを表示するかどうかを指定することもできます。

名前	説明
ナビゲーションツリーを表示	選択すると、アラームリストの左側にナビゲーションツリーを表示します。ナビゲーションツリーでは、異なる状態のアラームでサーバーとフィルター別にグループ化されたアラームまたはイベントを表示できます。
フェッチする最大行数	取得してアラームリストに表示する最大行数を制御します。デフォルトで、アラームリストには一度に最高100のアラームまたはイベントが表示されます。これにより反応時間が向上します。より多数のアラームまたはイベントの取得と表示には時間がかかるためです。アラームまたはイベントが100以上ある場合は、以下のボタンをクリックすると次の100件のアラームを表示して取得できます。 1-100 > このフィールドでは、最大行数を設定できます(1～999) 。
データソース	アラームリストで、アラームやイベントのリストを表示するかどうかを選択します。 イベントリストには、モーション検知やアーカイブ障害などのシステムやユーザーが生成するイベントは表示されません。

アラームプレビューの設定

アラームまたはビデオに関連付けられたビデオがある場合は、アラームリストで特定のアラームを選択すると、選択されたアラームまたはイベントの録画済みビデオがアラームプレビューに表示されます。アラームに複数のカメラが関連付けられている場合、あるいは複数のアラームを選択した場合、複数のプレビューが表示されます。アラームに関連付けられているビデオがない場合は、アラームプレビューは灰色で表示されます。アラームプレビューのプロパティは、設定モードで変更できます。

名前	説明
同じカメラを表示	選択すると、アラームプレビューに同じカメラを複数回表示します。アラームプレビューは、アラームリストで選択されているものを反映します。複数のアラームまたはイベントを選択することが可能であるため、選択したアラームまたはイベントが同じカメラに関連付けられている場合は、同じカメラからのビデオがアラームプレビューに何回も表示されることがあります。

名前	説明
イベントソースカメラを表示	選択すると、監視システムサーバーでアラームまたはイベントが設定されたカメラからのビデオ(ある場合)を表示します。このフィールドをクリアすることは、お勧めいたしません。
関連するカメラを表示	選択すると、アラームプレビューに関連するカメラからのビデオを表示します。1つのアラームまたはイベントにつき最大16台の関連カメラからの関連ビデオを表示することが可能です。XProtect Smart Clientでは、関連するカメラの数を指定できません。数はアラームによって異なり、監視システム設定の一部として指定されます。
オーバーレイを表示	移動しているオブジェクトの経路を追跡する線などのオーバーレイ情報を表示できるプラグインとアラームプレビューを使用している場合のみ該当します。これは、XProtect Smart Clientの標準機能ではありません。

スマートマップ(設定)

スマートマップ機能を利用する前に、XProtect Smart Clientで特定の認識作業が必要になります。

スマートマップは、ビューに追加されている場合にのみ表示できます。ページ89のスマートマップをビューに追加を参照してください。

詳細については、ページ271のスマートマップ(説明付き)を参照してください。

マップとスマートマップの違い(説明付き)

XProtect Smart Clientでは、監視システムを視覚化し、インシデントに迅速に対応する上で役立つマップ機能を提供します。

- マップ - これらのマップは、地理的参照を含まない静止画像に基づいています。カメラ、マイク、録画サーバーなどのデバイスを追加できます。マップから監視システムを直接操作できるアラーム、イベント、および入退室管理などの機能も追加できます。デバイスおよび機能の要素をマップ上に手動で配置する必要があります。詳細については、ページ278のマップ(説明付き)を参照してください。

- スマートマップ - このタイプのマップでは地理情報システムを使用して、実世界の地理を正確に反映します。これにより、複数の場所にあるカメラのより正確な概要を把握することができます。Bing MapsサービスやGoogle Mapsサービス、またはOpenStreetMapのマッププロジェクトを地理的背景として使用し、コンピュータ支援設計(CAD)図面、図形ファイル、および画像をオーバーレイとして追加することができます。詳細については、ページ271のスマートマップ(説明付き)を参照してください。

> マップ機能とスマートマップ機能は互いに代替可能ではありません。マップを使用している場合は、スマートマップなどの画像ファイルを使用できますが、再度カメラを追加する必要があります。カメラを含むマップはスマートマップに転送できません。ただし、スマートマップをマップにリンクすることはできます。詳細については、ページ103のスマートマップ上のリンクの追加、削除および編集を参照してください。

スマートマップをビューに追加

スマートマップの使用を開始するには、ビューにスマートマップを追加します。デフォルトではベーシックな世界地図が表示されます。スマートマップを追加した後、地理的な背景を変更できます。

手順:

1. ライブまたは再生タブで、スマートマップを追加したいビューを選択します。
2. 設定をクリックして設定モードに移ります。
3. システム概要ペインを展開してから、スマートマップアイテムをビュー内の右側の位置にドラッグします。
4. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。
5. これで地理的な背景を変更できます。

スマートマップの背景地図を変更する

デフォルトでは、スマートマップをビューに追加したときに、ベーシックな世界地図の背景地図が表示されます。スマートマップをビューに追加すれば、さまざまな背景地図を選択できるようになります。そのスマートマップを使用しているすべてのユーザーは、次回そのビューを表示すると新しい背景が表示されます。

要件

Bing MapsとGoogle Mapsの背景地図は、システム管理者がXProtect Management Clientでこれを構成している場合に限り使用できます。

手順:

1. スマートマップが含まれるビューを選択します。
2. ツールバーで、レイヤーやカスタムオーバーレイを表示または非表示にするをクリックします。
3. 背景地図で、背景と表示したい詳細情報を選択します。例えば、地形に関する情報を閲覧したい場合は、地形を選択します。道路を見たいときは、道路を選択します。

背景地図(説明付き)

OpenStreetMap、Google Maps、またはBing Mapsサービスをスマートマップの地理的背景として使用できます。背景地図を選択したら、デバイス(カメラなど)とカスタムオーバーレイ(シェイプファイルなど)を追加します。詳細については、ページ94のカスタムオーバーレイ(説明付き)を参照してください。

背景地図の種類(説明付き)

ビューにスマートマップを追加すると、以下の地理的背景を選ぶことができます。

- 基本的な世界地図 - XProtect Smart Clientで提供される標準的な地理的背景を使用します。このマップは一般的な基準として使用することを意図しており、国境や都市、その他の詳細などの機能は含まれていません。ただし、他の背景地図と同様、地理参照データは含まれています。
- Bing Maps - Bing Mapsに接続します。
- Google Maps - Google Mapsに接続します。

> Bing MapsとGoogle Mapsオプションでは、インターネットへのアクセスが必要です。MicrosoftまたはGoogleからキーを購入してください。

- OpenStreetMapには2つのオプションがあります。
  - 選択したコマーシャルタイルサーバーに接続します。ページ91のOpenStreetMapタイルサーバーの変更を参照してください
  - 自身のローカルタイルサーバーに接続する
- なし - 地理的背景が非表示になります。ただし、地理参照データは残ります。ページ93のスマートマップのレイヤー(説明付き)も参照してください

デフォルトで、Bing MapsとGoogle Mapsにはサテライト画像が表示されます(サテライト)。画像は、例えば航空画像や地形表示に変えて、他の情報を表示させることもできます。

OpenStreetMapタイルサーバー(説明付き)

スマートマップの地理的な背景としてOpenStreetMapを使用する場合は、タイルサーバーを指定する必要があります。所属組織に空港や港といった地域の独自の地図がある場合などはローカルタイルサーバーを指定できます。また、コマーシャルタイルサーバーを使用することも可能です。

ローカルタイルサーバーを使用する場合、インターネットアクセスは不要です。

タイルサーバーのアドレスは以下の2つの方法で指定できます。

- XProtect Management Clientでは、タイルサーバーのアドレスをSmart Clientプロファイルで設定します。このサーバーアドレスは、XProtect Smart Clientプロファイルに割り当てられている全Smart Clientユーザーに適用されます
- XProtect Smart Clientでは、タイルサーバーのアドレスを設定ダイアログで設定します。サーバーアドレスは、そのインストールにのみ適用されます。

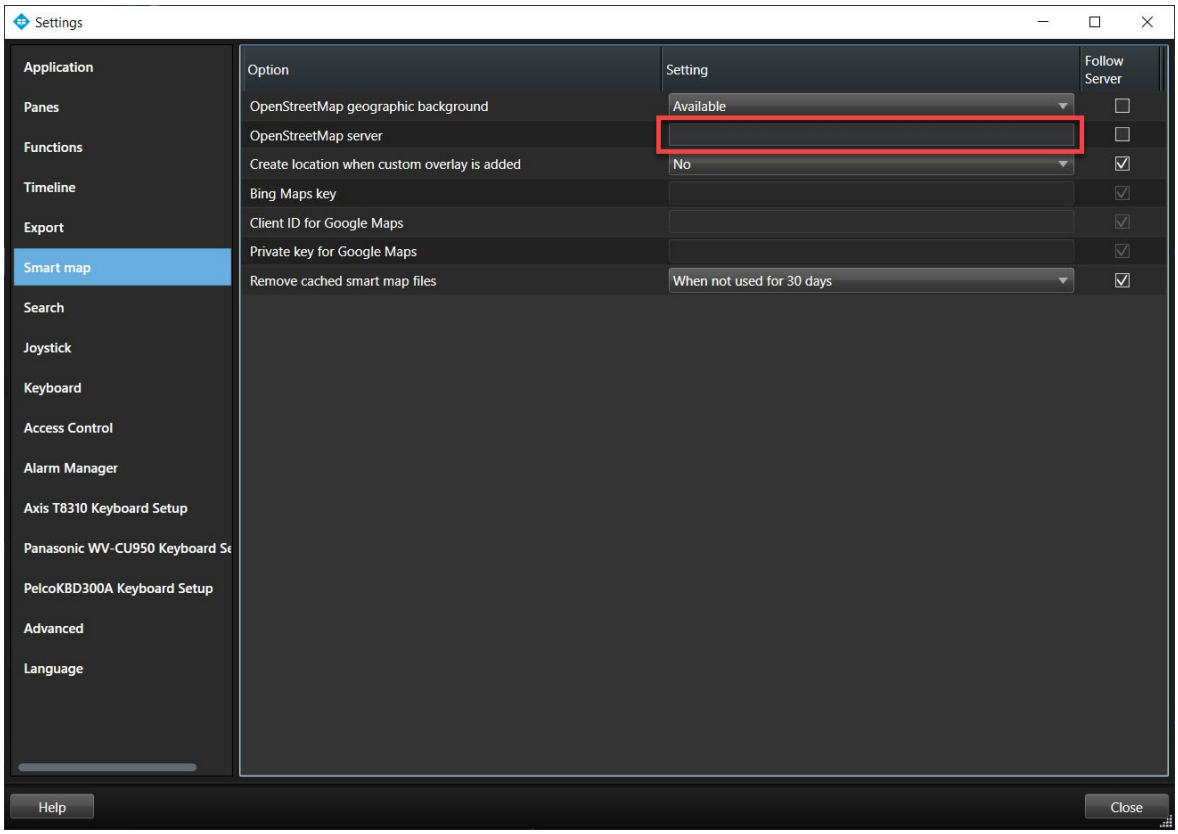
OpenStreetMapタイルサーバーの変更

要件

サーバー側の指定タイルサーバーに編集ロックがかかっている場合、このフィールドはグレー表示となり、サーバーアドレスの変更は不可能になります。この機能をXProtect Management Clientで有効にできるよう、システム管理者にサポートを要求してください。

手順：

1. 右上に表示される をクリックした後、 設定をクリックして設定ウィンドウを開きます。



2. 左側のセクションでスマートマップをクリックします。
3. OpenStreetMapサーバーフィールドで以下のいずれかを実行します。
   - サーバーのアドレスを入力します。フィールドがグレー表示になっている場合は、サーバー側でロックされています
   - サーバー側の指定サーバーを使用するには、サーバーに従うチェックボックスを選択します
4. OKをクリックします。これで次回スマートマップがロードされる際に、指定したOpenStreetMapサーバーが使用されます。

> サーバーアドレスが指定されていない場合や、サーバーアドレスが無効な場合は、OpenStreetMapを背景地図として使用することはできません。

スマートマップでレイヤーを表示または非表示する

見たいものに応じて、スマートマップ上のレイヤーをオン/オフにできます。

スマートマップのレイヤー(説明付き)

スマートマップが表示する情報にフィルターをかける際は、レイヤーを利用します。スマートマップには3種類のレイヤーがあります。

- システムエレメント - カメラ、リンク、場所が含まれます。
- カスタムオーバーレイ - ビットマップ画像、CAD図面、およびシェープファイル。
- 背景地図 - 基本的世界地図、Bing Maps、Google Maps、またはOpenStreetMap

> Bing MapsとGoogle Mapsは、システム管理者がManagement Clientでこれを有効にしている場合に限り、地理的背景として使用できます。詳細については、ページ90の背景地図(説明付き)を参照してください。

レイヤーの順番(説明付き)

同じ種類のシステムエレメントは全て、同一レイヤーにあります。例えば、カメラは全て、同じレイヤーにあります。カメラレイヤーを非表示すると、すべてのカメラが非表示になります。上から順に、システムエレメントのレイヤーは、次の順に配列されています：ロケーション、カメラ、リンク、背景地図。この順番を変更することはできません。

背景地図は、スマートマップ中で常に最下のレイヤーに位置しています。異なる背景地図同士を切り替えることはできますが、一度に1つの背景地図しか選択することはできません。

カスタムオーバーレイは、個別のレイヤーとして追加され、スマートマップに追加された順にスタックされます。地図のデフォルト設定を構成して順番を変更してください。

例

都市計画では、各市境を示すシェープファイルと市内の全ての主要道路を含むシェープファイルがあります。この計画では、レイヤーの順番を整理することにより、道路が市境の上に表示されるようにすることができます。こうすることにより、市内のどこにカメラがあるかを把握することができ、また、ズームインして特定のカメラが配置されている道の名前を閲覧することができます。

スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする

背景地図を含め、スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にすることができます。これは例えば、特定のエレメントに集中したいときや、スマートマップが表示するコンテンツを簡略化したいときに便利です。

手順：

1. ツールバーで、レイヤーやカスタムオーバーレイを表示または非表示にするをクリックします。
2. システムエレメントとカスタムオーバーレイを表示または非表示にするには、チェックボックスを選択または選択解除します。
3. 背景地図を非表示にする場合、なしを選択します。

なしを選択すると、背景地図が非表示になりますが、地理参照は引き続きスマートマップに適用されます。たとえば、空間参照が含まれる新しいシェイプファイルを追加した場合でも、その空間参照を用いてファイルがマップ上に配置されます。

スマートマップのデフォルト設定を指定

ビューにスマートマップを追加して、オーバーレイ、カメラ、リンクが追加された後、カスタムオーバーレイのデフォルト設定を指定できます。クリーンアップするためにカスタムオーバーレイを削除することもできます。

手順：

1. 設定をクリックします。
2. デフォルト設定の管理をクリックします。
3. 以下のいずれかを行ってください：
   - オーバーレイを表示または非表示にするには、チェックボックスを選択または選択解除します
   - 並べ替えを行うには、オーバーレイ前部のドラッグハンドルを使い、オーバーレイをリスト内の新しい位置にドラッグします。レイヤーはリスト内で上から順に並べられます。
   - オーバーレイを削除するには、ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、削除をクリックします。
4. 保存をクリックします。

カスタムオーバーレイの追加、削除および編集

カスタムオーバーレイ(説明付き)

XProtect Smart Clientではスマートマップ上のカスタムオーバーレイとして、次の種類のファイルを追加することができます。

- シェープファイル - 点、線、多角形などの地理空間ベクトルデータ、および壁、道路などマップ上のオブジェクトを表す属性、または川や湖などの地理的特徴を含むことができます。例えば、ズームイン時とズームアウト時に拡大縮小がしやすく、CAD図面またはビットマップ画像よりもファイルのサイズが小さいので、都市計画事務所や管理事務所などは、よくシェープファイルを利用します。
- CAD - コンピュータ支援設計(CAD)図面は、シェープファイルのように、座標系や空間参照を使って正確な地理コンテキストを提供することができるので、スマートマップのオーバーレイとして便利です。例えば、あるロケーションの詳細な航空地図または道路地図を使うことができます。
- 画像 - 建物の間取り図などの画像ファイルがある場合、スマートマップ上のオーバーレイとして追加することができます。次のタイプの画像ファイルを使用できます。PNG、BMP、GIF、JPG、JPEG、PHG、TIF、TIFF

カスタムオーバーレイがフォーカスされるよう、他のタイプのレイヤーを一時的に非表示にすることができます。ページ93のスマートマップのレイヤー(説明付き)を参照してください。

カスタムオーバーレイおよび場所

ページ277のスマートマップ上でカスタムオーバーレイに飛ぶで説明されているように、スマートマップに既に追加したカスタムオーバーレイへすばやくジャンプすることができます。ただし、設定で、カスタムオーバーレイと場所との間の接続を確立することができます。つまり新しいカスタムオーバーレイを追加した場合はいつでも、XProtect Smart Clientはマップ上の全く同様のスポットにあるオーバーレイと同じ名前の場所を作成します。カスタムオーバーレイの場所は、これで場所を選択するリストで使用可能になります。

オーバーレイと場所は、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケーションの名前を変更したり削除したりすることができ、またその逆もできます。

この機能をオンにするには、ページ96のカスタムオーバーレイへ場所を追加する(スマートマップ)を参照してください。

スマートマップでカスタムオーバーレイを追加する

カスタムオーバーレイを追加することにより、スマートマップの詳細レベルを上げます。カスタムオーバーレイを追加すると、XProtect Smart Clientは、そのオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。

手順:

1. スマートマップを含むビューを選択し、設定をクリックします。
2. カスタムオーバーレイを追加をクリックします。
   - 追加するオーバーレイが地理参照されている場合、スマートマップの任意のロケーションをクリックします。XProtect Smart Clientは、地理参照情報を使って、オーバーレイを正しい地理的場所に配置します。さらに、スマートマップは、デフォルトのズームレベルでオーバーレイを中心に位置させます。
   - 追加するオーバーレイが地理参照されていない場合、地図上の要素を追加したい位置に移動し、スマートマップ上の点をクリックします。

     オーバーレイを追加する前に、地図上の希望するロケーションにズームインしておくことをお勧めします。そうすることにより、オーバーレイを正確に位置させやすくなります。

3. オーバーレイの名前を入力します。
4. 選択したファイルの種類に応じて：
   - 画像 - 画像ファイルを選択し、**OK**をクリックします。
   - シェープファイル - SHPファイルを選択します。PRJファイルがある場合には、XProtect Smart Clientが画像ファイルを見つけるため、**[OK]**をクリックするだけで済みます。PRJがない場合、追加後に、マニュアルでオーバーレイの位置を変更することができます。また、色を適用することもできます。例えば、色を追加することにより、スマートマップ上のシェープファイルをより目立たせることができます。
   - CAD - DWGファイルを選択します。PRJがある場合、**OK**をクリックします。PRJファイルがない場合で、地理参照を使ってスマートマップ上にファイルを位置させたい場合、空間参照系識別子(SRID)を入力し、**OK**をクリックします。PRJファイルまたはSRIDがない場合、追加後に、マニュアルでオーバーレイの位置を変更することができます。

     オーバーレイの種類に関する詳細については、ページ94のカスタムオーバーレイ(説明付き)を参照してください。

カスタムオーバーレイへ場所を追加する(スマートマップ)

場所が自動的にお使いのスマートマップのカスタムオーバーレイに追加されるようXProtect Smart Clientを構成できます。これにより、場所の選択リストからカスタムオーバーレイに移動できるようになります。

手順：

1. アプリケーションツールバーでをクリックして、設定ウィンドウを開くためにを設定をクリックします。
2. スマートマップタブへ移動します。
3. レイヤー追加時に場所を作成するリストで、はいを選択します。

4. ダイアログを閉じると変更が保存されます。

詳細については、ページ95のカスタムオーバーレイおよび場所を参照してください。

スマートマップ上でのカスタムオーバーレイの削除

1. スマートマップを含むビューを選択し、設定をクリックします。
2. ツールバーで、デフォルトの設定を管理をクリックします。
3. ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、削除をクリックします。
4. 保存をクリックすると、カスタムオーバーレイが削除されます。
5. オプション：カスタムオーバーレイ用のロケーションが作成されていた場合、これも削除してください。詳細については、ページ105のスマートマップ上の場所の追加、削除および編集を参照してください。

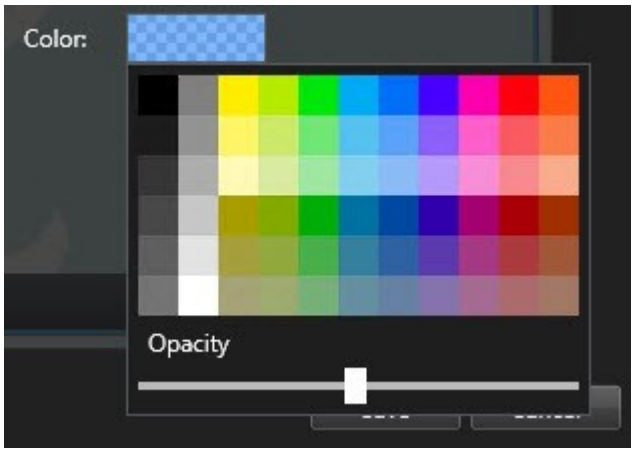
シェープファイルのエリアをより見やすくする(スマートマップ)

このトピックは多角形とシェープファイルを使用する場合のみ該当します。

スマートマップで近接した多角形から構成されるシェープファイルを使用したい場合は、お互いの多角形を個々に識別しなければならない場合があります。これをおこなうには、シェープファイルに対して選んだ色の不透明度を減少させます。多角形の枠線が目立つようになります。

手順：

1. ページ95のスマートマップでカスタムオーバーレイを追加するで説明されている通りの手順に従います。
2. 色を選択する際には、希望の透明度になるまで不透明度スライダーを左にドラッグします。



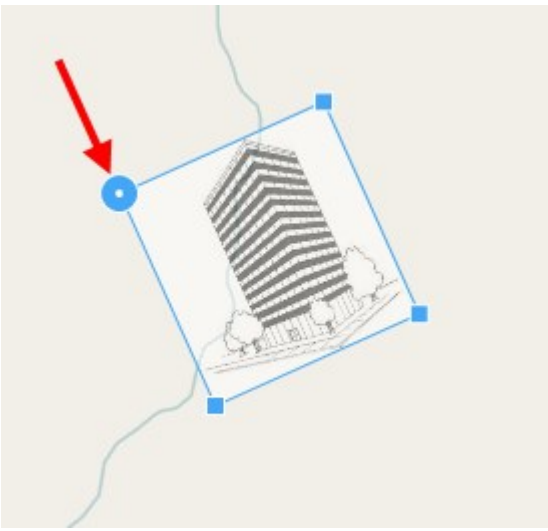
3. 保存をクリックします。

カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置の調整をする

オーバーレイは、地図上の別の位置に移動、拡大または縮小、回転させることができます。例えば、オーバーレイが地理参照されていない場合や、オーバーレイが地理参照されているのに何らかの理由で背景地図ときれいに揃わない場合に便利です。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、設定をクリックします。
2. オーバーレイを右クリックし、位置を編集を選択します。
3. オーバーレイをサイズ変更または回転するには：
   - 角にあるハンドルをクリックしてドラッグします。
   - オーバーレイを特定のポイント周辺で回転するには、ピボットポイントをマップの場所へ移動します。次にコーナーのハンドルをクリックしてドラッグします。



4. マップ上のオーバーレイを移動させる場合、オーバーレイをクリックしてドラッグします。
5. 変更を保存するには、保存をクリックします。

スマートマップ上のカメラの追加、削除または編集

実際の位置のスマートマップにカメラを追加することができます。カメラを追加することにより、監視システムの概要をつかむことができ、異常事態への対応も早めることができます。例えば、発生中の事件について容疑者を追跡したい場合、地図上のカメラをクリックして映像を確認することができます。

スマートマップにカメラを追加した後は、カメラアイコンの視界を調整することにより、実際のカメラの視界を反映させることができます。こうすることにより、特定地域を監視しているカメラを探しやすくなります。更に、アイコンを選択して地図上のカメラを示すことにより、地図上のカメラの種類を特定しやすくなります。

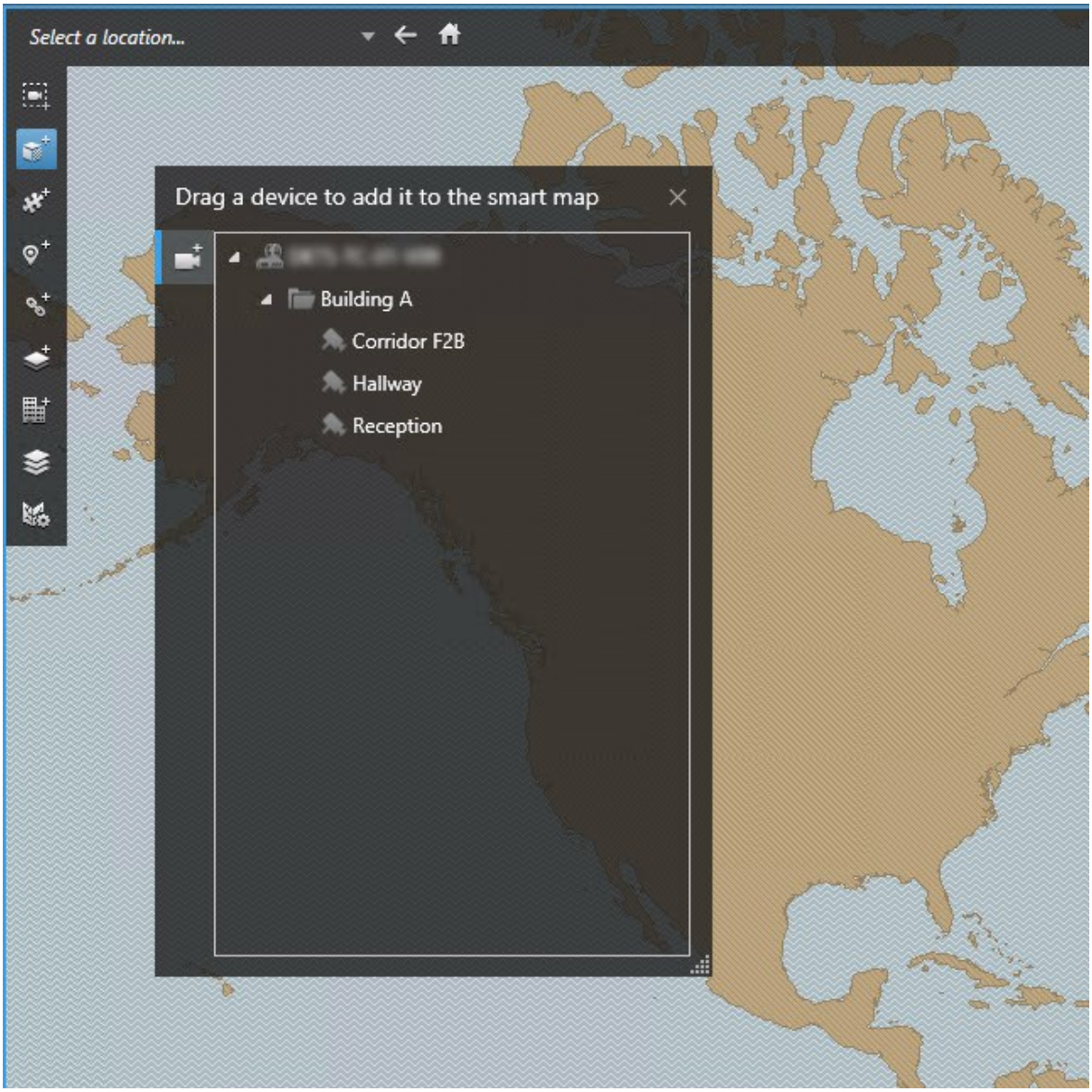
スマートマップにカメラを追加する

システム管理者がカメラの地理座標をManagement Clientで指定した場合、追加したカメラは自動的にスマートマップ上に配置されます。そうならない場合は、正確な地理的位置を自分で配置しなければなりません。

1. スマートマップを含むビューを選択し、設定をクリックします。
2. カメラまたはカメラのグループを追加するには：

> カメラを追加する前に、マップ上の場所にズームインすることをお勧めします。ズームインすることで、より簡単にカメラを正確に配置できます。

- システムの概要ウィンドウを大きくしてカメラまたはカメラ群を探し、スマートマップ上の表示させたい点までドラッグします。後からカメラをドラッグして位置を変更することができます。
- スマートマップのツールバーで デバイスの追加> カメラの追加の順に選択し、続いてカメラを選択します。カメラをスマートマップにドラッグする



3. 変更を保存するには、設定をクリックして設定モードを解除します。

カメラの視野および方向を変更する

カメラがスマートマップに追加されると、カメラアイコンを調節することで視野および方向を変更できます。

> マップでズームアウトする場合視界が表示されるまでズームインしなければならない場合があります。

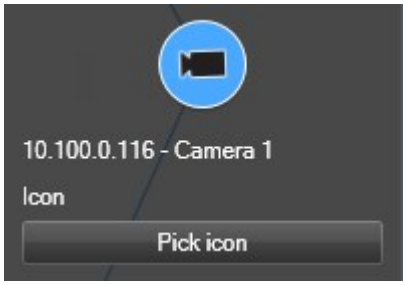
1. 操作するスマートマップを含むビューを選択します。
2. カメラアイコンを編集するには、設定をクリックします。
3. カメラアイコンをクリックします。

4. 回転ハンドルを使って、カメラを正しい方向に向けます。
5. 視界の幅、長さ、角度を調整する場合、視界の先端にあるハンドルをクリック& ドラッグします。
6. 変更を保存するには、設定をクリックして設定モードを解除します。

カメラ用アイコンの選択または変更

使用しているカメラの種類に一致するカメラアイコンを選択できます。

1. 操作するスマートマップを含むビューを選択します。
2. 設定をクリックし、地図上のカメラアイコンをダブルクリックします。



3. アイコンを選ぶをクリックし、カメラ用のアイコンを選択します。
4. 設定を再度クリックして変更を保存します。

カメラに関する情報を表示または非表示にする

スマートマップ上のカメラに関する情報を表示または非表示にすることができます。これは、例えば地図上のコンテンツを増やしたり減らしたりしたいときなどに便利です。

1. 操作するスマートマップを含むビューを選択します。
2. レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にするをクリックします。
3. 情報を表示または非表示するには、チェックボックスを選択または選択解除します。

カメラをスマートマップから削除する

不要となったカメラ(物理的に除去されたカメラや誤って配置したカメラなど)は削除できます。カメラを削除すると、そのカメラの位置情報(地理座標など)はVMSシステムから完全に削除されます。

要件

以下のユーザー権限はXProtect Management Clientで有効にする必要があります。

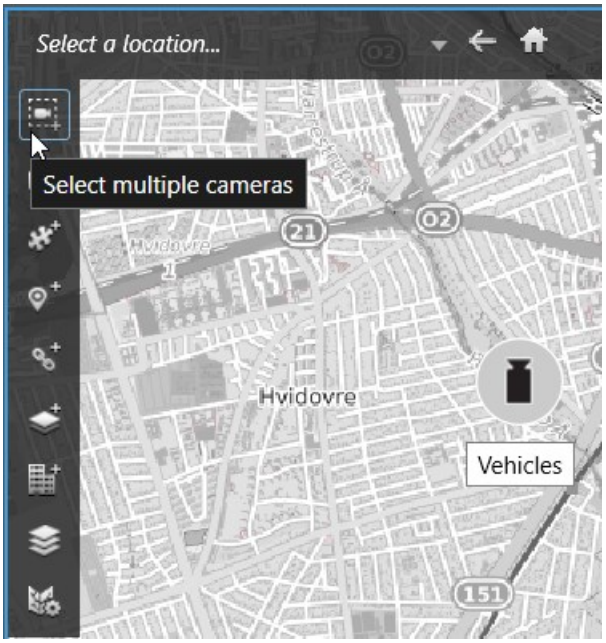
- スマートマップの編集
- カメラの編集

手順:

1. スマートマップに移動します。
2. 削除したいカメラまで移動します。
3. 適切なズームレベルにするには、マウスのホイールを使用してカメラにズームインします。
4. 設定をクリックして設定モードに移ります。
5. 単一のカメラを削除するには対象を右クリックし、カメラの削除を選択します。

6. 複数のカメラを削除するには：

   1. スマートマップのツールバーで、複数のカメラを選択をクリックします。



   2. クリック& ドラッグ操作で複数のカメラを選択するか、**CTRL**キーを押しながらカメラを1台ずつクリックします。
   3. いずれかの選択済みのカメラを右クリックし、カメラの削除を選択します。

7. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

> カメラを選択し、**DELETE**キーを押してカメラを削除することも可能です。

スマートマップ上のリンクの追加、削除および編集

スマートマップ上のリンク(説明付き)

スマートマップ上の場所に移動したり、XProtect Smart Clientのマップに移動するリンクを追加したりできます。これにより、迅速に場所にアクセスしたり、別のビューに変更することなくマップの別のタイプを表示したりすることができます。他のスマートマップへはリンクできません。詳細については、ページ271のスマートマップを参照してください。

リンクでは次のように場所とマップが表示されます。

- 場所へのリンクでは、現在のビュー内の場所が表示されます。以前表示した場所に戻るには、スマートマップのツールバーにある 戻るをクリックします。
- マップへのリンクでは、フローティングウィンドウにマップが表示されます。これは、両方のタイプのマップに同時にアクセスすることができます。フローティングウィンドウでは、マップを表示して操作できますが、カメラの追加などの変更を行うことはできません。

> リンクを色分けしたり、マップ上でより見やすくする必要がある場合は、リンクの色を指定できます。デフォルトでは、スマートマップの場所へのリンクは青で、従来のマップへのリンクは赤になっています。他の色を使用する場合は、リンクのタイプごとに同色を使用することをお勧めします。同色を使用することで、レイヤーを使用してマップ上のアイテムをフィルターするなどの場合にリンクの区別がより簡単になります。

スマートマップの場所またはマップへリンクを追加する

これにより、すばやく場所にアクセスしたり、別のビューに変更することなく別の種類のマップを表示することができます。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、設定をクリックします。
2. リンクを追加するマップ上のポイントに移動します。
3. マップツールバーで、 リンクの追加をクリックして、リンクさせたいマップ上のポイントをクリックします。
4. スマートマップの場所またはマップにリンクするかどうかを指定し、追加をクリックします。
5. リンクの名前を入力します。

   > 表示スタイルとしてアイコンとテキストを選択した場合は、スマートマップ上のリンクのタイトルを表示できます。通常、名前によりリンク先が示されます。

6. 宛先フィールドでリンク先のマップまたは場所を選択します。
7. 表示スタイルフィールドでは、名前とリンクアイコンを表示するか、マップ上のリンクアイコンのみを表示するかを指定します。
8. オプション：リンクの色を指定するには、カラーをクリックします。

スマートマップのリンクを編集または削除する

スマートマップにリンクが追加されると、編集や削除することができます。

手順：

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。
2. リンクを編集するには、リンクを右クリックして、リンクの編集を選択します。
3. リンクを削除するには、以下のいずれか1つを実行します。
   - リンクを右クリックしてリンクの削除を選択します。
   - リンクを選択してDELETEを押します

スマートマップ上の場所の追加、削除および編集

スマートマップ上の場所(説明付き)

興味のあるスマートマップ上の点に場所を作成することができます。例えば、個人事務所やサテライトオフィスのロケーションを作成することができます。場所は環境の全体像を示すだけでなく、スマートマップのナビゲーションにも役立ちます。

> 設定によってはカスタムオーバーレイを追加する場合、XProtect Smart Clientがオーバーレイと同じ名前の場所を追加することがあります。このことにより、例えば、ズームアウト時に、スマートマップ上のオーバーレイにいきやすくなります。ただし、オーバーレイとロケーションは、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケーションの名前を変更したり削除したりすることができ、またその逆もできます。詳細については、ページ94のカスタムオーバーレイの追加、削除および編集を参照してください。

スマートマップのホームの場所(説明付き)

ホームの場所はそれを設定したビューアイテムに対して特有のものです。異なるビューアイテムでは、異なるホームの場所を設定できます。ホームの場所がビューアイテムに指定されていない場合、ビューアイテムは、使用している背景の種類に関わらず、全世界を表示します。これは、ホームの場所を削除した場合も同様です。

スマートマップで作業している間は、ホームをクリックするとホームの場所に戻ります。これは、ビューでスマートマップのリセットするのと同様です。表示項目のデフォルト設定に戻ると、システムにより、閲覧したロケーションの履歴は削除されます。

> 新しいホームロケーションを選択した場合、表示項目を使用する全員が影響を受けます。誰かが別のロケーションをホームとして設定していた場合、その人の設定を変更することになります。

スマートマップに場所を追加する

興味のあった場所の履歴を残すために、スマートマップ上ですばやく検索できる場所を追加することができます。

手順:

1. スマートマップを含むビューを選択し、設定をクリックします。
2. 必要な場合は、スマートマップ上の場所を追加したい地点を、パンまたはズームインします。
3. ツールバーで、 場所を追加をクリックし、スマートマップ上のポイントをクリックします。
4. そのロケーションに名前を付けて、必要に応じて以下の詳細を追加します：
   - 誰かがスマートマップ上で該当場所に行った際に適用されるズームレベルを指定する
   - ロケーションアイコン用の色を選択します。ロケーションの色分けは、例えば、ロケーションの種類を見分ける際に便利です。これは、ロケーションの機能や種類、または優先度を示す基準となります。
   - オプション：その場所をホームの場所にします。スマートマップはこの場所が中心となり、 ホームをクリックすると、デフォルトのズームレベル設定が適用されます

スマートマップ上の場所を追加、編集または削除する

スマートマップに場所が追加されていれば、例えば、ホームの場所の削除のような、場所の削除や設定の編集ができます。

手順：

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。
2. 場所の編集には、その場所を右クリックして場所の編集を選択します。
3. 場所を削除するには、以下のいずれか1つを実行します。
   - その場所を右クリックして、場所の削除を選択します。
   - その場所を選択して、削除を押します。

場所同士の間のリンク(説明付き)

例えば、異なるロケーション同士を結ぶリンクを作ることにより、巡回経路を作成することができます。ロケーションAからロケーションBへのリンクを作り、ロケーションBからロケーションCへのリンクを作る、といった具合にリンクを作成します。詳細については、ページ103のスマートマップ上のリンクの追加、削除および編集を参照してください。

スマートマップ上の建物の追加、削除および編集

スマートマップ上の建物(説明付き)

スマートマップ上の建物は4つの端のあるポリゴンとして描写されます。一度追加されると、建物の実際の形状とポジショニングに合わせて、面積、アングル、そしてサイズを調整することができます。

もし建物が複数階層の場合、まずレベルを追加し、そしてそれぞれのレベルに対してカメラを追加します。これにより、各レベルごとにカメラをナビゲートできます。

建物の内観の解説をしやすくするために、各レベルにフロアプランをカスタムオーバーレイとして追加することが可能です。詳細については、ページ111のフロアプランをレベルに追加(スマートマップ)を参照してください。

建物は、**Building 4**といったように自動的に名称が振り分けられます。Milestoneは名前を変更することを推奨します。これにより、他の建物と区別しやすくなります。

スマートマップに建物を追加する

建物の内観を解説する目的でイメージやシェイプファイルを使用する代わりに、建物のアウトラインを追加することができます。後から、建物の実際の形状とポジショニングに合わせて、面積、アングル、そしてサイズを調整することができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのManagement ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効にされました。

手順：

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。
2. スマートマップ上で建物を設置させたい場所に位置させるために、ナビゲートします。
3. をクリックし、スマートマップ上で関連する位置にカーソルを合わせます。
4. もう一度クリックします。スマートマップに長方形が追加されます。ズームアウトすると、ズームレベルが自動的に引き上げられます。
5. 必要な場合は、コーナーハンドルを用い、実際の建物の形状とポジションを調整してください。
6. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

スマートマップ上での建物の編集

一度建物がスマートマップ上に追加されると、建物の名前を変更、位置、サイズ、面積、そしてアングルの調整が可能になります。さらに、レベルの追加、削除、再オーダーが可能になります。

要件

スマートマップの編集は、お使いのManagement ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効にされました。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 設定をクリックして設定モードに移ります。
3. 建物内の任意の場所をクリックします。青色の枠線は建物を編集できることを示します。

4. 建物の名前を変えるには、右側のペインの一番上で をクリックします。名前を変えて、 をクリックします。キャンセルするにはEscを押します。
5. コーナーの調整には、新しいポジションまでクリック・アンド・ドラッグします。
6. レベルを追加または削除するには、ページ109の建物にレベルを追加、あるいは削除する(スマートマップ) を参照してください。
7. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

スマートマップ上の建物を消去します。

建物が不要になった場合は、消去が可能です。次回何らかのXProtect Smart Clientにログインまたは、リロードがあった際には、建物は消滅します。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効にされました。

手順：

1. スマートマップをオープンする。
2. 設定をクリックして設定モードに移ります。
3. 以下のいずれか1つを実行します。
   - 建物を右クリックし、削除を選択します
   - 建物を選択し、キーボードのDELETEキーを押します

建物を削除する別の方法：デフォルト設定の管理で建物セクションが現れるまで下にスクロールし、建物の上にカーソルを置いた状態で削除をクリックしてから保存をクリックします。

建物のレベルとカメラの管理(スマートマップ)

建物のカメラとレベル(説明付き)

建物にカメラを追加すると、誰かが特定していない限りは、デフォルトで、カメラはデフォルトレベルに関連付けられます。さもなくば、カメラはファーストレベルに関連付けられます。しかし、この関連付けを変更し、カメラをその他のレベル、あるいは一度に複数のレベルと関連付けることも可能です。

より詳しく:

- どのレベルも選択されなければ、カメラはすべてのレベルにおいて見ることができます。
- もし、すでに位置付けられているカメラの上に建物を追加した場合、デフォルトで、カメラはすべてのレベルと関連付けられます。
- もしすでに設置されているカメラを包括できるよう建物の境界線を拡大した場合、カメラは選択されているレベルにのみ関連付けられます。

もし、カメラを包括しないように、建物の境界線をさらに調整した場合、カメラは建物と関連付られなくなります。

フロアプランおよび建物内のカメラ(説明付き)

建物のすべてのレベルにおけるインテリアの描写をしやすくするために、各レベルにフロアプランをカスタムオーバーレイとして追加することが可能です。フロアプランがあれば、カメラを正確な位置にポジショニングすることが容易です。詳細は、ページ111のフロアプランをレベルに追加(スマートマップ)を参照してください。

ポジショニングしたカメラが関連付けられるのはレベルであり、カスタムオーバーレイではありません。もし建物内のカメラとカスタムオーバーレイを持つレベルを削除した場合、カメラは地理的位置にはとどまりますが、レベルとの関連付けはなくなります。しかしながら、カスタムオーバーレイはレベルと一緒に削除されます。

もしレベルを記録した場合、カメラとカスタムオーバーレイの両方とも、レベルと共にとどまります。カメラはそれぞれの地理的位置を維持します。

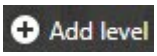
建物にレベルを追加、あるいは削除する(スマートマップ)

スマートマップに建物を追加したあと、レベルの数を追加することが可能です。一番はじめのレベルはナンバー1として関連付けれれ、次は2、その後も順に続きます。最終的には、個々のレベルの名前を付けなおし、順序を変えることが可能です。

要件

スマートマップの編集は、お使いのManagement ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効にされました。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右手サイドにペインが現れます。
3. 設定ボタンをクリックして設定モードに移ります。
4. レベルを追加 

をクリックします。
5. レベルの名前を編集するには：
    1. ドット

をクリックし、名称の変更を選択します。
    2. 新しい名前を入力：
6. レベルを削除するには、ドット

をクリックし、削除を選択します。このレベルにおけるカメラは、個々の地理的ポジションに留まり、レベルと関連付けられることはありません。
7. 設定をクリックし、設定モードを解除します。

建物内のレベルの変更順序(スマートマップ)

要件

スマートマップの編集は、お使いのManagement ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効にされました。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右手サイドにペインが現れ、建物のレベルを表示します。
3. 設定をクリックして設定モードに移ります。
4. ドットで囲まれたエリア

を正しい位置にクリック・アンド・ドラッグします。カスタムオーバーレイと関連付けられたすべてのカメラがそのレベルととどまります。
5. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

建物のためのデフォルトレベルを設定する(スマートマップ)

もし、例えばグラウンドフロアなど、建物内の特定のレベルが他のレベルより関連性が強い場合、そのレベルをデフォルトのレベルとして設定することが可能です。スマートマップを開き、建物に行くと、自動的にデフォルトレベルが選択されます。

もし建物からカーソルを離してまた戻った場合、XProtect Smart Clientは、離れたレベルにまで戻します。

要件

スマートマップの編集は、お使いのManagement ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効にされました。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右手サイドにペインが現れ、建物のレベルを表示します。デフォルトのレベルはハイライトで表示されます。
3. 設定をクリックして設定モードに移ります。アスタリスク

に留意してください。それは、どこが現在のデフォルトレベルかを示すものです。
4. デフォルトレベルとして設定したいレベルでは、ドット

をクリックします。
5. デフォルトとして設定を選択します。
6. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

フロアプランをレベルに追加(スマートマップ)

カスタムオーバーレイの追加が可能です。例えば、フロアプランイメージを建物のレベルに追加することで、建物内のレベルのインテリアを解説するのを助けます。レベルをナビゲートするにおいて、関連付けられたフロアプランが自動的に表示されます。

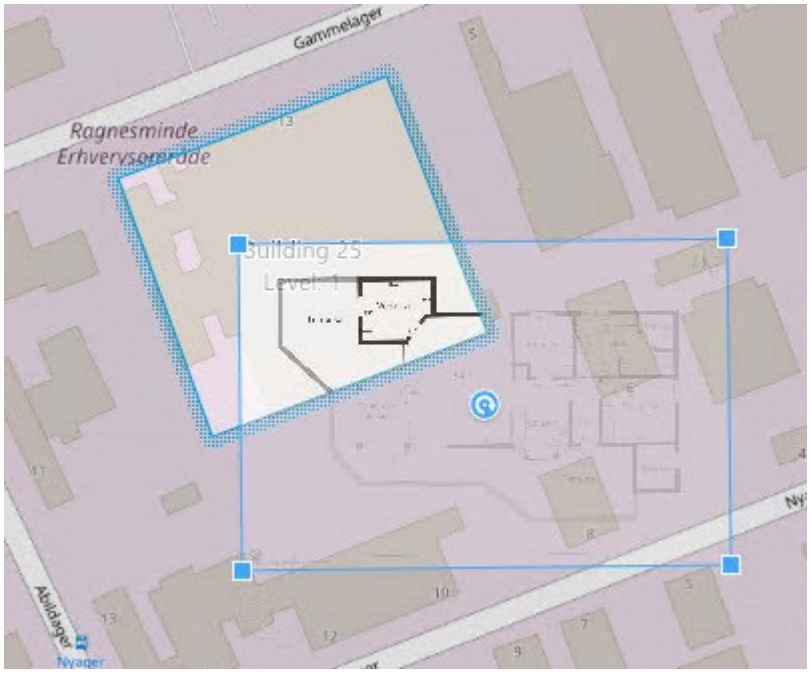
要件

スマートマップの編集は、お使いのManagement ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効にされました。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右手サイドにペインが現れ、建物のレベルを表示します。
3. 設定をクリックして設定モードに移ります。
4. カスタムオーバーレイを追加したいレベルを選択します。
5. 左上隅で、カスタムオーバーレイを追加をクリックし、その後、建物のアウトラインの内部をクリックします。ウィンドウが表示されます。
6. カスタムオーバーレイのタイプを選択します。詳細については、ページ94のカスタムオーバーレイ(説明付き)を参照してください。

7. お使いのコンピュータ上でファイルが保管されている場所を選択し、続行をクリックします。カスタムオーバーレイは青色のアウトラインで表示されます。



8. それを建物のアウトラインまでドラッグし、ピボットポイントとコーナーハンドルを用いてカスタムオーバーレイを回転、および再ポジションさせます。
9. 最上部のバーで、保存をクリックします
10. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

フロアプランの削除(スマートマップ)

建物内のレベル上の間取り図が変更された場合、その間取り図を解説するためにカスタムオーバーレイを置き換えなければならない場合があります。Milestoneでは、新しい間取り図を追加する前に以前の間取り図を削除することをおすすめします。

要件

スマートマップの編集は、お使いのManagement ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効にされました。

手順:

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右手サイドにペインが現れ、建物のレベルを表示します。
3. 設定をクリックして設定モードに移ります。

4. カスタムオーバーレイがあるレベルを選択します。
5. カスタムオーバーレイ上のどこかを右クリックし、カスタムオーバーレイの削除を選択します。
6. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

> フロアプランのポジションやサイズを変更するには、カスタムオーバーレイを右クリックし、ポジションを編集するを選択します。これで、カスタムオーバーレイの移動、回転、そしてサイズの変更が可能になりました。

建物にカメラを追加する(スマートマップ)

建物を作成し、レベルを追加した後は、カメラを追加することが可能です。デフォルトレベルが特定されている場合、カメラはそれに関連付けられます。そうでない場合は、カメラは第一レベルと関連付けられます。この関連付けは変更が可能で、建物内のいかなるレベルとカメラを関連付けることが可能です。

要件

スマートマップの編集は、お使いのManagement ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効にされました。

手順:

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 設定をクリックして設定モードに移ります。
3. カメラを追加 をクリックします。
4. カメラをポジショニングさせたいロケーションの上で再度クリックします。ダイアログボックスが表示されます。
5. 必要なカメラを選択して、**OK**をクリックします。追加したい各カメラに対して、ステップ3～5を繰り返します。
6. カメラを一つの、あるいは複数のレベルと関連付けるには、カメラを右クリックし、必要なレベルを選択します。
7. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

> もし選択されたレベルが無い場合、カメラはすべてのレベルにおいて確認することができます。

マップ(設定)

マップをビューに追加

既存のマップをビューに追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。
2. [システム概要]ペインで、マップアイテムをビュー内の特定の位置にドラッグします。ウィンドウが表示されます。
3. [新しいマップを作成]または[既存のマップを使用]のいずれかを選択します。三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。
4. 名前フィールドにマップの名前を入力します。名前はその位置のタイトルバーに表示されます。

> [名前]フィールドを空欄にし、[参照...]をクリックすると、[名前]フィールドに選択した画像ファイルの名前が表示されます。

5. [参照]をクリックして、マップとして使用したい画像ファイルを参照します。
6. 開くをクリックして、画像ファイルを選択します。
7. OK をクリックします。
8. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。

マップ設定

設定モードで、プロパティペインを使用して、各マップに対するさまざまな設定を調整できます。

名前	説明
ホームマップ	特定のマップビューの基本を構成するマップを表示します。このフィールドは読み取り専用ですが、選択ボタン...をクリックすると、マップ設定ウィンドウが開いて、マップを変更できます。
バックグラウンドの変更	マップを変更しますが、マップ上のエレメントの位置の互いの相対関係を保持します。
マップの名前の変更	マップ名を編集します。
アイコンサイ	アイコンサイズドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、極小から特大まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。

名前	説明
ズ	
名前を表示	名前チェックボックスでは、新しいエレメントを追加するときに、エレメントの名前を表示するかどうかを有効化または無効化できます。 マップにエレメントを追加しているがエレメント名が表示されない場合は、必要なエレメントを右クリックし、名前を選択します。エレメント名を表示しない場合は、名前を右クリックし、テキストの削除を選択します。アイコンサイズドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、極小から特大まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。
パンとズームを許可	選択すると、ライブモードでマップのパンとズームが可能になります。
マップを自動最大化	選択すると、XProtect Smart Clientタイムアウトに定義されている秒数の間、が使用されないと、ライブモードでマップが自動的に画面全体に最大化されます。タイムアウトの最長秒数は99,999秒です。
マウスオーバー時	選択すると、マウスをカメラの上へ移動させたときに、ライブビデオのプレビューを表示します。
デフォルトの表示設定を使用する	選択すると、プレビューウィンドウが他のビューと同じように表示されるように定義します。このチェックボックスをオフにすると、プレビューのタイトルバーおよびビデオインジケータの設定ができます。 タイトルバー: 選択すると、カメラの名前がタイトルバーに表示されます。 ビデオインジケータ: 選択すると、ビデオインジケータが表示され(ページ181のカメラインジケータ(説明付き)を参照)、画像が更新されるたびに緑色に点滅します。ビデオインジケータを選択できるのは、タイトルバーも選択した場合のみです。
ステータス可視化	選択すると、マップに追加されたエレメントのステータスが図表示されます(ページ278のマップ(説明付き)を参照)。

名前	説明
詳細ステータスサポートを有効化	オンになっている場合、ライブモードおよび再生モードでカメラとサーバーの詳細ステータスを表示できます。
アラームのマップの自動変更	選択すると、アラームが関連しているカメラのマップを表示するためにアラームを選択するときに、プレビューのマップを自動的に変更できます。
上に重ねた場合にのみ表示	カメラ、ビューゾーン、またはプリセット上にマウスを動かしたときにのみ、カメラビューゾーンとPTZプリセットを表示するように選択します。この設定は、ビューゾーンが重複していたり、複数のプリセットがあるマップ上に複数のカメラがある場合に便利です。デフォルトでは、ビューゾーンとプリセットを表示します。

マップツールボックス(説明付き)

マップのツールボックスは、マップを設定するための複数のツールで構成されています。カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、または出力のいずれかを選択すると、カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、出力をそれぞれ一覧表示したエレメントの選択が表示され、エレメントをマップに配置できます。
ツールボックスのアイコン

マップ-右クリックメニュー(説明付き)

設定タブでマップまたはマップのエレメントを右クリックして、ショートカットメニューにアクセスできます。
右クリックコマンド

マップの背景を変更する

マップは更新するが、その中のすべての情報をそのまま保持する場合、マップの背景だけを交換できます(マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、プロパティペインで、マップの背景を変更するを選択します。

マップの削除

ビューのマップを右クリックして、マップの削除を選択します。これにより、カメラ、マイク、スピーカーなどの追加されたエレメントを含むマップ全体が削除されます。マップはビューからのみ削除されます。画像ファイルは監視システムにまだ存在しており、新しいマップを作成するために使用できます。

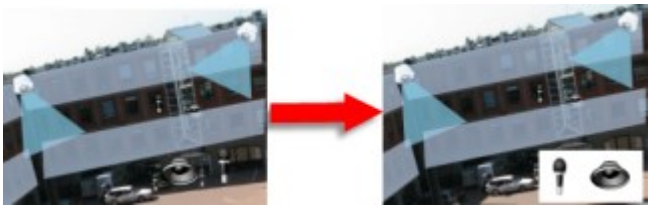
マップはマップ概要からも削除できます。

マップのエレメントの追加と削除

1. 設定モードで、マップを右クリックして、ツールボックスを選択します。
2. ツールボックスで、必要なエレメントアイコンをクリックすると、エレメントの選択ウィンドウが開きます。
3. 必要要素を素早く見つけるために、フィルターを使用します。検索条件を入力すると、検索条件に合わせて、表示されるエレメントの一覧が絞られます。
4. エレメントを選択し、マップにドラッグします。
5. エレメントを削除するには、必要のないエレメント(カメラ、ホットゾーン、サーバー、イベント、出力、マイク、またはスピーカー)を右クリックして、削除[エレメント]を選択します。
6. エレメントを移動させるには、エレメントをクリックして、マップ上の新しい位置にドラッグします。
7. エレメントの方向を変えるには、エレメントを選択し、エレメントのサイズ変更ハンドルの1つの上へマウスを移動させます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、エレメントをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます。

ツールボックスの選択ツールを使用して、エレメントを選択し、マップで移動させるか、マップをパンします。

マップが、マップ上のエレメントが見えにくい色になっている場合は、テキストボックスを作成して、マップに対比して見やすい色で塗りつぶします。マップに必要なエレメントを追加し、それをテキストボックスにドラッグします。



ホットゾーンをマップに追加

1. セットアップモードでマップを右クリックしてツールボックスを選択 (ページ116のマップツールボックス(説明付き) を参照)。
2. ツールボックスで、ホットゾーンツールを選択します。

3. マウスポインタをマップに移動します。マウスポインタがホットゾーンアイコンとして表示され、ホットゾーンの描画ができることを示す小さな白い十字が表示されます。

   ホットゾーンを描画するには、ホットゾーンの描画を開始するマップをクリックします。アンカーと呼ばれる大きな青い点によって、開始点がマップに表示されます:

   ホットゾーンの描画ツールで作成できるのは、直線のみです。ホットゾーンの境界線を曲線にする場合は、短い直線を多数使用します。

4. ホットゾーンの開始点をクリックして、ホットゾーンの描画を完了します。これでホットゾーンの外形が点線で描かれて、サブマップがホットゾーンに添付されていないことを示します。

   > ホットゾーンの輪郭は、ホットゾーンアンカーを引っぱることで変更できます。

5. サブマップをホットソーゾンに追加するには、点線で描かれたホットソーゾンをダブルクリックして、マップ設定ウィンドウに追加します。

カラーツールを使用してホットゾーンの色を変更できます。異なる色をホットゾーンに使用することで、隣接するホットゾーンを区別できます。

Milestone Federated Architectureをサポートする監視システムに接続しているとき(ページ36の監視システムの別の特徴を参照)、シングルマップ上の最大20のホットゾーンは他の監視システムサーバーからのマップもポイントすることができます。ログインしているサーバーに属するマップに対するホットゾーンには、このような制限はありません。

マップのエレメントの外観の変更

1. マップ上のテキスト、背景、ホットゾーンなどの色を変えて、マップエレメントを互いに区別することができます。[設定]モードで、マップを右クリックして、[ツールボックス]を選択します。
2. 変更するエレメントを選択します。
3. ツールボックスで、色塗りつぶしツールを選択します。これにより、色の選択ウィンドウが開きます。

   カラーピッカーツールを使用してマップから既存の色を使用します。

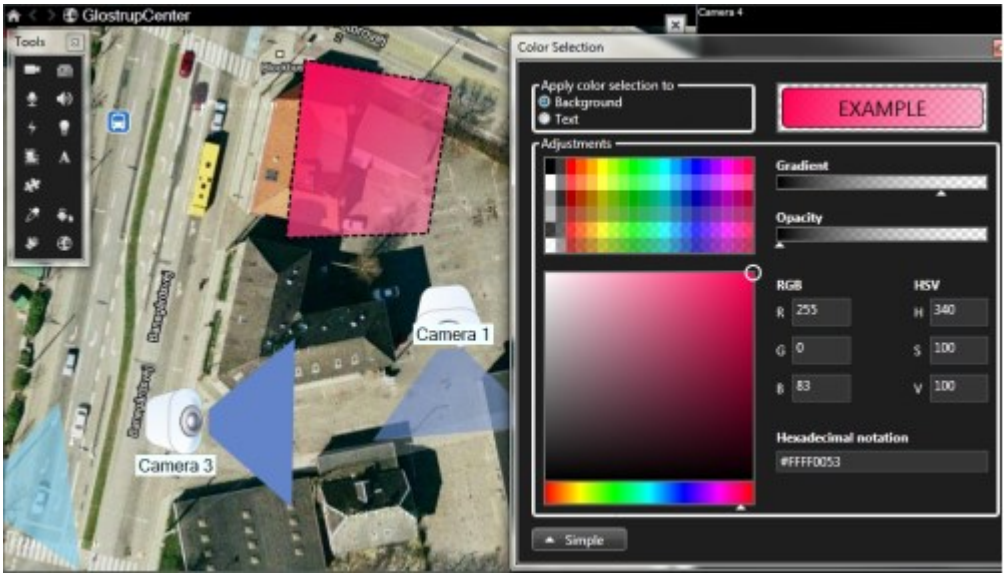
4. テキストエレメントにのみ適用されます。色の変更をテキストまたは背景に適用するかを選択します。
5. カラーパレットから色を選択します。選択した色のプレビューが[EXAMPLE]ボックスに表示されます。
6. マップエレメントをクリックし、新しい色で塗りつぶします。

階調の調整

階調スライダーを使用して、エレメントの色を左から右にどのように薄めるかを調整します。

右端にスライダーをドラッグすると、エレメントの色が即座に薄まります。左端にスライダーをドラッグすると、エレメントの色はほとんど薄まりません。

階調スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と階調を適用します。

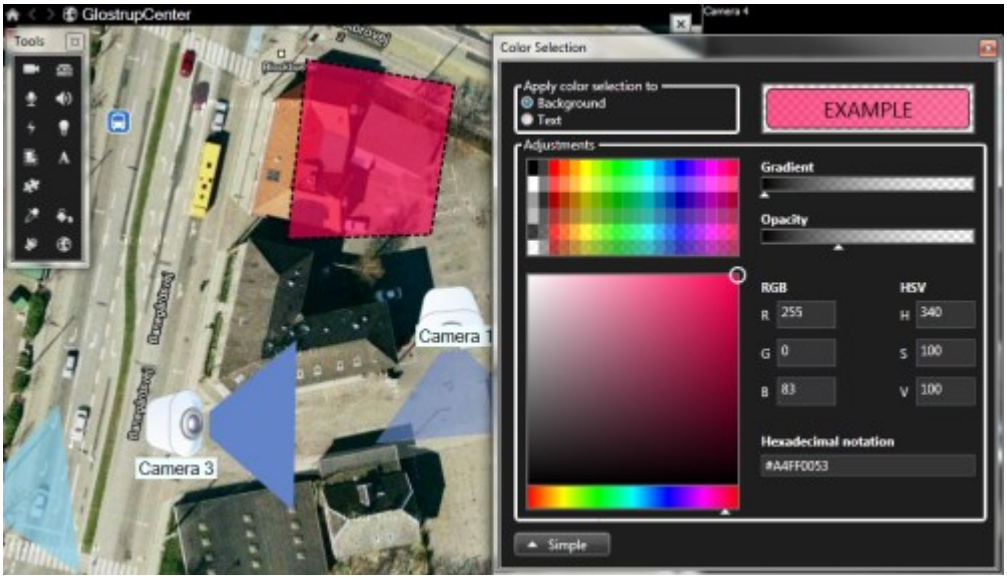


不透明度の調整

不透明度スライダーを使用して、塗りつぶし色の透明度を調整します。

不透明度スライダーを右端にドラッグすると、色が完全に透明になり、不透明度スライダーを左端にドラッグすると色が完全に不透明になります。

不透明度スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と不透明度を適用します。



詳細な色変更

マップエレメントは、任意の色で塗りつぶすことができます。色の選択ウィンドウの詳細ボタンをクリックして、色の詳細選択オプションにアクセスします。以下のいずれか1つを実行します。

- 色スライドを使用して、主な色合いを選択し、色彩円をドラッグして必要な色調を選択します。
- 16進表記フィールドに16進数の色コードを入力します。

マップ上でのラベルの編集と回転

マップのすべてのエレメントには、識別用のラベルが付けられています。

マップ上に多数のエレメントがある場合、すべてのラベルに十分な場所を確保することが難しい場合があります。デバイス名を編集するには、ラベルを選択し、デバイスの新しい(短い)名前を入力します。

> ラベルの名前を変更すると、マップ上のラベルのみが変更され、システムのカメラまたはエレメントの名前は変わりません。

また、ラベルを回転して、ラベルが重複しないようにすることもできます。マップのラベルを回転するには、以下の操作を実行します。

- ラベルを選択し、サイズ変更ハンドルのいずれかの上にマウスを置きます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、ラベルをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます

> マップのスペースを無駄にしないもう1つの方法として、ビューゾーンとPTZプリセットを重ねた場合にのみ表示を選択することができます(ページ114のマップ設定を参照) 。

マップのテキストを追加/編集

テキストはマップの任意の場所に挿入できます。たとえば、メンテナンスについてユーザーに情報を提供する場合など。

1. 設定モードで、マップを右クリックして、ツールボックスを選択します。
2. ツールボックスで、テキストツールを選択します。

3. フォントの選択ウィンドウで、テキスト設定を編集します。

> テキスト設定はいつでも編集できます。必要なテキストボックスをクリックし、ツールボックスからテキストツールを選択して、選択したテキストボックスのテキスト設定を変更します。

4. マップ上のテキストを挿入する場所をクリックします。
5. テキストを入力します。キーボードのENTERを押すと、テキストボックスが下方に拡張します

色塗りつぶしツールを使用して、テキストの色と背景を変更することができます。

テキストボックスは移動できます。選択ツールを選択し、マップにあるテキストボックスをつかみ、テキストボックスを移動します。

Matrix (設定)

Matrixをビューに追加

ライブビデオをMatrix-受信者に送信するには、最初にMatrixアイテムをビューに追加します。ビュー内からのみ、オペレータはMatrix-受領者にビデオを送信することができます。

1. 設定モードのシステム概要ペインで、Matrixのアイテムを、Matrixのコンテンツを追加するビューの位置へドラッグします。青い枠線が表示され、そのビューの位置にMatrixコンテンツがあることを示します。
2. Matrixの位置を選択すると、プロパティペインでプロパティを指定できます。

   ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、Matrixの位置(またはビュー内の他のカメラの位置)をダブルクリックして最大化することができます。最大化すると、選択している画質の設定に関係なく、Matrixの位置のカメラのビデオは、デフォルトで最高画質で表示されます。最大化した場合も選択した画質を適用する場合は、最大画面で画質を保持を選択します。

3. 追加するMatrixのそれぞれの位置に対して、繰り返します。

Matrix設定

設定モードのプロパティ(「ページ70のカメラ設定を参照)ペインで、Matrixの位置の設定を行えます。

名前	説明
Window インデッ	異なる数字を選択し、Matrix位置のランキングを変更します。ビューのMatrix位置数に対応する範囲にある番号のみを選択できます。**1**は最新のイベントのビデオが常に表示されるメイン位置です。**2**には以前に検出

名前	説明
クス	されたイベントのビデオが表示されます。3には位置2より前に検出されたイベントなどのビデオが表示されます。
接続設定...	TCPポートとパスワードを指定して、Matrixでトリガーされたビデオを XProtect VMSサーバーからXProtect Smart Clientビューに転送できます。これは、Matrix位置1が選択されている場合にのみ利用できます。他のMatrix位置は、位置1で指定された接続設定を受け継ぎます。デフォルトで、Matrixで使用されるTCPは12345です。使用するポート番号またはパスワードについてはシステム管理者にお問い合わせください。

XProtect Smart Wall(設定)

SmartWallのレイアウトと動作はシステム管理者がXProtectManagementClientで定義します。これには以下が含まれます:

- SmartWallの名前などの一般プロパティ、ステータステキスト、タイトルバー、またはライブインジケータを表示するかどうか
- Smart Wallを構成しているモニター
- モニターのレイアウトを制御しているプリセット(場合によってはモニターのビデオの表示元となっているデフォルトのカメラも対象)
- コンテンツを表示、操作、追加、再生が可能なユーザーの役割、および役割が各操作を実行できるタイミング
- ルールと組み合わせてシステムアクションをトリガーすることのできるイベント(アラームや他のコンテンツの表示など)

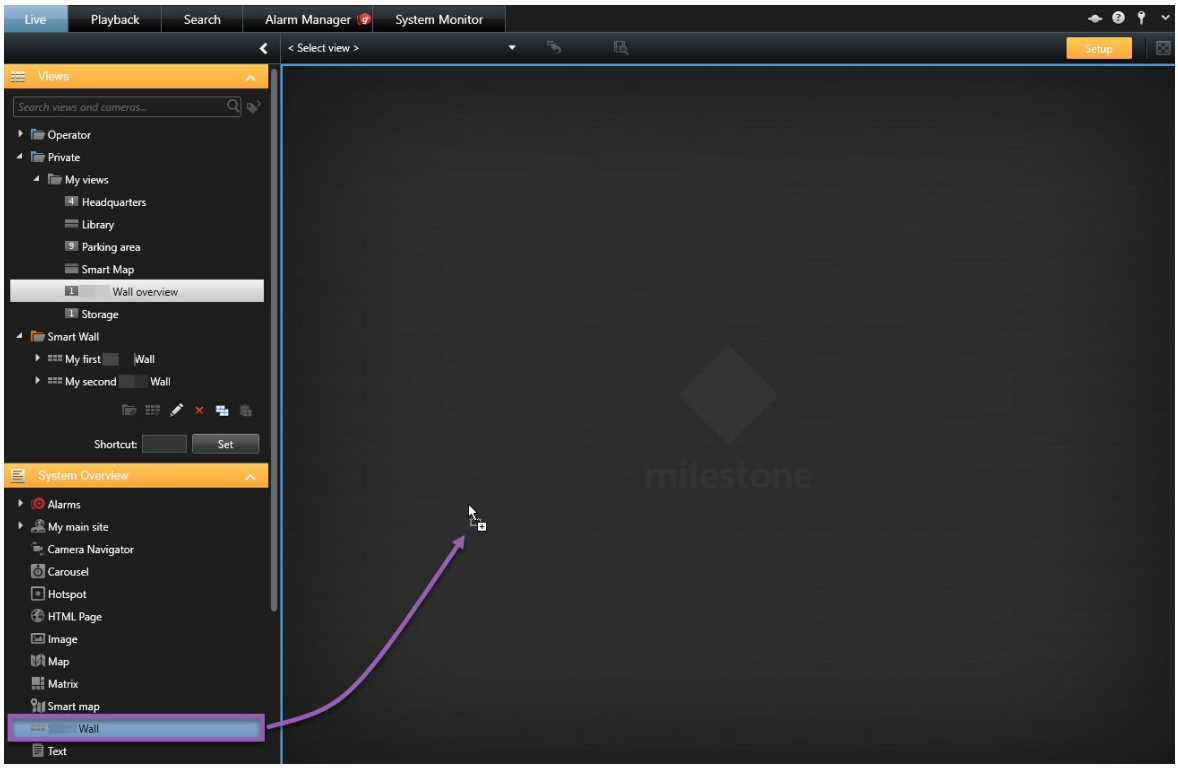
XProtect Smart Clientで構成する内容

1. ページ123のSmart Wall概要をビューに追加 - どのコンテンツがSmart Wallに表示されるのかを動的に制御するには、最初にSmart Wallの概要をビューに追加する必要があります。Smart Wall概要では、カメラおよび他のコンテンツタイプをSmart Wallモニターにドラッグ&ドロップしたり送信したりできます。
2. ページ124のSmart Wallモニターのレイアウトを変更 - ビューレイアウトを変更したり、別のプリセットをモニターに適用したりすることで、Smart Wallモニターの既定レイアウトを変更できます。

Smart Wall概要をビューに追加

どのコンテンツをSmart Wallに表示するかを定義する前に、まずはSmart Wallの概要を1つまたは複数のビューに追加する必要があります。概要は、Smart Wallを図で表したものです。

1. 設定をクリックして設定モードに移ります。
2. Smart Wall概要を追加したいビューを選択します。
3. システム概要ペインで、Smart Wall要素を該当するビューアイテムにドラッグします。



4. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。
5. これで、カメラや他のコンテンツタイプをSmart Wallに追加できるようになります。

Smart Wallモニターのレイアウトを変更

モニターのビューレイアウトは変更することができます。これは、追加のカメラや他のコンテンツタイプを表示する必要がある場合に便利です。

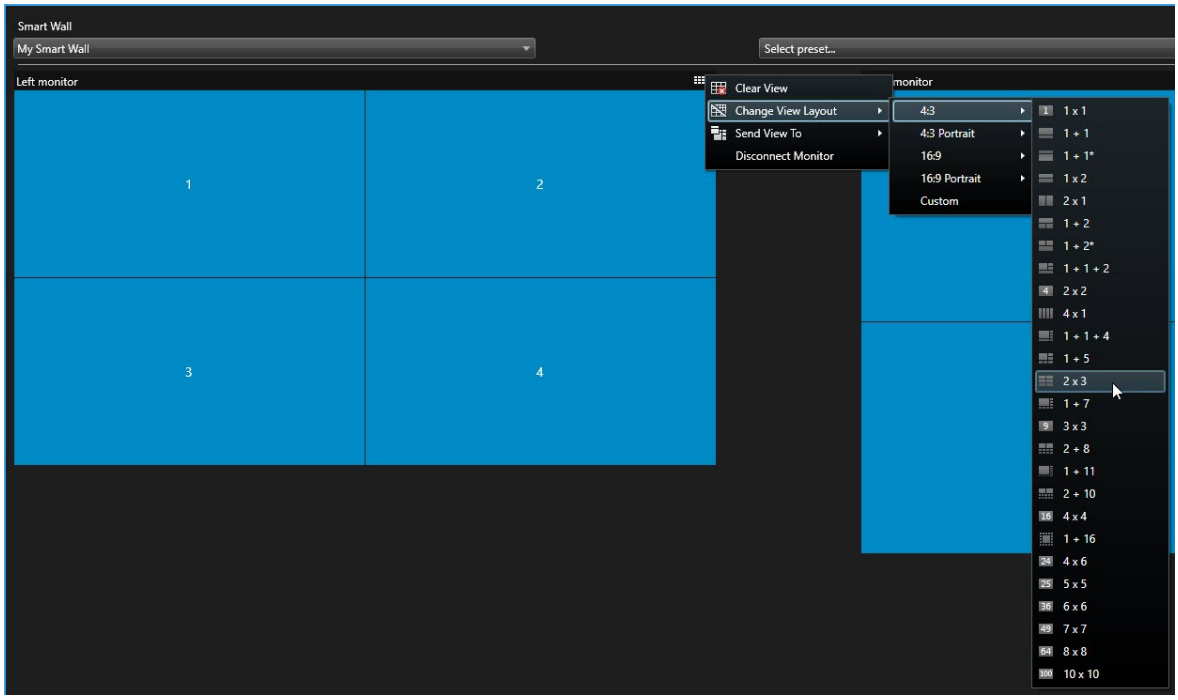
例

インデントが5台のカメラに記録され、容疑者の写真も確保しました。セキュリティスタッフがインシデントを視聴して容疑者の身柄を確保できるよう、ビデオと画像をSmartWallで表示することにします。SmartWallの現在のモニターは2x2カメラしか表示できないよう事前構成されているため、ビューレイアウトを2x3に変更することで5台目のカメラと画像を追加する必要があります。

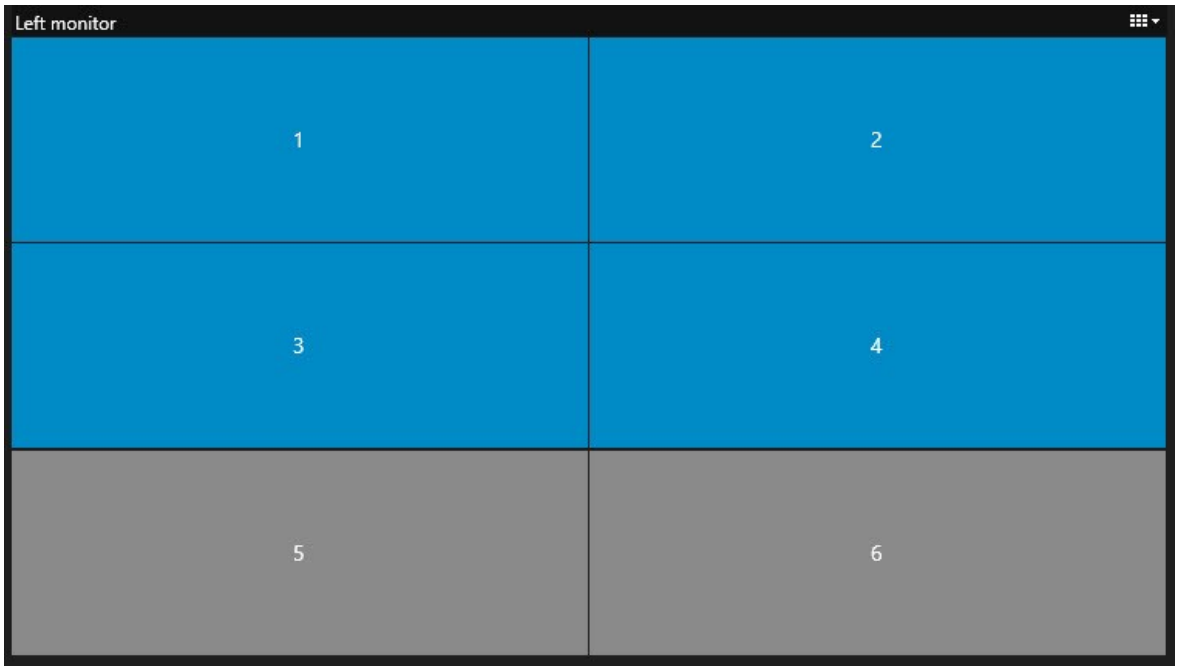
ビューレイアウトの変更

1. ライブタブまたは再生タブで、Smart Wall概要が含まれているビューを開きます。

2. モニターの アイコンをクリックし、ビューレイアウトの変更を選択した後、表示形式(**4:3**など) を選択します。



3. レイアウトを選択します。この例では**2x3**を選択します。2つのグレー表示のビューアイテムがビューレイアウトに追加されます。

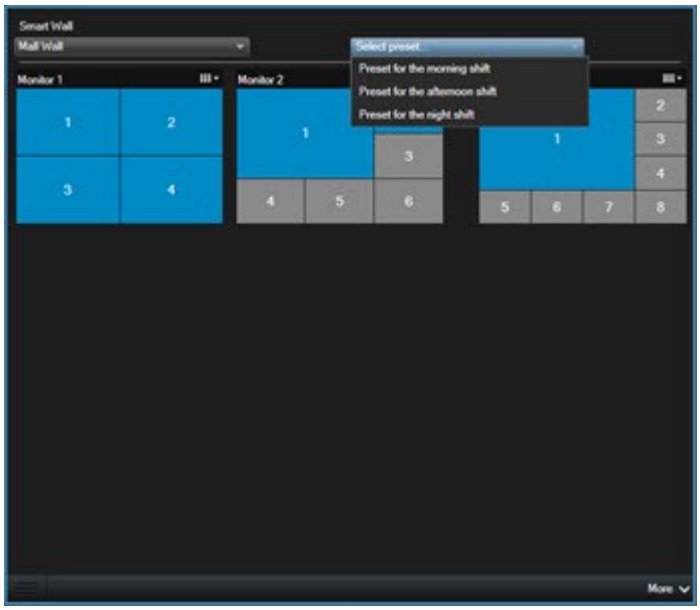


4. この段階でコンテンツを追加します。ページ288のSmart Wallでのコンテンツの表示を参照してください。

プリセットの変更

システム管理者によって定義されたプリセットは、個々のモニターに関連付けられています。プリセットを変更すると、このプリセットと関連付けられているSmart Wall内のすべてのモニターが更新されます。

1. Smart Wall概要が含まれているビューを開きます。
2. プリセットの選択リストで、表示したいプリセットを選択します。概要内の対象モニターが変化します。



3. Smart Wallのコンテンツを表示する方法については、ページ285のXProtect Smart Wallを参照してください。

他のユーザーがプリセットを手動で変更できるか、ルールが自動的にプリセットを変更できます。

XProtect Smart Client - Player (設定)

XProtect Smart Client - Playerでのビューの管理

XProtectSmartClient-Playerツールバーにある設定をクリックして、ビューを作成、管理します。左側のペインが黄色になります。

プロジェクトペイン(説明付き)

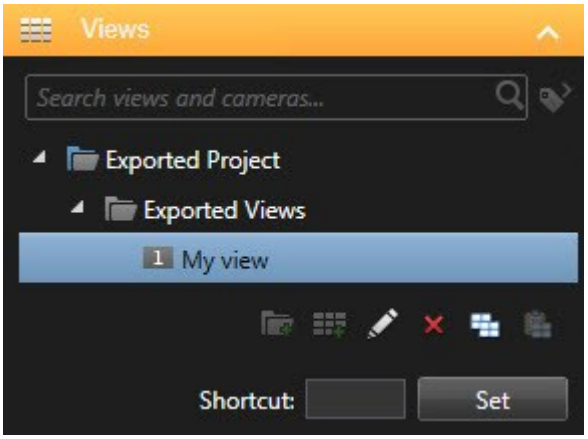
XProtect Smart Client - Playerのプロジェクトは、ビデオをXProtect Smart Clientからデータベースフォーマットでエクスポートした時に作成されたファイルの集まりです。ビューに関する情報を含むユーザー設定は、プロジェクトの一部として保存されます。

プロジェクトペインが表示されたら、設定をクリックします。設定モードでは、次のことができます。

- プロジェクト名を変更する
- プロジェクトを作成または開く
- 例えば、権限を持つユーザーしかビデオを表示できないように、プロジェクトにパスワードを割り当てることができます また、エクスポートする際に、デバイスにパスワードを割り当てることもできます。複数のデータベースのパスワード管理の手間を避けるために、プロジェクト全体に単一のパスワードを割り当てることができます。全体用パスワードを割り当てていなくて、パスワード保護されたデータベースがプロジェクトに追加されると、プロジェクトを開く際に各データベースに対するパスワードを入力するよう求められます。プロジェクトにパスワードを割り当てると、削除することはできません。ただし、プロジェクトペインでパスワードを変更したり、新しい同内容のプロジェクトを作成することができます。

ページビューの説明

XProtect Smart Client - Playerの中の ビュー パネルにおいて、ビューを追加したり、編集したり、削除したりできます。ビューとカメラを検索することもできます。



概要ペイン(説明付き)

XProtect Smart Client - Playerの[概要]ペインには、プロジェクトに割り当てられているカメラ、マイク、スピーカー、Webページ、画像、プラグインが表示されます。デバイスを選択すると、削除して名前を変更することができます。スピーカーとマイクロフォンをカメラにリンクすることができます。特定のカメラで録画したビデオを表示する時に、関連する音声を自動的に選択することができます。

アーカイブまたは以前にエクスポートされた素材からデータベースを開くには、ボタンをクリックします。データベースウィザードを開くが表示されます。

> デバイスを削除しても、デバイスに関連付けられている実際のデータベース ファイルが削除されるのではなく、プロジェクトから削除されるだけです。

デジタル署名(説明付き)

> この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

デジタル署名を使用して、録画したビデオの真偽を確認できます。この機能は、ビデオが改変されたものでないことを実証したいときに便利です。

確認は2段階で行われます。確認される内容：

- ビデオが撮影されたあと、そのビデオに変更が加えられたかどうか。録画サーバーにより録画のためのデジタル署名が作成されます。その後、Smart Client - Playerでエクスポートされたビデオを表示するとき、録画サーバーで元々作成されたデジタル署名と、記録された署名とを比較できます。
- XProtectSmartClientでエクスポートしたビデオが、エクスポート後に変更を加えられたかどうか。ビデオをエクスポートすると、XProtectSmartClientによりエクスポートファイルの署名が作成されます。その後、SmartClient-Playerでエクスポートされたエビデンスを確認するとき、エクスポート中に作成されたデジタル署名と、エクスポート署名とを比較できます。

相違点がある場合、エビデンスビデオの信頼性に問題がある可能性があります。

オリジナルのデジタル署名は、以下の場所にあるPublicKey.xmlおよびPublicKeyCertificate.xmlファイルに格納されています:

- XProtect Smart Client- <exportdestinationfold - <export destination folder>\<export name>\Client Files\Data\Mediadata\<camera name>\<camera name>\Export signatures
- Management Client - C:\Program Files\Milestone\Management Server\Tools\CertificateIssuer

エクスポートプロセスでデジタル署名が除外される、次の2つのシナリオがあります。

- プライバシーマスクのあるエリアがある場合、録画サーバのデジタル署名はエクスポートで削除されます。
- エクスポートしているデータが現在の日付および時刻と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にしか追加されません。

エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的にOKになっていることが分かります。

XProtect Access(設定)

アクセスモニターをビューに追加

まず入退室管理のビューアイテムを定義します。

1. 入退室管理モニタリングを使用したい時は、設定モードでライブタブを選択します(ページ158のライブタブ(説明付き) 参照) 。
2. システム概要ペインで、アクセスモニターをクリックし、ビューアイテムへドラッグします。
3. 表示されるアクセスモニター設定ダイアログボックスで設定を指定します(ページ129のアクセスモニター設定を参照) 。ドアを選択すると、デフォルト設定を保持するか、必要に応じて変更できます。
4. OKをクリックすると、アクセスモニターがビューに追加されます。

   イベントをトリガーする入退室管理インシデントが発生すると、ビューアイテムの右側にインシデントが表示されます。

アクセスモニター設定

アクセスモニターについて、以下の設定を指定します。

名前	説明
ドア	入退室管理イベントを表示するドアを選択します。 ドアを選択すると、ダイアログボックスの残りの設定が現在の値で表示されます。
ソース	イベントを受信する入退室管理ソースのタイプを選択します。 リストには、ドアまたはドア固有のアクセスポイントなどを含めることができます。アクセスポイントは、カードリーダー、キーパッド、センサー、ボタンなどの関連付けられた物理装置を含む入口のことです。一般的に、ドアには、ドアからの入退出をそれぞれ制御する2つのアクセスポイントがあります。 ソースのリストはシステム管理者によって設定されます。
カメラ	ドアに関連付けられたビデオを表示するカメラを選択します。デフォルトでは、システム管理者が選択したドアに関連付けたカメラが一覧表示されますが、システムの別のカメラを選択することもできます。
イベント	受信したいイベントの種類を選びます。XProtectシステム管理者が定義したイベントカテゴリ、またはアクセスコントロールシステムで定義したイベントの一覧からイベントを選択できます。
コマンド	アクセスモニターで使用できるコマンドボタンを使用します(ドアのロック、ドアのロック解除など) 。コマンドの一覧はシステム構成によって異なります。
順序	新しいイベントをイベントリストの最上位または最下位に表示するかどうかを選択します。

アクセスモニター設定の変更

ライブタブでは、アクセスモニターの設定を変更できます。

1. 設定をクリックし、変更するビューアイテムを選択します。
2. プロパティペインで、アクセスモニター設定ボタンをクリックします。
3. 表示されるアクセスモニター設定ダイアログボックスで設定を指定します(ページ129のアクセスモニター設定を参照) 。
4. OKをクリックしてダイアログを閉じ、設定をクリックしてライブ表示に戻ります。

ビューのカスタマイズ

オーバーレイボタンを使用すると、インターフェイスをカスタマイズできます。ドアやアクセスポイント用に設定したコマンドのリストから、入退室管理用のオーバーレイコマンドボタンをビューアイテムに追加できます。

使用例：

- アクセスモニター以外のビューアイテムでコマンドボタンに直接アクセスできます。
- ビューアイテムのドアのそばに直接コマンドボタンを配置します。
- ページ129のアクセスモニター設定で指定した以外のコマンドボタンを追加します。

手順：

1. ライブタブで、設定をクリックし、変更するビューアイテムを選択します。
2. オーバーレイボタンペインで、入退室管理をクリックします。
3. 追加するコマンドを見つけ、ビューアイテムまでドラッグします。
4. 設定をクリックし、ライブ表示に戻ります。

   ビューアイテムの上にマウスをドラッグすると、オーバーレイボタンが表示されます。

カードホルダー情報の管理

入退室管理システムが設定されている場合、カードホルダー記録のWebページに直接移動して、ユーザー管理などの作業を実行したり、カードホルダーの詳細情報を入手できます。

プラグインが深いリンクをサポートする場合は、入退室管理システムで次の前提条件が適用されます。

- Webクライアントが存在する必要がある
- 深いリンクをサポートする必要がある

カードホルダー情報を管理するには：

1. 入退室管理タブでカードホルダーリストを選択します。
2. カードホルダーを検索し、リストから個人を選択します。
3. 右側のカードホルダー情報の下で、Webページなどへのリンクをクリックできます。プラグインによっては、より多くのリン

クがサポートされている場合や、その他のログイン資格情報を要求される場合があります。

4. カードホルダー情報やアクセス権など、さまざまな機能を編集できます。
5. この例では、Webページを閉じ、XProtect Smart Clientに戻ります。

アクセスリクエスト通知をオンまたはオフにする

例えば、1人だけでアクセスリクエストを処理すべきケースでは、アクセスリクエストの処理をオフにすることができます。

1. をクリックした後、設定をクリックし、設定 ウィンドウを開きます。
2. 入退室管理を選択し、アクセスリクエスト通知をオフにします。

後で再度アクセスリクエストの処理が必要になった場合、アクセスリクエストの通知をオンにします。アクセスリクエスト通知内から設定アイコンをクリックして、入退室管理のオプションを変更することもできます。

> サーバーに従うフィールドが選択されている場合は、システム管理者が入退室管理通知を表示する設定を制御します。

XProtect LPR(設定)

LPRカメラをビューに追加する

1. 設定モードのライブタブで、LPRカメラを追加するビューを選択します。
2. システム概要ペインで、LPRをクリックし、関連するビューアイテムの位置へドラッグします。
3. LPRカメラの選択ダイアログボックスで該当するサーバーを展開し、そのサーバーで使用できるLPRカメラを一覧表示します。

プロパティペインのライブタブで、LPRカメライベントを表示する方法を指定できます(ページ131のLPR表示設定の調整を参照)。

LPR表示設定の調整

1. ライブタブで、設定をクリックします。
2. LPRカメラの横にあるプロパティで、ブラウズボタンをクリックしてLPRカメラの選択ダイアログボックスを開き、別のLPRカメラを選択します。
3. プレビューの右側にあるリストで、LPRイベントの順番を選びます。
   - 最新を先頭に表示:最新のLPRイベントをリストの先頭に表示します。
   - 最新を末尾に表示:最新のLPRイベントをリストの末尾に表示します。

4. 1台のカメラからナンバープレートのリストを表示したいが、別のカメラからのビデオも表示したい場合は、カメラ名フィールドで別のカメラを選択します。

マップでLPRサーバーのステータスを有効にする

マップでLPRサーバーを表示し、マップに現在の状態を表示させることができます。マップでLPRサーバーのステータスを有効にするには：

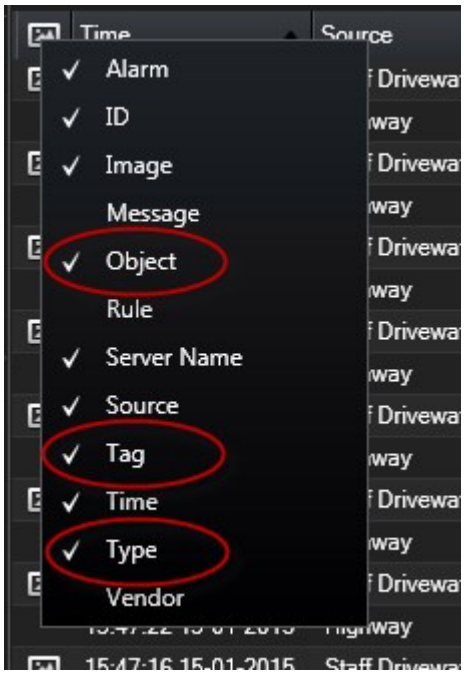
1. ライブタブで、設定をクリックします。
2. ビューで、関連するマップを選択します。
3. マップを右クリックして、ツールボックスを選択します。
4. ツールボックスで、プラグイン要素の追加アイコンをクリックすると、エレメントの選択ウィンドウが開きます。
5. 関連するナンバープレート認識サーバーを選択し、マップにドラッグします。
6. マップでLPRサーバーのアイコンを右クリックし、詳細ステータスを選択すると、LPRサーバーおよびそのサーバーに関連するLPRカメラの現在のライブステータスを取得できます。

マップをアラームマネージャタブに追加することで、LPRの特定のマップとアラームリストを関連付けることができます。

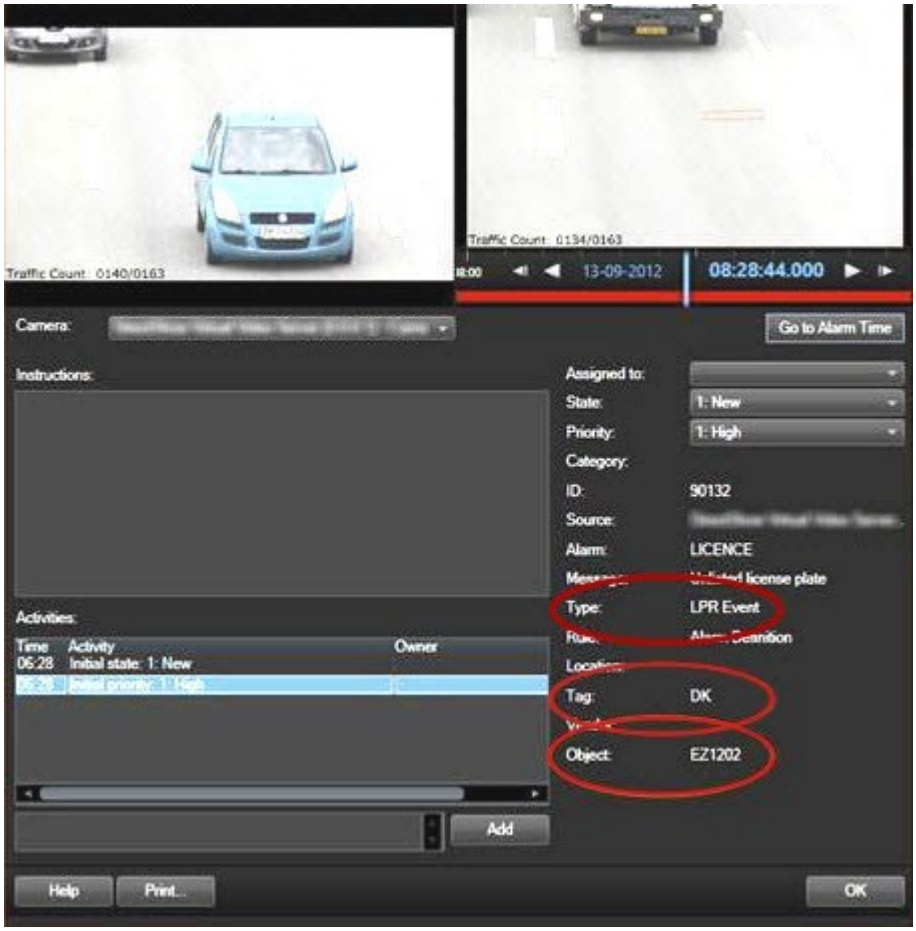
LPR固有のエレメントを有効にする

LPR認識に関する大切な全ての情報を見るには、XProtectSmartClientアラームマネジャータブ上で以下を行なってください。：

1. アラームマネージャタブのアラームリストで、簡易フィルター列の横にある画像アイコンを右クリックします。メニューで、以下を選択します。オブジェクト、タグ、タイプ。



2. ここで、タイプはすべてのLPRに関連するイベント、タグは国コードを、オブジェクトは登録車両のナンバープレートを表示します。



XProtect Transact(設定)

入門:XProtect Transact

XProtect Smart Clientでトランザクションの監視と調査を開始する前には、次の手順を実行する必要があります。

1. XProtect Transact基本ライセンスが監視カメラ管理ソフトウェアのインストール中にアクティベーションされたことを確認します。このためには、XProtect Smart Clientを開き、**[Transact]**タブが表示されていることを確認します。基本ライセンスがなくても、試用版ライセンスでXProtect Transactを使用できます。詳細については、ページ135のXProtect Transact試用版ライセンスを参照してください。

2. トランザクションが正しく表示されていることを確認します。これには、個別のトランザクションラインとレシートがあります。このためには、トランザクションタブをクリックし、トランザクションソースとタイムインターバルを選択します。正しく構成されていない場合は、トランザクションラインのリストが表示されます。行をクリックすると、接続されたカメラごとに1つ

の対応するビデオの静止フレームが表示されます。

3. ライブタブでリアルタイムのトランザクションを開始するか、再生タブでトランザクションを調査する場合は、トランザクションのビューを設定します。詳細については、ページ135のトランザクションのビューを設定を参照してください。

XProtect Transact試用版ライセンス

XProtect Transact試用版ライセンスを使用して、最大30日までXProtect Transact機能を試すことができます。すべての関連する機能が有効になり、キャッシュレジスターなどのトランザクションソースを1つ追加できます。30日間の試用期間が終了すると、トランザクションワークスペースとトランザクションビューアイテムを含む、すべてのXProtect Transact機能が無効になります。XProtect Transact基本ライセンスと必要なトランザクションソースライセンスを購入してアクティベートすると、設定とデータを維持したまま再びXProtect Transactを使用できます。

XProtect ExpressまたはXProtect Professionalを使用していた場合、試用版ライセンスは内蔵されています。システム管理者が構成にトランザクションソースを追加すると、試用版ライセンスが認証されます。

その他の製品については、Milestoneから試用版ライセンスを取得する必要があります。システム管理者は構成で試用版ライセンスをアクティベートする必要があります。

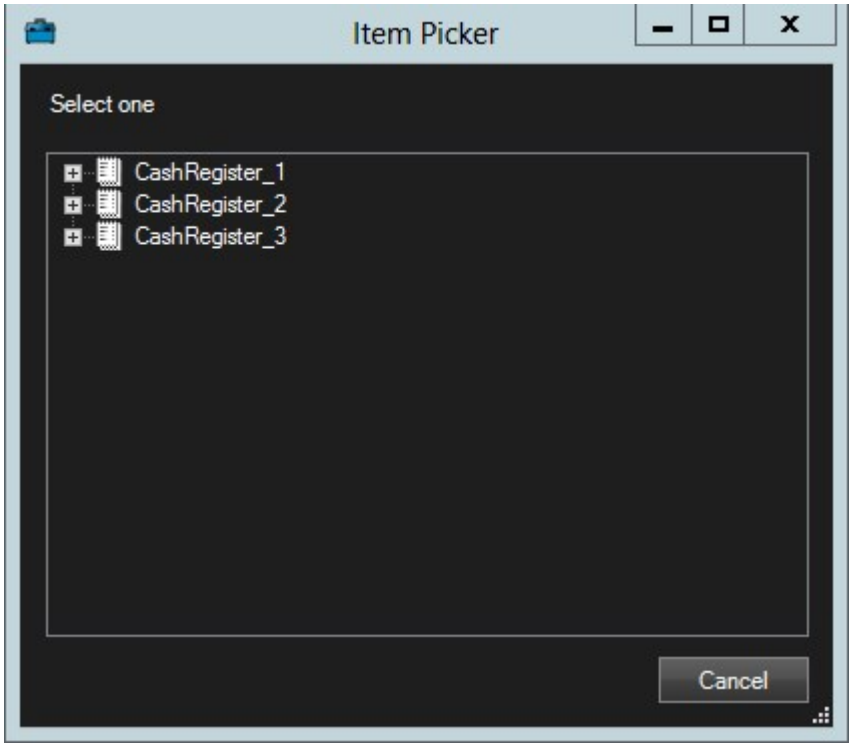
トランザクションのビューを設定

ライブまたは再生タブでトランザクションを表示する前に、各トランザクションソースのトランザクションが含まれるビューアイテムを設定する必要があります。実行中のトランザクションの場合、設定モードを終了すると、ビューアイテム内の画面上をレシートが回転します。

手順：

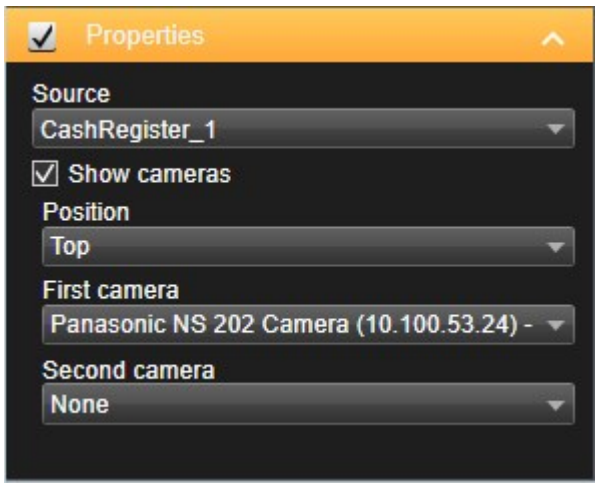
1. ライブタブまたは再生タブで、右上端の設定をクリックし、設定モードに切り替えます。
2. 新しいビューを作成するか、既存のビューを選択します。
3. システム概要ペインを展開します。

4. トランザクションとビデオフィードを表示するビューアイテムまで、トランザクション項目をドラッグします。ポップアップウィンドウが表示されます。



5. キャッシュレジスタなどのトランザクションソースを選択し、**OK**をクリックします。ビューアイテム内にレシートプレビューが表示されます。

6. プロパティを展開し、カメラを表示するチェックボックスを選択して、トランザクションソースに関連付けられたカメラを追加します。デフォルトでは、設定で最初にトランザクションソースに追加されるカメラが選択されます。



7. 最初のカメラと2番目のカメラドロップダウンリストを使用し、ビューアイテムで表示されるカメラを指定します。デフォルトでは2番目のカメラは選択されません。2番目のカメラが必要ではない場合、そのままにします。

8. カメラの位置を変更する場合は、たとえばレシートの左にある位置ドロップダウンリストの値を選択します。

ビューに追加するトランザクションビューアイテムごとに、手順4～8を繰り返します。

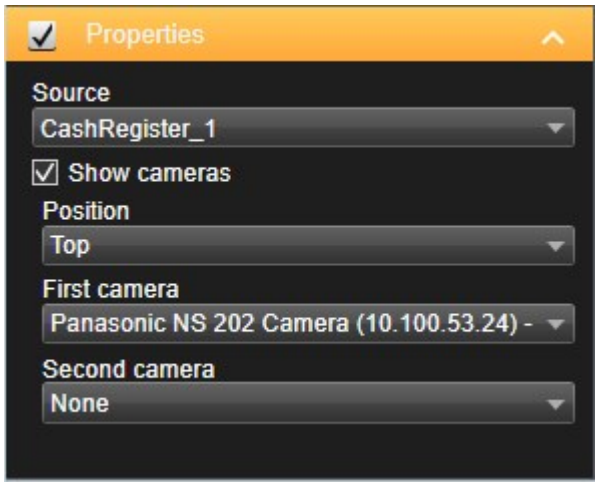
トランザクションビューアイテムの設定の調整

1つ以上のトランザクションビュー項目を含むビューを作成すると、次のことができます。

- 選択したカメラと表示順を変更するトランザクションビューアイテムごとに最大2つのカメラを選択し、トランザクションソースに関連付けられたカメラのみを選択できます。
- レシートに関連してカメラが配置される方法を変更する
- トランザクションビューアイテムを追加または削除する

手順：

1. ライブタブまたは再生タブで、右上端の設定をクリックし、設定モードに切り替えます。
2. 調整するビュー、ビューアイテムの順に選択します。
3. 選択されたカメラまたはその位置を変更する場合は、プロパティを展開し、カメラを表示するチェックボックスが選択されていることを確認します。



4. 位置ドロップダウンリストを使用し、レシートに関連してカメラが表示される方法(レシートの下など)を指定します。
5. 最初のカメラと2番目のカメラドロップダウンリストを使用し、ビューアイテムで表示されるカメラを変更します。
6. トランザクションソースをビューに追加したい場合は、「ページ135のトランザクションのビューを設定」のステップ3～8に従います。

スクリプト

ログインのスクリプト化(説明付き)

スクリプトを使用して、XProtect Smart Clientでログイン手順の一部またはすべてをコントロールできます。

- 基本認証またはWindows認証を使用している場合、XProtect Smart Clientログインウィンドウに、あらかじめ情報が入力されたサーバーアドレスフィールドとユーザー名フィールドを表示できます。これで、ユーザーはパスワードを入力するだけでログインできます。
- Windows認証(現行ユーザー)を使用している場合、ユーザーの現在のWindowsログインにもとづいてXProtect Smart Clientを監視システムに自動的に接続できます。

> 基本的な認証またはWindows認証に基づいてログイン手順のスクリプトを作成するには、暗号化されていない機密情報を、XProtect Smart Clientプログラム ファイルでローカルに保存されているSCSファイルに追加する必要があります。
>
> - ホスト名
> - ユーザー名
> - パスワード
>
> 暗号化されていない情報を保存すると、システムのセキュリティまたはGDPRコンプライアンスに支障をきたす可能性があります。SCSファイルの情報を読み取ることができます。
>
> - ファイルにアクセスできる任意の人物
> - SCSファイル、またはユーザー名とパスワードを提供するコマンドラインで開始されたXProtect Smart Clientアプリケーションのメモリフットプリント
>
> Milestoneでは、Windows認証(現在のユーザー)を使用するようお勧めしています。基本的な認証またはWindows認証では、SCSファイルへのアクセスを限定する必要があります。

ログインのスクリプトパラメータ

次のパラメータを使用できます:

ServerAddress

XProtect Smart Clientが接続するサーバーのURLを参照します。

XProtect Corporate、XProtect Expert、XProtect Professional+、XProtect Express+、またはXProtect Essential+の場合、これはマネジメントサーバーのURLになります。XProtect Professional、あるいはXProtect Expressの場合、これは画像サーバーのURLになります。

次の例は、サーバーアドレスフィールドに*http://ourserver*と入力された場合のXProtect Smart Clientログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver"
```

デフォルト認証タイプはWindows認証(現行ユーザー)です。これを変更しない限り、AuthenticationTypeパラメータ(以下のセクションで説明)を使用すると、ログインウィンドウのユーザー名フィールドに現在のWindowsユーザーの名前が自動的に表示されます。

UserName

特定のユーザー名を指します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドにhttp://ourserver、ユーザー名フィールドにTommyと入力されたのログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy"
```

このパラメータは、Windows認証および基本認証にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、AuthenticationTypeパラメータを使って指定します。

パスワード

特定のパスワードを参照します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドにhttp://ourserver、ユーザー名フィールドにTommy、パスワードフィールドにT0mMy5Pa55w0rDと入力されたのログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe - ServerAddress="http://ourserver" - UserName="Tommy" -
Password="T0mMy5Pa55w0rD"
```

このパラメータは、Windows認証および基本認証にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、AuthenticationTypeパラメータを使って指定します。

AuthenticationType

+XProtect Smart Clientで使用できる3つの認証方法、Windows認証(現行ユーザー)(起動スクリプトではWindowsDefaultと呼ばれる)、Windows認証(起動スクリプトではWindowsと呼ばれる)、または基本認証(起動スクリプトではSimpleと呼ばれる)のうち1つを指します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドにhttp://ourserver、認証フィールドに基本認証、ユーザー名フィールドにTommy、パスワードフィールドにT0mMy5Pa55w0rD(アスタリスクでマスキング) と入力されたのログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe - ServerAddress="http://ourserver" - UserName="Tommy" -
Password="T0mMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType="Simple"
```

Windows認証を使用する場合、例は次のようになります：

```
Client.exe - ServerAddress="http://ourserver" - UserName="Tommy" -
Password="T0mMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType="Windows"
```

Windows認証(現行ユーザー) を使用している場合、UserNameパラメータとPasswordパラメータは不要となるため、例は次のようになります。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -AuthenticationType="WindowsDefault"
```

スクリプト

.scsスクリプト(XProtect Smart Clientを制御するスクリプトタイプ) への完全なパスを指します。

次の例では、.scsスクリプトを使ってログインします：

```
Client.exe -Script=c:\startup.scs
```

現在のWindowsユーザーを使用して*http://ourserver*へログインする.scsは次のようになります。

```
<ScriptEngine>
```

```
 <Login>
```

```
   <ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
```

```
   <AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
```

```
 </Login>
```

```
</ScriptEngine>
```

XProtect Smart Clientの関数呼び出しを使用して(関数呼び出しのリストを見る、を参照) 、.scsスクリプトへ機能を追加できます。以下の例では、以前の例からの.scsスクリプトもXProtect Smart Clientアプリケーションを最小化するように、行を追加しています。

```
<ScriptEngine>
```

```
 <Login>
```

```
   <ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
```

```
   <AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
```

```
 </Login>
```

```
<Script>SCS.Application.Minimize();</Script>
```

```
</ScriptEngine>
```

フォーマット

有効なパラメータフォーマットは次のとおりです：

```
{-,/,--}param{ ,=,:}((".')value(",'))
```

例：

```
-UserNameTommy
```

```
--UserName Tommy /UserName:"Tommy" /UserName=Tommy -Password 'Tommy'
```

ナビゲーション用のHTMLページのスクリプト

スクリプトを使用すると、ビューを切り替えられるHTMLページを作成できます。HTMLページをビューに追加すると、カメラのビデオとともに表示できます。

例: HTMLページにはクリック可能な間取り図を挿入できます。オペレーターは間取り図の一部をクリックするだけで、すぐにビューを切り替えて建物の該当部分のビデオを表示できます。

要件

- XProtect VMSシステムがSmart Clientプロファイルをサポートしている場合は、XProtect Management Clientの必要なSmart ClientプロファイルでHTMLスクリプトを有効にしなくてはなりません。
- XProtect VMSシステムがSmart Clientプロファイルをサポートしていない場合は、**Client.exe.config**ファイルでHTMLスクリプトを有効にする必要があります。

XProtect Smart ClientナビゲーションのHTMLページの例を以下に示します。

- ボタン付きの簡易HTMLページ
- クリック可能なイメージマップが付いた詳細HTMLページ
- HTMLページの作成とXProtectSmartClientオペレータへの配布を伴うタスクについて概説された、管理者用のチェックリスト

ボタンを使ったHTMLページのナビゲーション例

簡単な解決策として、ナビゲーションボタンのあるHTMLページを作成する方法があります。HTMLページでは、さまざまなボタンを作成できます。この例では、2種類のボタンを作成しています。

- **XProtect Smart Client**のビューを切り替えるボタン

  使用するHTML構文：

  ```
  <input type="button" value=" Buttontext" onclick="SCS. Views.SelectView ('Viewstatus.Groupname. Viewname');">
  ```

  ここで、**Viewstatus**はビューが共有ビューか個人ビューかを示します(HTMLページを複数のユーザーへ配信する場合は、ビューが共有である必要があります) 。

  実際のボタンの例：

  ```
  <input type="button" value="Go to Shared Group1 View2" onclick="SCS. Views.SelectView('Shared.Group1. View2');">
  ```

  このボタンを使って、ユーザーは**Group1**という名前の共有グループにある**View2**というビューへ移動することができます。

タブ切り替えボタン：ライブおよび再生。設定ユーザー権限によっては、タブすべてにアクセスできない場合があることに注意してください。

使用するHTML構文：

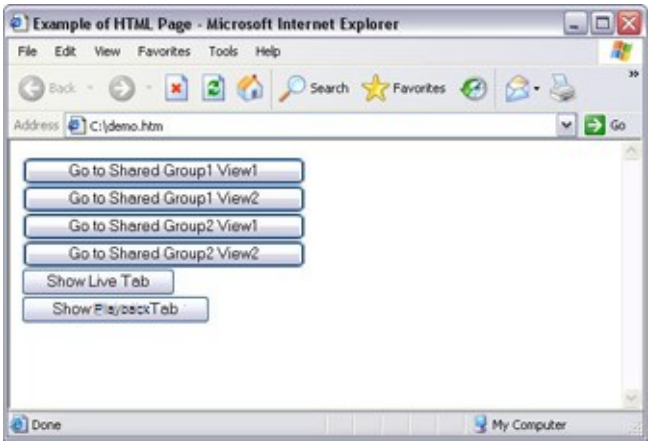
ライブタブ：`<input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS. Application.ShowLive();">`

再生タブ：`<input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS. Application.ShowBrowse();">`

上級ユーザーの場合、XProtect Smart Clientで提供されているおよそ100種類の関数呼び出しを使って、他にも多くの種類のボタンを作成できます。

ここでは、XProtect Smart Clientで2つの共有グループを作成します。この2つのグループを**Group1**と**Group2**とします。各グループには、**View1**と**View2**という2つのビューがあります。

4つの異なるビューの間、XProtect Smart Clientのライブタブと再生タブの2つのタブ間で切り替えられるボタンが付いたHTMLページも作成しました。ブラウザで開くと、作成したHTMLページは次のようになります：



ビューとタブの間を移動するためのボタンが付いたHTMLページ

HTMLページをローカル(ここではユーザーのC:ドライブ)に保存します。HTMLページを使ってナビゲートする場合、Internet Explorerのセキュリティ機能を有効にするためHTMLページをローカルに保存する必要があります。

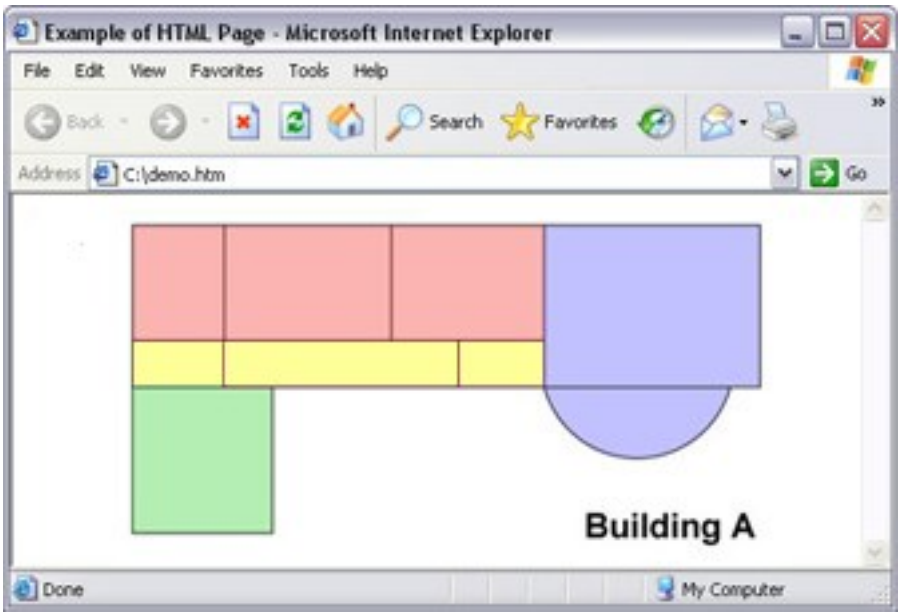
HTMLページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。例えば、ユーザーのC:ドライブ内のフォルダー(例：C:\ myfolder\file.htm)などです。ユーザーのデスクトップや**MyDocuments**フォルダーなどにHTMLページを保存すると、Windowsがその場所へのパスを構築する方法が原因で正しく動作しない場合があります。

次に、必要なXProtect Smart ClientビューへHTMLページをインポートします。

画像マップ付きのHTMLページのナビゲーション例

ビューを切り替えるためのイメージマップなど、より高度なコンテンツを含むHTMLページを作成することもできます。

次の例では、前述の例で使用した2つのグループと2つのビューを使用します。ボタンを使用する代わりに、間取り図の画像のあるHTMLページを作成し、その間取り図に基づいてイメージマップを作成します。ブラウザで開くと、作成したHTMLページは次のようになります。



ビューをナビゲートするためのイメージマップを含むHTMLページ

この例では、間取り図を4つに色分けし、それぞれのゾーンにイメージマップエリアを定義しています。ゾーンをクリックするだけで、そのゾーンのカメラが表示されたビューへ移動することができます。

たとえば、このイメージマップの赤いゾーンは、前述の例の共有**Group2**の**View2**へ移動ボタンに該当します。この赤いゾーンをクリックすると、ユーザーはGroup2のView2へ移動します。

HTMLページのインポート

ナビゲーションHTMLページをビューにインポートする操作は、基本的には他のタイプのHTMLページをXProtect Smart Clientのビューにインポートする操作と変わりません。「ページ65のWebページをビューに追加する」を参照してください。

- HTMLページは、オペレータのコンピュータにローカルで保存する必要があります
- ナビゲーションが正常に機能するよう、HTMLページを複数のビューにインポートするようお勧めします

システム管理者のためのチェックリスト

ナビゲーションHTMLページを作成してXProtect Smart Clientオペレータに配布するには、以下の手順に従います：

1. 必要なHTMLページを作成します。HTMLページに含まれているナビゲーションコントロールは、XProtect Smart Clientでユーザーに表示されるビューと一致している必要があります。例えば、View1へ移動するボタンを動作させるには、View1という名前のビューがユーザーのXProtect Smart Clientインストールに存在していなければなりません。

HTMLページをユーザーのグループへ送信する場合は、HTMLページで使用するビューがシェアードグループになければなりません。

2. HTMLページを使用するコンピュータに、HTMLページをローカルに保存します。HTMLページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。例えば、ユーザーのC:ドライブ内のフォルダー(例： C:\myfolder\file.htm)などです。ユーザーのデスクトップやユーザーのマイドキュメントフォルダーにHTMLページを保存すると、Windowsによる保存した場所へのパスの構築方法が原因で、正常に動作しなくなります。
3. XProtect Smart Client内の該当するビューにHTMLページをインポートします。「ページ65のWebページをビューに追加する」を参照してください。
4. インポートされたHTMLページのナビゲーションコントロールが正しく動作するかどうかテストします。

トラブルシューティングの情報については、ページ329のWebページ (トラブルシューティング)を参照してください。

最適化

ハードウェアアクセラレーションの有効化

ハードウェアアクセラレーション(説明付き)

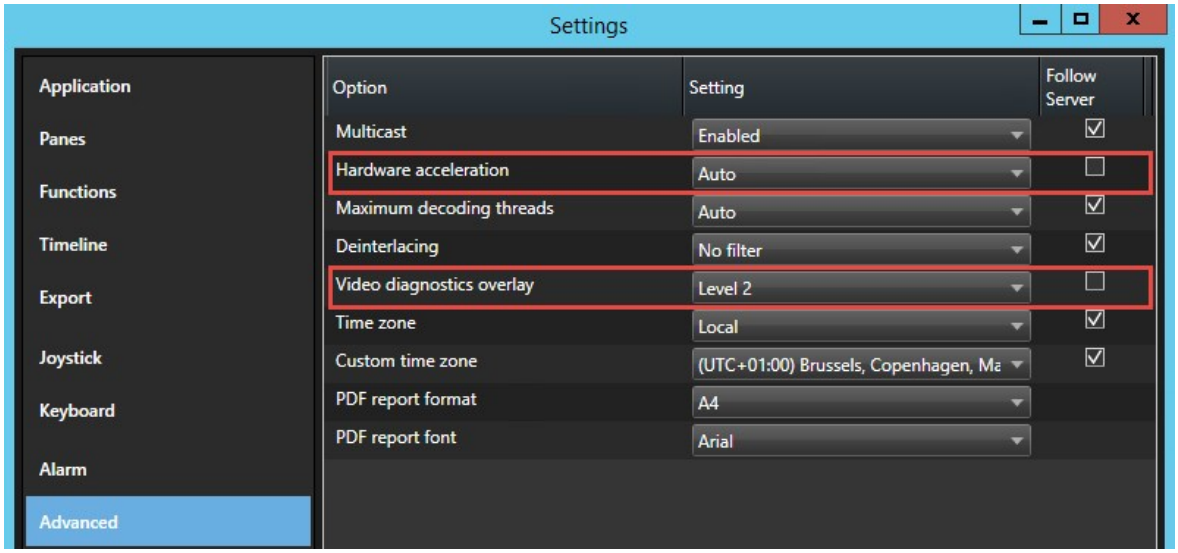
ハードウェアアクセラレーションはXProtect Smart Clientを走らせているコンピューターのデコーディングの能力、およびパフォーマンスを向上させます。主に、高フレームレートおよび高解像度のビデオストリームを、複数閲覧する場合に便利です。

> XProtect Smart Clientは、Intel®およびNVIDIA® GPUを使用したハードウェア アクセラレーションによるデコーディングに対応しています。Milestoneはお使いのNVIDIAディスプレイアダプターでの、スケーラブル・リンク・インターフェイス(SLI)構成の使用を推奨しません。

ハードウェアアクセラレーション設定をチェックします

1. オプション>拡張>ハードウェアアクセラレーションの順に移動します。
2. ハードウェアアクセラレーション用に2つの設定があります:自動およびオフ。

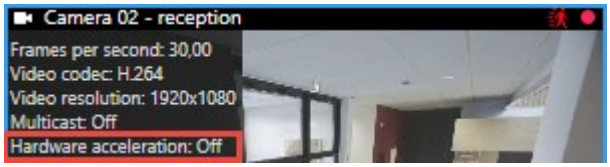
   デフォルトの設定自動を選択します。



3. ビデオ診断オーバーレイはありません。
4. ハードウェアアクセラレーションに使われたGPUリソースを含む、ストリームの現状を可視化するには、**Level2**を選択します。

> この設定はすべてのビューアイテムに適応されます。隠すがデフォルトの設定です。

ハードウェアアクセラレーションのための、ビデオ診断オーバーレイステイタスは以下のいずれかです: **Intel**、**NVIDIA**または**Off**。



ステータスが [オフ]の場合は、可能であればハードウェアアクセラレーションを有効にできるようコンピュータの検査を続行し、すべてのハードウェアアクセラレーションリソースが活用されていることを確認してください。

> [システムモニター]を使用して、現在のXProtect Smart Clientデコーディングパフォーマンスを確認します。「ページ155のクライアントリソースのモニタリング」を参照してください。

オペレーティングシステムの確認

オペレーティングシステムがMicrosoft® Windows® 8.1であること、Windows® サーバー2012あるいは最新かどうかを確認してください。

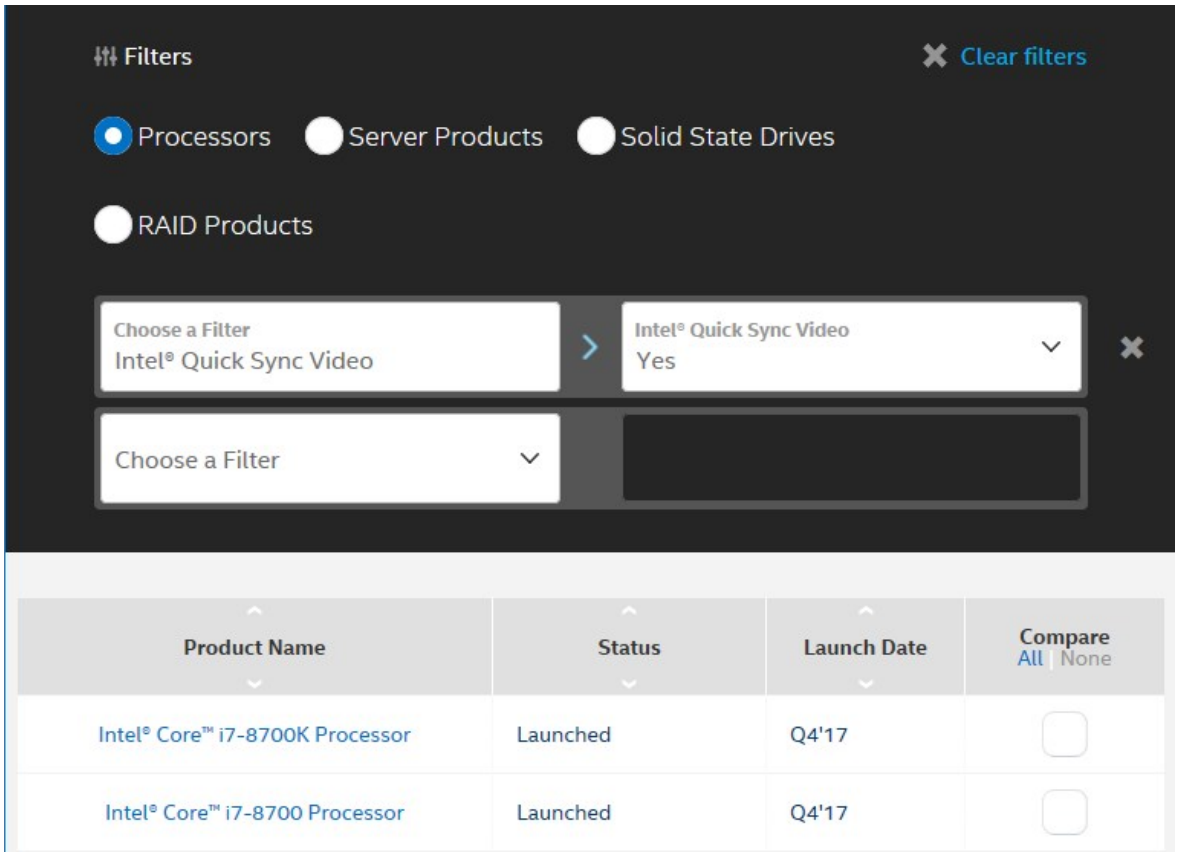
> 非仮想環境のみがサポートされています。

> NVIDIAハードウェアアクセラレーションは、64ビットオペレーティングシステムにのみサポートされています。

CPU Quick Syncのサポート確認

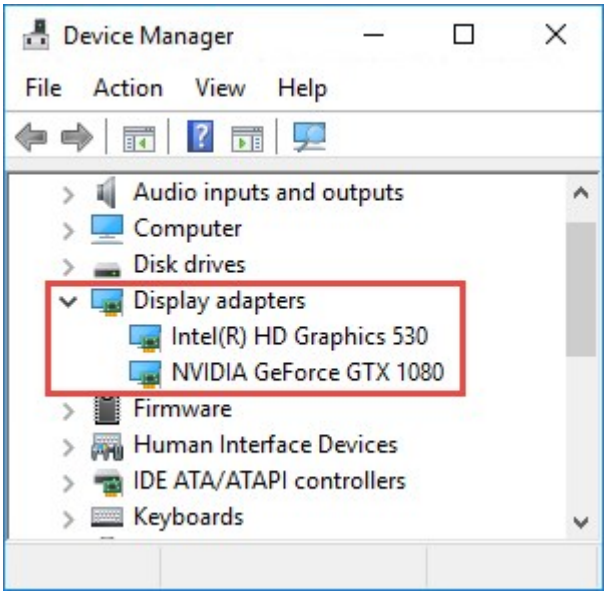
プロセッサがIntel Quick Sync Videoをサポートしているか確認するために:

1. IntelのWebサイト(https://ark.intel.com/Search/FeatureFilter?productType=processors/)にアクセスします。
2. メニューで、プロセッサーそしてIntel Quick Sync Videoフィルターがはいに設定します。
3. CPUリストを見つけます。



デバイスマネージャの確認

NVIDIAディスプレイアダプターが、Windowsデバイスマネージャーにて表示されているようにしてください。



ディスプレイを使用可能な任意のディスプレイアダプタに接続します。コンピュータ上でより強力なディスプレイアダプターが可能な場合、通常NVIDIA あるいは AMD®,のディスプレイをこのアダプターがデコーディングとレンダリングを促進するハードウェアに関連づけされている全てのGPU リソースへアクセスできるようにしてください。

すべてのNVIDIAディスプレイがハードウェアアクセラレーションをサポートしているわけではありません。「ページ149のNVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。」を参照してください。

Intelディスプレイアダプターが存在しない場合、BIOSでIntelディスプレイアダプターを有効にします。「ページ150のBIOSでIntelディスプレイ アダプタを有効にする」を参照してください。

NVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。

NVIDIA製品は異なったコンピュート能力を持っています。

NVIDIA GPU を使用するハードウェア アクセラレーションによるデコーディングでは、バージョン 6.x (Pascal) 以降が必要です。

お使いのNVIDIA製品のコンピュート能力は、NVIDIA のWebサイト(https://developer.nvidia.com/cuda-gpus/) でご確認いただけます。

BIOSでIntel ディスプレイ アダプタを有効にする

例えば、NVIDIAまたはAMDなど、ご使用のコンピュータに別のディスプレイアダプタカードが搭載されている場合は、ボード上のIntelディスプレイアダプタが無効になっていることがあり、その場合は有効にする必要があります。

Intelディスプレイアダプタは、CPUの一部としてマザーボード上に配置されています。有効化するためには、コンピュータのBIOSで、グラフィックス、CPUまたはディスプレイの設定をご覧ください。関連設定を見つけるには、ベンダーのマザーボードマニュアルが役立つこともあります。

> 設定を変更してもボード上のIntelディスプレイアダプタが有効化されない場合は、ディスプレイアダプタカードを別のスロットに移動し、マザーボードへのディスプレイの接続をお試しください。ときに、これによってボード上のディスプレイアダプタが有効になることがあります。

ビデオドライバを更新します

お使いのすべてのディスプレイアダプタのためのドライバのバージョンがIntel、あるいはNVIDIAが提供している最新のバージョンに更新されていることを確認してください。

> PCベンダーの提供するドライババージョンが古く、Intel Quick Sync Videoをサポートしていない可能性があります。

ドライバの更新方法は次の2つです。手動でダウンロードしてインストールするか、ドライバアップデートユーティリティを使用します。

Intel

手動でのダウンロードとインストール：

1. IntelダウンロードWebサイト(https://downloadcenter.intel.com/) にアクセスします。
2. 一体型のディスプレイアダプタの名前を入力します。
3. ドライバを手動でダウンロードし、インストールします。

Intelコンポーネントおよびドライバの自動検出と更新：

1. インテルドライバーおよびサポートアシスタント(https://www.intel.com/p/en_us/support/detect/) をダウンロードします。
2. ドライバのための自動サーチに対し、アシスタントを実行します。
3. グラフィックスのドライバの更新を選択します。

NVIDIA

オプション1：my NVIDIA製品のためのドライバを手動で見つけます。

1. NVIDIAダウンロードドライバーWebサイト(https://www.nvidia.com/Download/index.aspx/) にアクセスします。
2. お使いの製品の名前、およびオペレーティングシステムを入力します。
3. ドライバを手動でダウンロードし、インストールします。

オプション2：my NVIDIA製品のためのドライバを自動で見つけます。

1. NVIDIAダウンロードドライバーWebサイト(https://www.nvidia.com/Download/index.aspx/) にアクセスします。
2. グラフィクスドライバをクリックします。
3. お使いのシステムがスキャンされます。
4. ドライバをダウンロードおよびアップデートします。

モジュール設定の確認

システムでサポートしているのが、1つのメモリチャネルである場合は、最低2つのチャネルでメモリモジュールが正しいDIMMスロットに挿入されていることを確認することで、システムパフォーマンスを上げることができる場合があります。正しいDIMMスロットを見つけるにはマザーボードのマニュアルを参照してください。

例：

メモリチャネルが2つあるシステムで、メモリの合計量が8GBあるときは、2x4GBのメモリモジュール構成を使用したときに最高のパフォーマンスを得ることができます。

カメラビューを新規フローティングウィンドウに送る。

アダプティブストリーミングの有効化

アダプティブストリーミング(説明付き)

アダプティブストリーミングはXProtect Smart Clientを実行しているコンピュータのデコーディング能力とパフォーマンスを向上させます。これは同じビューで複数のライブビデオストリーミングを視聴する場合に便利です。

アダプティブストリーミングを活用するには、カメラに解像度の異なる複数のストリームを設定する必要があります。これでXProtect Smart Clientにより、ビューアイテムによって要求された解像度に最も近い解像度が自動的に選択されます。その結果、XProtect Smart Clientによって不必要に解像度が高いデフォルトのストリームをスケールダウンする必要がなくなります。これによりCPUとGPUのデコードリソースへの負荷が減ります。

ビデオの画質を維持するため、最も近い解像度は(可能であれば) ビューアイテムによって要求された解像度と同じかそれ以上のものと定義されます。これはストリームのアップスケーリングを避けるためです。下記の表には、XProtectSmartClientからのビューアイテムの要求にもとづいて、アダプティブストリーミングにおいてどのビデオストリームが選択されるのかが示されています。

ビューアイテムによって要求される解像度	利用可能なビデオストリームの中で最も近いもの	
636 x 477	ビデオストリーム1	640 x 480 (VGA)
644 x 483	ビデオストリーム2	1280 x 720 (WXGA-H)
1920 x 1080	ビデオストリーム3	1920 x 1080 (FHD)
1920 x 1440	ビデオストリーム4	3840 x 2160 (4K UHD-1)

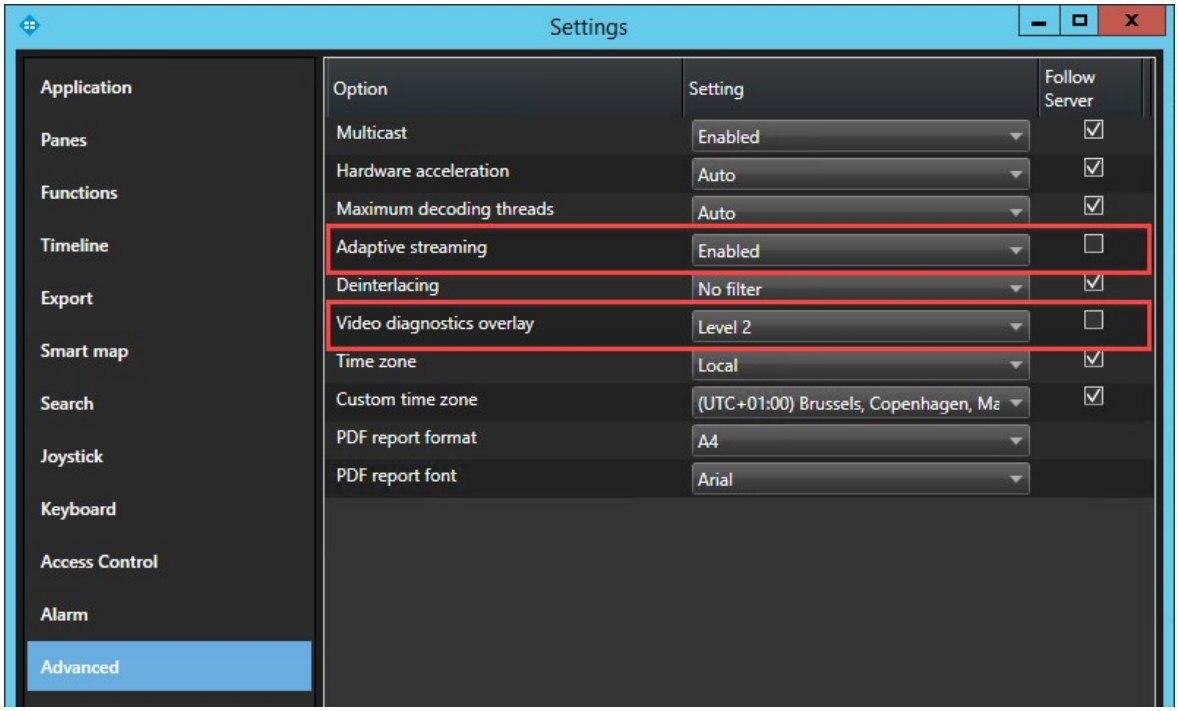
ズーム中は、常に最高解像度のライブビデオストリームが要求されます。

多くの場合、要求したストリームの解像度が下げられる際には帯域幅の使用も減らされます。帯域幅の使用は、定義したストリーム構成の他の設定にも依存します。

アダプティブストリーミング設定の確認

1. 設定 > 詳細 > アダプティブストリーミングに移動します。
2. アダプティブストリーミングには2つの設定があります。無効と有効です。

   有効を選択します。

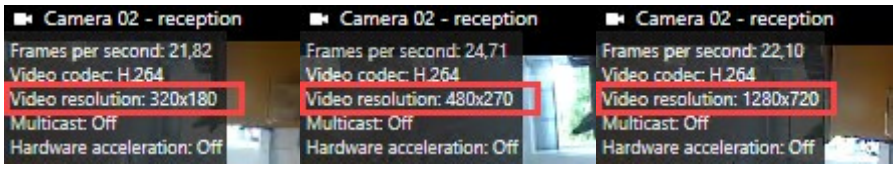


3. ビデオ診断オーバーレイに進みます。
4. ストリームの現在のビデオ解像度を可視化するには、レベル2を選択します。

> この設定はすべてのビューアイテムに適用されます。非表示がデフォルトの設定です。

5. これでビデオ診断オーバーレイが有効になるはずです。

   ビューウィンドウのサイズを小から大に、そして大から小に変更して、ビデオ解像度の値が変化するか確認します。



   値が変化しない場合は、可能であれば、アダプティブストリーミングを有効にできるよう、カメラで利用可能なライブビデオストリームの監視を続行します。

利用可能なビデオストリームの確認

アダプティブストリーミングを活用するためには、カメラ設定で解像度の異なる2つ以上のストリームを設定する必要があります。

> アダプティブストリーミングでサポートされている唯一のビデオ解像度形式は、幅 x 高さです。720p、mode2、VGAといったカメラからのビデオ解像度形式はサポートされていません。

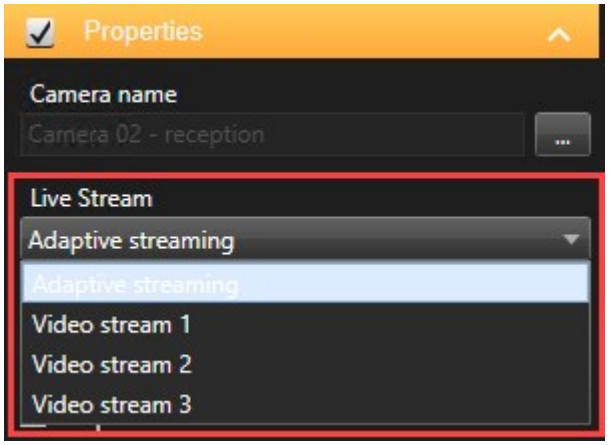
> すべてのカメラがマルチストリーミングに対応しているわけではありません。

マルチストリーミングにより、サーバーでデバイスごとに複数のストリームを設定できます。複数のストリームが設定されてアダプティブストリーミングが有効になれば、アダプティブストリーミングまたは利用可能な他のストリームのいずれかひとつを選択できます。

ビューでアダプティブストリーミングが設定されていることを確認するには：

1. 設定をクリックしてビューを設定します。
2. プロパティでライブストリームドロップダウンリストをクリックすると、利用可能なライブビデオストリームのリストが表示されます。

3. 2つ以上のライブビデオストリームが利用できるかどうか確認してから、アダプティブストリーミングを選択します。

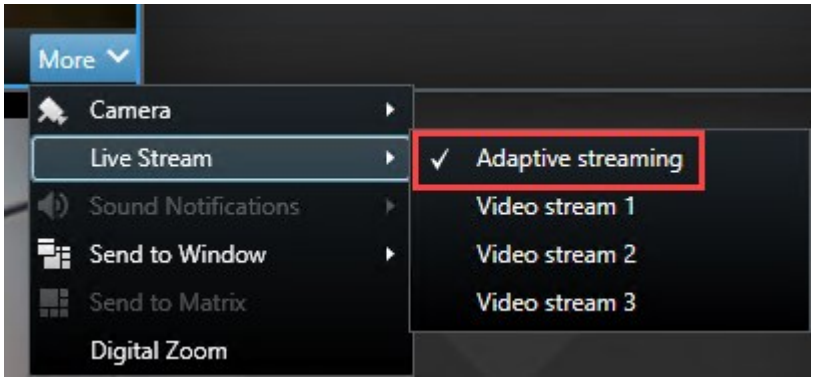


> 1つのライブビデオストリームしか利用できない場合は、XProtect Management Clientでカメラにライブビデオストリームを追加します。

4. 設定をクリックしてビュー設定を閉じます。

ライブビューアイテムでアダプティブストリーミングが選択されていることを確認するには：

1. 詳細ドロップダウンリストをクリックします。
2. ライブストリームを選択すると、利用可能なライブビデオストリームのリストが表示されます。
3. 2つ以上のライブビデオストリームが利用できるかどうか確認してから、アダプティブストリーミングを選択します。



システムの監視

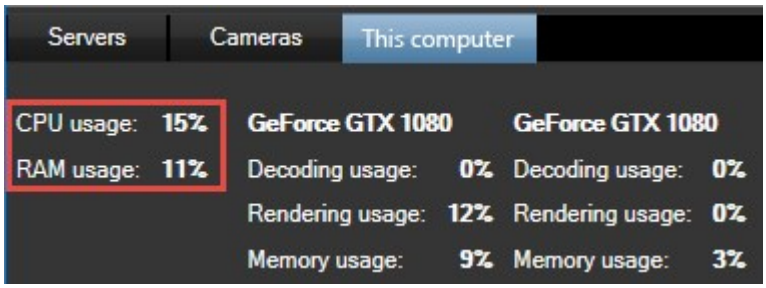
システムモニタータブでは、お使いのサーバー、接続しているデバイス、XProtect Smart Clientを実行しているコンピュータの現在のステータス概要を確認できます。

詳細については、ページ159のシステムモニタータブ(説明付き)を参照してください。

クライアントリソースのモニタリング

解像度、フレームレート、コーデックとともに、カメラの数がXProtect Smart Clientを実行しているお使いのPCの負荷となる結果となります。CPU、RAM、NVIDIA GPUリソースにおける現行のロードを観察するには：

1. システムモニタータブをクリック& ドラッグし、別のウィンドウにアンドックします。
2. このコンピュータを選択します。
3. 現行のビューのロードをモニターするには、ライブあるいは再生 タブを選択します。



もしあなたのクライアントのPCが、さらなるNVIDIAディスプレイアダプタをインストールしている場合は、それらのGPUにおけるロードも可視化されます。

もしロードが高すぎる場合は、複数のNVIDIAディスプレイアダプタをインストールして、GPUリソースをお使いのPCに追加します。Milestoneでは、お使いになっているNVIDIAディスプレイアダプターでのスケーラブルリンクインターフェイス(SLI)構成の使用を推奨していません。

Milestone Federated Architectureのあるシステムモニター(説明付き)

Milestone Federated Architecture™を実行している場合、システムモニタータブは2つの部分に分割されます。

- 一方のペインにフェデレーテッドアーキテクチャを表す階層ツリー構造が表示されます。
- もう一方のペインは、選択したサーバー用の該当システムデータを持つブラウザベースのエリアです。

サイトペインで任意のサーバーをクリックすると、システムデータが表示されます。

タブから離れるか、システムをログアウトして戻ると、システムモニタータブは、フェデレーテッドアーキテクチャで選択されたサーバーを記憶し、そのサーバーからのシステムデータを引き続き表示します。

システムモニタータブを独立したウィンドウにドラッグして、複数のサーバーをモニタリングできます。

操作

ログイン

初めてのログイン(説明付き)

初めてログインする場合、ビューが存在するかどうか確認する必要があります。ビューによって、ビデオの再生方法が決定されるため、XProtect Smart Clientを使用するにはビューが必要です。1つまたは複数のビューがすでに作成されている場合もありますし、自分で作成しなければならない場合もあります。ビューがすでに作成されているかどうかを判断する方法など、ビューに関する詳細は、ページ165のビューおよびビューグループ(説明付き)を参照してください。

ユーザー設定(ビューを含む)は、監視システム上で中央管理されています。つまり、XProtect Smart Clientがインストールされているコンピュータでログインを使用でき、前回のログインからビューを回復できるということです。

> ログイン中に2番目のダイアログボックスが表示された場合は、XProtect Smart Clientにアクセスするためにさらなるログイン認証が必要です。

ログイン認証(説明付き)

XProtect Smart Clientにログインする場合、追加のログイン認証が要求されることがあります。スーパーバイザー、システム管理者、またはその他のあなたを認証できる権限を持つ人に、ログインフォームにあなたの資格情報と共にその人たちの資格情報を入力するよう依頼する必要があります。その後、あなたもログインできるようになります。

誰があなたを認証できるか分からない場合は、スーパーバイザーかシステム管理者に問い合わせてください。

入退室管理システム(説明付き)

XProtect Smart Clientにログインすると、設定によっては入退室管理システムの追加ログイン資格情報を求められる可能性があります。

ログインによって、たとえばドアなど、入退室管理のどの部分を管理、操作できるかが決まります。

入退室管理システムに対するログインの資格情報がわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

システムはあなたのログイン資格情報を覚えているので、ログイン資格情報を入力する必要があるのは、最初にログインする時、またはログインが失敗した場合だけです。

ログインおよびログアウト

1. XProtect Smart Clientを開きます。
2. ログイン情報を指定して、接続をクリックします。ログイン中に問題が発生すると、エラー メッセージが表示される可能性があります。ページ324のログイン(トラブルシューティング)も参照してください。

3. 以前にログインしたことがある場合は、前回のセッション中に使用したビューを復元できます。設定によって、XProtect Smart Clientはビューを復元するかを確認します。
   - メインビュー: このオプションを選択すると、XProtect Smart Clientのメインウインドウで前回使用したビューが復元されます。
   - 分離ビュー: このオプションを選択すると、XProtect Smart Clientのフローティングウィンドウで前回使用したビューが復元されます。特定のMilestone監視システムに接続する場合にのみ利用できます (ページ36の監視システムの別の特徴を参照)
4. XProtect Smart Clientからログアウトするには、タイトル バーで[ログアウト]ボタンをクリックします。

ログイン中に2番目のダイアログボックスが表示された場合は、XProtect Smart Clientにアクセスするためにさらなるログイン認証が必要です。

XProtect Smart Clientにおけるタブ

XProtect Smart Clientには次のタブがあります:

- ライブビデオを表示するライブタブ(ページ158のライブタブ(説明付き) を参照)
- 録画したビデオを視聴するための [再生]タブ(「ページ158の[再生]タブ(説明付き) 」を参照)
- ビデオとメタデータの詳細検索を行うための [検索]タブ(「ページ201のビデオの検索」を参照) です
- アラームを調査して管理できる[アラーム マネージャー]タブ(ページ159の[アラーム マネージャー]タブ(説明付き) を参照)
- システム情報を表示するシステムモニタータブ(ページ159のシステムモニタータブ(説明付き) を参照)

タブの一部を利用できない場合は、これらのタブすべてにアクセスするために必要な権限がありません。

これらのタブはXProtect Transact、XProtect LPR、またはXProtect Accessのライセンスを取得した際のみ表示されます:

- 入退室管理システムおよび関連するカメラのコントロールのアクセス制御タブ(ページ159の入退室管理タブ(説明付き) を参照) 。
- ナンバープレートによって車両を識別し、LPR関連イベントを調査するLPRタブページ160のナンバープレート認識 (LPR) タブ(説明付き) を参照) 。
- 関連ビデオストリームと組み合わせてトランザクションデータを監視および調査するトランザクションタブ(ページ160のTransactタブ(説明付き) 参照) 。

ライブタブ(説明付き)

ライブタブでは、ライブビデオフィードを表示したり、オーディオで作業、画面自動切替、ホットスポット、Matrix、スマートマップ、パンチルトズーム(PTZ)コントロール、デジタルズーム、個別再生などをすることができます。

ここでは、カメラや他のコンテンツタイプのビューを設定するための設定モードにも入ることができます。

[再生]タブ(説明付き)

[再生]タブでは、録画ビデオを再生して調査し、任意のカメラまたはビューから検索を行い、エビデンスをエクスポートすることで発見した内容を文書化できます。エビデンスがデータベースから削除されないよう、録画ビデオにエビデンスロックをかけることもできます。

タイムラインでは、録画したビデオを参照して特定の日時へのジャンプするという高度な機能を使用できます。

以下も可能です:

- 選択したMilestoneに接続されている時に音声を聴く監視システム
- お使いのXProtectVMSがスマートマップに対応している場合、ナビゲーションが簡単な地理的インターフェースを使用して、システム内のカメラにアクセスできます。
- ホットスポット、デジタルズーム、カルーセルのいずれかを使用して、魚眼レンズ画像をナビゲートしたり、画像を印刷したりします。

[検索]タブ(説明付き)

[検索]タブでは、お使いのVMSシステムで利用可能な様々なデータタイプにまたがって検索できます。これには以下が含まれます:

- ビデオ録画全般
- モーション付き録画
- 選択エリア内のモーション付き録画
- ブックマーク
- 人物
- 車両
- アラームが発生したビデオ録画
- イベントが発生したビデオ録画

各検索カテゴリで、フィルターを適用して検索を絞り込むことができます。

検索結果から、いくつかできることがあります。詳しくは、ページ215の検索結果から利用できるアクション(説明付き)を参照してください。

[アラーム マネージャー]タブ(説明付き)

[アラーム マネージャー]タブを使って、アラームをトリガーしたインシデントや技術的問題を表示し、対応できます。タブにはアラームリスト、アラームプレビュー、スマートマップ、マップが表示されます(該当する場合)。

システムモニタータブ(説明付き)

[システムモニター] タブは、システムサーバ、カメラ、その他のデバイス、XProtect Smart Clientを実行しているコンピュータの現在の状態の視覚的な概要を得ることができます。

デフォルトでは、タイルはレコーディングサーバー、すべてのサーバー、すべてのカメラを表します。システム管理者は各状態に対するタイルとしきい値を指定します。

以下は、使用されている色の説明です。

- 緑:正常状態。すべてが正常に動作しています。
- 黄色:警告状態。1つ以上のモニターパラメータが正常状態の定義済みの値を超えています。
- 赤:重大状態。少なくとも1つのモニターパラメータが、正常および警告状態として定義された値を超えています。

タイルの色を変更し、色の変化につながるサーバー/パラメータを確認する場合は、タイルをクリックします。画面下部に概要が表示されます。状態変化の理由を表示するには、詳細ボタンをクリックします。

> タイルに警告記号が表示される場合は、監視対象のサーバーまたはカメラのいずれかのデータコレクタが実行されていない可能性があります。タイルの上にマウスを置くと、該当するタイルで最後にデータが収集された日時が表示されます。

入退室管理タブ(説明付き)

[入退室管理]タブで、検索とフィルタリングを使用して入退室管理イベントを調査し、関連付けられたビデオ録画と入退室管理データを表示できます。ドア状態の監視、カードホルダーの調査、レポートの作成もできます。

バックグラウンドでメインウィンドウを維持しながら、別々のフロートウィンドウに[入退室管理]タブをドラッグして、同時に複数のビューを表示することができます。また、列を並べ替え、列を別の位置までドラッグできます。

以下に関連するデータを、フィルタ、ソート、レビューすることができます。

- イベント:イベントは、タイムスタンプ、イベントタイプ、関連するドアまたは入退室管理ユニット、およびカードホルダー名(利用可能な場合)とともに記録されます。XProtect VMSシステムに複数のアクセス コントロール システムが統合されている場合は、イベントがトリガーされたアクセス コントロール システムがリストに表示されます。
- ドア:ドア、各入退室管理システム内のアクセスポイントおよび他の入退室管理ユニット、およびそれらの現在の状態を一覧表示します。
- カードホルダー:各入退室管理システムのカードホルダーと詳細を一覧表示します。

入退室管理システムによっては、右上端にある[入退室管理管理]ボタンを使用して、入退室管理システムアプリケーションに接続し、アクセス権の指定やカードホルダーの管理などができる場合があります。

ナンバープレート認識(LPR)タブ(説明付き)

[LPR]タブでは、検索とフィルタリングを使用してすべてのナンバープレート認識カメラからのナンバープレート認識イベントを調査し、関連付けられたビデオ録画とナンバープレート認識データを表示します。一致リストを最新の状態に保ち、レポートを作成します。

このタブにはLPRイベントリスト、個別のLPRイベントに関連付けられたビデオのナンバープレート認識カメラでのプレビューがあります。プレビューの下には、ナンバープレートに関する情報が、関連付けられているナンバープレートのマッチリストの詳細と共に表示されます。

イベントリストには、期間、国モジュール、ナンバープレート認識カメラ、ナンバープレートマッチリストでフィルターをかけることができます。検索フィールドを使用して、特定のナンバープレート番号を検索することができます。デフォルトでは、このリストには直前1時間のナンバープレート認識イベントが表示されています。

関連するイベントをPDF形式で指定し、エクスポートすることができます。

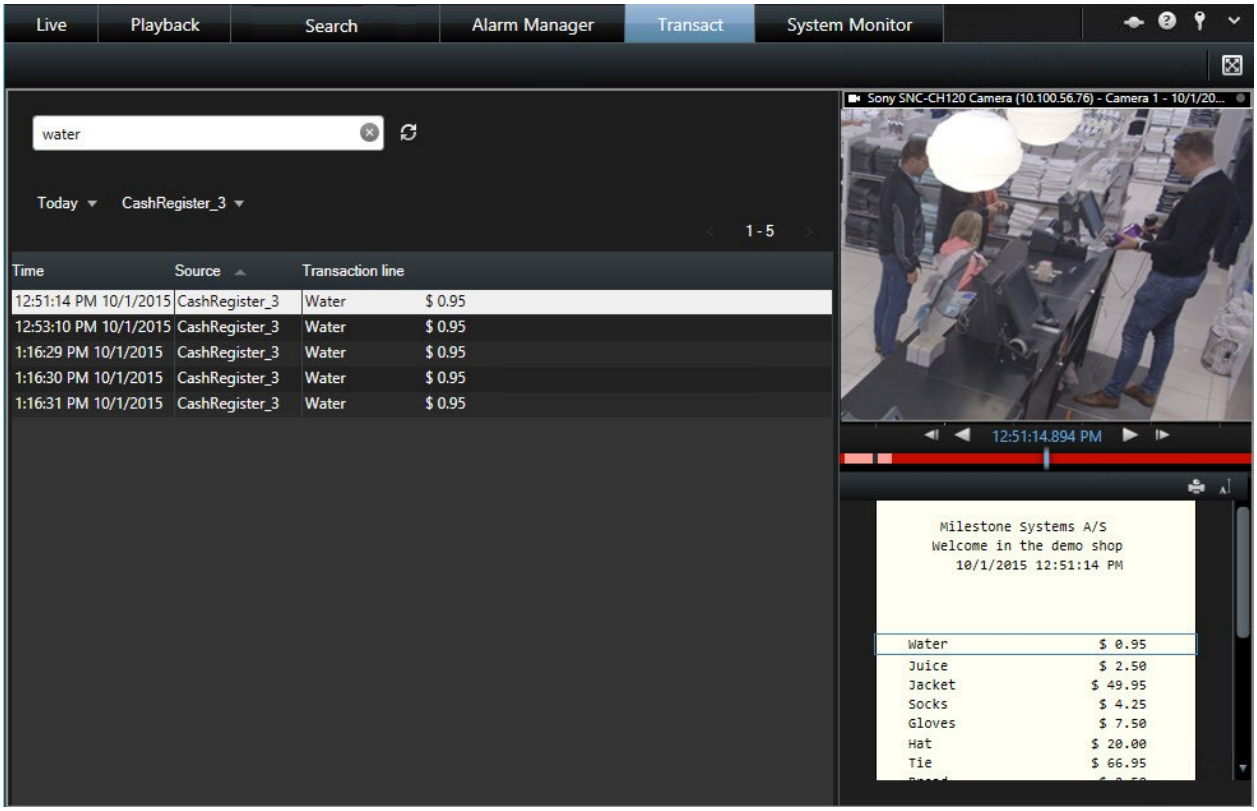
ナンバープレートマッチリスト機能を使用すると、既存のマッチリストを更新することができます。

Transactタブ(説明付き)

[Transact]タブでは、検索とフィルタリングを使用してトランザクションを調査し、ビデオ録画とレシートを組み合わされたビューで表示します。

検索フィールドと2つのフィルターがあります。

- 検索フィールド:検索語をここに入力し、フリーテキスト検索を実行します。検索によって、検索語を含むトランザクションラインが返され、大文字と小文字は区別されません。レシートでは、検索に一致するトランザクションラインがハイライト表示されます。
- タイムインターバル:このフィルターを使用して、過去7日などのタイムインターバルを指定します。また、任意のカスタム間隔を設定することもできます。デフォルトでは、このフィルターは今日に設定されています。
- ソース:このフィルターを使用して、トランザクションを表示するトランザクションソースを選択します。デフォルトでは、このフィルターはすべてに設定されています。



XProtect Smart Clientの紹介

XProtect Smart Clientのさまざまなエリアを熟知しましょう。

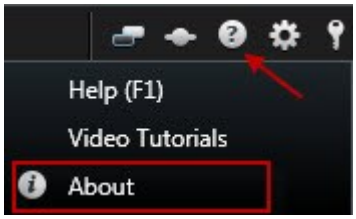
バージョンおよびプラグイン情報の表示

使用しているXProtectSmartClientの正確なバージョンを知ることは、サポートが必要なときや、アップグレードするときなどに重要になります。そのような場合、XProtectSmartClientがどのプラグインを使用しているかについても知っておく必要があります。

XProtectSmartClientのバージョンは、どのXProtectサーバーのバージョンと互換性があるのかに影響を与える可能性もあります。

手順：

1. XProtect Smart Clientを開きます。
2. ツールバーで[ヘルプ] > [概要]をクリックします。ウィンドウが表示されます。



ユーザーの権限(明記済み)

ユーザー権限はシステム管理者によって、および特定のXProtect Smart Client機能の使用権限を設定する立場にある人物によって指定されます。

基本的に、システム管理者が制限できるユーザー権限には次のものがあります。

- XProtect Smart Clientへのアクセス
- それぞれのタブへのアクセス: ライブ、再生、アラームマネージャ、検索
- モードの設定
- 特定の機能の使用
- 通常1台または複数のカメラのビデオが含まれるビューを作成
- 特定のカメラからのビデオの表示

XProtect Smart Clientの機能を使用する権限は、ユーザーによってかなり異なることがあります。

ユーザー権限は時刻や曜日などによって異なる可能性もあります。たとえば、月曜日～金曜日の特定の時間帯はビデオを表示でき、それ以外の時間は表示できないといった場合です。

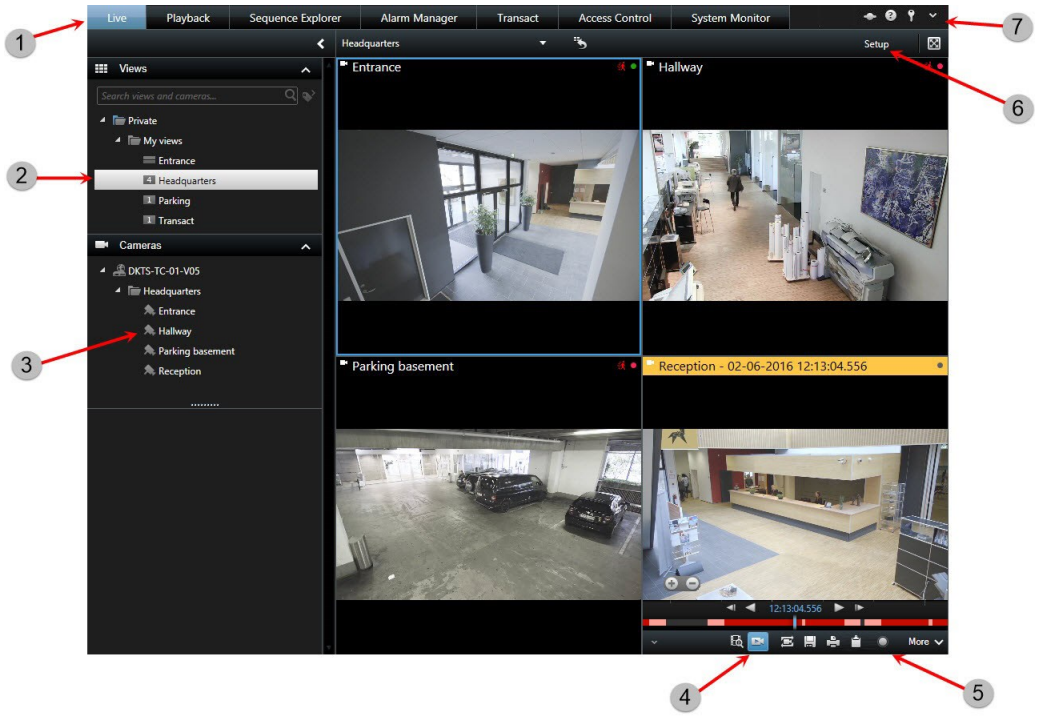
XProtect Smart Clientのモード(説明付き)

XProtect Smart Clientには2つのモードがあります。

- 簡易モード - ライブおよび再生タブのみが使用でき、制限されたタスクを実行できます。
- 詳細モード - すべての機能とタブを使用できます。セットアップモードにアクセスできます。詳細については、ページ164の再生タブの概要を参照してください

> デフォルトは詳細モードです。簡易モード・詳細モードの切替ボタンをクリックすると、モードを切り替えられます。

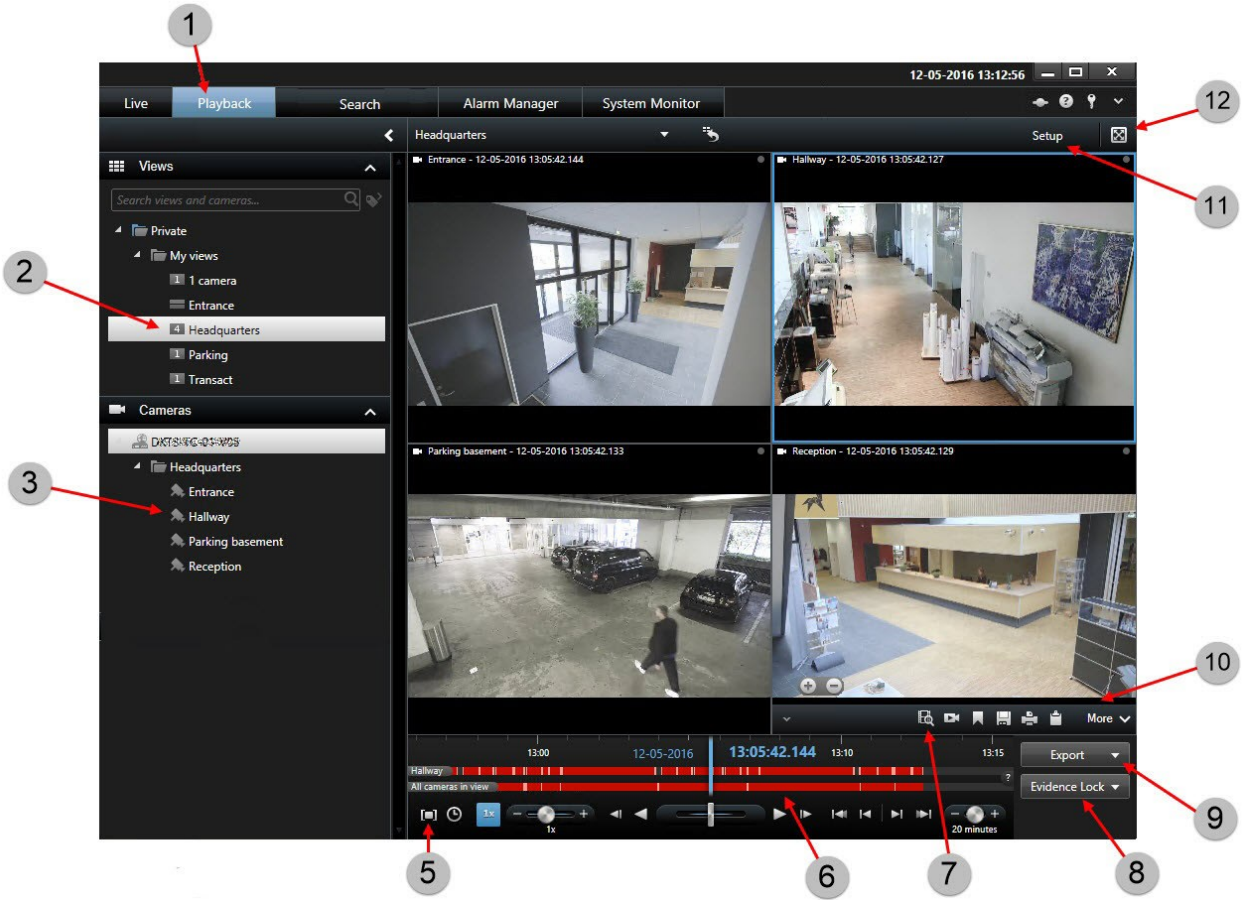
ライブタブの概要



番号	説明
1	異なる作業領域。ページ157のXProtect Smart Clientにおけるタブも参照してください。
2	ビューを選択します。ページ166のビューとショートカット(説明付き)も参照してください。
3	ビューで一時的にカメラを変更します。ページ232の一時的に各カメラを変更も参照してください。
4	個々のカメラの録画ビデオを表示します。ページ188のタイムラインとは別に録画されたビデオを表示も参照してください。
5	カメラツールバー。ページ168のカーソルをカメラビュー項目の上に動かすと、カメラツールバーが表示されます。も参照してください。.
6	設定モードに入るか終了し、カメラや他のタイプのコンテンツをビューに追加します。ページ38の設定モードオー

番号	説明
	バービューも参照してください。
7	アプリケーションボタン。ページ170のアプリケーションボタンの概要も参照してください。

再生タブの概要



番号	説明
1	[再生]タブで録画ビデオを表示します。ページ186の録画されたビデオを見る(説明付き)も参照してください。

番号	説明
2	ツリー構造でビューを選択するか、キーボードのショートカットを使用します。ページ174のキーボードショートカット(説明付き)も参照してください。
3	一時的に個々のカメラを変更します。ページ232の一時的に各カメラを変更も参照してください。
5	ビデオをエクスポートするタイムスパンを選択します。ページ185のタイムナビゲーションのコントロール(説明付き)も参照してください。
6	タイムラインを使用して参照します。ページ183のタイムライン(説明付き)も参照してください。
7	事前に選択されたカメラを使い、新しい検索ウィンドウを開きます。ページ189のカメラまたはビューから検索を実行を参照してください。
8	エビデンスロックを作成します。ページ250のエビデンスロックの作成も参照してください。
9	ページ191のビデオ、音声、静止画像のエクスポートを行います。
10	カメラツールバーでさまざまなアクションを行います。ページ168のカメラツールバーオーバービューも参照してください。
11	設定モードに入るか終了し、カメラや他のタイプのコンテンツをビューに追加します。ページ38の設定モードオーバービューも参照してください。
12	全画面表示モードに切り替えます。

ビューおよびビューグループ(説明付き)

XProtect Smart Clientでビデオを表示する方法をビューと呼びます。お使いになっているXProtect VMSシステムに応じて、ビューには最高100台のカメラからのビデオを含めることができます。XProtect Smart Clientでは無制限の数のビューを取り扱うことが可能で、さまざまなグループのカメラからのビデオの間で切り替えることができます。

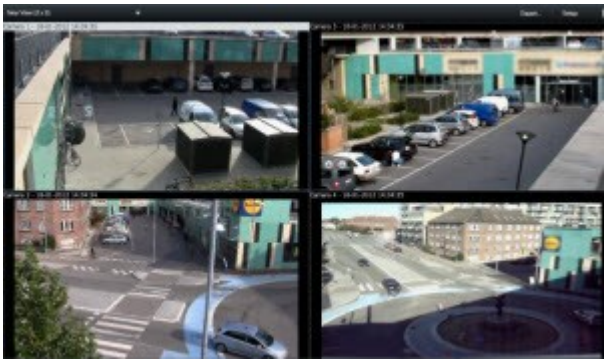
ビューは、[ライブ]および[再生]タブの[ビュー]ペインで利用できます。

各ビューのレイアウトは、コンテンツに合わせてカスタマイズすることができます。分かりやすい全体図を維持するため、すべてのビューはグループと呼ばれるフォルダーに分類されます。1つのグループには、無制限の数のビューと、必要に応じてサブグループを含めることができます。

ビデオのほか、ビューにはWebページや顔写真、テキスト、アラーム、地図など他のタイプのコンテンツも含めることができます。プラグインを使用している場合、ビューには他のアプリケーションからのデータが表示されることもあります。XProtect® Transactにビデオストリームと組み合わせたレジの領収書が表示される場合などです。ページ166のビューの内容も参照してください。

ビューに関する情報などのユーザー設定はXProtect VMSサーバーに一元的に格納されるため、XProtect Smart Clientがインストールされているどのコンピュータでもビューを使用できます。

2x2ビューの例



ビューとショートカット(説明付き)

ビューに番号が割り当てられている場合は、キーボードのショートカットを使用してビューを選択できます。[ライブ]および[再生]タブの設定モードでビューに番号を割り当てます。ページ38の設定モードオーバービューも参照してください。

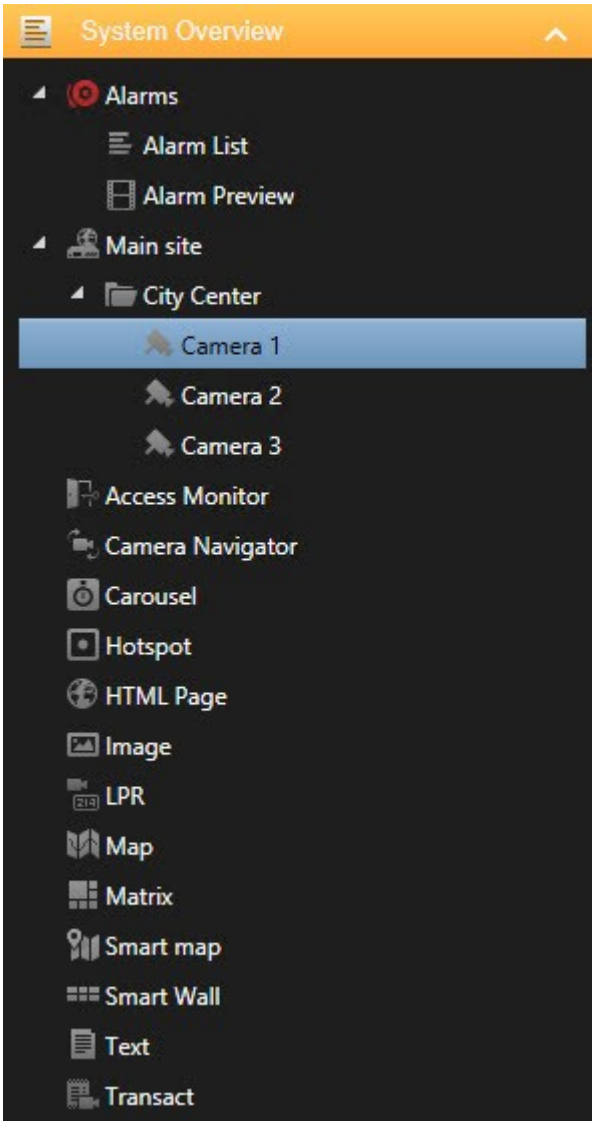
> ⚠ 数字キーボードの使用時にのみ、キーボードのショートカットを使用してビューを選択できます。

例

特定のビューに「1」を割り当てた場合は、* + 1 + ENTERを押してビューを選択します。

ビューの内容

希望のレイアウトのビューを定義したら、異なるタイプのコンテンツをビューアイテムに追加することができます。セットアップモードでは、これらのアイテムをシステム概要ペインからビューアイテムへドラッグアンドドロップできます。

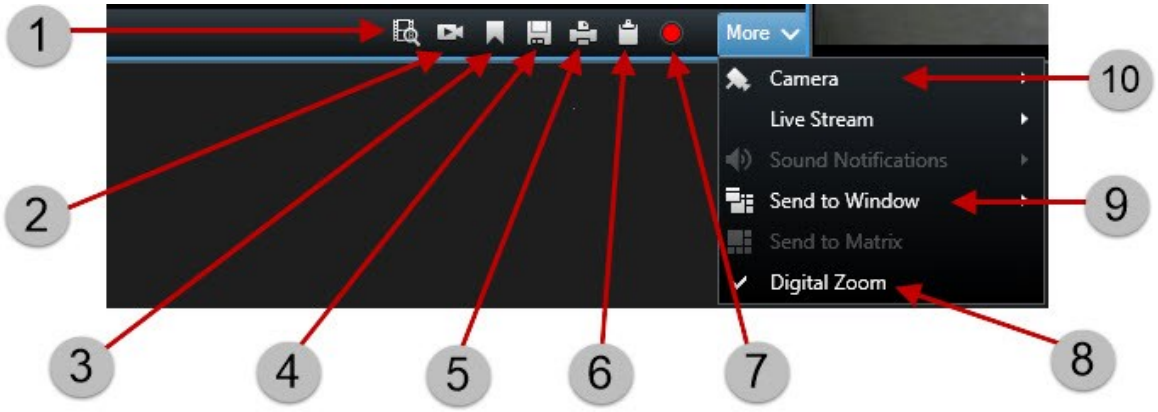


- アラーム - アラームリストおよびアラームプレビューです。アラームマネージャータブにもあります。
- カメラ- ライブカメラからのビデオフィードまたは再生されたビデオ。システム管理者により定義された名前の下にカメラが表示されます。
- アクセスモニター - XProtect® Accessがインストールされていれば、アクセスモニターの設定ができます。例えば特定のドアなどです。
- カメラナビゲーター - マップ上でカメラをナビゲートできます
- 自動切換 - 指定したペースでカメラを切り替えることができます
- ホットスポット- カメラが高解像度またはフレーム値にフォーカスしていても、ホットスポットウィンドウはどこにでも表れます。
- HTMLページ - Webページをビュー内にインポートします。例えば、オンラインニュースチャネルのWebアドレスなどです

- イメージ - ビューにイメージを加える、たとえば、例疑わしい画像を配布したい時
- LPR - XProtect® LPR をインストールしてLPRカメラをビューに追加する
- マップ - 間取り図や地理的エリア
- Matrix - ビューにMatrixの位置を追加します。ページ284のMatrix (説明付き)も参照してください
- スマートマップ - 既存のオンラインマップサービスに基づく世界地図 (Google MapsやOpenStreetMapなど)。
- Smart Wall - XProtect Smart Wallがシステム管理者によって設定されている場合は、Smart Wallの概要をビューに追加すると、Smart Wallに表示される内容を管理できます。「XProtect Smart Wall (説明付き)」を参照してください。
- テキスト - ビューにテキストを追加します
- トランスアクト - XProtect Transactシステムにインストールされたら、カメラとPOSシステムを一緒に追加できます。

カメラツールバーオーバービュー

カーソルをカメラビュー項目の上に動かすと、カメラツールバーが表示されます。



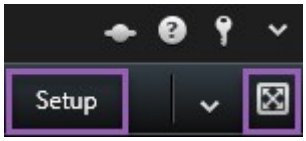
番号	説明
1	カメラが事前に選択されている新しい検索ウィンドウを開きます。ページ189のカメラまたはビューから検索を実行も参照してください。
2	タイムラインとは別に録画されたビデオを表示します。ページ188のタイムラインとは別に録画されたビデオを表示も参照してください。
3	ビデオにブックマークを付けます。ページ240のブックマークを追加または編集するも参照してください。

番号	説明
4	表示されている内容の簡易なスナップショットを撮ります。ページ183の枚のスナップショットを撮るも参照してください。
5	単一のカメラから監視レポートを印刷します。ページ198の単一カメラからレポートを印刷も参照してください。
6	単一の画像をクリップボードにコピーします。ページ200の画像をクリップボードにコピーも参照してください。
7	単一のカメラから手動でビデオを録画します。ページ182のも参照してください。
8	デジタルズームを有効にします。ページ179のデジタルズームの使用も参照してください。
9	一時的にビュー項目でカメラを変更します。ページ232の一時的に各カメラを変更も参照してください。

タスクボタンの概要

タスクボタンは2つの異なる場所にあります。

- 右上コーナー。

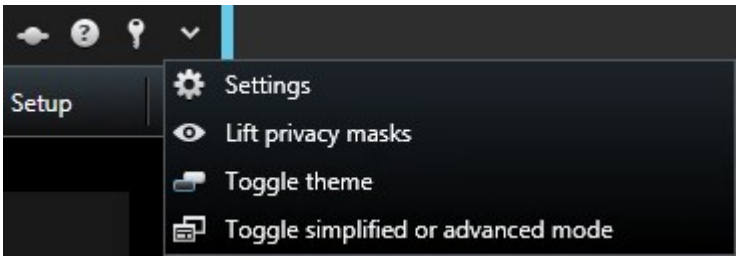


- 右下コーナー。

使用できるタスクボタンは、ユーザーが使用中のタブに応じて異なります。たとえば、設定はすべてのタブでは使用できません。

ボタン	説明
設定	クリックすると設定モードに入ります。ページ38の設定モードオーバービューも参照してください。
エクスポート	クリックするとビデオデータをエクスポートできます。ページ191のビデオ、音声、静止画像のエクスポートも参照してください。
エビデンスロック	クリックすると、エビデンスロックを作成できます。ページ250のエビデンスロックの作成も参照してください。
取得	クリックすると、エッジストレージをサポートする相互接続されたデバイスまたはカメラから録画を取得できます。
全画面表示モードのトグル	クリックすると、全画面表示と、希望するサイズに調整できる小さいウィンドウの間で切り替えられます。

アプリケーションボタンの概要



ツールバーのアプリケーションボタンを使用すると、XProtect Smart Clientの基本的なアクションを選択できます。

ボタン	説明
ステータス	ステイタスウィンドウにアクセス。ページ172のステータスウィンドウ(説明付き) ステータスウィンドウを開くには、アプリケーションのツールバーにあるステータスボタンをクリックします。ステータスウィンドウには、次の情報があります。XProtect Smart ClientがMilestone Federated Architectureを介して接続されているXProtect VMSサーバーのステータス。詳細については、ページ173のログイン情報を参照してください。エッジストレージをサポートする相互接続されたデバイスまたはカメラからデータを取得するために作成されたジョブ。詳細については、ページ173のジョブを参照してください。ユーザー権限が割り当てられている既存のエビデンスロック。詳細については、ページ173のエビ

ボタン	説明
	デンスロック リストを参照してください。ボタンに赤い丸が表示されている場合は、1台または複数のサーバーが使用不可です。ステータスを表示すると、サーバーが使用不可の場合でも、ボタンの赤色点滅が停止します。ログイン情報ここでは、お使いになっているXProtect Smart Clientが接続されているXProtect VMSサーバーのステータスを表示できます。このウィンドウは、Milestone Federated Architectureをサポートするの XProtect VMSシステムに接続している際に役立ちます。Milestone Federated Architectureは、関連はあっても物理的に分離されているXProtect VMSシステムに接続する方法です。このような設定は、別個ながらも関連しているXProtect VMSシステムが多数ある店舗のチェーンなどに適しています。サーバーが使用できる場合は、グレーで表示されます：ログイン時にサーバーが使用できない場合、サーバーに付属するカメラまたは機能も使用できなくなります。使用できないサーバーは、赤色で表示されます。表示されるサーバー数は、ログイン時にXProtect VMSシステムから取得できるサーバー数を反映しています。特に、高いハイアラーキーのサーバーと接続している場合には、ログイン後、より多くのサーバーが利用可能になることがあります。サーバーのリストは、サーバーステータスの静的表示になります。サーバーが使用できない場合、クリックするとステータスフィールドに理由が表示されます。サーバーに接続するには、サーバーの読み込みボタンをクリックします。そのサーバーのサーバーステータスが更新されます。より長期間、サーバーを利用できない場合は、システム管理者に連絡して助言を求めてください。ジョブXProtect Smart ClientがMilestone Interconnect™システムに含まれ、エッジストレージをサポートする内部接続されたハードウェアデバイスまたはカメラからデータを取得する権限がある場合、これらのデバイスの各データ取得要求に対して作成されたジョブを閲覧できます。取得要求のあった各カメラは、個別のジョブとして表示されます。ここで、実行中のジョブの進行状況を表示し、ジョブを停止できます。関連付けられた音声は自動的に取得されますが、これらのジョブは表示されません。ジョブが完了すると、デバイスのタイムラインは自動的に更新されます。自分がリクエストしたジョブのみを表示したい場合は、自分のジョブのみを表示するフィルターを選択してください。エビデンスロック リストエビデンスロックリストをソート、フィルタリング、および検索し、詳細情報を確認できます。ユーザー権限が割り当てられているデバイスのエビデンスロックのみが表示されます。詳細については、ページ252のエビデンスロックを表示するを参照してください。も参照
ヘルプ	ヘルプシステムにアクセスするには、オンラインビデオチュートリアルを見るか、バージョンナンバーとプラグイン情報を見る。ページ161のバージョンおよびプラグイン情報の表示も参照してください。
ログアウト	XProtect Smart Clientからログアウトします。ページ156のログインおよびログアウトも参照してください。
設定	XProtect Smart Clientの設定と動作、ジョイスティック、キーボードショートカット、言語などを構成します。ページ39の設定ウィンドウを参照してください。
プライバシー	必要な権限があるユーザーは一時的にプライバシーマスクを外すことができます。ページ259のプライバシーマスクの適用と除去を参照してください。

ボタン	説明
マスクの除去	
テーマのトグル	XProtect Smart Clientのテーマを切り替えて暗くするか明るくできます。
簡易モードと詳細モードの切り替え	シンプルモードとアドバンスモードの切り替えページ162のXProtect Smart Clientのモード(説明付き)。

ステータスウィンドウ(説明付き)

ステータスウィンドウを開くには、アプリケーションのツールバーにあるステータスボタンをクリックします。

ステータスウィンドウには、次の情報があります。

- XProtect Smart ClientがMilestone Federated Architectureを介して接続されているXProtect VMSサーバーのステータス。詳細については、ページ173のログイン情報を参照してください。
- エッジストレージをサポートする相互接続されたデバイスまたはカメラからデータを取得するために作成されたジョブ。詳細については、ページ173のジョブを参照してください。
- ユーザー権限が割り当てられている既存のエビデンスロック。詳細については、ページ173のエビデンスロックリストを参照してください。

ボタンに赤い丸が表示されている場合は、1台または複数のサーバーが使用不可です。ステータスを表示すると、サーバーが使用不可の場合でも、ボタンの赤色点滅が停止します。

ログイン情報

ここでは、お使いになっているXProtect Smart Clientが接続されているXProtect VMSサーバーのステータスを表示できます。このウィンドウは、Milestone Federated Architectureをサポートする XProtect VMSシステムに接続している際に役立ちます。Milestone Federated Architectureは、関連はあっても物理的に分離されているXProtect VMSシステムに接続する方法です。このような設定は、別個ながらも関連しているXProtect VMSシステムが多数ある店舗のチェーンなどに適しています。

サーバーが使用できる場合は、グレーで表示されます：

ログイン時にサーバーが使用できない場合、サーバーに付属するカメラまたは機能も使用できなくなります。使用できないサーバーは、赤色で表示されます。

表示されるサーバー数は、ログイン時にXProtect VMSシステムから取得できるサーバー数を反映しています。特に、高いハイアラーキーのサーバーと接続している場合には、ログイン後、より多くのサーバーが利用可能になることがあります。サーバーのリストは、サーバーステータスの静的表示になります。サーバーが使用できない場合、クリックするとステータスフィールドに理由が表示されます。サーバーに接続するには、サーバーの読み込みボタンをクリックします。そのサーバーのサーバーステータスが更新されます。より長期間、サーバーを利用できない場合は、システム管理者に連絡して助言を求めてください。

ジョブ

XProtect Smart ClientがMilestone Interconnect™システムに含まれ、エッジストレージをサポートする内部接続されたハードウェアデバイスまたはカメラからデータを取得する権限がある場合、これらのデバイスの各データ取得要求に対して作成されたジョブを閲覧できます。

取得要求のあった各カメラは、個別のジョブとして表示されます。ここで、実行中のジョブの進行状況を表示し、ジョブを停止できます。関連付けられた音声は自動的に取得されますが、これらのジョブは表示されません。ジョブが完了すると、デバイスのタイムラインは自動的に更新されます。

自分がリクエストしたジョブのみを表示したい場合は、自分のジョブのみを表示するフィルターを選択してください。

エビデンスロックリスト

エビデンスロックリストをソート、フィルタリング、および検索し、詳細情報を確認できます。ユーザー権限が割り当てられているデバイスのエビデンスロックのみが表示されます。詳細については、ページ252のエビデンスロックを表示するを参照してください。

キーボードショートカット(説明付き)

ライブタブや再生タブで作業する場合、簡単なキーボードのショートカットを多数使用できます。

こうしたショートカットは、Matrixコンテンツや静止画像を含んでいるビュー位置では使用できません。

押すキー	実行される操作
ENTER	ビューで選択した項目の最大化された表示と通常の表示を切り替えます。
ALT	ビュー内で特定のビュー項目を選択します。最初にALTを押します。開いているウィンドウごとに番号が表示されます。たとえば、2番目のウィンドウでビュー項目を選択したい場合は、2を押します。複数の番号が表示されます(2番目のウィンドウで表示できるビュー項目ごとにひとつ)。選択したいビュー項目の番号を押します(たとえば、4)。ビュー項目に焦点が当てられると、青いフレームでマークされます。 PTZカメラまたはホットスポットを使用している場合は、ジョイスティックでカメラをコントロールしたり、マウスを使わなくてもビュー項目を直接、ホットスポットに送ったりできるようになります。
/+<カメラのショートカット番号>+ENTER	選択されたビューアイテムに表示されているカメラを、押したショートカット番号のカメラと置き換えます。例: 必要なカメラのショートカット番号が6の場合は、/+ 6+ENTERを押します。 XProtect VMSシステムでは必ずしもカメラのショートカット数を使用しない可能性があります。これはサーバーで定義されます。
/+ENTER	選択されたビューアイテムに表示されているカメラを、デフォルトのカメラと置き換えます。
/+/+ENTER	すべてのビューアイテムに表示されているカメラを、デフォルトのカメラと置き換えます。
*+<ビューのショートカット番号>+ENTER	選択されたビューを、ショートカット番号が一致するビューに変更します。例: 必要なビューのショートカット番号が8の場合は、*+ 8+ENTERを押します。 ビューのショートカット番号を使用すると、[ビュー]ペインの[ライブ]および[再生]タブでこれを表示できます(ビューの名前の前に括弧で示されます)。

押すキー	実行される操作
6 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を1つ右へ移動させます。
4 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を1つ左へ移動させます。
8 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を1つ上へ移動させます。
2 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を1つ下へ移動させます。

XProtect Smart Clientでは、特定のアクションに独自のカスタムショートカットキーの組み合わせを割り当てることもできます。ページ46のキーボード設定も参照してください。

カメラのナビゲーション

XProtect Smart Clientでのカメラ内またはカメラ間のナビゲーション方法をいくつか説明します。

ページ271のスマートマップ(説明付き)とページ278のマップ(説明付き)も参照してください。

ホットスポット(説明付き)

ホットスポットでは、ビューの専用の位置で選択されたカメラから質の高い拡大されたビデオを表示できます。カメラの場合は通常のビューの位置で低い画質やフレームレートを使用でき、ホットスポットでは高い画質やフレームレートを利用できるのでホットスポットは便利です。これによって、リモート接続の帯域幅を節減できます。

以下の2種類のホットスポットがあります。

- グローバルホットスポット。カメラがメインウィンドウかセカンダリディスプレイかに関係なく、選択されたカメラを表示します。
- ローカルホットスポット。ローカルディスプレイの選択されたカメラのみを表示します。

ビューの大きな位置のいずれかにホットスポットがあれば役に立ちます (1+7ビューの大きな位置など)。

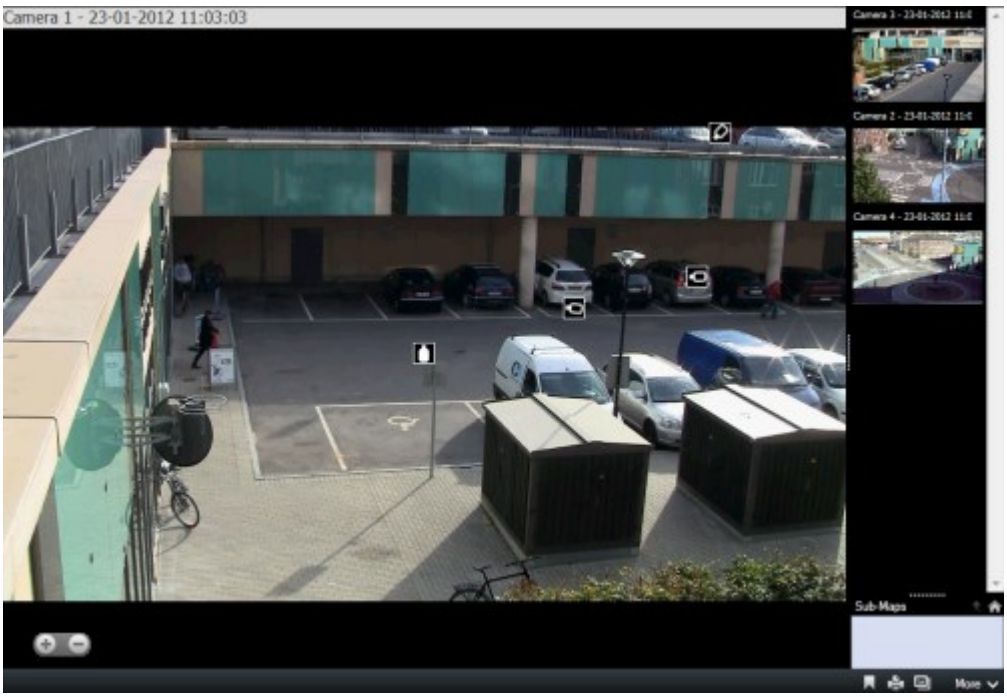
ホットスポットの使用

- ビューでカメラをクリックすると、そのカメラのビデオフィードでホットスポットの位置が更新されます
- タイトルバーにはホットスポットアイコンが表示されます。

ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、ホットスポット(またはビュー内の他のカメラの位置)をダブルクリックして最大化できます。この場合、選択している画質に関係なく、ホットスポットのビデオが最高の画質で表示されます。最大化した場合でも、選択している画質が適用されることを確認するには、設定モードのプロパティペインで、最大画面で画質を保持を選択します。

カメラナビゲータ(説明付き)

カメラナビゲータにより、たとえば、間取り図に基づいて配置されているかなど、複数のカメラの相対関係を表示して確認することができます。ひとつのカメラから別のカメラに人や物を追跡したい場合に役立ちます (建物内を動き回る容疑者を追う場合など)。地図または間取り図に従ってカメラを設定することで、1つのビューで1つのカメラから次のカメラに移動できます。



背景のマップ自体は表示されませんが、マップに配置したカメラアイコンは表示されます。

現時点でフォーカスされていないカメラが右側のサムネイル画像に表示されます。距離が近いものから順に並んでいます。

ホットゾーンを通して相互に関連付けられている複数のマップに基づいてビューを定義することで、1つの階から別の階へ移動したり、建物から出て行く人物を追跡する場合のように、あるマップ上のカメラから、サブマップ上の別のカメラへ動きを追跡することができます。サブマップペインからは、マップのホットゾーンを通して関連づけられているマップに設定されたカメラにアクセスできます。

カメラナビゲーターの使用

カメラナビゲーターを使って、該当するカメラ間をマップに従って配置されているとおりに移動します。

要件

カメラナビゲーターは、必ず設定を終えてからビューに追加します。ページ78のカメラナビゲーター(設定)を参照してください。

手順：

1. [ライブ]タブまたは[再生]タブで、カメラナビゲーターを含むビューを開きます。マップのデフォルトのカメラからのビデオが表示されます。
2. マップ上のその他のカメラのビデオを見るには、フォーカスされていないカメラのアイコンをクリックします。右側のサムネイル一覧内でカメラの位置を入れ替えることもできます。
3. クリックしてカメラの選択を戻すには、右上の[戻る]ボタンをクリックします。
4. デフォルトのカメラに戻るには、右上の[ホーム]ボタンをクリックします。
5. サブマップに移動している場合は、[上へ]をクリックして前のマップに戻るか、[ホーム]をクリックしてデフォルトのビューに戻ります。

画面自動切替(説明付き)

画面自動切替を使用すると、ビューの1つの位置で複数のカメラからのビデオを次々に再生することができます。画面自動切替に含めるカメラと、カメラ間で切り替える間隔を指定できます。画面自動切替はツールバーの画面自動切替アイコンとともに表示されます。

> 魚眼レンズカメラは画面自動切替には含められません。

画面自動切替位置をダブルクリックすると、画面自動切替を最大化できます。この場合、選択している画質の設定に関係なく、画面自動切替に含まれているカメラのビデオは、デフォルトで最高の画質で表示されます。この画面自動切替のデフォルト設定を上書きすることはできません。

カメラがサポートしている場合は、画面自動切替でデジタルズームとPTZコントロールを使用できます。PTZ (ページ263のPTZ画像(説明付き) を参照) または表示されるデジタルズームコントロールを使用すると、画面自動切替機能は自動的に一時停止します。

画面自動切替を使用する

画面自動切替を含むビューがある場合は、このアイコンがカメラの名前の隣にあるタイトルバーに表示されます。.

要件

- 画面自動切替は、使用する前に設定する必要があります。ページ79のカルーセルをビューに追加を参照してください。
- カメラタイトルバーのデフォルトが[設定]ウィンドウ内にて[表示する]に設定されている必要があります。

手順:

1. ライブタブで、画面自動切替を含むビューを開きます。ビューアイテムの上にカーソルを置くと、このツールバーが表示されます。 .
2. 画面自動切替は自動的に起動します。一時停止するには、[一時停止]ボタンをクリックします。
3. 画面自動切替で次のカメラ、または前のカメラに移動するには、前のカメラまたは次のカメラボタンをクリックします。
4. ツールバーで使用できる追加アクション:
   - カメラが配置されているスマートマップ上の場所に移動する
   - 現在フォーカスしているカメラを新しいウィンドウで検索する
   - スナップショットを作成する
   - クリップボードにコピーする

> 画面自動切替位置をダブルクリックすると、画面自動切替を最大化できます。選択している画質の設定に関係なく、画面自動切替に含まれているカメラのビデオは、デフォルトで最高の画質で表示されます。

デジタルズーム(説明付き)

デジタルズームを使って画像の一部だけを拡大表示できるため、その部分を詳しく見ることができます。これはライブモードと再生モードの両方で作動します。

デジタル ズームは、独自のオプティカル ズーム能力のないカメラで有用な機能です。デジタル ズームを使用しても、ビデオの録画には影響しません。カメラの通常の形式でも録画はまだ行われます。

> PTZではないカメラでは、デジタルズームはデフォルトで有効になっています。1台のカメラでデジタルズームを有効または無効にすると、ビューにあるすべてのカメラに影響します。PTZカメラでは、この設定は一度に1台のカメラにだけ適用されます。

エビデンスをエクスポートする場合、AVIまたはJPEGフォーマットであれば、標準の画像またはデジタルズームした画像のどちらをエクスポートするか選択できます。データベースフォーマットでエクスポートする場合は、受信者が、エクスポートされた記録をデジタルズームできるため、この選択はできません。デジタルズームを使用した画像を印刷する場合は、その画像のデジタルズームされた部分が印刷されます。

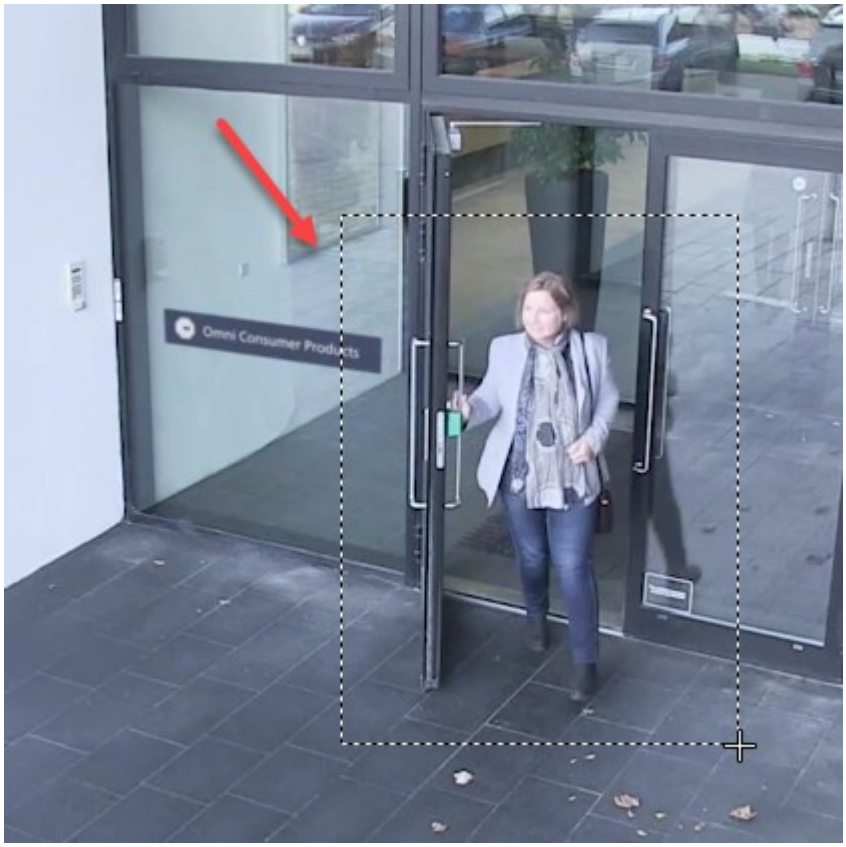
デジタルズームの使用

要件

デジタルズームを有効にするには、カメラのツールバーで[その他]をクリックし、[デジタルズーム]を選択します。

手順：

1. 画像の内部をクリックしてドラッグするとズームできます。選択したエリアは、点線で強調表示されます。マウスボタンを離すと、ズームが適用されます。



2. ズームレベルを維持したままその画像の他のエリアへ移動する場合は、全体図フレーム内で、強調表示されているエリアをドラッグして必要な位置へ移動させてください。

3. ズーム レベルを調整するには、画像の内部をクリックし、マウスのスクロールホイールを使用してください。

4. 仮想ジョイスティック内のホームアイコンをクリックし、通常のズームレベルに戻ります。

仮想ジョイスティックおよびPTZオーバーレイボタン(説明付き)

ビューに魚眼カメラや魚眼レンズ、またはPTZデバイスが含まれている場合は(ページ263のPTZおよび魚眼レンズ画像(説明付き)を参照)、仮想ジョイスティックまたは画像内部に表示されるPTZナビゲーションボタンを使用すると画像をナビゲートできます。

仮想ジョイスティック:

マウスをビューへ移動させた時にカメラのツールバーをポップアップ表示させたくない場合は、CTRLキーを押したまま、マウスを動かします。

生のビデオを閲覧する

ライブビデオは主に[ビュー]ペインでビューのいずれかの[ライブ]タブで表示できます。ライブビデオを表示するビューアイテムには異なるアクションがあります。例えば、注意が必要な場合は、ズームインして詳細を表示するか、手動で録画を開始できます。

ライブビデオ(説明付き)

カメラからのビデオストリームは、必ずしも録画されているとは限りません。通常、録画は例えば、毎朝10:00～11:30というように、スケジュールにのっとって行われます。またはVMSシステムが、例えば、部屋に入る人物によって作成された動作など特別なイベントを検出したあらゆる場合です。

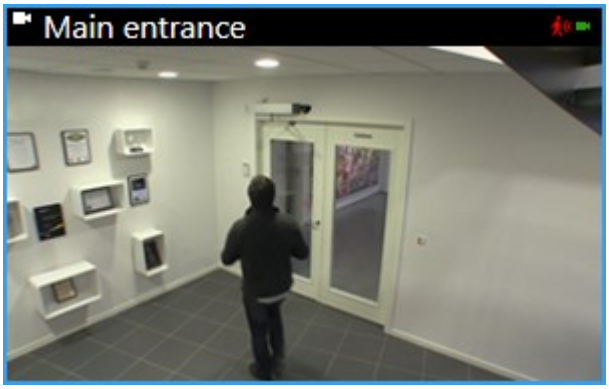
タイトル バーが有効になっている場合、画像の上のタイトル バーはビデオが録画されているかどうかを示します。カメラが短時間しか録画していない場合もあります。これは、例えばドアが開いた場合など、モーションが発生した時のみ録画するようシステムサーバーが設定されているために、録画時間が短くなっている場合です。

サーバーで複数のストリームが設定されている場合、カメラツールバーから選択すると、一時的に別のストリームを表示できます。カメラのツールバーで、詳細をクリックして、使用可能なリストからストリームを選択します。

録画されたインシデントを調査するには、[再生]タブに移動します。詳細検索を実行するには、[検索]タブに移動します。

カメラインジケータ(説明付き)

カメラインジケータには、カメラビューアイテムに表示中のビデオのステータスを表します。カメラインジケーターは、カメラのタイトル バーが[アプリケーション]タブの[設定]ウィンドウで有効になっている場合にのみ表示されます。



カメラのタイトル バーは、個々のビュー項目でオンまたはオフにできます。[ライブ]または[再生]タブで[設定]をクリックし、[プロパティ]ペインで[タイトル バーを表示]チェックボックスを選択します。

このリストは、以下の際に表示される各種カメラインジケータについて示しています：

- モーションが検出されました。(画像内部をクリックしてモーションインジケータをリセットします)
- カメラとのサーバー接続喪失
- カメラからのビデオを録画
- カメラとの接続確立(このアイコンはライブビデオ専用です)
- 録画されたビデオを再生
- 2秒以上にわたって新たな画像がサーバーから送られていない

カメラプロパティでは、モーションが検出された際の音声通知を加えることができます。

ビデオの手動録画

この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

ライブビデオを見ながらの録画は、何かを発見した場合に便利です。

手順：

録画したいビュー項目のカメラツールバーで、以下のオプションのいずれかを選択します。

- #分の記録開始

  録画は開始された後、システム管理者の定めた期間 (分) 続きます。ユーザーが分数を変更することや、指定の分数が経過する前に録画を停止することはできません。

- 手動録画を開始

  録画は開始された後、システム管理者の定めた期間 (分) 続くか、アイコンを再びクリックすると手動で録画を停

止できます。

> 複数のカメラで同時にビデオストリームの録画を開始できますが、ひとつひとつ選択する必要があります。

枚のスナップショットを撮る

ライブビデオまたは録画ビデオを再生しながら、またはビデオを検索しながら、その場でスナップショットを撮って共有することができます。静止画像が保存されているフォルダーへのパスは、[アプリケーション設定の下の[設定]ウィンドウで指定します。

要件

アプリケーションの[設定]ウィンドウで、かならずスナップショットを「利用可」に設定してください。

手順:

1. [ライブ]または[再生]タブにいる場合:
    1. カメラ、ホットスポット、画面自動切替、または、カメラナビゲーターが含まれるビューアイテムの上にカーソルを合わせます。
    2. ツールバーで クリックします。アイコンがすぐに緑色になります。
2. [検索]タブが開いている場合は、検索結果をダブルクリックして、カメラツールバーの をクリックします。アイコンがすぐに緑色になります。
3. スナップショットにアクセスするには、スナップショットが保存されているファイルの場所に移動します。ページ39の設定ウィンドウを参照してください。

> 画像にプライバシーマークが含まれる場合は、このプライバシーマークもスナップショット画像に適用されます。

インシデントの調査

主にタイムラインを用いて再生タブ上でインシデントを調査します。ただし、[検索]タブで詳細な検索を行い、さらなる調査の起点として検索結果を使用できます。

インシデントがアラームと関連付けられている場合は、[アラーム マネージャー]タブを選択するか、[アラーム リスト]が追加されたビューを選択します。

タイムライン(説明付き)

タイムラインには、現在のビューで表示されているすべてのカメラの記録期間の概要が表示されます。タイムラインエリアには、2本のタイムラインが表示されます:

- 上のタイムラインには、選択したカメラの録画期間が示されます。
- 下のタイムラインには、ビューにあるすべてのカメラが示されます(選択したカメラを含む)。フロートウィンドウをリンクした場合は、下のタイムラインにも表示されます。

これらの色はタイムラインに表示されます:

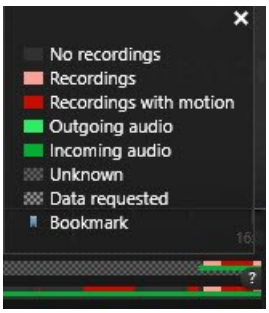
- 明るい赤は記録を表します
- 赤はモーションを表します
- 明るい緑は受信音声を表します
- 緑は送信音声を表します

追加のマーカーと色

XProtect VMSシステムでさらなるデータソースを利用できる場合、これらのソースからのインシデントは他の色でマーカーとして表示されます。インシデントはタイムラインのポップアップとして表示されます。

追加リソースのマーカーと色を表示するには、[追加データ]と[追加マーカー]は[タイムライン]設定で有効になっているか、システム管理者によりサーバー側で有効になっていなくてはなりません。ページ44のタイムライン設定を参照してください。

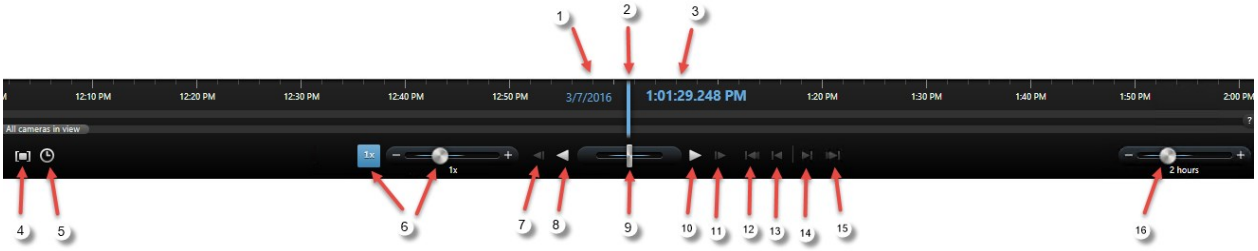
色分けの凡例を表示するには、右端にある小さな疑問符をクリックします。



時間を移動するにはタイムラインを左右にドラッグするか、マウスホイールを使用します。

タイムラインの範囲を調整するには、CTRLを押しながら、スクロールホイールを使用します。

タイムナビゲーションのコントロール(説明付き)



番号	説明
1および3	再生日時はすべてのカメラが関連している時刻です。録画を再生すると、ビューのカメラすべてに同じ時刻のビデオが表示されます。ただし、カメラによっては、モーションを検知した場合だけ録画しているものがあります。また、特定の時間に一致する、1台または複数のビデオで録画されたビデオがビューにない場合もあります。この場合、データベースに含まれる指定時点よりも前の最後の画像がグレー表示になります。
2	タイムラインの時刻は青い垂直線で示されます。
4	タイムラインの開始時間と終了時間をドラッグして期間を選択します。通常は、ビデオをエクスポートしている時間です。もう一度クリックすると、時間が選択されていない状態でタイムラインが表示されます。
5	日時を指定すると特定の時点にジャンプします。
6	再生速度スライダーを使用すると、現在の再生速度を変更できます。スライダーを左に動かすとスローモーションになり、右に動かすとモーションが速くなります。**[1x]**をクリックすると通常の速度になります。
7	現在表示されている画像のひとつ前の画像に移動します。
8	時間をさかのぼって再生できます。 [逆再生]または[再生]のいずれかをクリックすると、ボタンが一時停止ボタンに変わります。
9	:速度を調整します。右にドラッグすると、順方向再生速度を上げることができます。左にドラッグすると、逆方向再生速度を上げることができます。

番号	説明
10	再生 (時間)
11	現在表示されている画像の直後の画像に移動します。
12	選択されたカメラのデータベースの最初の画像に移動します。
13	以前のシーケンスで最初の画像に移動します。
14	以下のシーケンスで最初の画像に移動します。
15	選択されたカメラのデータベースの最後の画像に移動します。
16	20 minutes タイムラインで再生のタイムスパンを指定します。

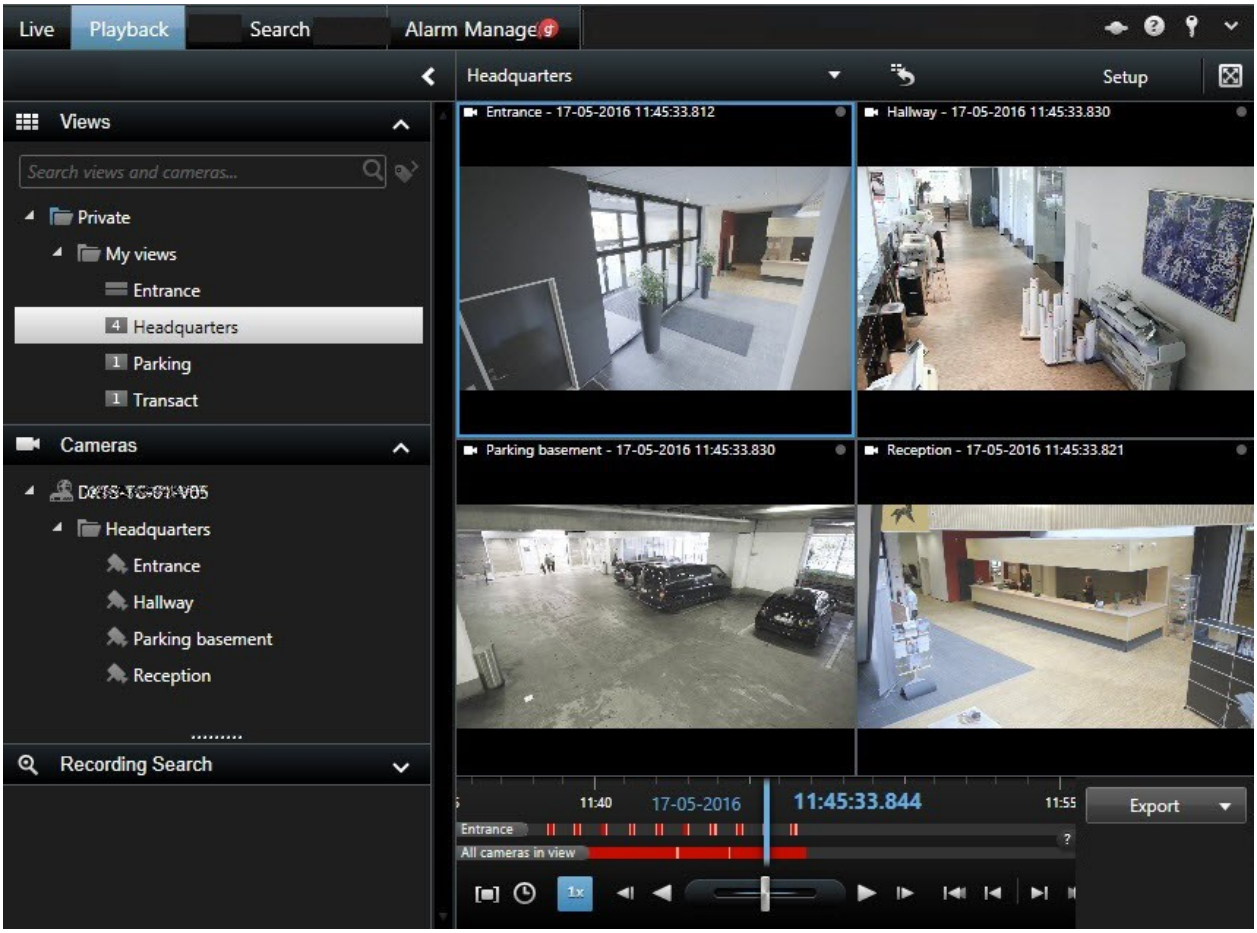
タイムラインのブックマーク(説明付き)

タイムラインのブックマークは、青いブックマークのアイコンで示されます: 。ブックマークされたビデオを再生するには、マウスをアイコンの上に置きます。

録画されたビデオを見る(説明付き)

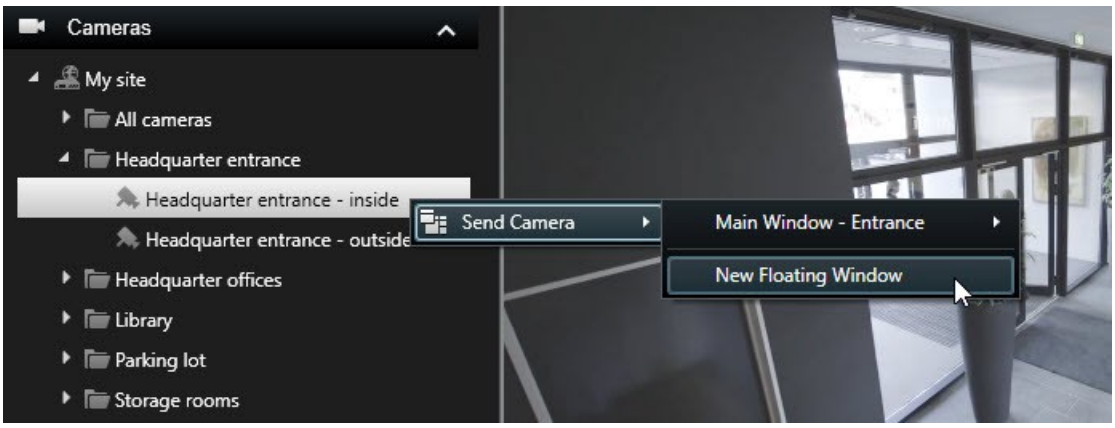
録画ビデオの表示方法は種々あります。

再生タブ



[再生]タブでは、ビューにあるすべてのカメラに同じ時点(マスター時刻)の録画内容が表示されます。ただし、マスター時刻に関わりなく、個々のカメラから録画を表示してナビゲートできます。[個別再生]がページ42の機能設定で有効になっていなくてはなりません。

[カメラ]ペインのツリー構造を使用してカメラにアクセスする場合は、[再生]タブから個々のカメラを新しいウィンドウで開けます。



[再生]タブを使用するには特定のユーザー権限が必要となる場合があり、ユーザー権限によっては一部のカメラからのビデオの参照が制限されている場合があります。

[ライブ]タブ

[ライブ]タブには通常、ライブビデオが表示されますが、カメラツールバーでボタンをクリックすると、個々のカメラの録画ビデオを視聴できます。新しいウィンドウが開き、録画を参照できます。[カメラ再生]をページ42の機能設定で有効にする必要があります。

[検索]タブ

検索結果は基本的に、再生可能なビデオシーケンスです。

- 検索結果をプレビューします。ページ216の検索結果からビデオをプレビューも参照してください
- 全画面モード、または別個のウィンドウで検索結果を再生します。ページ225の別個のウィンドウで検索結果を開くも参照してください

タイムラインとは別に録画されたビデオを表示

ビデオを再生する場合再生タブ、表示内のすべての録画がタイムラインと同期されます。個々のカメラは、タイムラインとは独立してビデオを再生できます。

この機能は、ホットスポット、画面自動切替、またはMatrix位置ではなく、通常の単一のカメラ位置に対してのみ使用可能です。

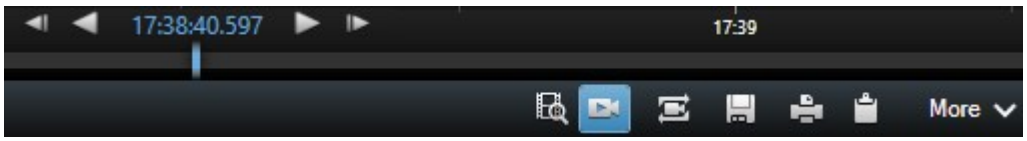
要件

設定ウィンドウ > 機能タブで、個別再生オプションを利用可能にしてください。

手順：

1. 録画ビデオを再生するカメラの下部に、マウスのカーソルをもっていきます。表示されるツールバーで、独立再生ボタンをクリックします。

独立再生のタイムラインが表示されます：



2. タイムラインをドラッグして、開始時刻を設定します。
3. 選択した時間のすべてのカメラの録画ビデオをビューで同時に再生するには、再生タブで選択された時間の録画を表示をクリックします。。この操作で、すべてのカメラが選択した時間に同期されて再生タブで再生されます。

カメラまたはビューから検索を実行

1つまたは複数のビデオストリーム内で何か具体的なものを検索している場合は、単一のカメラまたはビュー全体から検索を開始できます。検索ワークスペースが新しいフローティングウィンドウで開きます。

手順:

1. ライブまたは再生タブに移動します。
2. 単一のカメラで検索するには:
    1. ビューアイテムの上にカーソルを置きます。カメラツールバーが表示されます。
    2. をクリックします。[検索]ウィンドウが開き、ビューアイテム内のカメラにおいて録画ビデオの検索が即座に開始します。
3. ビュー内のすべてのカメラで検索するには:
    1. 適切なビューが開かれていることを確認します。
    2. ビュー上部にあるをクリックします。[検索]ウィンドウが開き、ビュー内のカメラにおいて録画ビデオの検索が即座に開始します。
4. 何を探しているかに応じて、時間帯、検索カテゴリ、フィルターなどを修正します。詳細については、ページ201のビデオの検索を参照してください。

検索結果の調査

[検索]タブで見つかったインシデントを調査する方法はいくつかあります。

- [再生]タブが事前に選択されている別個のウィンドウで検索結果を開きます。ページ225の別個のウィンドウで検索結果を開くも参照してください
- 詳細ビューで検索結果を開きます。以下のいずれか1つを実行します。
    - 検索結果リストで検索結果をダブルクリックすると、全画面モードで表示できます。再びダブルクリックすると、検索結果のリストに戻ります。
    - プレビューエリアで検索結果をプレビューする場合は、ビデオ画像の内側をダブルクリックします。検索結果が全画面モードで開きます。再度ダブルクリックすると、プレビューエリアに戻ります。

タイムラインとMilestone Interconnect(説明付き)

選択したカメラがMilestone Interconnect設定の一部で、内部接続されたデバイスである場合、選択したカメラのタイムラインには取得データが表示されます。実行された取得は録画として表示されます。タイムラインで網掛けの領域を確認することで、どの時間に記録が含まれているかを、または取得を要求する必要のある時間をすばやく特定できます(「ページ190のMilestone Interconnectからデータを取得する」を参照)。

- 濃いグレーは、その期間に録画がないことを示します。
- 濃いチェックパターンは、録画が要求されていないため、録画があるかどうかが不明であることを示します。
- 赤色の網掛けは、録画があることを示します。
- 明るいチェックパターンは、データの取得要求があったことを示します。

録画が要求されていないため、録画があるかどうかが不明な濃いチェックパターンのタイムラインと、ビデオの取得要求があった明るいチェックパターンのタイムライン

Milestone Interconnectからデータを取得する

Milestone Interconnect™では、現在のVMSと統合した独立VMSシステムに属する1つ以上のデバイスからデータを取得できます。例として、中央サイトに接続された船上やバスでのモバイルインストールがあります。

要件

お使いのXProtect Smart ClientがMilestone Interconnect設定の一部であり、1つ以上のカメラがエッジストレージをサポートし、必要なユーザー権限がある場合は、内部接続されたつ以上のデバイスからデータを取得する必要があります。

手順:

1. タイムラインの[再生]タブで、[時間選択モード]ボタンをクリックし、データを取得するシーケンスの開始時間と終了時間を選択します。
2. ツールバーの右側にある[取得]をクリックして、[取得]ウィンドウを開きます。
3. 該当するカメラを選択し、取得開始をクリックします。

> 検索ジョブの進捗は、アプリケーションツールバーの[ステータス]ボタンをクリックすることで、[ステータス]ウィンドウに表示できます(「ページ172のステータスウィンドウ(説明付き)」を参照)。

- 進行中の取得ジョブを停止するには、ワークスペースエリアの上部にある通知エリア、または進行中のジョブの隣にある[ステータス]ウィンドウの[停止]をクリックします。

エビデンスビデオの作成

インシデントやイベントをXProtect Smart Clientに文書化するには、例えば録画をエクスポートし、ビデオストリームから単一の静止画像を作成します。

> エビデンスロックとそのエクスポート方法の詳細については、ページ250のエビデンスロックを参照してください。

ビデオ、音声、静止画像のエクスポート

ビデオエビデンスを共有するために、さまざまな形式で関連のある音声を使いビデオをエクスポートできます。XProtect VMSシステムの設定に応じて静止画像や他のタイプのデータをエクスポートできる可能性もあります。

> エクスポート中にエリアをマスクするには、ページ192のエクスポート中に録画でエリアをマスクするを参照してください。

1. タイムラインの再生タブで、時間選択モードボタンをクリックし、エクスポートするシーケンスの開始時間と終了時間を選択します(ページ185のタイムナビゲーションのコントロール(説明付き))。
2. エクスポートしたいビュー項目ごとに、そのビュー項目に関連のあるチェックボックスを選択します。
3. タイムラインの右側にある[エクスポート] > [エクスポート...]をクリックして、[エクスポート]ウィンドウを開きます。
4. 追加のビューアイテムを含めるには、アイテムを追加ボタンをクリックしてそれを選択します。
5. エクスポート名フィールドに、エクスポートの名前を入力します。システムは、現在の日時で名前を自動的に作成します。名前は変更できます。
6. エクスポート先のパス、メディアバーナーまたはその両方を指定します。
7. 関連するタブをクリックして、以下からエクスポートするフォーマットを1つまたは複数選択します:
   - XProtectフォーマット- エクスポートにXProtect Smart Client - Playerを含めるオプションを使用してXProtectデータベースフォーマットを使用します。このオプションを選択すると、他のメディアプレイヤーは動作しなくなります
   - メディアプレーヤーのフォーマット- ほとんどのメディアプレーヤーで再生できる形式を使用します。この場合、エクスポートを表示するコンピュータにメディアプレーヤーがインストールされていなくてはなりません。
   - 静止画像 - 選択した期間の各フレームを1つの静止画像ファイルとしてエクスポートします

8. エクスポートされたエビデンスが不正に操作されていないことを受信機が確認できるようにしたい場合は、以下のチェックボックスを選択してください。
   - **XProtect**フォーマット
   - デジタル署名を含める

     この操作でXProtect Smart Client - Playerの署名の検証ボタンが有効になります。
9. エクスポートの開始をクリックすると、エビデンスのエクスポートが始まります。

> 選択したフォーマットのセッティングについてよりの情報は、ページ193のウィンドウ設定のエクスポートを参照。

エクスポート中に録画でエリアをマスクする

ビデオをエクスポートするときには、プライバシーマスクを追加して、選択した領域をカバーできます。ビデオを表示すると、マスクされた領域は塗りつぶされたブロックとして表示されます。

> ここで追加したプライバシーマスクは、現行のエクスポート、および選択されたビデオにのみ適応されます。エクスポートには、システム管理者が設定したプライバシーマスクのあるビデオがすでに含まれている可能性があります。詳細については、ページ258のプライバシーマスク(説明付き)を参照してください。

手順：

1. エクスポートウィンドウ内でプライバシーマスクボタンをクリックします。ウィンドウが表示されます。
2. マスクしたいエリアごとに+ボタンをクリックし、マスクしたいエリアにポインターをドラッグします。
3. プライバシーマスクの一部をマスク解除するには、−ボタンをクリックし、マスク解除したいエリアにポインターをドラッグします。マスク解除する各部分でこの手順を繰り返します。

   > マスクを一時的に非表示にするには、マスクを非表示ボタンを長押しします。

4. エクスポートウィンドウに戻るには**OK**をクリックします。

> プレビュー画像には表示されないセルを持つグリッドがあります。選択する領域にセルの一部分が含まれている場合、セル全体がマスクされます。この場合、想定しているよりも若干大きい画像がマスクされる可能性があります。

ウィンドウ設定のエクスポート

ユーザー権限、サーバーの種類、サーバーでの設定によって、一部のエクスポート設定が制限されたり、使用できないことがあります。

設定したフォーマットおよび設定は保存され、次回エクスポートする際に表示されます。

名前	説明
エクスポート名	プログラムが自動的にローカルの日付と時間を使って入力しますが、名前を変更することができます。
アイテム	たとえばビデオシーケンスなど、エクスポートで選択したアイテムをリストします。 項目ごとに、開始時刻または終了時刻をクリックするとタイムスパンを変更できます。新しい日時を選択した後、[移動]をクリックします。プレビュー エリアの下にあるハンドルをドラッグしてタイムスパンを変更することもできます。 項目をクリックすると、プレビュー エリアでエクスポート クリップのプレビューが表示されます。複数の項目を同時にプレビューするには、SHIFTまたはCTRLボタンを押したまま、関連のある項目をクリックします。 項目の横にある赤い x をクリックすると、[項目]リストからその項目を削除できます。マウスをアイテムの上に移動させると、赤いxが表示されます。ひとつの項目を2つに分割したい場合は、プレビュー エリアで分割アイコンをクリックします。
項目を追加	項目の追加ボタンを使用して、エクスポートに含めたい別の項目を選択します。すべて削除ボタンを使って、アイテムウィンドウにあるリストをクリアします。
エクスポート先	パス - パスを指定する際、指定するフォルダーは既存ののものでなくても構いません。既存でない場合は、自動的に作成されます。 このフィールドではパスがすでに提案されている可能性があります。 メディア バーナー - エクスポートに送りたいバーナーを指定できます。こうして、エクスポートを作成し、必ず一度に光学メディアに直接書き込まれるようにします。
プラ	クリックすると、ビデオにプライバシー マスクを追加できます。無地のブラックで選択された領域を、プラバシーマスク

名前	説明
イバシーマスク	がカバーします。 ここで追加したプライバシーマスクは、現行のエクスポート、および選択されたビデオにのみ適応されます。エクスポートは、システムアドミニストレーターによってプライバシーマスクが設定されたビデオをすでに含んでいる可能性があります。詳細については、ページ258のプライバシーマスク(説明付き) を参照してください。

XProtectフォーマットの設定

XProtectバージョン2020 R1またはそれ以降で作成されたエクスポートを表示するには、Smart Clientバージョン2020 R1以降を使用する必要があります。

名前	説明
XProtect Smart Client – Playerを含める	エクスポートされたデータのあるXProtect Smart Client - Playerアプリケーションを含めます。XProtectフォーマットは、XProtect Smart Client - Playerでのみ再生できます。
再エクスポートしない	このチェックボックスを選択すると、受領者がビデオを任意の形式で再度エクスポートする必要がなくなります。
パスワードで暗号化	このチェックボックスを選択すると、暗号化標準AES-256を使用してエクスポートを暗号化できます。エクスポートの開始をクリックすると、8字以上のパスワードを入力するよう求められます。
デジタル署名を含める	このチェックボックスを選択すると、エクスポートされたデータベースにデジタル署名を含めることができます。監視システムの設定によって、ビデオや音声にすでに署名が含まれていることがあります。この場合は、これらの署名はエクスポート中に検証され、検証が成功するとエクスポートに含められます。検証に異常があると、そのエクスポートも完了しません。エクスポートされたファイルを開くと、受領者はXProtect Smart Client - Playerで署名を確認できます。ページ303のデジタル署名の検証も参照してください。

名前	説明
	デジタル署名を含めない場合、サーバーからの署名もエクスポートも含められず、ビデオや音声が改変されていてもエクスポートが成功することになります。 エクスポートプロセス中、デジタル署名は2つの異なる状況で除外できます。 • プライバシー マスクのあるエリアでは、レコーディング サーバーのデジタル署名がエクスポートから削除されます。 • エクスポートしているデータが現在の日付および時刻と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にのみ追加されます。 エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的にOKになっていることが分かります。
コメント	クリックしてエクスポートにコメントを追加するウィンドウを開くと、個別のカメラやプロジェクト全体にコメントを追加することができます。

ストーリーボードのエクスポート(説明付き)

ストーリーボード機能は、1つのカメラから、または複数のカメラからのビデオシーケンスを一緒に1つの結合フローに貼り付けるのに役立ちます。イベントのシーケンス、ストーリーボードを内部調査や法定でのエビデンスとして使用することができます。

関連しないシーケンスをすべて省略したり、必要のないビデオの長いシーケンスを見ることで時間を無駄にすることを避けられます。また、関連するビデオが含まれていないシーケンスの保存でストレージを無駄にすることも回避できます。

ストーリーボードを構成するビデオ シーケンスを選択すると、時間選択モードで[再生]タブから作業できます。ページ195のストーリーボードのエクスポートも参照してください。ここで、エクスポート>エクスポートリストに追加機能を使用すると、エクスポートウィンドウを開くことなく、複数のシーケンスをリストに保存できます。リスト全体を構築すると、次にシーケンスの集合、ストーリーボードを一緒にエクスポートすることができます。[エクスポート]ウィンドウから直接、アイテムをエクスポートすることもできます。ページ191のビデオ、音声、静止画像のエクスポートも参照してください。

ストーリーボードのエクスポート

ビデオ シーケンスを単一の結合フローに張り付けてストーリーボードを作成し、エクスポートできます。

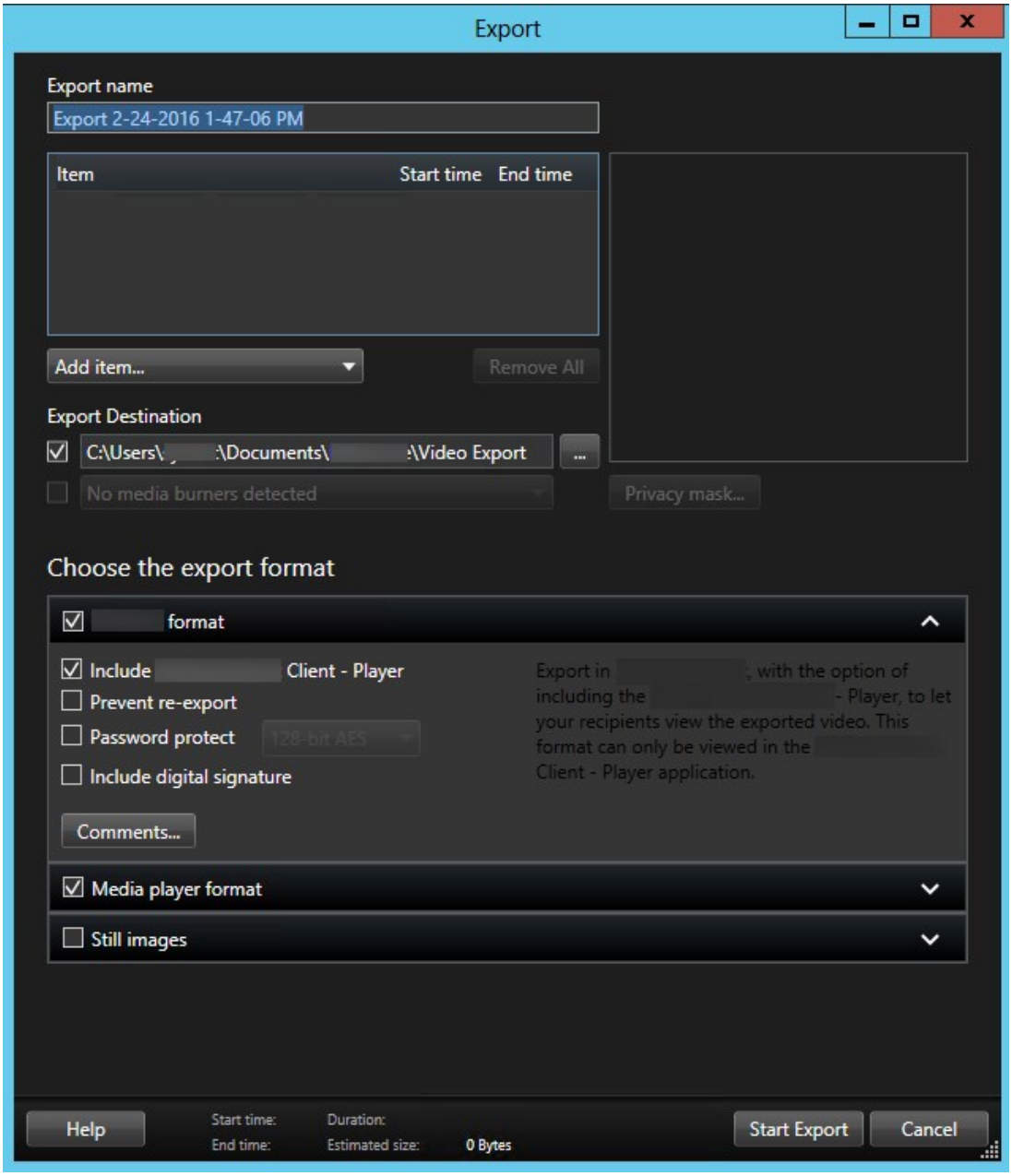
1. [再生]タブのタイムラインにある[時間選択モード]ボタンをクリックします。
2. ストーリーボードの開始時刻と終了時刻を選択します。ページ185のタイムナビゲーションのコントロール(説明付き)を参照。

3. エクスポートしたい項目ごとに、[エクスポート] > [エクスポートリストに追加]をクリックします。これで、[エクスポート]ウィンドウを開くことなく、それぞれのアイテムがエクスポートのリストに追加されます。ストーリーボードに必要なアイテムがすべて追加されるまで、繰り返します。
4. [エクスポート] > [エクスポート]の順にクリックして、[エクスポート]ウィンドウを開きます。選択したアイテムがすべて[アイテム]リストに表示され、エクスポートの準備が完了します。
5. エクスポート名フィールドに、エクスポートの名前を入力します。プログラムは、現在の日時で名前を自動的に作成します。名前は変更できます。
6. エクスポート先のパスを指定します。
7. 関連するタブをクリックして、エクスポート先のフォーマットを選択します。
8. 選択したフォーマットで必要な設定を指定します。ページ193のウィンドウ設定のエクスポートも参照してください。XProtect Smart Clientはエクスポートのサイズを予想し、この情報をウィンドウの最下部に表示します。
9. エクスポートの開始をクリックすると、エビデンスのエクスポートが始まります。

エクスポートされたビデオの表示

XProtect Smart Clientで作成するエクスポートは、別のフォルダーを指定しないかぎり、ローカルコンピュータのデフォルトフォルダーに保存されます。作成した直後またはその後からエクスポートを表示できます。

1. 作成した直後にエクスポートされたビデオを表示するには、
    1. ビデオクリップ、音声、XProtectデータ、あるいは静止画像のエクスポートで説明されている手順に従い、エクスポートを作成します(ページ191のビデオ、音声、静止画像のエクスポートを参照) 。



2. エクスポートが完了したときに、右上端にある詳細ボタンをクリックします。出力フォルダへのリンクがあるダイアログボックスが表示されます。
3. リンクをクリックすると、出力フォルダーが開きます。

2. 以前のある時点でビデオをエクスポートした場合
    1. エクスポートファイルを保存するフォルダに移動します。デフォルトの場所は、*C:\Users\<ユーザー名>\Documents\Milestone\Video Export*です。フォルダーの場所は、エクスポートウィンドウで確認できます。これは、常に同じエクスポート先を使用している場合にのみ動作します。
    2. 出力形式に応じて、該当するフォルダーを開き、ビデオファイルまたは静止画像をダブルクリックします。形式がXProtect形式の場合、.exe拡張子のついたSmart Client - Playerファイルをダブルクリックします。

監視レポートの印刷または作成

必要に応じて、監視カメラがとらえた静止画像をもとに監視レポートをその場で印刷するか、コンピュータに保存可能な監査レポートを作成できます。

アラームレポートについては、ページ247のアラームレポートを印刷するとページ248のを参照してください。

単一カメラからレポートを印刷

ライブカメラまたは録画ビデオからは、単一の静止画像と関連情報を印刷できます。追加したメモも印刷されます。

1. 記録した静止画像を印刷するには、[再生]タブに移動します。
2. ライブ静止画像を印刷するには、[ライブ]タブに移動します。
3. 確認したいカメラが含まれるビューを開きます。
4. ビューアイテムの上にカーソルを置きます。カメラツールバーが表示されます。

5. アイコンをクリックします。ウィンドウが表示されます。

6. 必要に応じてメモを追加します。
7. [印刷]をクリックします。Windowsの[印刷]ダイアログが表示されます。
8. 必要に応じて、印刷設定を変更してから印刷します。それ以外の場合は、そのまま[印刷]をクリックします。

> 組織においてアラーム処理機能が使用されている場合、アラームに関する情報(ページ242のアラーム(説明付き)を参照)も印刷できます。

検索結果からレポートを作成

検索結果をもとに、イベントまたはインシデントに関する情報(静止画像、イベント発生時刻、カメラに関する情報、メモなど)が記された監視レポートを作成することができます。レポートはPDFファイルとして保存されます。

手順:

1. **[検索]**タブに移動し、検索を実行します。
2. レポートに含めたいそれぞれの検索結果にカーソルを当て、青いチェックボックスを選択します。
3. 青いアクションバーでPDFをクリックします。ウィンドウが表示されます。
4. デフォルトのレポート名を、意味のある名前に変更します。レポートにおいては、名前はページヘッダーとして表示されます。
5. レポートの保存先となるフォルダーを変更するには、[レポート先]セクションでをクリックし、別のフォルダーを選択します。
6. メモを追加するには、[メモ]フィールドにテキストを入力します。
7. [作成]をクリックします。レポートの生成状況は進捗バーに示されます。

8. レポートを開くには、[詳細]をクリックしてから[開く]をクリックします。宛先フォルダー開くには、リンクをクリックします。

> レポートのレイアウトを変更するには、[設定]ダイアログを開いて[詳細]をクリックし、**[PDF**レポートのフォーマット]リストで別の値を選択します。

画像をクリップボードにコピー

選択したカメラから1つの静止画像をコピーできます。コピーした画像は、ワープロソフトやEメールクライアントなど、他のアプリケーションに(ビットマップ画像として)貼り付けることができます。1台のカメラからコピーできる画像は一度に1つだけです。

- カメラのツールバーで、クリップボードへコピーアイコンをクリックして画像をコピーします

XProtect Smart Clientでの検索

検索機能は主に[検索]タブで使用できますが、これらは[ライブ]および[再生]タブにも用意されています。

ビデオの検索

[検索]タブではビデオ録画の検索ができるほか、検索結果にもとづいてエクスポートなどのアクションを実行することも可能です。

どんなものが検索できますか?

- ビデオシーケンス
- モーション付きビデオシーケンス
- ブックマーク付きビデオ
- アラームが発生したビデオシーケンス
- イベントが発生したビデオシーケンス
- 人物が写っているビデオシーケンス
- 車両が写っているビデオ シーケンス
- 特定の場所で録画されたビデオ

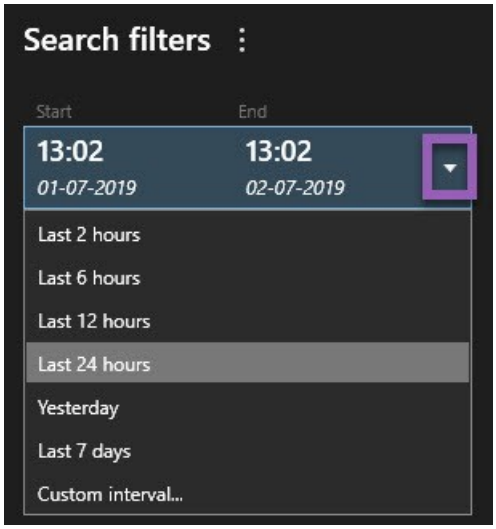
> 検索カテゴリ[アラーム]、[イベント]、[人物]、[車両]、[場所]は、次の製品のいずれかを使用している場合のみ利用できます。
>
> - XProtect Corporate
> - XProtect Expert
>
> 上記の製品のいずれかを使用している場合のみ、検索カテゴリを組み合わせることができます。詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

要件

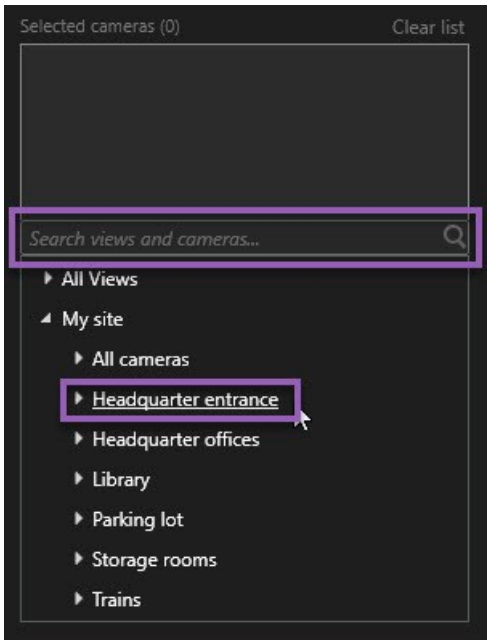
- 人物、車両、場所にもとづいた検索は、これらの検索カテゴリがシステム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません。
- 車両の検索は、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合でも可能です。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

手順:

1. 矢印をクリックするか、既定の時間帯を選択して、独自のカスタム間隔を定義します。



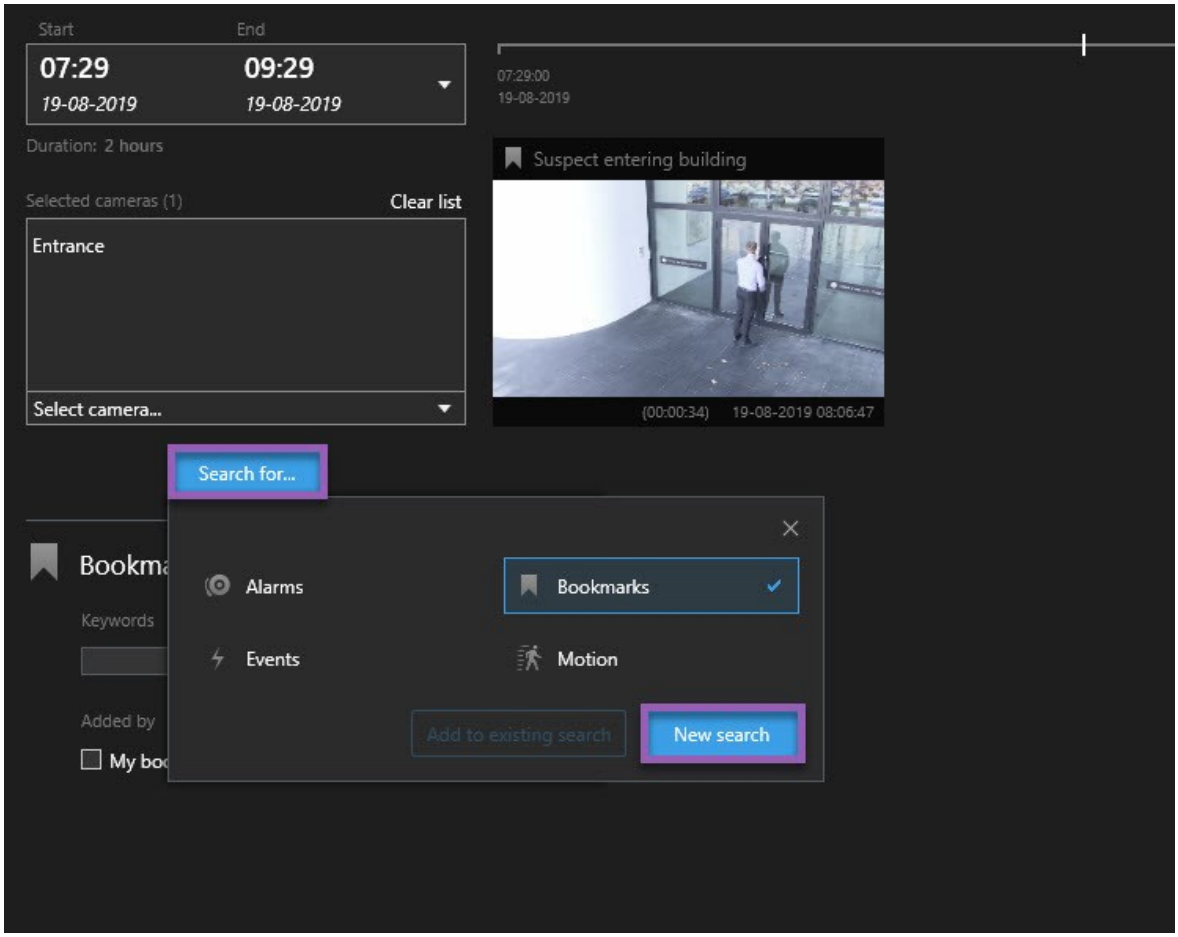
2. [選択したカメラ]リストで、以下のいずれかを実行してカメラを検索対象に追加します:



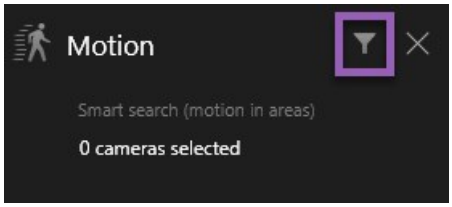
- 検索機能を使用してカメラまたはビューを探します。
- ツリー構造内のカメラを手動で選択します。ビュー内のすべてのカメラを追加するには、ビューの名前を選択します。

カメラを追加すると検索が即座に実行されます。

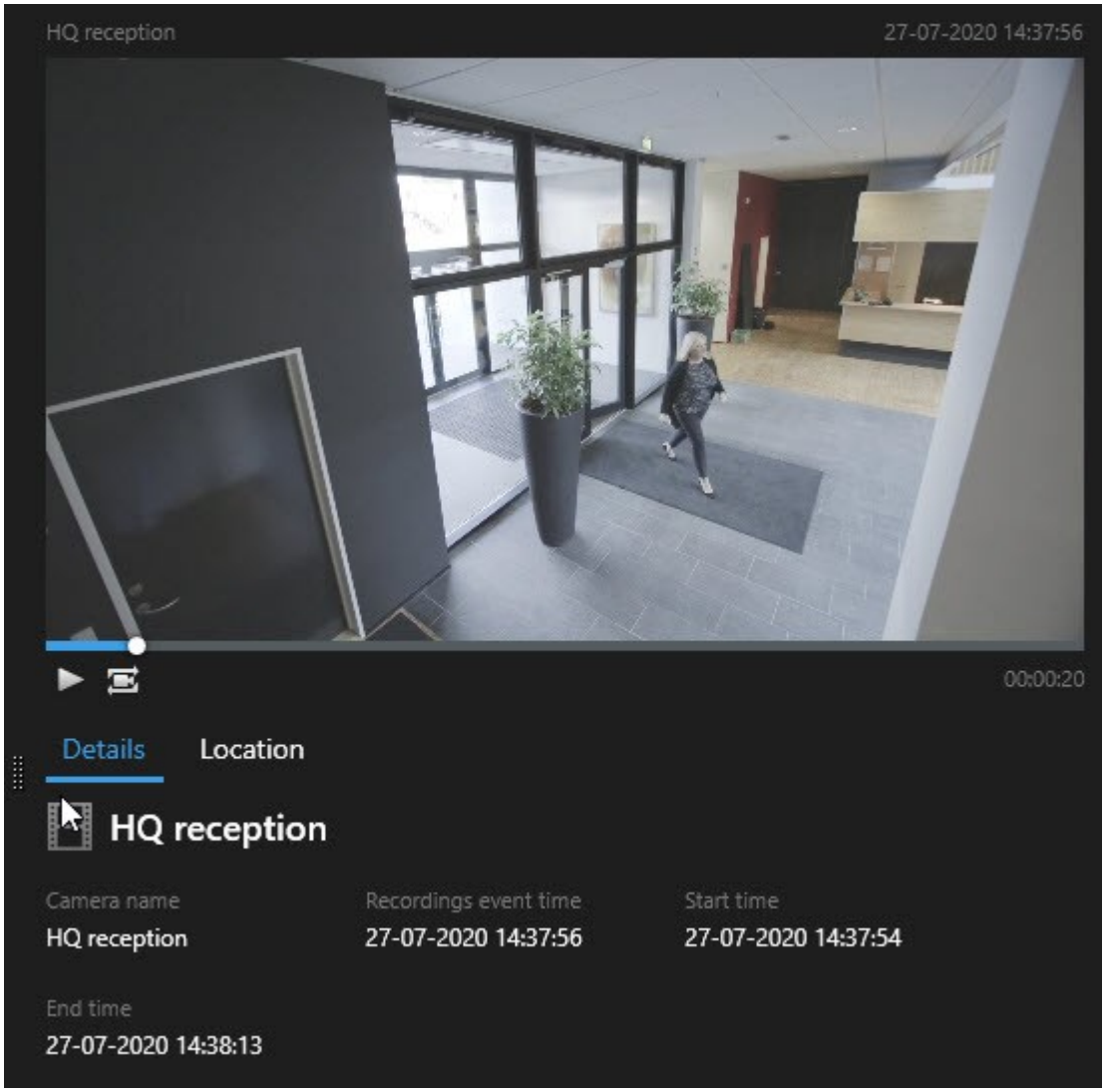
3. [検索対象]をクリックして検索カテゴリを選択します。検索カテゴリは単独で、または組み合わせて使用できます。



4. 追加した検索カテゴリごとに、検索フィルターを追加することで検索対象を絞ることができます。検索フィルターの詳細については、「ページ338のFAQ: 検索」を参照してください。



5. 検索結果のビデオのプレビューを表示するには、検索結果を選択し、プレビューエリアにある▶をクリックします。



全画面モードでビデオシーケンスを再生するには、検索結果をダブルクリックします。

6. アクションバーを表示させるには、検索結果にひとつずつカーソルを当て、表示される青いチェックボックスを選択します。

ブルーのアクションバーが表示されます:

アクション

- 検索結果をエクスポートします。
- - 検索結果にブックマークを付けます
- - ブックマークを編集します
- -新しいウィンドウの[再生]タブにあるカメラを詳しく調べます。選択したカメラが含まれる一時ビューが作成されます。
- - 発見したものに関する情報 (静止画像など) を含むPDFを作成します
- - 検索結果に示されたビデオからスナップショットを作成します
- - 検索結果でビデオにエビデンスロックをかけます

モーションの検索

モーションのあるビデオ録画を検索する場合、スマートサーチフィルターを適用すると、定義したエリア内にモーションがある検索結果だけを表示することができます。

例

スマートサーチを使って、複数のカメラで監視している出入口を入る人のビデオを検索してみましょう。

要件

スマートサーチフィルターを使用するには、システム管理者があなたのユーザープロファイルでスマートサーチを有効にしておく必

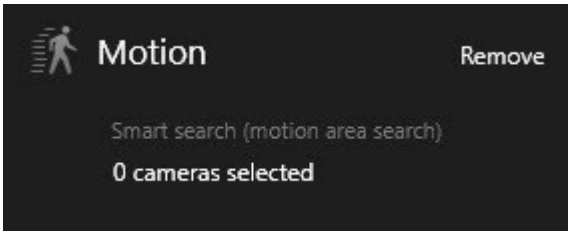
要があります。

手順：

1. **[**検索**]**タブでタイムスパンを選択します。
2. 検索に含めるカメラを選択します。
3. **[**検索対象**] > [**モーション**] > [**新規検索**]**の順にクリックします。選択した時間帯とカメラにモーションが見られる録画がデータベースに存在する場合、その録画は**[**検索結果**]**ペインにサムネイル画像として表示されます。

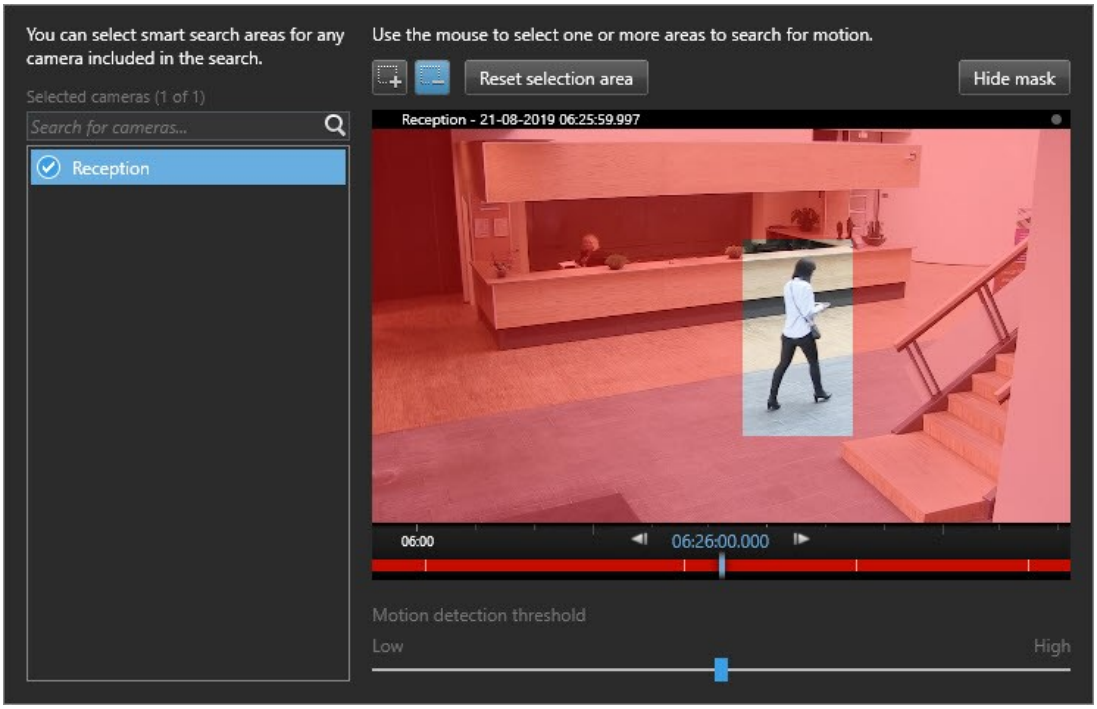
4. 選択したエリア限定でモーションを検出するには：

   1. [モーション]で「カメラを0選択しました」をクリックします。



   ダイアログが表示され、選択したカメラのリストが示されます。

   2. 一度に1台ずつカメラを選択し、赤いプレビューエリア内をクリック&ドラッグして少なくとも1つのエリアのマスクを解除します。システムはそのエリアだけを調べます。複数の領域のマスクを解除できます。



   モーション検知の感度はシステム管理者が個々のカメラについてManagement Clientで設定しています。ただし、感度はスライダーを使用して調整できます。詳細については、「ページ208のスマート検索とモーションしきい値(説明付き)」を参照してください。

   3. 検索が自動的に行われます。ダイアログの外をクリックすると検索結果に戻ります。

4. 検索結果にブックマークを付けるといったアクションを実行するには、検索結果にカーソルを当てて☑チェックボックスを選択します。アクションバーが表示されます。

スマート検索とモーションしきい値(説明付き)

カメラの選択エリア内のモーションを検索する際には、モーションしきい値を調整できます。モーションしきい値により、スマート検索の感度が決定します:

- しきい値が高いほど、モーション検出の起動に必要なモーションが多くなります。よって、検索結果の数が減ります。
- しきい値が低いほど、モーション検出の起動に必要なモーションが少なくなります。よって、検索結果の数が増えます。

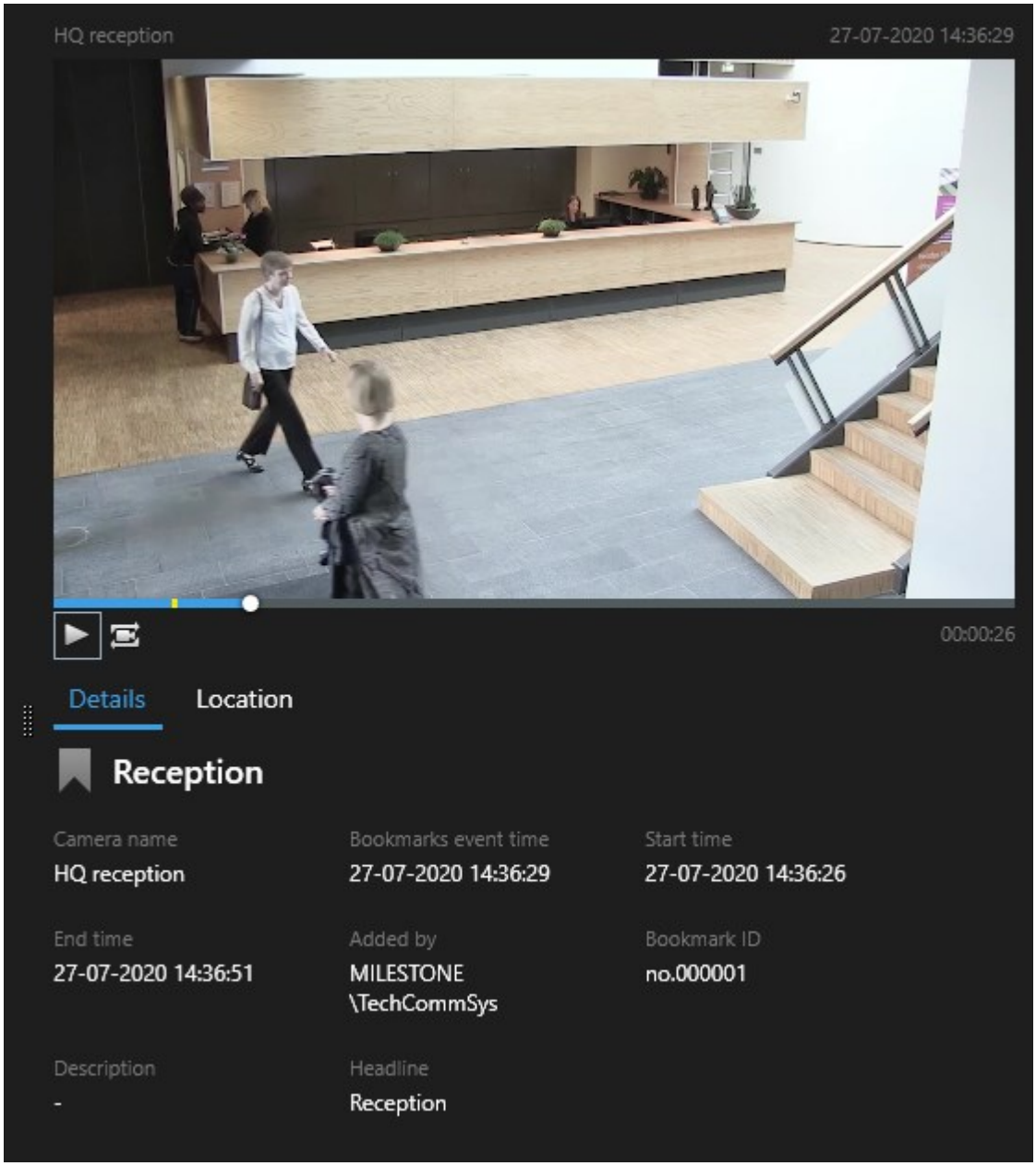
ブックマークの検索

自身または他の人物によってブックマークが付けられたインシデントを検索できます(カメラの台数は無制限) 。

手順:

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **[検索対象] > [ブックマーク] > [新規検索]**の順にクリックします。データベースにブックマークをした録画があれば、検索結果ペインにサムネイル画像が表示されます。

3. ビデオシーケンスとブックマークの詳細をプレビューするには、右側のプレビューペインで検索結果を選択してビデオを再生します。



4. 全画面モードで録画を表示するには、検索結果をダブルクリックします。

5. その他のアクションを実行するには、例えば検索結果をブックマークする場合、検索結果の上にカーソルを当ててチェックボックス☑を選択します。アクションバーが表示されています。

アラームの検索

アラームに関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定のアラーム(特定のオペレーターに割り当てられた特定の状態にあるアラームなど)を伴う検索結果のみを表示することができます。

手順:

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. [検索対象] > [アラーム] > [新規検索]の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞ります。以下にもとづいてフィルタリングできます:
    - 優先度
    - ステータス
    - ID - 検索したいIDをフルで入力します
    - 所有者
    - サーバー - Milestone Federated Architecture™の使用時にのみ利用可能

> Milestone Federated Architecture™を使用している場合、[優先度]と[状態]フィルターは、接続されているすべてのサイトで適用されます。

イベントの検索

イベントに関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定のイベント(特定のソース/サーバーから発生したイベントなど)を伴う検索結果のみを表示することができます。

手順:

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. [検索対象] > [イベント] > [新規検索]の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞ります。以下にもとづいてフィルタリングできます:
    - ソース
    - ID - 検索したいIDをフルで入力します
    - サーバー - Milestone Federated Architecture™の使用時にのみ利用可能

人物の検索

この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません。

人物に関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、ある特徴を持つ人物(特定の年齢または身長の人物など)を伴う検索結果のみを表示することができます。

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. [検索対象]> [人物]> [新規検索]の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞ります。以下にもとづいてフィルタリングできます:
   - 年齢 - 検索対象を特定の年齢層の人物に絞ります
   - 性別 - 検索対象を男性または女性のいずれかに絞ります
   - 身長 - 検索対象を特定の身長範囲の人物に絞ります
   - 顔 - チェックボックスを選択して、検索対象を顔が映っている人物に絞ります。

車両の検索

この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません。

車両の検索は、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合でも可能です。

詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

車両に関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定の車両(特定の国で発行された特定のナンバープレートが付いた車両など)を伴う検索結果のみを表示することができます。

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. [検索対象]> [車両]> [新規検索]の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞ります。以下にもとづいてフィルタリングできます:

- 色 - 検索対象を特定の車両の色に絞ります
- ナンバープレート- ナンバープレート番号の一部または全部を入力して選別を行います
- 国 - 検索対象を特定の国によって発行されたナンバープレートに絞ります

> この検索フィルターは、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合のみ使用できます。

- 車種 - 検索対象を車種(トラックなど) にもとづいて絞ります
- 車両速度 - 検索対象を特定の速度で走行している車両に絞ります
- ナンバープレート一致リスト- 特定のナンバープレート一致リストに記載のナンバープレートを選別します

> この検索フィルターは、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合のみ使用できます。

特定の場所で録画されたビデオを検索

> この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません。

特定の場所で録画されたビデオを検索する際には、検索フィルターを適用することで場所にもとづいて検索結果を絞ることができます。

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. [検索対象]> [場所]> [新規検索]の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞ります。緯度と経度、そして検索半径を指定することで、地理座標にもとづいて検索結果を絞ることができます。

マージされた検索結果 (説明付き)

複数の検索カテゴリを使用しており、検索結果が重複することがある場合は、ひとつにまとめられます。複数の検索結果になることもあります。これは、異なる検索基準が同じタイムスパン内の同じカメラからのビデオに一致する場合に発生します。基本的には同じビデオシーケンスであるさまざまな検索結果を返す代わりに、XProtect Smart Clientは、カメラメイやイベント時間、検索カテゴリといったあらゆる詳細が含まれた検索結果をひとつ返します。

例：

メモリー・レイン15の車両を見つける

直近2時間にメモリー・レイン15に駐車していたトラックのような車両を見つけたいとします。検索を構成するには:

1. 適正なエリアに配置されたカメラ10台を選択します。
2. [期間]を[直近2時間]に設定します。
3. [車両]の検索カテゴリを追加し、[トラック]でフィルタリングします。
4. [場所]の検索カテゴリを追加し、アドレスおよび検索範囲の地理的な座標でフィルタリングします。
5. [あらゆる基準に一致する]チェックボックスを選択します。

詳細については、ページ211の車両の検索またはページ212の特定の場所で録画されたビデオを検索を参照してください。

ブックマークされたアラームを見つける

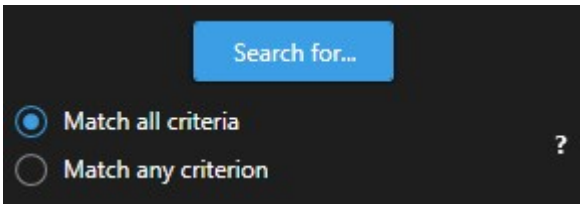
2日前、XProtect VMSシステムでアラームが鳴りました。アラームを容易に見つけられるようにするため、ブックマークを付けました。再びブックマークを見つけてエクスポートしたいとします。検索を構成するには:

1. どのカメラがインシデントを録画していたのか覚えている場合は、そのカメラを選択します。覚えていなければ、可能なカメラの範囲を選択します。
2. [期間]を[直近24時間]に設定するか、カスタム間隔を指定します。
3. [ブックマーク]と[アラーム]の検索カテゴリを追加します。
4. [あらゆる基準に一致する]チェックボックスを選択します。

詳細については、ページ208のブックマークの検索またはページ210のアラームの検索を参照してください。

検索基準の一部またはすべてに一致 (説明付き)

XProtect CorporateまたはXProtect Expertを使用している場合は、同じ検索で複数の検索カテゴリを使用できます。検索を設定する際、検索カテゴリの一部またはすべてに一致する必要があるのかどうかを指定します。



すべての基準を満たすと、検索結果は少なくなりますが、より正確な結果が出ます。さらに、検索結果が重複すると、より少ない結果にまとめられます。ページ212のマージされた検索結果 (説明付き)も参照してください。

一部の基準を満たすと、数は多くなりますが、正確さの低い検索結果が出ます。

通常、アクション バーで利用できるアクションは、マージされた検索結果では使用できない可能性があります。これは、実行しようとしているアクションを検索カテゴリのいずれかで使用できない場合に発生します。ページ339の必要なアクションをアクション バーで利用できないのはなぜですか?も参照してください

検索タブのタイムライン(説明付き)

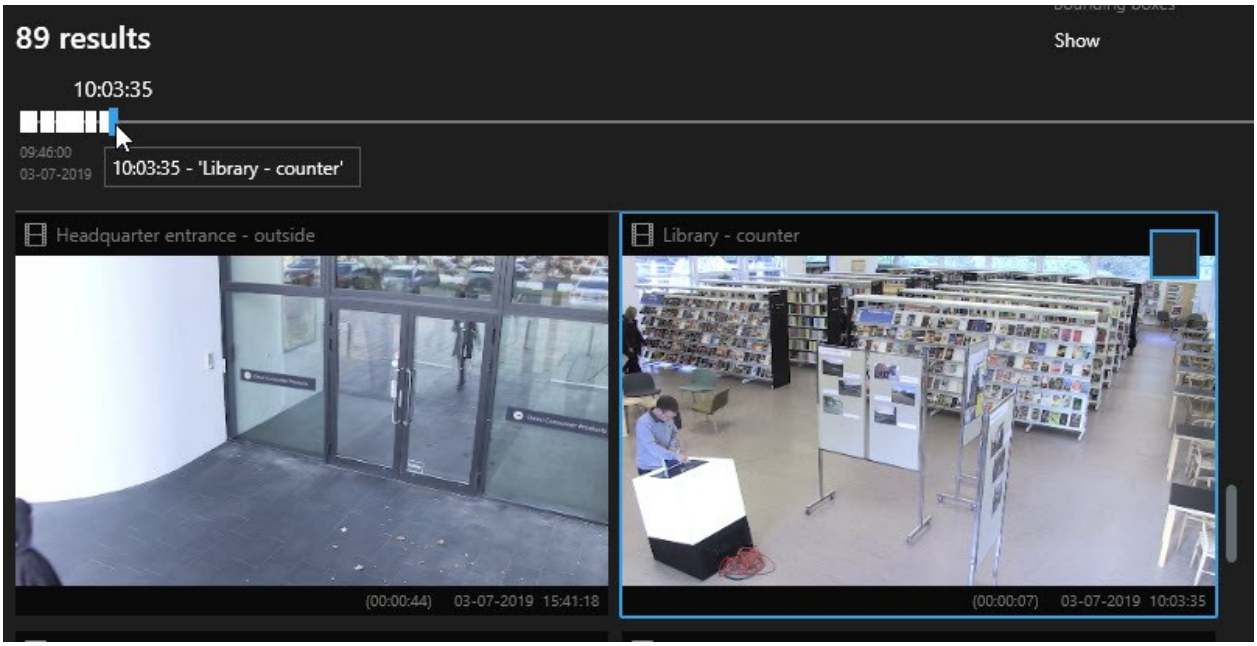
タイムラインでは、検索結果がどのように分布しているか概要を知ることができます。タイムラインでは、検索結果間を移動することもできます。

タイムラインの範囲は、選択したタイムスパン(例: 過去6時間など)によって変わります。

白いマーカーは検索結果の場所を指しています。

それぞれのマーカーは、複数の検索結果があることを示している場合もあります。マーカーの上にカーソルを当てると、イベントやインシデントが記録された時間とカメラに関する情報が表示されます。

検索結果間を移動するには、マーカーをクリックします。マーカーが青くなり、関連する検索結果が青い境界線で囲まれます。



選択したマーカーが複数の検索結果を示している場合は、最初の検索結果にマークが付きます。

マーカーが10件以上の検索結果を示している場合は、メッセージに検索結果の件数と関連するカメラの台数が表示されます。

検索結果から利用できるアクション(説明付き)

[検索]タブには、検索の他にも、検索結果に基づいて実行できることがあります。

アクションの中には常に実行可能であり、お使いのVMS内のビデオ録画、モーションのメタデータ、ブックマーク、アラーム、イベントに関連するものもあります。

アクション

- 複数の検索結果のビデオと静止画像を同時にエクスポートします。
- 検索結果に関する情報(ビデオシーケンスから取得した静止画像など)が記されたPDFレポートを作成します。
- 複数の検索結果に同時にブックマークを付けます。
- 複数のブックマークを同時に編集します。
- エビデンスロックをかけることで、関連デバイスに存在するビデオシーケンスとデータ(音声など)が削除されないようにします。
- 複数の検索結果を別ウィンドウで開きます。ここでは、ビデオのライブまたは再生モードでの表示、エクスポート、エビデンスロックの作成、相互接続されたVMSシステムに属するデバイスとカメラからの録画取得ができます。
- [再生]タブの時間を検索結果の時間と同期します。これは、例えばインシデントが起きた時間に関連するカメラを見るときに便利です。
- 検索結果の複数のスナップショットを同時に撮ります。

MIP関連のアクション

サードパーティ製ソフトウェアに関連するその他のアクションが可能な場合があります。MIP SDKは、こうした他のアクションを追加するときに使います。

- アクションバーに表示されないアクションもあります。アクセスするには、アクションバーの をクリックします。
- 可能なアクションはユーザー権限により異なる場合があります。

検索中に境界ボックスを表示/非表示にする

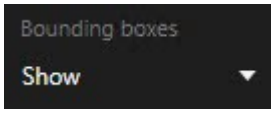
検索中に境界ボックスを使用すると、(モーション検出などにもとづいて)オブジェクトを特定しやすくなります。境界ボックスはオンまたはオフに切り替えることができます。

境界ボックスはたいてい、検索結果のサムネイル画像に表示されます。ただし、VMSシステムがメタデータを検索するよう設定されている場合、検索結果のビデオをプレビューすると境界ボックスも表示されます。

手順:

1. **[検索]**タブに移動し、検索を実行します。
2. **境界ボックス**の右上で、次のことができます:

- **[表示]**を選択すると境界ボックスが表示されます。
- **[非表示]**を選択すると境界ボックスが非表示になります。

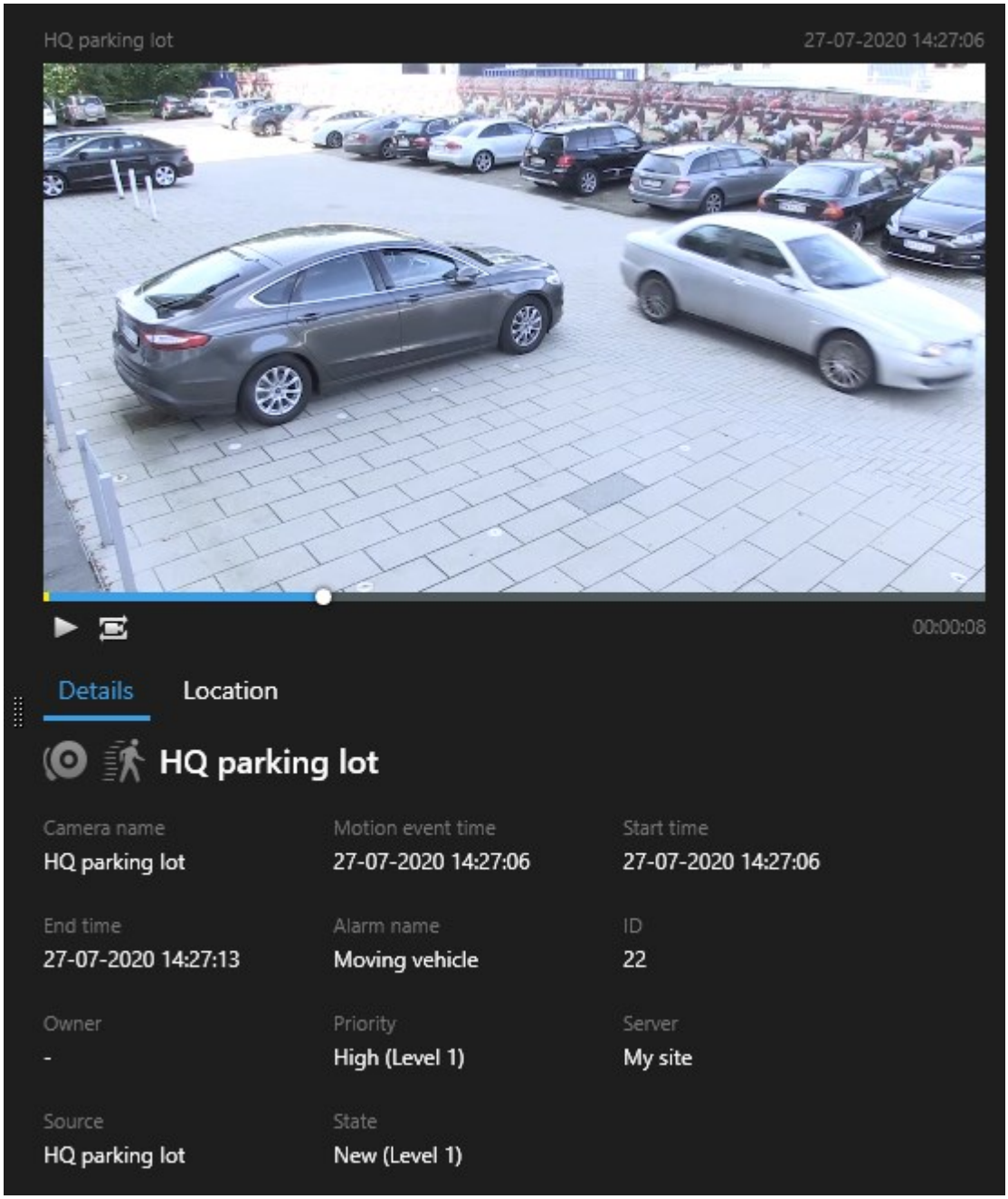


検索結果からビデオをプレビュー

探しているビデオシーケンスが見つかったかどうかは、クイックプレビューを実行することで確認できます。

手順:

1. [検索]タブで検索を実行し、検索結果を選択します。プレビューエリアに、関連するビデオシーケンスの静止画像が表示されます。

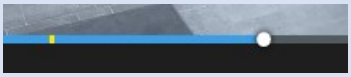


2. ▶をクリックしてビデオを再生します。

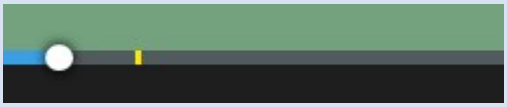
3. ビデオシーケンスのプレビューを全画面モードで表示するには、個々の検索結果をダブルクリックします。再度ダブルクリックすると検索結果に戻ります。

4. ズームイン / アウトするには、マウスホイールでスクロールします。 クリック& ドラッグで特定のエリアをズームすることも可能です。

タイムラインの黄色いマーカーはイベント時間を示します。マーカーの上にマウスを動かすと、イベント時間が表示されます。



検索結果が組み合わされると、複数のマーカーが同じタイムラインに表示されます。



これは、[モーション] と[車両]で検索し、検索結果が両方の基準に一致する場合などに発生します。この例では、ひとつのマーカーがモーションの開始時間を示しています。他のマーカーは、車両が車両として識別された時間を示します。

検索中にカメラの位置を特定する

スマートマップを使用するようVMSシステムが構成されている場合、ビデオと関連データの検索中に、カメラの地理的位置をスマートマップのプレビューに表示することができます。

要件

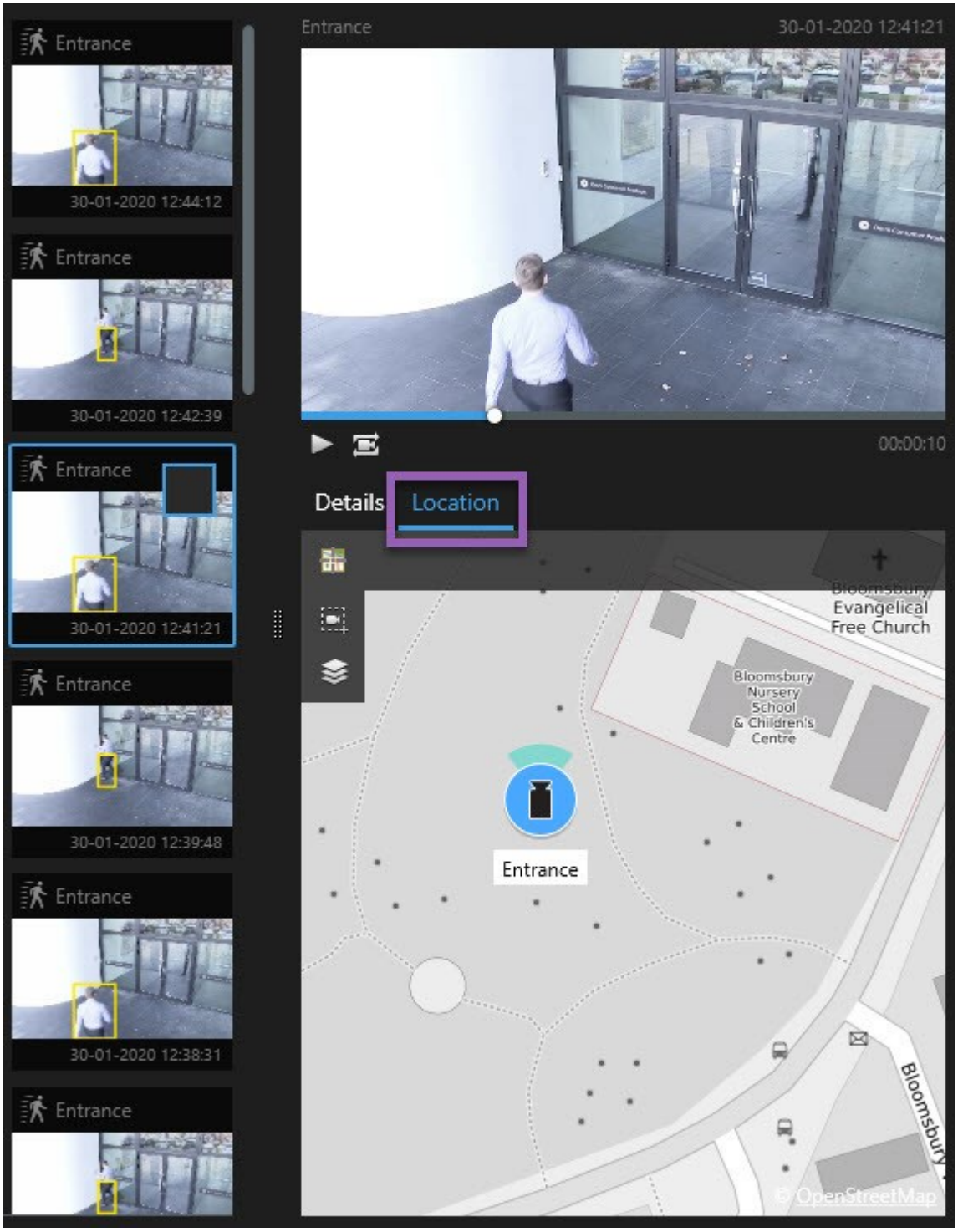
- 以下のいずれかのXProtect製品を使用している:
  - XProtect Corporate
  - XProtect Expert。

    「ページ36の監視システムの別の特徴」を参照してください。

- カメラが地理情報と併せて配置されている。詳しくは、システム管理者に確認してください。

手順:

1. 関心のある検索結果を選択します。



2. プレビューエリアで [場所] を選択します。カメラが地理情報に応じて表示されます。

3. 周辺についての情報を取得するには、マウスホイールをスクロールしてズームアウトするか、カメラ位置からパンして遠ざかります。

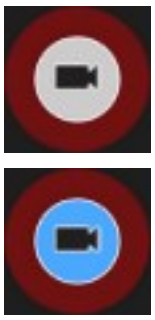
4. カメラに戻るには [再度中心に戻る]をクリックします。

カメラアイコン(説明付き)

本トピックで取り上げるアイコンの一部は [検索]タブの [場所]領域にしか表示されない一方、赤で示されたアイコンはアラームに関連付けられており、スマートマップが含まれるビューにも表示されます。どのアイコンが表示されるかは状況に応じて異なります。

以下のテーブルにおいて:

- 灰色の背景は、カメラが選択されていないことを示しています
- 青い背景は、カメラが選択されていることを示しています

アイコン	タブ	説明
	検索	カメラがどの検索結果にも関連付けられていません。
	検索	カメラが関連付けられている検索結果が選択されました。
	[ライブ]、[再生]、[検索]	これはソースカメラ(アラームをトリガーしたカメラ)です。

アイコン	タブ	説明
	[ライブ]、[再生]、[検索]	これは関連カメラ(選択したソースカメラ(アラームをトリガーしたカメラ)に関連付けられているカメラ)です。 このアイコンは、ソースカメラの選択後にのみ表示されます。
	[ライブ]、[再生]、[検索]	これは、ソースカメラと関連カメラの両方を指します。このカメラは: • アラームをトリガーしたカメラである • 選択したソースカメラ(アラームをトリガーしたカメラ)に関連付けられている このアイコンは、ソースカメラの選択後にのみ表示されます。

ソースカメラと関連カメラは、アラーム定義の一部としてXProtectManagementClientで定義されます。

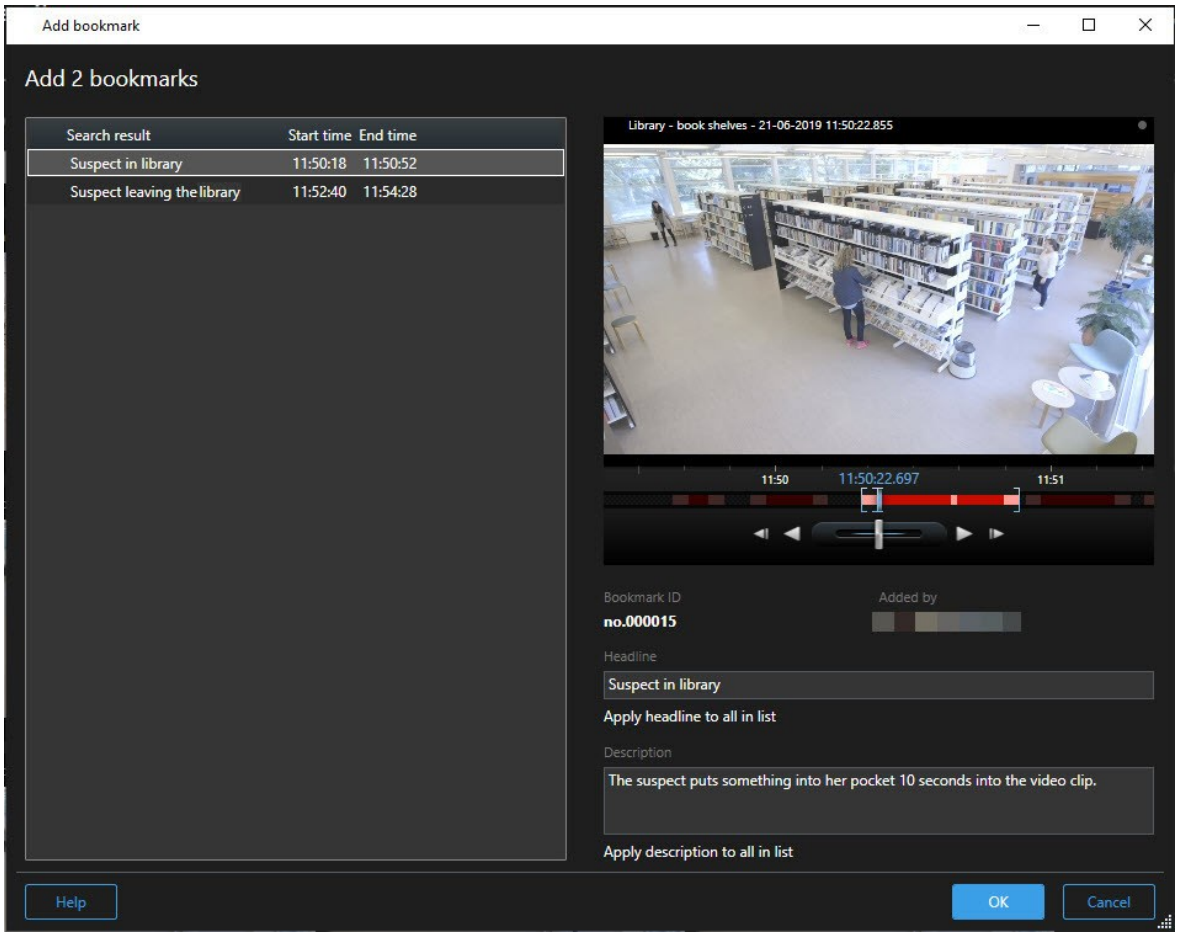
検索結果のブックマーク

検索して見つけたインシデントを文書化したり共有するために、複数の検索結果を一度にブックマークすることができます。インシデントをブックマークすると、自分や他のオペレータが後でインシデントを検索できます。

手順:

1. ブックマークを付けたい検索結果にそれぞれカーソルを当て、青いチェックボックスを選択します。

2. 青いのアクションバーでをクリックします。ウィンドウが表示されます。図は、2件の検索結果が選択された状態を示しています。



3. 検索結果を一つひとつ選択して詳細をブックマークに追加し、次のステップに従います:

   1. デフォルトのタイムスパンを変更するには、タイムラインのハンドルを新しい位置にドラッグします。

   2. 見出しと、例えばインシデントの説明も入力します。

   3. すべてのブックマークに同じ見出しや説明を適用したい場合は、次をクリックします:
      - リスト内の全アイテムに見出しを適用する
      - リスト内の全アイテムに説明を適用する

4. **[OK]**をクリックしてブックマークを保存します。進捗バーで、ブックマークがいつできるかが分かります。

XProtect Smart Wallがシステムで設定済みの場合は、[Smart Wallに表示]をクリックして、Smart Wallのモニターにブックマークを送信します。

検索結果のブックマークを編集する

システムでブックマークの詳細(タイムスパンやヘッドライン、説明など)を編集することができます。複数のブックマークを同時に編集することもできます。

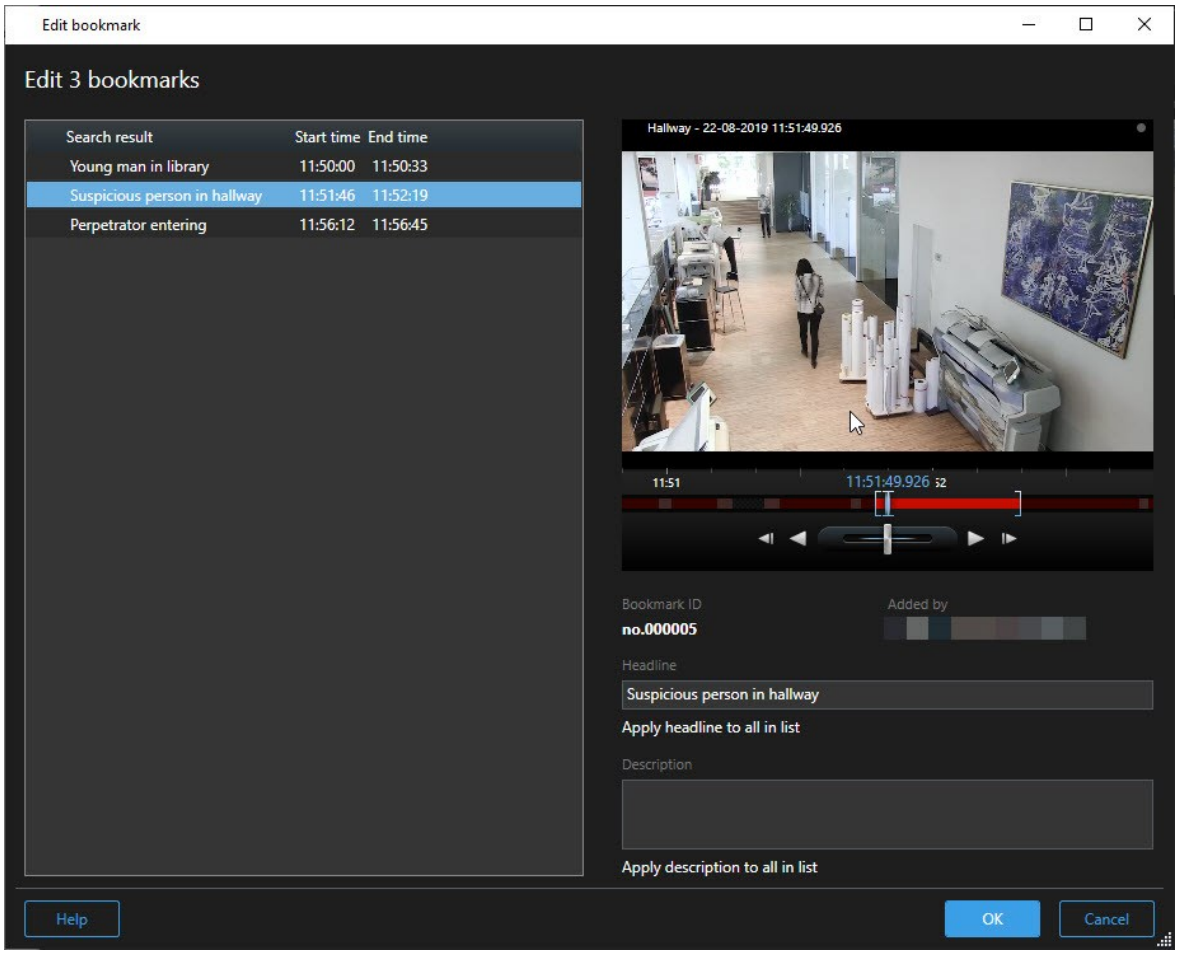
要件

ブックマークを編集するにはユーザー権限が必要です。これは、システム管理者が[役割] > [全体のセキュリティ]のManagement Clientで行ったものです。

手順:

1. [検索]タブで、編集したいブックマークを見つけます。検索を実行するときは、必ず[検索対象] > [ブックマーク]の順で選択します。
2. 編集したいブックマークにそれぞれカーソルを当てて、青いチェックボックスを選択します。

3. 青いのアクションバーでをクリックします。ウィンドウが表示されます。



4. 検索結果を一つひとつ選択し、詳細(タイムスパンやヘッドライン、説明など)を編集することができます。

5. **[OK]**をクリックして変更を保存します。慎重バーで、変更の保存がいつ完了するか分かります。

> XProtect Smart Wallがシステムに設定済みの場合は、**[Smart Wallで表示]**をクリックしてビデオウォールをブックマークに送信します。

検索結果のスナップショットを撮る

複数のスナップショットを一度に撮れば、検索結果から静止画像を保存して共有することができます。

手順：

1. 検索を実行したら、検索結果にひとつずつカーソルを当て、チェックボックスを選択します。
2. 青いアクションバーで、をクリックして[スナップショットの作成]を選択します。進捗バーで、スナップショットがいつできるかが分かります。
3. コンピュータ上のスナップショットの場所を特定するには、[設定]ダイアログ > [アプリケーション] > [スナップショットへのパス]で指定された場所へと移動します。

別個のウィンドウで検索結果を開く

新しいウィンドウで検索結果を開くことができます。このウィンドウは[再生]タブで開き、完全なタイムラインを使用してインシデントを調査し、ビデオのエクスポートなど他のアクションを実行できます。

1. 検索結果にカーソルを当てて、表示される青いチェックボックスを選択します。

ブルーのアクションバーが表示されます:

2. をクリックすると、[再生]タブで検索結果が新しいフローティングウィンドウに表示されます。
3. ウィンドウを別のモニターに移動するには、ウィンドウをクリック& ドラッグし、適切な場所で放します。

検索条件の管理

> この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

検索条件を保存すれば、後で同じ条件で検索を行ったり、他のオペレータと共有したりできます。ユーザー権限によっては、検索がプライベートに設定されているかどうかに関係なく、他者が作成した検索条件にもアクセスして使用することが可能となります。検索を保存すれば以下が可能となります。

- 名前と説明を変更する、ならびに検索をプライベートまたはパブリックに設定する
- 検索条件の設定内容を修正する(カメラの追加/削除や検索カテゴリの調整など)
- 古くなった検索条件を削除する

検索条件の保存

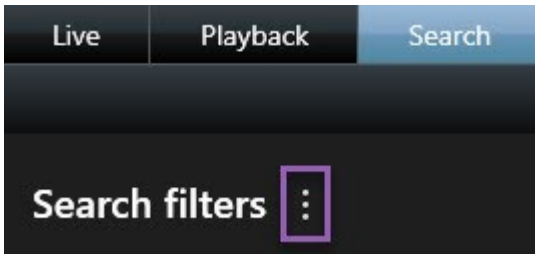
検索条件を保存すれば、後で同じ条件で検索を行ったり、他のオペレータと共有したりできます。

要件

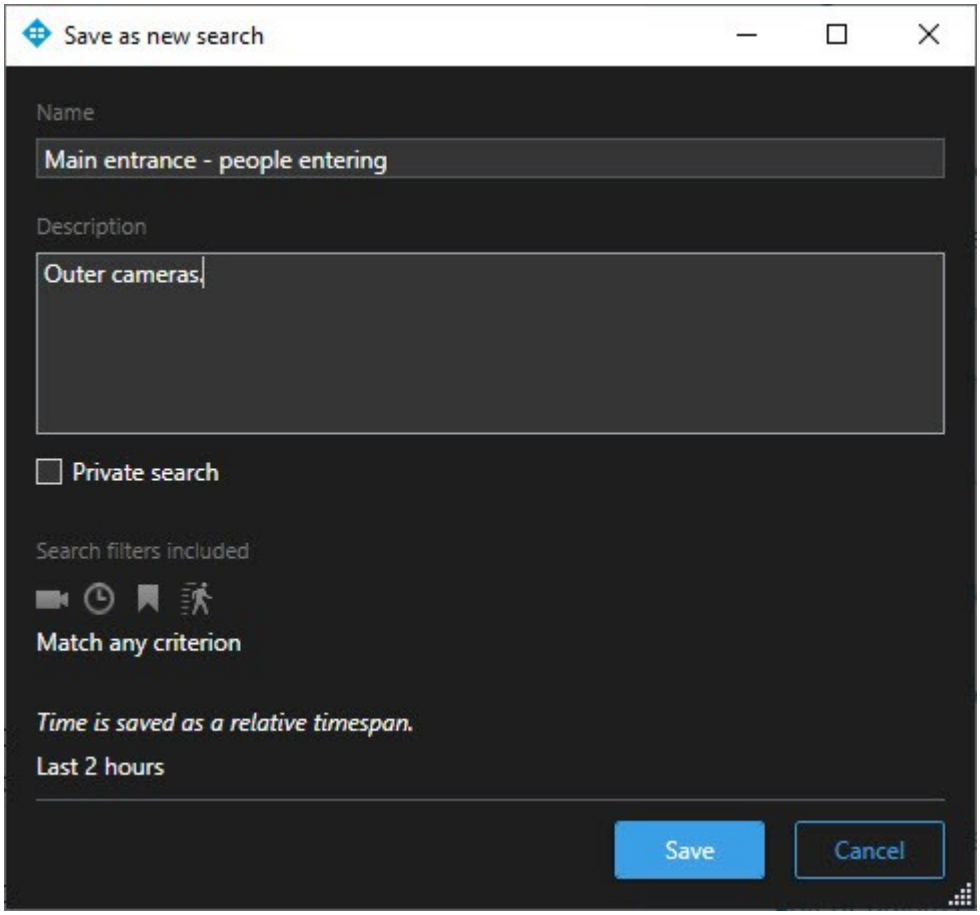
VMSシステムの他のユーザーも使用できるよう新たな検索条件を保存するには、XProtect Management Clientにおいて、ご自身の役割に対して［パブリックサーチの作成］ユーザー権限が有効になっていなければなりません。

手順：

1. [検索]タブで検索条件を設定します。ページ201のビデオの検索を参照してください。
2. [検索フィルター]の右側にある⋮をクリックします。



3. 表示されるリストで、[名前を付けて保存]をクリックします。ウィンドウが表示されます。



4. この検索条件を探すうえで役に立つ名前を付け、可能であれば説明も加えます。これで、後でキーワードを用いて検索条件を探す際に、検索条件に[名前]と[説明]の両方のフィールドが示されます。
5. 検索が自分にしか表示されないよう設定するには、[プライベート検索]チェックボックスをオンにします。
6. [保存] をクリックします。検索条件の保存状況が進捗バーに示されます。

保存した検索条件の概要を取得するには、⋮をクリックしてから [検索条件を開いて管理]をクリックします。

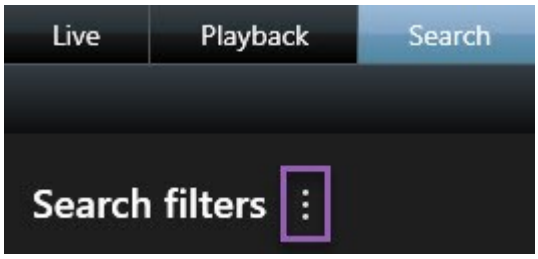
保存した検索条件を探して開く

要件

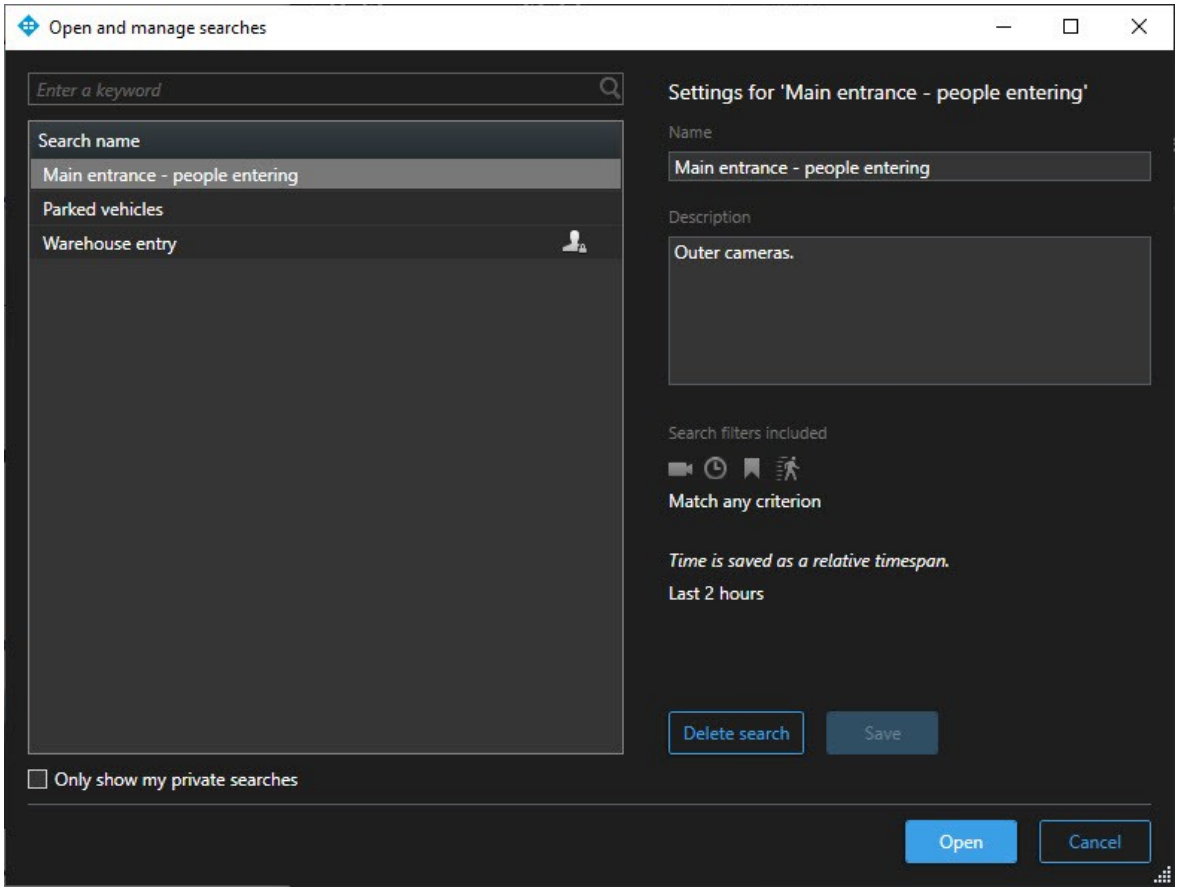
パブリックサーチを検索して開くには、XProtect Management Clientにおいて、ご自身の役割に対して [パブリックサーチの読み取り]ユーザー権限が有効になっていなければなりません。

手順：

1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にある⋮をクリックします。



2. 表示されるリストで、[検索条件を開いて管理]をクリックします。ウィンドウが表示されます。



3. 開きたい検索条件を探し、ダブルクリックするか[開く]をクリックして開きます。検索が即座に実行されます。

> リストされる検索条件の数が多い場合は、キーワードを使用して検索できます。この検索条件には、[名前]フィールドと[説明]フィールドの両方が含まれています。

4. 検索条件を修正できます(カメラを追加するなど)。⋮ > [保存]をクリックして変更を保存します。

保存した検索条件の編集または削除

この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

保存した検索条件の詳細を変更したり、検索条件の設定内容(検索カテゴリなど)を変更したりできます。

古くなった検索条件は削除できます。

要件

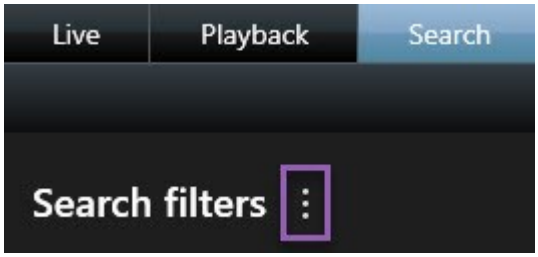
XProtect Management Clientにおいては、ご自身の役割に対して以下のユーザー権限が有効になっています：

- パブリックサーチを検索して開くには、[パブリックサーチの読み取り]権限が有効になっていなければなりません
- パブリックサーチを編集するには、[パブリックサーチの編集]権限が有効になっていなければなりません
- パブリックサーチを削除するには、[パブリックサーチの削除]権限が有効になっていなければなりません

以下を習得してください：

保存した検索条件の詳細を編集

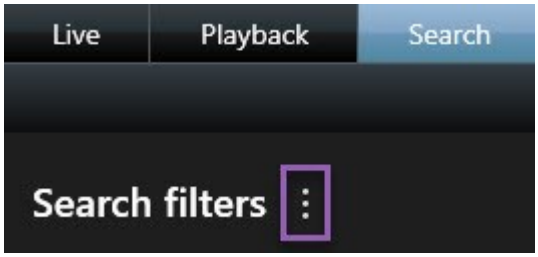
1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にあるをクリックします。



2. 表示されるリストで、[検索条件を開いて管理]をクリックします。ウィンドウが表示されます。
3. 変更したい検索条件を探して選択します。
4. (検索条件の名前を入力するなど)変更を適宜に加え、[保存]をクリックします。

検索条件の構成を変更

1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にあるをクリックします。



2. 表示されるリストで、[検索条件を開いて管理]をクリックします。ウィンドウが表示されます。
3. 開きたい検索条件を探し、ダブルクリックするか[開く]をクリックして開きます。検索が即座に実行されます。

> リストされる検索条件の数が多い場合は検索機能を使用します。

4. カメラを追加するなどして、検索を修正したら、⋮ > [保存]をクリックします。

保存した検索条件を削除

1. [検索を開いて管理]ウィンドウが開きます(上記を参照)。
2. 削除したい検索条件を探して選択します。
3. [検索条件の削除]をクリックします。

[再生]タブと検索時間の同期

[検索]タブの検索結果をプレビューする際、[再生]タブの時間とプレビューのタイムラインの時間を同期させることができます。これは例えば、インシデントを見つけたとき、同じ時間に他のカメラで何が起きていたかを調べたい場合に便利です。

1. [検索]タブで検索結果を選択します。
2. プレビューエリアで をクリックして、[再生]タブの時間を現在のプレビュー時間と同期させます。

3. 他の関連するカメラをチェックするには、[再生]タブをクリックして、閲覧したいカメラを含むビューを開きます。このタイムラインは今検索結果と同期しています。

ビュー

ビューは[ライブ]および[再生]タブにあり、カメラや他の種類のコンテンツを含めることができます。ビューにショートカット番号が割り当てられている場合は、キーボードのショートカットを使用してビューを選択できます。以下も参照してください：

- ページ69のショートカット番号をビューに割り当て
- ページ174のキーボードショートカット(説明付き)

ビューとカメラの検索(説明付き)

利用可能なビューとカメラは、[ライブ]および[再生]タブの[ビュー]ページで検索できます。名前で検索するだけでなく、説明やタイプ、キーワードでも検索できます。

検索フィールドの横にある をクリックすると、共通キーワードの概要を検索できます。

検索語を入力すると、ビューとカメラの一致結果が表示されます。ライブおよび再生モードでは、一致するカメラを1つ以上選択すると、選択したカメラ数に合わせて最適化された一時的なビューにカメラが表示されます。

単一のカメラをクリックして1:1のビューでカメラを表示したり、カメラ結果の見出しをクリックして取得済みカメラすべて、または最初の25台を表示したりできます。また、カメラをクリックしている間にCTRLまたはShiftを押すと、カメラを手動で選択できます。Enterを押して、カメラを表示します。

検索することのできるカメラの特性は以下の通りです：

- 名前
- 説明
- 機能：
  - PTZ
  - 音声
  - 入力
  - 出力
- 特定のカメラを含んでいるビュー
- レコーディングサーバーの名前またはアドレス(接続されているカメラの表示)

システム管理者はXProtect VMSサーバーでカメラの説明フィールドに自由なテキストタグを追加し、カメラをグループ化してタグの検索できるようにすることができます。例としては、説明フィールドに「アウトドア」というタグを使用するすべてのアウトドアカメラなどがあります。この場合は、このタイプのカメラをすべて見つけられます。

一時的に各カメラを変更

ビューのカメラは一時的に変更できます。ただし、ビューを永久に変更することはできません。ビューの内容を恒久的に変更するには、設定モードに入る必要があります。

要件

Smart Wall概要でビュー項目にカメラまたは位置が含まれている場合は、カメラのみを変更できます。

手順：

1. ビューで適切な項目を選択します。
2. 以下のいずれか1つを実行します。
   - カメラペインで、関連するカメラをビューの位置へドラッグします。
   - カメラのツールバーで、詳細>ウィンドウに送信>メインウィンドウ、ビューの位置を選択します。
3. 元のビューを復元するには、ワークスペースツールバーでをクリックします。

カメラペインで、カメラのリストはサーバー別にグループ化されます。サーバーが赤いアイコンで表示されている場合は利用できません。この場合、そのサーバーからのカメラは選択できません。

カメラの切り替え

2つのカメラのビューを一時的に入れ替えることができます。その位置のカメラは、交換するカメラの場所と入れ替わります。あるカメラと、他のカメラを切り替えることだけができます。これは、最も重要なカメラすべてをビューの特定の位置に表示したい場合などに便利です。

手順：

1. 関連するカメラのタイトルバーをクリックし、新しいポジションにドラッグします。
2. 元のビューを復元するには、ワークスペースツールバーでをクリックします。

ビューを恒久的に変更するには、まず設定モードに入る必要があります。

オープンなビューの間にビデオを送信する

フローティングウィンドウやセカンダリディスプレイ内のビューを含め、1つのビュー内で、選択したカメラ位置から別のオープンビュー内の1つのカメラ位置にビデオを送信できます。

この機能は、ホットスポット、画面自動切替、またはMatrix位置では使用できません。

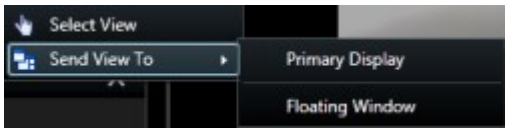
手順：

1. カメラのツールバーで、詳細>ウィンドウに送信をクリックします。
2. 送信先ビューを選択し、そのカメラのビデオを再生したいポジションをビューの中で選択します。カメラ位置の一部が選択できない場合、それらの位置は使用不能であるか、ホットスポット、画面自動切替、Matrixのコンテンツが使用している可能性があります。

表示間のビューを送信

特定のディスプレイ、またはフローティングウィンドウにビューを送信することができます。これは例えば、複数のモニターがある場合に便利です。その後、メインウィンドウで使用されている時刻と、目的地ディスプレイの時刻を同期することができます。

1. ビューペインで、関連するルールを右クリックします。
2. ビューを送信をクリックしてから、ビューを表示する場所を選択します。



さらに使用可能なセカンダリディスプレイがある場合は、番号が付けられます。

3. 2つのディスプレイ間の時間を同期するには、右上のリンクウィンドウをクリックします。タイムラインは送信先ウィンドウで非表示になりますが、メインウィンドウでは表示されます。

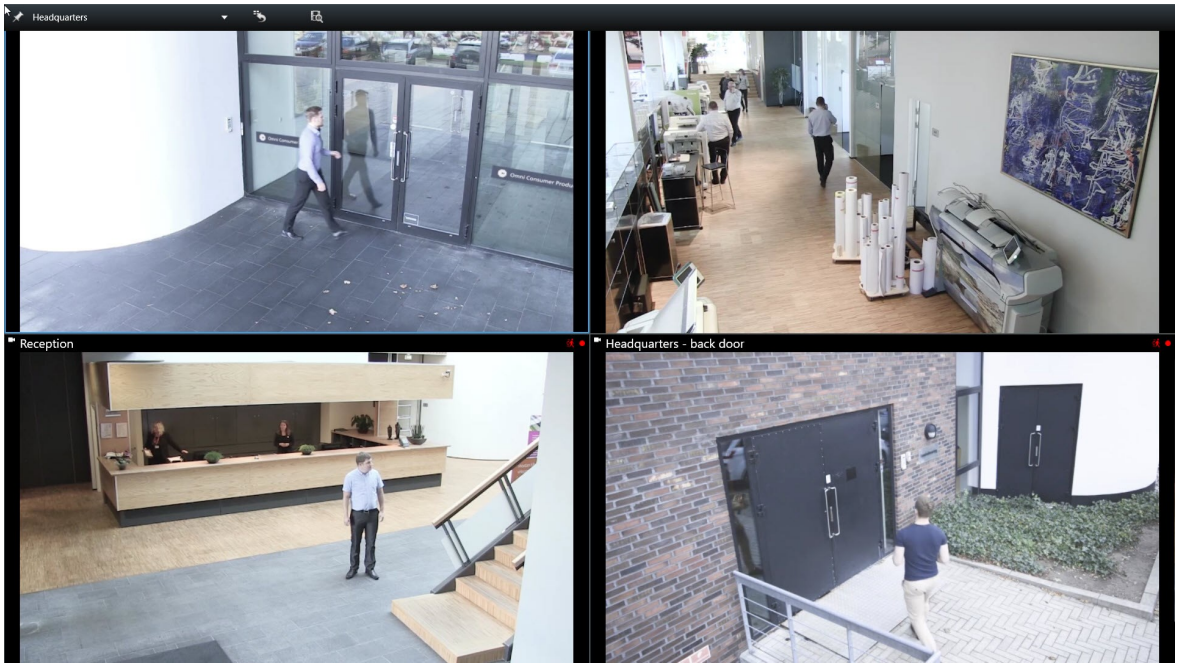
> ビューに含まれているホットスポット、自動切換、Matrixの位置、静止画像、またはHTMLページは、フローティングウィンドウで通常どおり機能します。

マルチプルウィンドウ/ディスプレイ(説明付き)

XProtect Smart Clientのメインウィンドウを背景に維持しながら、異なるウィンドウまたはディスプレイに個別のビューを送信できるので、複数のビューを同時に見ることができます。選択されたカメラまたはアイテムは常に青い境界線で表示されます。

ビューは、以下に送ることができます。

- 主要なディスプレイには、コンピュータのメインディスプレイの別個の全画面ウィンドウでビューが表示され、メインウィンドウはその後ろに隠されます

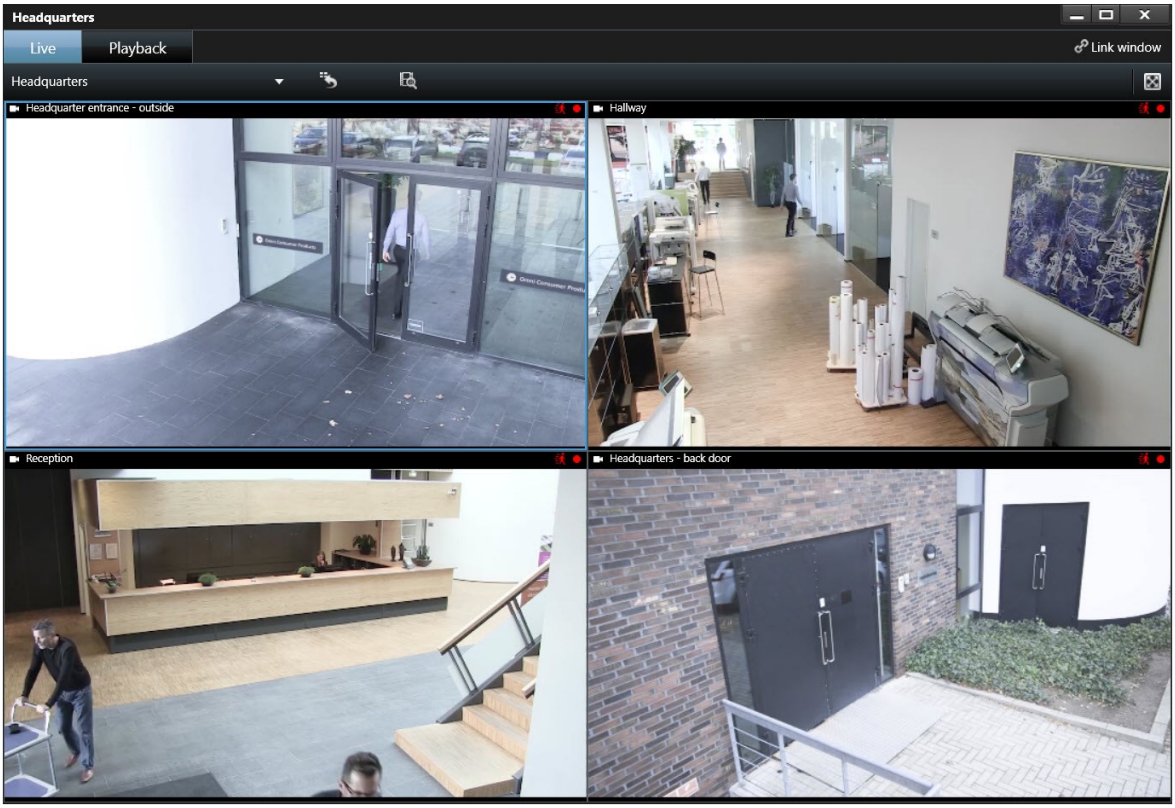


デフォルトでは、タブとコントロールは非表示になっています。**ESC**キーを押すと、タブと一部のコントロールが再表示されます。

- 2番目のディスプレイには、別のモニター (利用可能な場合) に全画面ウィンドウでビューが表示されます。プライマリモニターのメインウィンドウは表示されたままになります

デフォルトでは、タブとコントロールは非表示になっています。**ESC**キーを押すと、タブと一部のコントロールが再表示されます。

- フローティングウィンドウでは、別個のウィンドウにビューが表示されます。フローティングウィンドウは希望する数だけ開くことができ、コンピューターに接続されているあらゆるモニターにドラッグすることもできます。



[ウィンドウのリンク]をクリックすると、フローティングウィンドウの時間が、メインウィンドウの時間と同期されます。

マルチプルウィンドウの設定はXProtect Smart Clientに保存されるため、次回ログインした際にも再使用できます。ただし、この設定は現在使用中のコンピューターにしか適用されません。マルチプルウィンドウを複数のコンピューターで使用するには、それぞれのコンピューターでマルチプルウィンドウ設定を行う必要があります。

ブックマーク

この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

ブックマークを使用すると、関連するビデオシーケンスをシステムの他のユーザーと素早く検索または共有できます。詳細なブックマークは、作成後のブックマークを簡単に見つけることができます。詳細を有効にするには、ページ77の詳細なブックマークを有効にするを参照してください。

ブックマーク(説明付き)

ライブビデオまたは録画ビデオのインシデントにブックマークを付けることができます。ブックマークは、基本的には小さなビデオクリップです。インシデントにブックマークを付けると、プログラムが自動的にIDおよび、ブックマークを付けたユーザーを割り当てます。ブックマークは検索可能なので、オペレータは後ほど容易に見つけられます。

遅延があっても確実にインシデントが記録されるように、通常、ブックマークビデオクリップには、インシデントにブックマークを付けた時の数秒前から数秒後まで(システム管理者が指定)のビデオが含まれます。

ブックマークが付けられたビデオは、以下の方法で検索および編集します:

- 検索タブの検索機能。
- 再生タブのタイムライン。

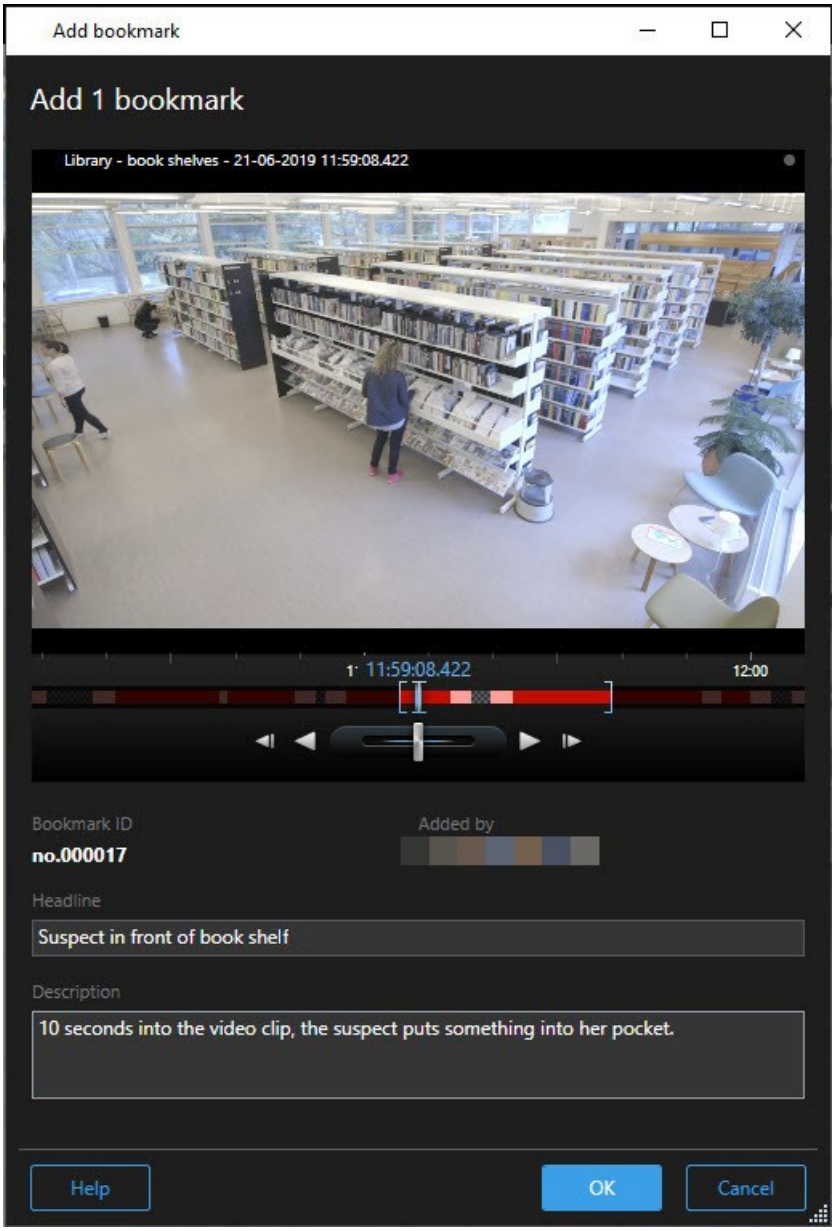
> ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマークを追加できない場合があります。ブックマークを追加できなくてもブックマークを表示できる場合があり、この逆もあります。

ブックマークウィンドウ

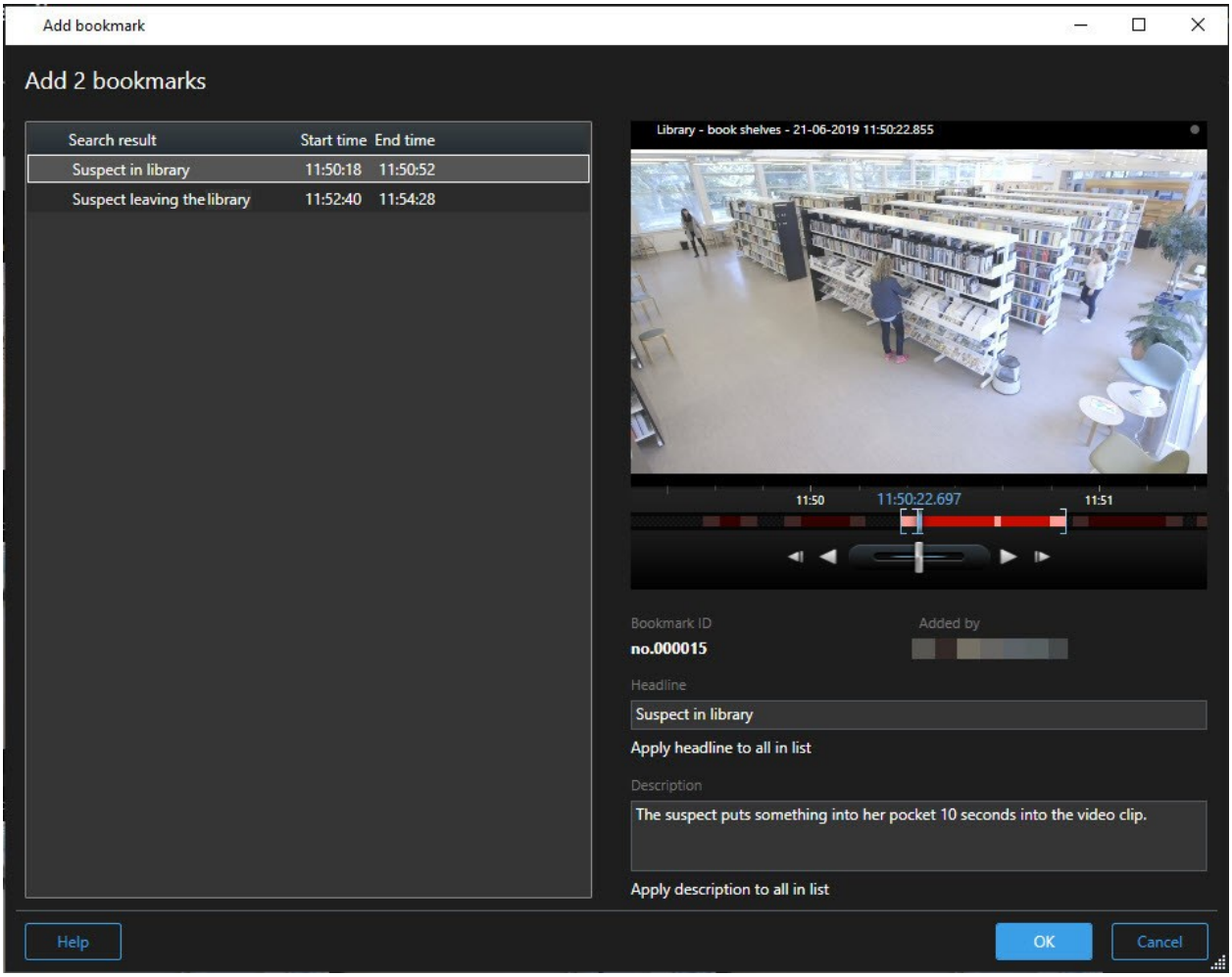
ブックマークウィンドウは、詳細なブックマークを有効にした場合にのみ表示されます。ページ77の詳細なブックマークを有効にするを参照してください。

ブックマークウィンドウのレイアウトは現在のXProtect Smart Clientの場所に応じて、また、作成するのが単一のブックマークか、複数のブックマークかによって異なります。以下をクリックするとウィンドウの画像が表示されます。

単一のブックマーク


Add bookmark
Add 1 bookmark
Library - book shelves - 21-06-2019 11:59:08.422
11:59:08.422
12:00
Bookmark ID
no.000017
Added by
Headline
Suspect in front of book shelf
Description
10 seconds into the video clip, the suspect puts something into her pocket.
Help
OK
Cancel

複数のブックマーク



ブックマークウィンドウのフィールド。

名前	説明
ブックマークID	ブックマークに自動的に割り当てられる数字。
追加した人物	ブックマークを作成した人物。
タイムライン	ブックマークの時刻およびクリップの開始/終了時刻はシステム管理者によって指定されていますが、これらは変更できます。時刻を変更するには、タイムライン(ページ185のタイムナビゲーションのコントロール(説明付き) を参照) でインジケータを必要な時刻にドラッグします。

名前	説明
	  開始時刻：ブックマーククリップの推奨開始時刻とは、システム管理者が指定した、ブックマーク時刻の数秒前の時間です。 ブックマーク時間：ブックマークしたビデオクリップの時間。 終了時刻：ブックマーククリップの推奨終了時刻とは、システム管理者が指定した、ブックマーク時刻の数秒後の時間です。
ヘッドライン	ヘッドラインには最大50文字を指定できます。
リスト内の全アイテムに見出しを適用する	複数のブックマークの作成時にしか表示されません。 すべてのブックマークに同じヘッドラインを使用するには、テキストをクリックします。
説明	説明を指定できます。
リスト内の全アイテムに説明を適用する	複数のブックマークの作成時にしか表示されません。 すべてのブックマークに同じ説明を使用するには、テキストをクリックします。

ブックマークを追加または編集する

ブックマークをライブおよび録画したビデオに追加することができます。詳細なブックマークを有効にしている場合は、ブックマーク名と説明を指定できます。タイムスパンを調整することもできます。後でブックマークの詳細を検索し編集することができます。

要件：

詳細なブックマークを有効にする必要があります。詳細については、ページ77の詳細なブックマークを有効にするを参照してください。

手順：

1. ビューで使用するカメラを選択します。
2. ブックマークのアイコンをクリックします。詳細を有効にすると、ブックマークウィンドウが表示され、インシデントの詳細な説明を追加することができます。
3. ブックマークの名前を入力します。

4. ブックマーククリップの長さは、監視システムサーバーで規定されますが、タイムラインインジケータをドラッグして変更することもできます。
5. (オプション) インシデントについて説明します。
6. **OK** をクリックします。

> ブックマークを後で検索/編集するには、検索タブに移動してブックマークを検索します。ページ208のブックマークの検索を参照してください。

ブックマークを削除

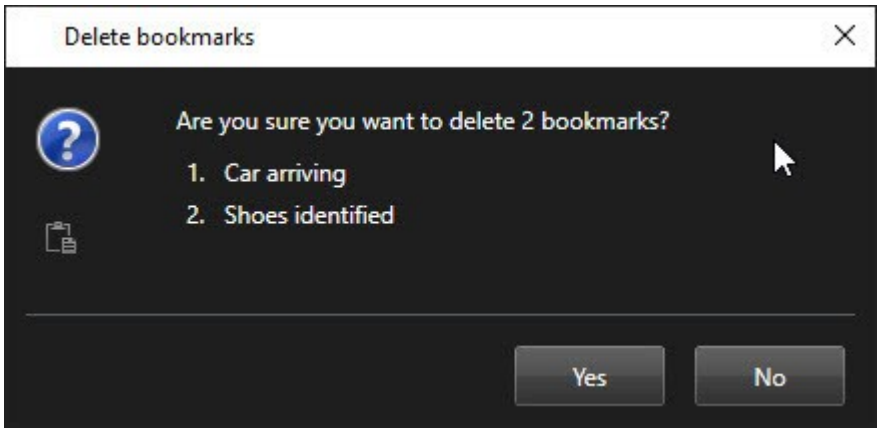
自分または他の人が作成したブックマークを削除できます。ブックマークは削除されるとデータベースからも取り除かれ、それ以後は検索できなくなります。

要件

ブックマークを削除するにはユーザー権限が必要です。このユーザー権限は、役割 > 全体のセキュリティでManagement Clientのシステム管理者が管理します。

手順:

1. 検索タブで、削除したいブックマークを探します。
2. 検索結果でそれぞれのブックマークにカーソルを当てて、青いチェックボックスを選択します。
3. 青いアクションバーでをクリックし、ブックマークを削除を選択します。ウィンドウが表示されます。



4. はいをクリックしてブックマークを削除します。

> システムによっては、特定のブックマークを削除できないよう制限がかけられている場合もあります。その場合は通知が表示されます。

イベントおよびアラーム

アラーム(説明付き)

> この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

XProtect VMSサーバーでは、ほぼどのようなインシデントや技術的な問題(イベント)でもアラームをトリガーするよう設定できます。アラームとイベントはアラームマネージャータブで表示できます。ここには、VMSインシデント、ステータス、可能な技術的問題の概要が集約的に表示されます。

XProtect Smart Clientではアラームトリガーを設定できません。システム管理者は、XProtect VMSシステムを設定する際に、これを行います。

> アラームマネージャータブは、システム管理者の定義した設定に応じて表示または非表示されます。

アラームマネージャタブは、アラームやイベントの処理専用のビューを提供します。このタブには、アクティブなアラームの数が表示されます。9件を超えるアラームは、9で表示されます。アラームマネージャーには、アラームリスト、各アラームまたはイベントに関連のあるビデオをプレビューするためのアラームプレビューのほか、アラームに関連のあるカメラの場所を示す地図も含まれていることがあります。

アラームリスト(説明付き)

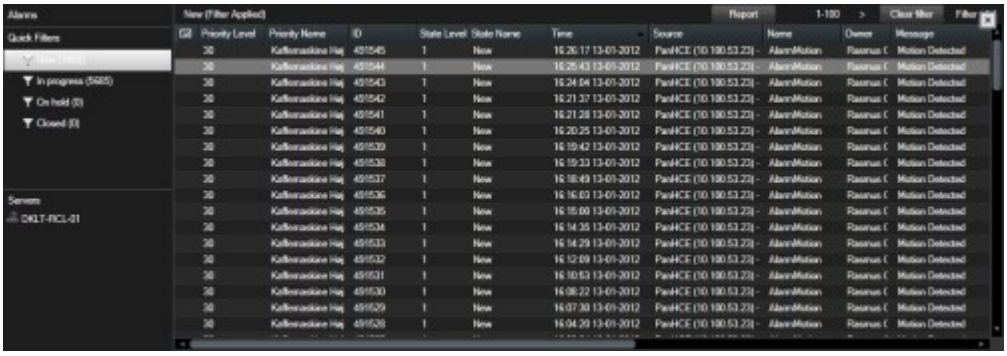
アラームリストには、デフォルトで受信するアラームが表示されます。最も直近のアラームがリストのトップに表示されます。または、アラームリストにMIPのプラグインやアナリティクスイベントのリストを表示することもできます(例:入退室管理やナンバープレート認識など)。

関連のあるビデオがあるアラームまたはイベントは、とともに表示されます。アラームまたはイベント発生時の静止画像をプレビューするには、アイコンの上にマウスを動かしてください。アラームやイベントに関連付けられたカメラからの録画ビデオをプレビューするには、リストでアラームまたはイベントを選択します。アラームの繰り返しを止めるには、リストからその音に該当するアラームを選択します。

リストの表示方法、列のフィルタリング方法、列を異なる位置にドラッグする方法、右クリックして特定の列を表示または非表示にする方法を決められます。

イベントリストには、モーション検知やアーカイブ障害などのシステムやユーザーが生成するイベントは表示されません。

リストは3秒ごとに更新されます。



イベントのリストを表示するには、設定モードに入り、プロパティペインでイベントを選択します。ページ86のアラームリストの設定も参照してください。

アラームリストのサーバー(説明付き)

アラームリストの左側で、アラームが発生したサーバーを表示できます。多くのXProtect VMSシステムには単一のサーバーのみが含まれていますが、階層で複数のサーバーが構成されているシステムもあります。アクセスできるすべてのサーバーが一覧表示されます。アラームはサーバーでフィルタリングできます。

アラーム状態(説明付き)

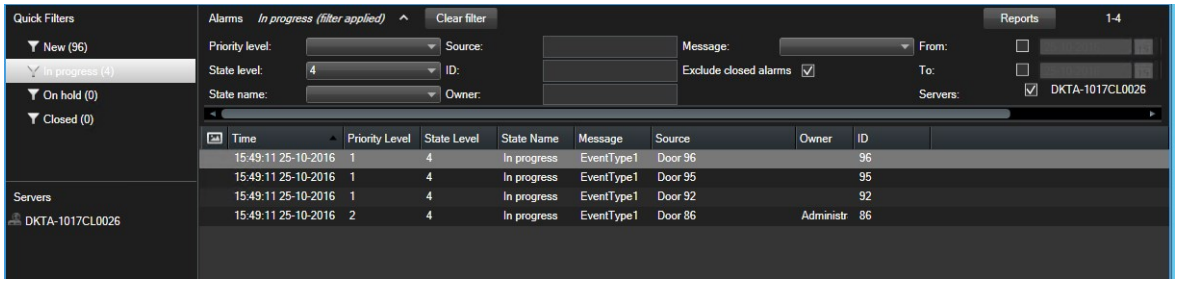
アラームには以下の状態があります。新規、進行中、保留中、終了。各アラームの状態は[状態]列の[アラームリスト]で見ることができます。[フィルター]ペインでは、特定の基準に従ってフィルタリングできます。最初はすべてのアラームが[新規]状態ですが、アラームが処理されると、その状態が更新されます。

アラームのフィルタリング

アラームリストにフィルタをかけるには複数の方法があり、関心のあるデータだけを表示することができます。

手順:

1. アラームリストのツールバーで、カスタム(フィルター適用済み)またはフィルターなしテキストをクリックします。選択したフィルターによっては、テキストが異なる場合があります。



2. フィルターをかける列のフィルター条件を入力します。たとえば、IDフィールドにユーザーIDを入力すると、そのユーザーに割り当てられているアラームだけが表示されます。
3. 例えば、州名および所有者(割り当て済み)などのようにフィルターを組み合わせることができます。
4. フィルター処理していないアラームリストに戻るには、[フィルター解除]ボタンをクリックします。
5. アラームリストのコンテンツを並べ替えるには、アラームリストで列のタイトルをクリックします。

アラーム処理にマップコンテンツが含まれる場合、マップ上のエレメント(カメラ、サーバーなど)を右クリックして、アラームの表示を選択することでアラームリストをフィルター処理することもできます。これにより、選択した要素からのアラームだけがアラームリストに表示されます。

アラームへの応答

アラームの詳細の表示および編集

アラームにはさまざまな方法で応答できます。アラームリストを追加したいずれかのビューに移動して、アラームをダブルクリックできます。アラームが別のウィンドウで開き、ここでアラームインシデントとライブビデオのプレビューを表示できます。また、以下のテーブルのフィールドを変更することで、アラームに応答することもできます。

XProtect VMS システムの設定方法に応じて、アラームのデスクトップ通知を受け取ることも可能です。このような通知は、スクリーンに15秒間表示されます。通知をクリックすると、アラームマネージャータブに直接移動し、アラームウィンドウが開きます。

フィールド	説明
ステータス	アラームの状態は、誰かがイベントに対応したかどうかを示します。アラームの状態を変更できます。通常、新規から進行中に状態を変更した後、保留中または終了に変更できます。
優先	アラームの優先度を変更できます。

フィールド	説明
度	
割り当て先	自分自身を含めて、組織内のユーザーにアラームを割り当てることができます。アラームを割り当てる相手がアラームの所有者になり、アラームリストの所有者列に表示されます。
コメント	アクティビティセクションに追加されるコメントや備考を入力します。コメントは通常、ユーザーが行ったアクションに関連します。たとえば、「警備担当者が容疑者を拘束」、「容疑者を警察に引き渡す」、「火災報知器」などです。ウィンドウの最下部にコメントフィールドが表示されます。
アクティビティ	アクティビティはユーザーがアラームをどのように処理したかを簡単に示します。アラームの状態または優先順位にユーザーが変更を加えると、ユーザー間でのアラームの再割り当て、追加されたコメントがアクティビティセクションに自動的に含められます。 XProtect VMSサーバーの設定によって、アラームにはアラーム受領時の対応手順を含めることができます。この手順は、アラーム定義の一環としてサーバー側で定義されます。この場合、アラームを編集するときにアクティビティが自動的に表示されます。
印刷	アラームに関する情報を含むレポートを印刷できます。アラーム履歴や、画像を利用できる場合はアラーム発生時の静止画像などです。

アラームを確認

アラームを受信したら、それに対応することを録画するために確認応答することができます。

手順：

1. アラーム リスト中でアラームを右クリックして認識させるを選択。アラーム状態は進行中に変更されます。

   確認応答できるのは新規のアラームだけです。

2. 複数のアラームを同時に確認応答することができます。**Ctrl**キーを押したまま、確認するアラームを選択します。
3. アラームをダブルクリックすると、アラームの詳細を編集することができます。例えば、アラームを個人に割り当て、指示を追加します。

特定のイベントタイプで新しいアラームを全て無効にする

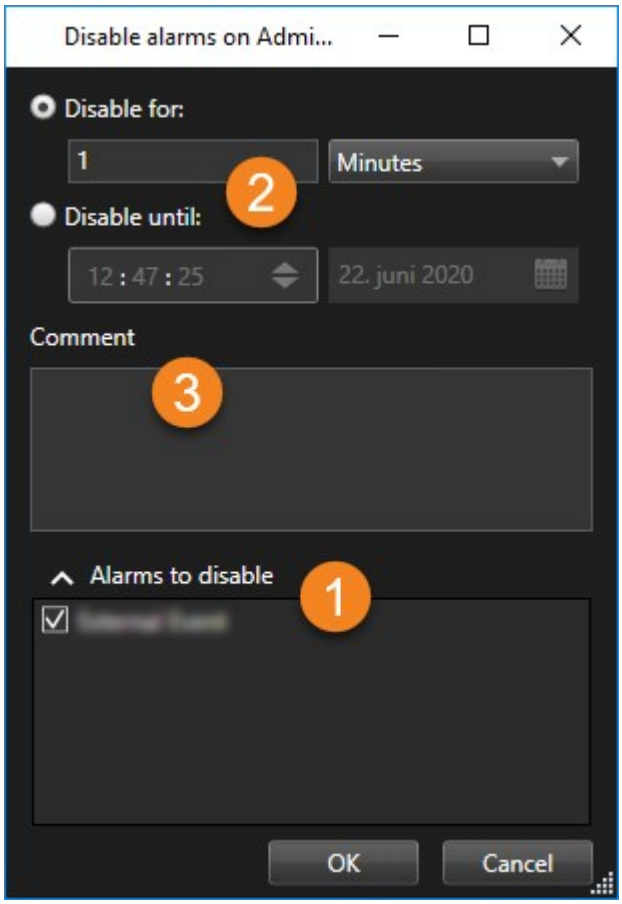
イベントが誤認アラームをトリガーする場合は、一定期間、この愛プのイベントでの新しいアラームを全て無効にした方がよいかもしれません。例えば、カメラのまわりで動作が多く、何度も誤認アラームが発生している場合は、このカメラの動作検出アラームを10分間、無効にできます。これにより、注意すべき実際のアラームを確認できます。

アラームマネージャーまたはマップを使用して、新しいアラームを全て無効にできます。

1. アラームマネージャーを使用する場合：アラームリストでアラームを右クリックし、新規アラームを全て無効にするを選択します。

   マップを使用する場合：アラームを右クリックし、新規アラームを全て無効にする > 無効化を選択します。

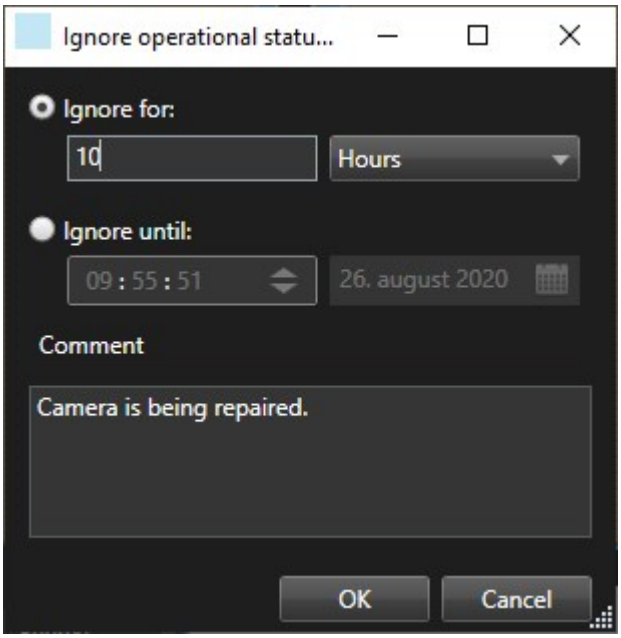
   新規アラームを全て無効にするウィンドウが表示されます。



2. 以下でトリガーされる新規アラームを全て無効にするリスト❶で、アラームを無効にするイベントのタイプを指定します。
3. いつまで、またはどれくらいの期間、選択したイベントタイプのアラームを無効にするのか指定します❷。
4. また、選択したイベントタイプでアラームを無効にしている理由を追加することもできます❸。

マップでアラームを無視する

マップで指定した期間、エレメントに対するアラームを無視することができます。たとえば、カメラが修理中で接続が解除されている場合、修理中はマップにエラーが表示されても無視する必要があります。マップでアラームを無視しても、アラームはマップから削除されるだけで、アラームリストには残ります。



アラームを閉じる

アラームを確認した後、通常は、調査担当者アラームを割り当てます。この間、アラームは運転中の状態になります。アラームを処理した後、閉じることができます。

アラームを閉じるには、[アラームリスト]で以下のいずれかを実行します。

- アラームを右クリックして、[閉じる]を選択。
- アラームをダブルクリックし、[状態]リストで、[閉じる]を選択。

アラームレポートを印刷する

アラーム履歴や、利用できる場合はアラームの時刻での静止画像を含め、アラームに関する情報を記載したレポートを印刷できます。アラームリストで複数のアラームを選択している場合は、この機能は使用できません。

手順：

1. アラームリストで、アラームを右クリックします。
2. 印刷を選択します。ウィンドウが表示されます。
3. メモを追加するにはメモフィールドにテキストを入力します。
4. [印刷]ボタンをクリックします。

アラームの統計を取得する

以下の期間にXProtect VMSシステムでトリガーされたアラームに関する統計データを取得します。

- 直近24時間
- 直近7日間
- 直近30日間
- 直近6ヶ月間
- 昨年

アラームレポートウィンドウには、カテゴリでフィルタリングされたアラーム数を示すグラフが2つ表示されます。例えば、優先度や状態などで、2つのグラフを並べて比較できます。

手順：

1. アラームリストでレポートボタンをクリックします。ウィンドウが表示されます。
2. グラフの上でタイムスパンを選択します(例：直近24時間)。
3. レポートの選択リストで、次のカテゴリのいずれかを選択します。
   - カテゴリ
   - ステータス
   - 優先度
   - 閉じる理由
   - サイト
   - 応答時間
4. 各グラフでサブフィルターを選択します。例えば、ステータスを選択すると、最初のグラフで新規、2番目のグラフで進行中を選択できます。グラフは自動的に入力されます。
5. PDFレポートとしてグラフを印刷するには、をクリックします。

マップ上のアラーム(説明付き)

アラーム処理ビューに1つまたは複数のマップ位置が含まれている場合は、マップにもアラームを表示できます。マップは、カメラ、サーバーまたはアラームをトリガーする他のデバイスの地理的位置に基づいてアラームを表示するので、アラームがどこで発生したのか簡単に確認できます。右クリックすることで、マップから直接アラームを確認、無効化、抑制することができます。

カメラエレメントは、マウスを置くと、サムネイル形式のビデオを表示します。アラームと併用すると、アラーム発生時にマップ上のグラフィック要素が赤い丸で囲まれます。例えば、特定のカメラに関連付けられたアラームが作動すると、そのカメラを表すグラフィック要素が即座に赤い丸で囲まれます。カメラ要素をクリックすると、そのカメラのビデオを表示するだけでなく、表示されるメニューを介してアラームを処理できます。

マップ上のアラームを強調表示する色として赤が妥当でない場合は、色を変更できます。

アラームが関連付けられているカメラが番地レベルのマップにあり、市のレベルのマップを表示しているとします。アラームを通知するには 異なるマップ階層レベルをつなぐグラフィック表現であるホットゾーンを使用すれば問題ありません。アラームが道路マップレベルで検出されると、都市レベルのマップ上のホットゾーンの色が赤に変わり、(これらの間に他のマップレベルが存在する場合でも) 下位レベルのマップにアラームが発生していることが示されます。

複数の要素からのアラームを表示できるアラームリストモードに戻るには、アラームリストに表示されている必要なサーバー、優先順位、または状態をクリックします。

スマートマップ上のアラーム(説明付き)

スマートマップには、カメラでトリガーされた場合、およびカメらたスマートマップに追加された場合にアラームが表示されます。スマートマップへのカメラ追加の詳細については、ページ98のスマートマップ上のカメラの追加、削除または編集を参照してください。

スマートマップアイコンの詳細については、ページ220のカメラアイコン(説明付き) を参照してください。

イベント(説明付き)

イベントは、XProtect VMSシステムで事前に定義されたインシデントで、アラームをトリガーするよう設定できます。イベントは事前に定義されたシステムインシデント、またはユーザーの指定したイベントです。分析イベント、一般的なイベント、ユーザー指定などがあります。イベントは必ずアラームにリンクしなければならないわけではありませんが、リンクすることができます。

通常、イベントは背景で自動的に有効になります(外部センサーからの入力の結果、動作検出、他のアプリケーションからのデータなど) 。ただし、イベントは手動で起動することも可能です。イベントはアクションをトリガーするためにVMSシステムによって使用されます。録画の開始や停止、ビデオ設定の変更、出力の有効化、アクションの組み合わせといったアクションがあります。XProtect Smart Clientからイベントを有効にすると、VMSシステムでアクションが自動的にトリガーされます(特定期間、特定のフレームレートを使い、特定のカメラで録画するなど) 。

手動でイベントを起動した場合に何が起きるのかについては、システム管理者が決めます。システム管理者は、手動で起動されたイベントについてイベントボタン、ユーザー定義イベント、カスタムイベントなどを使用できます。

イベントのマニュアル起動

選択可能なイベントのリストは、サーバーと、イベントが関連付けられているカメラ/デバイスごとにグループ分けされています。イベントは手動で起動できます。イベント起動後の確認はありません。

1. ライブタブで、イベントペインを展開します。
2. 実行をクリックします。
3. カメラで利用できる場合は、マウスを画像の上に移動した時に表示されるオーバーレイボタンをクリックすることもできます。

階層構造内では、関連するサーバーの下にグローバルイベントが表示されます。サーバーが赤色のアイコン付きでリストされている場合は使用することができず、その場合、そのサーバーではイベントをアクティブ化できません。

エビデンスロック

エビデンスロックを追加、編集、削除することができますが、エビデンスロックをエクスポートしてビデオを再生することもできます。

エビデンスロック(説明付き)

エビデンスロック機能を使用すると、たとえば調査や試行を行っているときに、ビデオシーケンスが削除されるのを防ぐことができます。この保護は、選択したカメラに関係するデバイスからの音声やその他のデータをカバーします。

エビデンスロックがかけられると、システムで定めた保存期間が経過してもデータが自動的に削除されなくなります。

エビデンスロックの作成、表示、編集、削除が可能かどうかは、システム管理者がどのようにユーザー権限を定めているかによります。

エビデンスロックの作成

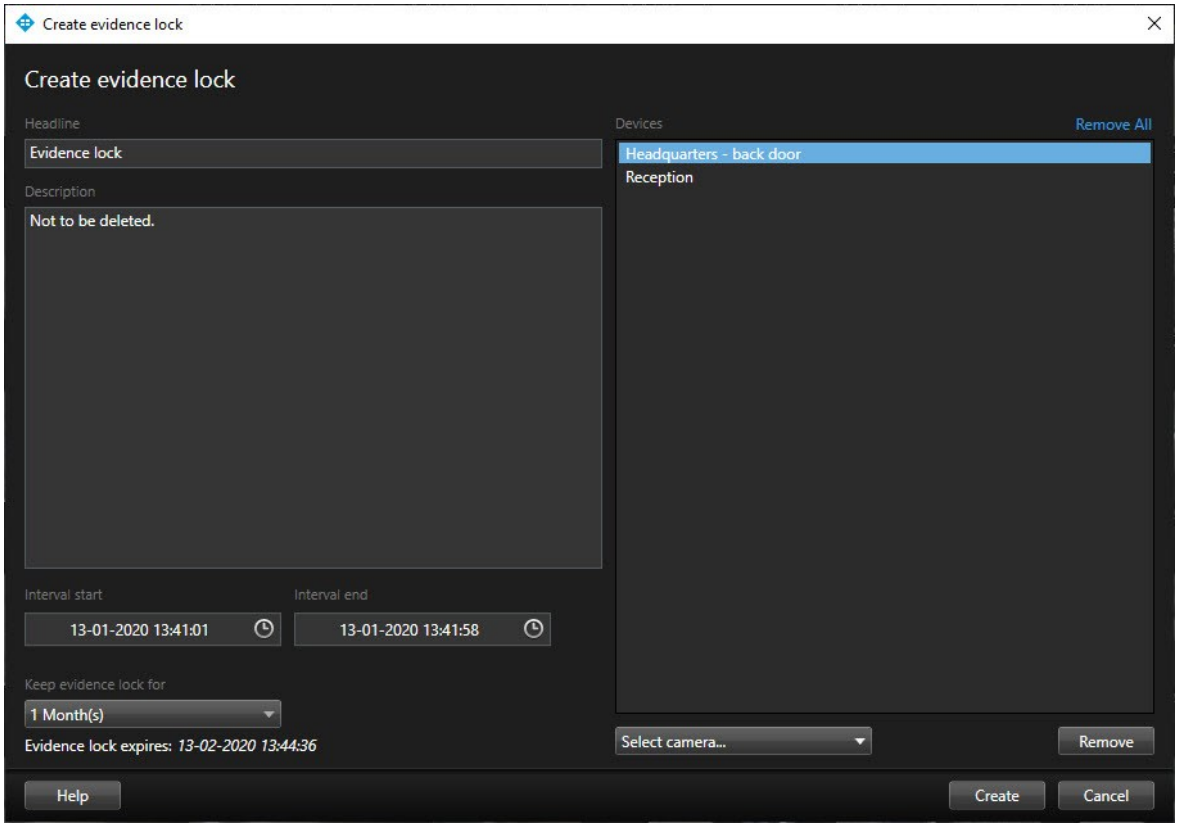
エビデンスロックを作成することで、ビデオ録画と関連データが削除されるのを防ぐことができます。

再生タブでエビデンスロックを作成する

1. タイムラインで、時間選択モードまたは開始/終了時間の設定ボタンをクリックします。

2. 削除から保護したいビデオシーケンスの開始時間および終了時間を選択します。
3. 関連デバイスから送られた、保護したいビデオシーケンスとデータが保存されているカメラを選択します。

4. タイムラインの右側でエビデンスロック>作成の順に選択します。ウィンドウが表示されます。



5. エビデンスロックにヘッドラインを付け、任意で説明も添えます。

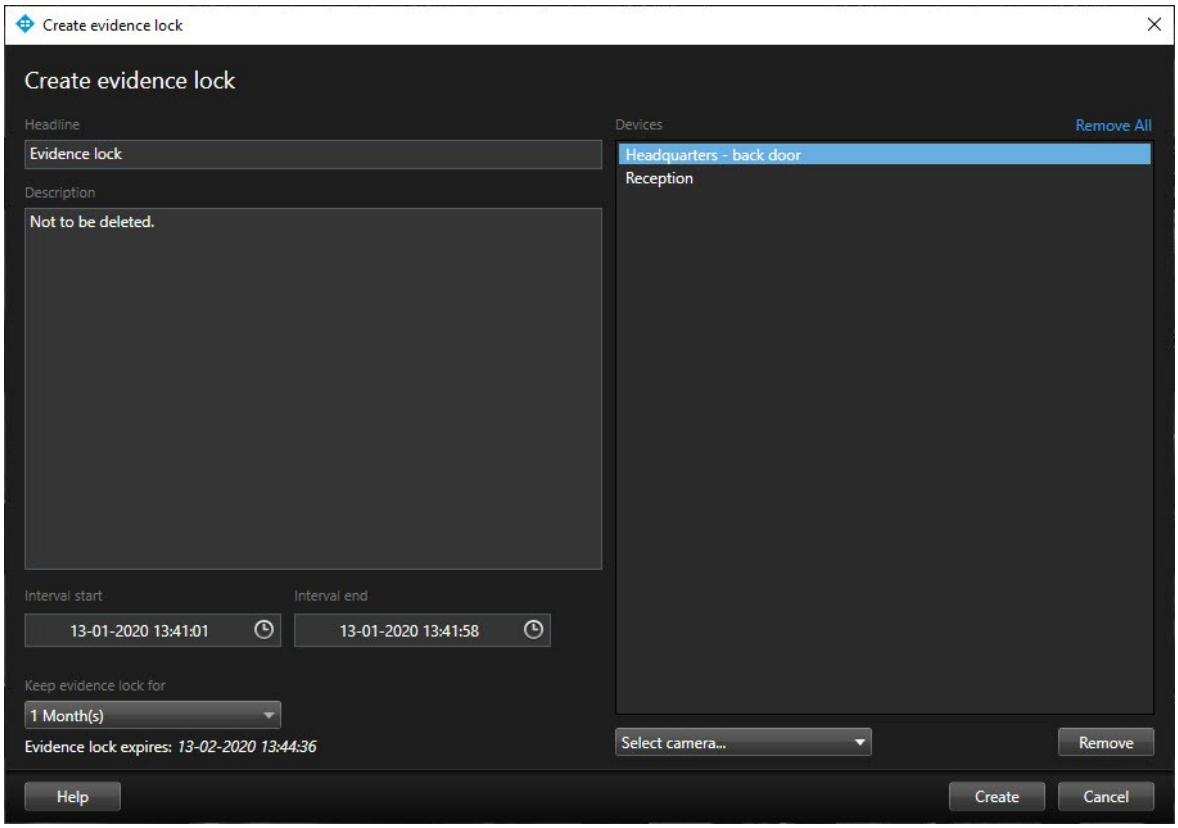
6. 残りのフィールドについては、ページ254のエビデンスロック設定を参照してください。

7. 作成をクリックします。エビデンスロックの作成後、詳細をクリックすると、この操作の成否を確認できます。ページ256のエビデンスロックのステータスメッセージを参照してください。

検索タブでエビデンスロックを作成する

1. 検索結果リストで、削除されないように保護したいビデオシーケンスを選択します。アクションバーが表示されます。関連デバイスに保存されているデータも保護されます。

2. > エビデンスロックの作成の順にクリックします。ウィンドウが開き、選択した検索結果に関連しているカメラがリストされます。



3. エビデンスロックにヘッドラインを付け、任意で説明も添えます。
4. タイムスパンは選択した検索結果をすべてカバーしています。タイムスパンを変更するには、間隔開始と間隔終了フィールドを使用します。
5. 残りのフィールドについては、ページ254のエビデンスロック設定を参照してください。
6. 作成をクリックします。ウィンドウが開き、エビデンスロックの進捗状況が示されます。詳細をクリックして、うまくいったこと、うまくいかなかったことを確認します。ページ256のエビデンスロックのステータスメッセージを参照してください。

エビデンスロックを表示する

1. 再生タブをクリックします。
2. タイムラインの右側にあるエビデンスロックをクリックして表示を選択します。
3. 再生タブではなくライブタブにとどまりたい場合は、アプリケーションのツールバーでステータスボタンをクリックしてから、エビデンスロックリストを選択します。ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

4. 見出しと説明に含まれるテキストの検索、該当する列の並べ替え、フィルターオプションを用いた対象エビデンスロックの容易な検索が可能です。
5. エビデンスロックを選択し、詳細をクリックして、エビデンスロックに含まれるカメラやその他の情報を表示します。

エビデンスロックを編集する

エビデンスロックは、ユーザー権限に応じて編集できます。たとえば、タイムインターバル、カメラ、エビデンスロックの適用時間などです。

1. 再生タブを選択します。
2. タイムラインの右側にあるエビデンスロックをクリックし、ビューを選択するか、アプリケーションツールバーのステータスボタン をクリックし、エビデンスロックリストを選択します。
3. エビデンスロックを選択し、詳細をクリックします。ウィンドウが表示されます。
4. エビデンスロックの間隔を短くするか長くするには、エビデンスロック間隔開始およびエビデンスロック間隔終了フィールドを使用します。
5. エビデンスロックの有効時間を変更するには、エビデンスロックを保持リストで値を選択します。
6. 完了したら、更新をクリックします。
7. 更新が成功すると、ウィンドウが表示されます。詳細をクリックして、うまくいったこと、うまくいかなかったことを確認します。詳細については、ページ256のエビデンスロックのステータスメッセージを参照してください。

エビデンスロックのあるビデオを再生する

いつでも、ビデオが保護されているか否かに関わらず、再生タブでビデオを再生することができます。特定のエビデンスロックに含まれているビデオシーケンスを再生したい場合は、次の操作を実行してください。

1. 再生タブをクリックします。
2. タイムラインの右側にあるエビデンスロックをクリックして表示を選択します。
3. 再生タブではなくライブタブにとどまりたい場合は、アプリケーションのツールバーでステータスボタン をクリックしてから、エビデンスロックリストを選択します。ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。
4. エビデンスロックを選択し、再生をクリックします。新しいウィンドウが開き、エビデンスロックのすべてのカメラがあるビューが表示されます。
5. いずれかのタイムライン機能を使って、特定の時刻へ移動するか、単に順方向再生をクリックします。

エビデンスロックをエクスポートする

エビデンスロックをエクスポートすると、カメラに関連するデバイスからのデータもエクスポートに含まれます。

1. 再生タブをクリックします。
2. タイムラインの右側にあるエビデンスロックをクリックして表示を選択します。
3. 再生タブではなくライブタブにとどまりたい場合は、アプリケーションのツールバーでステータスボタンをクリックしてから、エビデンスロックリストを選択します。
4. エビデンスロックを選択し、エクスポートをクリックします。
5. エクスポートウィンドウが開きます。設定を定義します。詳細については、ページ193のウィンドウ設定のエクスポートを参照ください。

エビデンスロックを削除する

エビデンスロックを削除すると、ビデオシーケンスを削除するのではなく、その保護を削除することになります。 ビデオシーケンスがシステムのデフォルトの保存期間より古くなると、システムはこれをユーザーに通知します。ユーザーはエビデンスロックの保持を選択することで、保護解除後にシステムによって自動的に削除されるのを防ぐことができます。

1. 再生タブをクリックします。
2. タイムラインの右側にあるエビデンスロックをクリックして表示を選択します。
3. 再生タブではなくライブタブにとどまりたい場合は、アプリケーションのツールバーでステータスボタンをクリックしてから、エビデンスロックリストを選択します。
4. 1つ以上のエビデンスロックを選択し、削除をクリックします。
5. 削除が成功すると、ウィンドウが表示されます。詳細をクリックして、うまくいったこと、うまくいかなかったことを確認します。詳細については、ページ256のエビデンスロックのステータスメッセージを参照してください。

エビデンスロック設定

名前	説明
ヘッドライン	エビデンスロックのヘッドラインです。
説明	エビデンスロックの説明です。
間隔開始	保護したいビデオシーケンスの開始日時を調整します。
間隔終了	保護したいビデオシーケンスの終了日時を調整します。
エビデンスロックの保持	エビデンスロックを保護しておく期間を指定します。

名前	説明
期間	ユーザー権限に応じて、時間、日、週、月、年、無限、ユーザー定義のオプションのいずれかを使用できます。 ユーザー定義を選択する場合、カレンダーボタンをクリックして、日付を選択してから、時刻を手動で調整します。 完了すると、エビデンスロックの有効期限が終了する日時が表示されます。
カメラの選択	クリックすると、エビデンスロックにさらに含めるカメラを選択できます。
削除/すべて削除	クリックすると、エビデンスロックから選択したカメラを1つ削除するか、すべてのカメラを削除できます。

エビデンスロックフィルター

名前	説明
ロック間隔	保護される間隔の開始時間に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、昨日、最近7日、すべて、です。
作成済み	いつ作成されたかに基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、昨日、最近7日、すべて、カスタム間隔です。カスタム間隔を選択する場合、カレンダーで開始と終了の日付を選択します。
有効期限日	有効期限に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、明日、今後7日、すべて、カスタム間隔です。カスタム間隔を選択する場合、カレンダーで開始と終了の日付を選択します。
ユーザー	すべてのユーザーが作成したエビデンスロック、またはあなたの作成したエビデンスロックのみをフィルターできます。
カメラ	すべてのカメラからのデータのあるエビデンスロックをフィルターするか、エビデンスロックに含める必要があるカメラを1つ以上選択します。

エビデンスロックのステータスメッセージ

メッセージ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
成功	すべて成功です。 結果： エビデンスロックは作成済み/更新済み/削除済みです。	
部分的にのみ成功	エビデンスロックの作成、更新、削除が完全に成功したわけではない場合、部分的にのみ成功というメッセージが表示され、進捗状況バーは黄色になります。詳細をクリックして、何がうまくいかなかったかを確認します。 結果： エビデンスロックは作成/更新/削除されましたが、選択したカメラおよび/またはそれらに関連するデバイスの一部が含まれていません。 また、原因としてレコーディングサーバーがオフラインになっていることも考えられます。このような状況では、エビデンスロックの構成は済んでいますが、実際のビデオにはまだ適用されていません。この場合、エビデンスロックはレコーディングサーバーが利用可能になった時点でビデオに適用されます。ロックが適用されたかどうかは、ロックのサイズを見ると確認できます。サイズが表示されると、ロックが適用されたことを意味します。	シナリオ：デバイスがエビデンスロックに含まれているレコーディングサーバーの一部がオフラインです。 解決策：レコーディングサーバーがオンラインになるまで待機します。 シナリオ：1つ以上のデバイスで、2020 R2以降にアップグレードされていないレコーディングサーバーに録画が保存されています。 解決策：レコーディングサーバーをバージョン2020 R2以降にアップグレードしてください。 シナリオ：ユーザーがXProtect Smart Clientにログインした後、システム管理者が当該ユーザーのエビデンスロックのユーザー権限を変更しました。 解決策：システム管理者にお問い合わせください。
失	エビデンスロックの作成、更新、削除が成功しなかった場合は失敗メッセージが表	シナリオ：デバイスがエビデ

メッセージ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
敗	示され、進捗状況バーは赤色になります。詳細をクリックして、何がうまくいかなかったかを確認します。 結果： エビデンスロックは作成済み/更新済み/削除済みではありません。	ンスロックに含まれているレコーティングサーバーがすべてオフラインです。 解決策：レコーディングサーバーがオンラインになるまで待機します。 シナリオ：マネジメントサーバーはオフラインです。 解決策：マネジメントサーバーがオンラインになるまで待機します シナリオ：更新および削除のみ：エビデンスロックの1つ以上のデバイスに対するユーザー権限がありません。 解決策：システム管理者にお問い合わせください。 シナリオ：1つ以上のデバイスで、2020 R2以降にアップグレードされていないレコーディングサーバーに録画が保存されています。 解決策：レコーディングサーバーをバージョン2020 R2以降にアップグレードしてください。

プライバシーマスク

この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細について

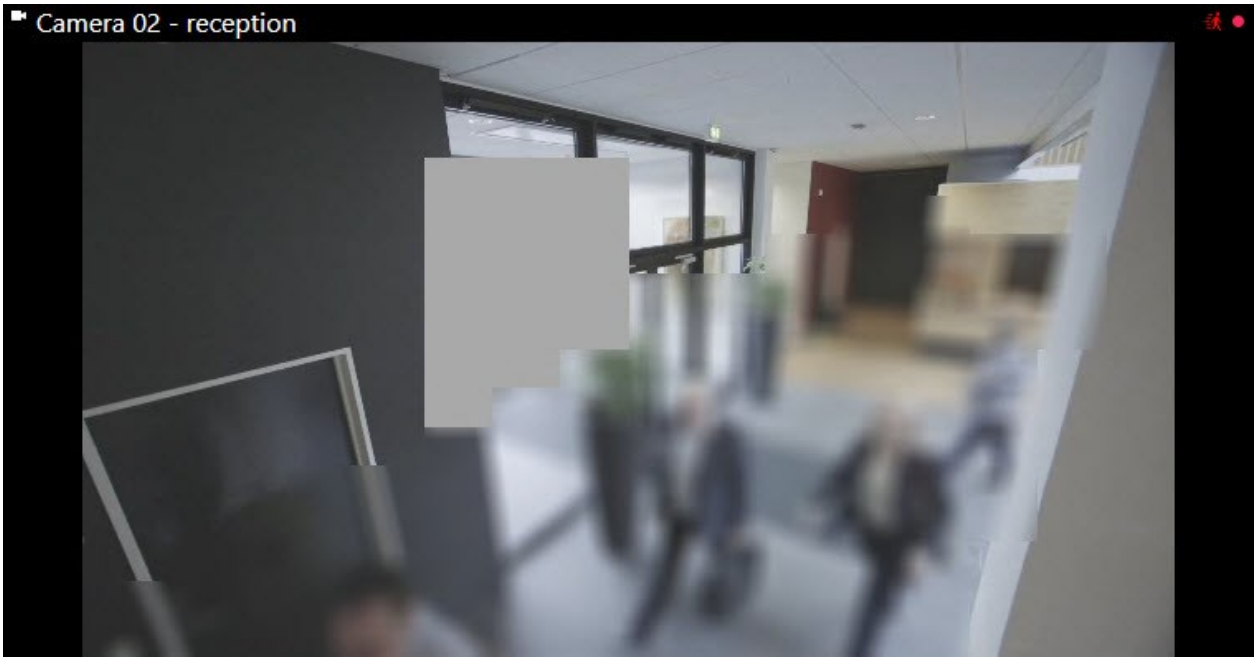
は、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

プライバシーマスク(説明付き)

ライブまたは録画されたビデオのプライバシーが保護されている、あるいは公共エリアのカメラが写しているブロックされている特定の部分を見るには、プライバシーマスキングを使うことができます。たとえば、個人の住宅の窓がカメラに写っている場合は、プライバシーマスクをウィンドウに適用できます。

次の例では、プライバシーマスクが隣接する建物の5つの窓に適用されています。

次の例では、2種類のプライバシーマスクが適用されています。無地のグレーの領域は、常に保護されています。一方、ぼやけた領域は、プライバシーマスクの除去が可能です。除去は、プライバシーマスクを除去するための十分な権利を持っているユーザーのみ可能です。



プライバシーマスクはシステム管理者によってカメラの視野領域に適用されます。XProtect Smart Clientのビューではマスクの追加または削除はできません。ただし、監視システムとユーザーの持つ権利によっては、一時的に除去可能なプライバシーマスクを表示から排除することは可能です。

ビデオをエクスポートするときは、プライバシーマスクを追加することもできます。詳細については、ページ192のエクスポート中に録画でエリアをマスクするを参照してください。

> プライバシーマスクを含むビデオをエクスポートすると、特にXProtectフォーマットでエクスポートする場合に、エクスポートプロセスにかかる時間がかなり長くなり、エクスポートファイルのサイズが大きくなることがあります。

プライバシーマスクの適用と除去

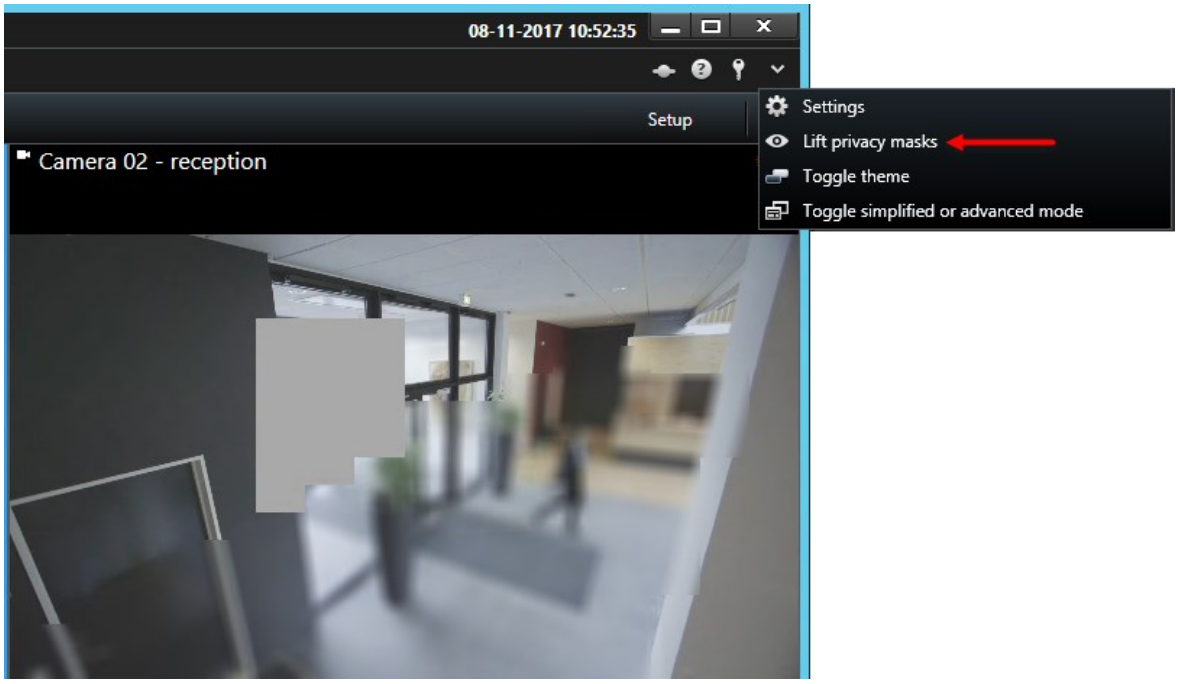
> この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

プライバシーマスクでカバーされている領域のビデオを表示する必要があるかもしれません。これは、システム管理者がManagement Clientにおいてプライバシーマスクが除去可能であると定義し、ユーザーが必要な権利を保有している場合にのみ可能です。

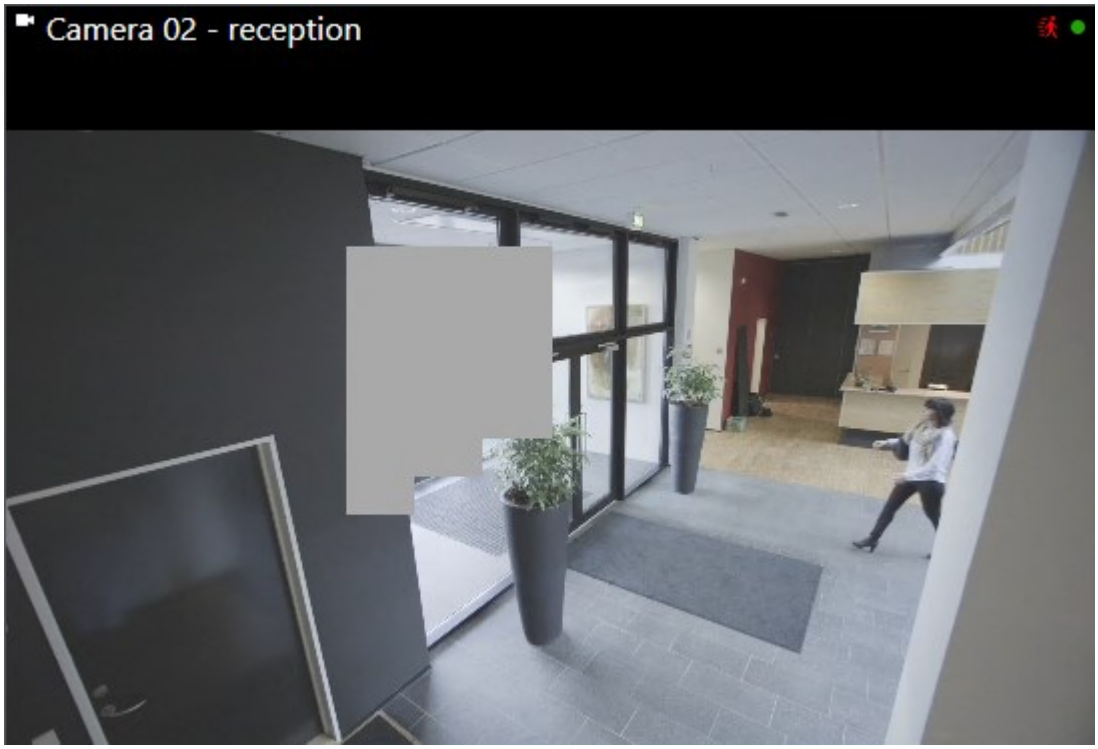
ユーザーが必要な権利を持っていない場合は、追加の権限を求められます。権限を与えることのできる権利の保有者に連絡をし、表示されるフォーム内の資格情報にアクセスしてもらってください。権限を与えられるユーザーについては、システム管理者にお問い合わせください。

プライバシーマスクを除去するには：

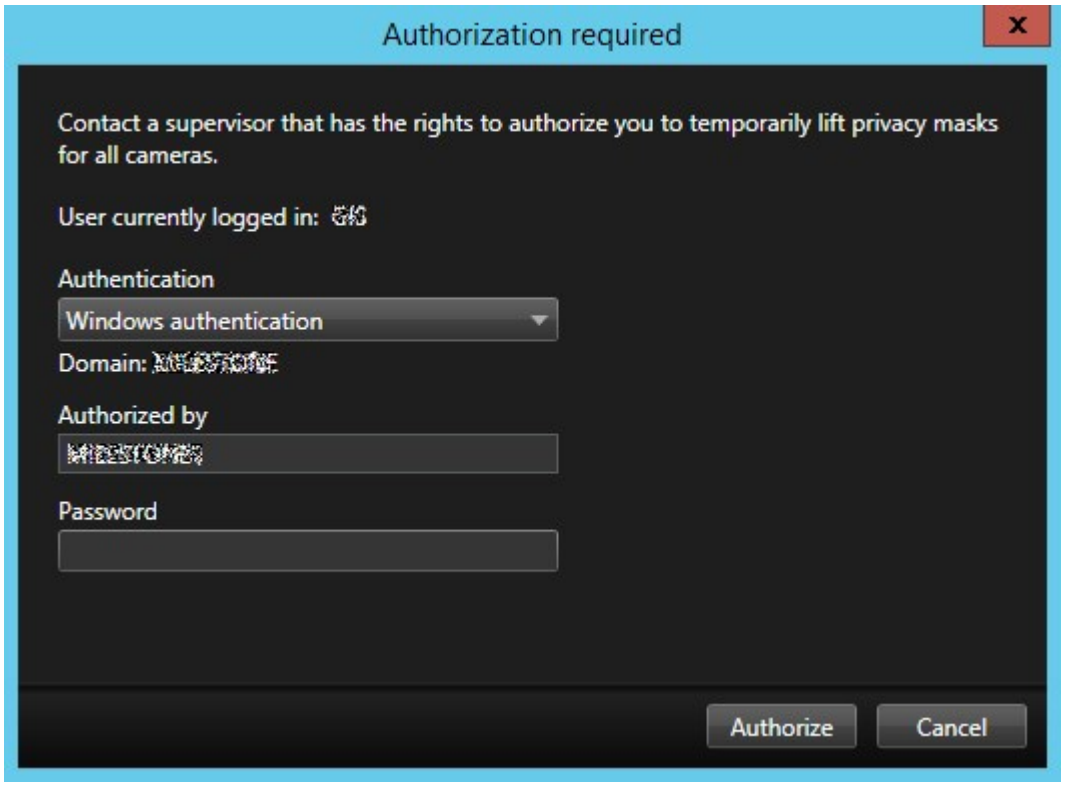
1. アプリケーションツールバーのライブあるいは再生タブで、詳細 > プライバシーマスクの除去をクリックします。



ユーザーがプライバシーマスクの除去の権利を持っている場合、除去可能なプライバシーマスクは、すべてのカメラで消滅し、永久的なプライバシーマスクは残ります。



ユーザーが十分な権利を持っていない場合は、ダイアログボックスが表示されます。



2. 権限を与えることのできる権利の保有者に連絡をし、表示されるフォーム内の資格情報にアクセスしてもらってください。

   除去可能なプライバシーマスクは消滅し、永久的なプライバシーマスクは残ります。

3. システム管理者がデフォルトバリューを変更していない場合は、30分後に除去が終了します(時間切れ)。ただし、マスクはいつでも適用できます。アプリケーションツールバーで、詳細 > プライバシーマスクの適用をクリックします。

> プライバシーマスクが除去された状態でXProtect Smart Clientからログアウトし、再びログインした場合、マスクは常に再度適用されます。

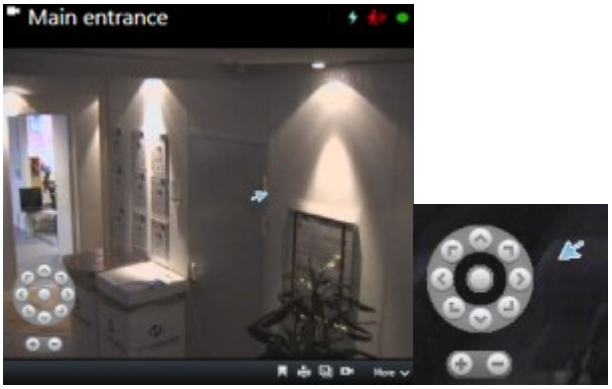
PTZと魚眼レンズ

PTZおよび魚眼レンズは同じセクションに記載されています。これは、2つが密接に関連しているためです。

魚眼レンズ画像(説明付き)

魚眼カメラや魚眼レンズがビューに含まれている場合、矢印マウスポインタ(仮想ジョイスティック)または画像の内側に表示されるPTZナビゲーションボタン(魚眼カメラの種類によっては、独自のズームボタンがあります)をクリックして、魚眼カメラ画像をナビゲートすることができます。PTZの丸いボタンを使うと、カメラをすばやくデフォルト位置へ移動できます。

ズームインやズームアウトは、プラス(+)およびマイナス(-)ボタンを使用します。マウスにスクロールホイールが付いている場合は、それを使ってズームレベルを制御することができます。デフォルトのビューに戻すには、マウスのスクロールホイールまたは真ん中のボタンをクリックします。



> マウスによっては、スクロールホイールが特定の操作に割り当てられている場合があり、その場合はズームできません。マウスの設定マニュアルを参照してください。

プリセットは魚眼レンズ画像のナビゲーションには使用できませんが(「ページ264のPTZカメラをPTZプリセット位置に移動」を参照)、お気に入りの位置を保存することは可能です。

お気に入りの魚眼レンズの位置の定義

魚眼レンズカメラの位置のみを保存できます。

1. 保存する魚眼レンズ画像内の位置に移動します。
2. カメラのツールバーで、詳細 > 魚眼レンズの位置の保存をクリックして、位置を保存します。

3. 魚眼レンズの位置に戻るには、カメラのツールバーで詳細 > 魚眼レンズの位置のロードをクリックします。

PTZおよび魚眼レンズ画像(説明付き)

監視システムによっては、魚眼カメラの使用がサポートされていない場合があります。また、魚眼カメラによっては、Microsoft Windowsの64ビットバージョンでサポートされていない場合があります。

ユーザー権限によっては、一部のカメラからパン/チルト/ズーム(PTZ)管理へアクセスできない場合があります。PTZ機能は、特定の監視システムに接続している場合に制限されることがあります。

XProtect VMSで利用できる機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

PTZ画像(説明付き)

ビュー(画面自動切替またはマッププレビューのビューを含む)にPTZカメラ画像がある場合、オーバーレイPTZナビゲーションボタンを使用してPTZカメラを制御することができます。

設定モードでは、プロパティペインでビューアイテムのPTZクリックモードを定義できます。クリックして中央揃えおよび仮想ジョイスティックから選択できます。[クリックして中央揃え]は、使用を開始したときのデフォルトモードですXProtect Smart Client。デフォルトの選択はXProtect Smart Client設定(ページ39の設定ウィンドウを参照)で変更できます。

ほとんどのPTZカメラはジョイスティックとポイントアンドクリックコントロールをサポートします。ジョイスティックコントロールをカスタマイズできます(ページ48のジョイスティック設定を参照)。

ほとんどのPTZカメラは、カメラ画像内をポイントアンドクリックするだけで、制御することができます。PTZカメラからの画像にマウスポインタを移動させたときに、次のような十字カーソルに変わる場合は、カメラがポイントなどクリックコントロールをサポートしています。

十字カーソルはポイントアンドクリックコントロールを意味します。カメラによって、この十字カーソルの外観が異なります。

一部のカメラでは長方形で囲まれたクロスヘアが表示されます。この場合、拡大する画像の周囲の四角形をドラッグして、特定のエリアをズームすることができます。このタイプのカメラは、キーボードのShiftキーを押したままマウスを上下に動かすと画像内にズームレベルスライダーが表示され、ズームレベルを調整できます。

PTZカメラをPTZプリセット位置に移動

PTZカメラをあらかじめ定義された位置に移動するには、PTZカメラに定義された使用可能なプリセットのリストからPTZプリセットを選択します。

1. カメラツールバーのライブタブで、PTZアイコン をクリックして、PTZプリセットメニューを開きます。
2. メニューのPTZプリセット位置を選択して、カメラを必要な位置へ移動させます。アイコンが緑色になります。

> プリセットホームを選択した場合、カメラが既定の位置まで移動します。

ロックされたPTZプリセット(説明付き)

監視システムによっては(ページ36の監視システムの別の特徴を参照)、PTZプリセットがロックされている場合があります。

システム管理者は、PTZプリセットをロックして、名前の変更や削除から保護し、第三者によるポジションの変更を防止することができます。システム管理者は、PTZプリセット位置をロックするかロック解除するかどうかを決定します。

PTZパトロールの開始、停止、または停止

特定のXProtect監視カメラ管理ソフトウェアは、手動でパトロールを開始および停止することができます。進行中のパトロールは、いつでも一時停止することができます。

PTZパトロールの停止

PTZカメラは、スケジュールに従い、複数のPTZプリセット間を継続的に移動できます。継続するシステムパトロールを停止できます。

重要な理由がある場合にのみ、システムパトロールを停止してください。通常、システム管理者はパトロールを綿密に計画し、組織の監視ニーズに対応させています。

1. ライブタブで、目的のビューを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコン をクリックし、PTZメニューを開きます。
3. **[PTZパトロールの停止]**を選択すると、手動でパトロールを停止できます。
4. システムパトロールを再開するには、もう一度**[PTZパトロールの停止]**コマンドを選択します。

手動パトロール(説明付き)

お使いの監視システムによっては(「ページ36の監視システムの別の特徴」を参照)、パトロールを手動で開始および停止できます。

たとえば、システムパトロールでは部屋の領域が適切に映し出されない場合や、システムパトロールがない場合に、手動でパトロールを開始できます。カメラが既にパトロール中の場合に、手動パトロールセッションを開始するには、パトロール中のユーザーまたはルールに基づくパトロールよりも高いPTZ優先度が必要です。

パトロール設定は、システム管理者、他のユーザー、または自分(必要なユーザー権限がある場合)が作成できます(ページ83のパトロールプロファイル(構成)を参照)。

自分よりも高いPTZ優先度を持つユーザーは、自分が手動パトロールを実行しているときに、カメラを制御できます。このようなユーザーがセッションをもう一度リリースすると、自分の手動パトロールが再開されます。

十分なPTZ優先度がある場合は、パトロール設定をクリックすると、他のユーザーが開始した手動パトロールを停止または一時停止(ページ266のパトロールの一時停止を参照)したり、別の手動パトロールを開始することができます。自分が開始した手動パトロールはいつでも停止できます。

手動パトロールの開始および停止

XProtect特定の監視カメラ管理ソフトウェアシステムでのみ、PTZパトロールを手動で開始および停止することができます。ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

手順:

1. ビューで、パトロールを開始するPTZカメラを選択します。

2. カメラツールバーで、PTZアイコン をクリックし、PTZメニューを開きます。

3. [PTZプリセットの管理]エントリの下には、このカメラに設定されたパトロールプロファイルが一覧表示されます。

PTZメニューの例

4. 開始するパトロール設定を選択します。

   パトロール設定が実行中のときには、すべてのユーザーで、プロファイルの前にチェックマーク が表示されます。自分のPTZアイコンが緑色になり、他のすべてのユーザーのPTZアイコンは赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

5. 手動パトロールを停止するには、もう一度プロファイルを選択します。

   定期パトロールが再開されるか、他のユーザーがカメラを使用できるようになります。

6. カメラが使用可能で、十分なPTZ権限がある場合は、ビューアイテム内のビデオをクリックするかジョイスティックを動かすと、カメラを制御できます。15秒間移動が行われなくなるまで制御は維持されます。

   > 手動制御のタイムアウトはデフォルトで15秒ですが、システム管理者は変更できます。

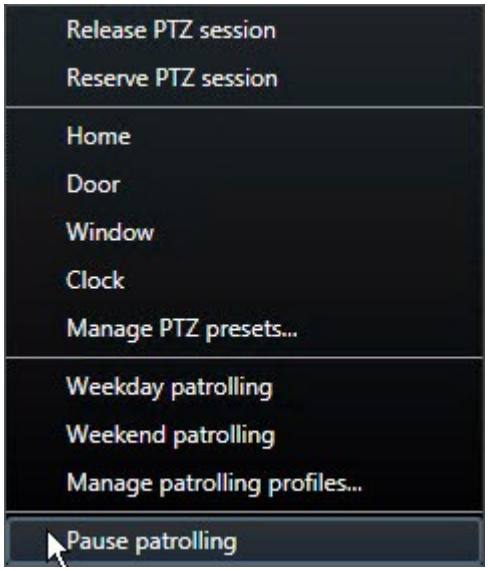
7. これよりも長い時間カメラを制御する場合は、PTZメニューから[パトロールの一時停止]を選択します(ページ266のパトロールの一時停止を参照)。

パトロールの一時停止

監視システムによっては(ページ36の監視システムの別の特徴を参照)、パトロールを一時停止できます。

必要なPTZ優先度がある場合は、システムパトロールをまたは他のユーザーが開始した手動パトロールを一時停止できます。自分の手動パトロールはいつでも一時停止できます。これは、カメラを制御するのにタイムアウトを長くする必要がある場合に有効です。

1. ビューで、パトロールを一時停止するPTZカメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコンをクリックし、PTZメニューを開きます。
3. [パトロールの一時停止]をクリックします。



パトロールの一時停止中は、すべてのユーザーの[パトロールの一時停止]メニュー項目の前にチェックマークが表示されます。自分のPTZアイコンが緑色になり、他のすべてのユーザーのPTZアイコンは赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

手動パトロール設定を開始すると、パトロールの一時停止セッションが失われます。

4. 一時停止を解除するには、[パトロールの一時停止]をもう一度選択します。

   前のパトロールが再開されるか、他のユーザーがカメラを使用できるようになります。

自分よりも低いPTZ優先度のユーザーが平日などの手動パトロールを開始した場合は、それを一時停止し、カメラを制御できます。

1. [パトロールの一時停止]をクリックします。

別のユーザーの手動パトロールを一時停止すると、すべてのユーザーの[パトロールの一時停止]メニュー項目とパトロール設定の前にチェックマークが表示されます。自分のPTZアイコンが緑色になり、他のユーザーのPTZアイコンは赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

2. 一時停止を解除するには、[パトロールの一時停止]をもう一度選択します。

手動パトロールが再開されます(この例では平日) 。

> デフォルトではパトロールは10分間一時停止しますが、システム管理者がこの値を変更している場合があります。

予約済みPTZセッション(解説済み)

監視システムによっては(ページ36の監視システムの別の特徴を参照)、PTZセッションを予約できます。

予約されたPTZセッションを実行するセキュリティ権限を持つ管理者は、このモードでPTZカメラを実行できます。これにより、他のユーザーはカメラを制御できなくなります。予約済みPTZセッションでは、標準PTZ優先度システムが無視され、より高いPTZ優先度のユーザーがセッションを中断しないようになります。

XProtect Smart ClientとManagement Clientの両方から予約済みPTZセッションでカメラを操作できます。

PTZセッションの予約は、他のユーザーによって中断されずに、PTZカメラまたはそのプリセットで緊急の更新またはメンテナンスを行う必要がある場合に有効です。

> 自分よりも高い優先度のユーザーがカメラを制御している場合や、別のユーザーが既にカメラを予約している場合は、予約済みPTZセッションを開始できません。

PTZセッションの予約

1. [ライブ]タブで、目的のビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコンをクリックし、PTZメニューを開きます。
3. [PTZセッションの予約]を選択します。手動でパトロールを開始した場合には、自動的に停止します。PTZカメラがこれで予約され、タイマーはセッションの残り時間を表示します。

> 完了したら必ずセッションをリリースしてください。現在のセッションがタイムアウトするまで、PTZカメラは予約された状態になります。

PTZセッションのリリース

PTZカメラの制御が完了したら、PTZセッションを手動でリリースできます。これにより、低い優先度の他のユーザーがカメラを制御したり、システムが定期パトロールを再開できます。リリースしない場合、セッションがタイムアウトするまでカメラを使用できません。

1. 制御しているPTZカメラのカメラツールバーで、PTZアイコンをクリックして、PTZメニューを開きます。(緑色は現在自分がPTZセッションを実行していることを示します。)
2. メニューで[PTZセッションのリリース]を選択します。

   PTZセッションがリリースされ、他のユーザーまたはシステムパトロールが使用できます。PTZアイコンは灰色に変わります。

仮想ジョイスティックおよびPTZオーバーレイボタン(説明付き)

ビューに魚眼カメラや魚眼レンズやPTZデバイスが含まれている場合(ページ263のPTZおよび魚眼レンズ画像(説明付き)を参照)、矢印マウスポインタ(仮想ジョイスティック)または画像の内側に表示されるPTZナビゲーションボタンをクリックして、画像をナビゲートすることができます。

仮想ジョイスティック

PTZオーバーレイ

マウスをビューへ移動させた時にカメラのツールバーをポップアップ表示させたくない場合は、[CTRL]キーを押したまま、マウスを動かします。

音声

音声(説明付き)

特定の音声機能に対するサポートはシステムによって異なります(ページ36の監視システムの別の特徴)を参照)。録音された音声や特定の録音された音声機能へのアクセスは、ユーザー権限に応じて制限されている場合があります。ご不明点がある場合は、システム管理者に確認してください。

XProtect Smart Clientは入ってくる音声と出ていく音声の双方に対応します。カメラ付属のマイクからライブ録音を聞くことができるだけでなく、カメラに接続されたラウドスピーカーを通して話すことも可能です。録画済みのビデオを再生する場合、カメラにマイクかスピーカー、またはその両方が付いていれば、対応する音声を聞くことができます。カメラまたはビューを選択すると、対応するマイクまたはスピーカーもデフォルトで選択されます。

XProtect VMSシステムは、ビデオを録画していない場合でも、カメラに取り付けられたマイクからの受信音声を録音できます。

ビューにマップが含まれている場合は、これらのマップにマイク、スピーカー、またはその両方が含まれることがあります。関連するマイクやスピーカーエレメントをクリックするだけで、音声を聞くことができます。クリックして、聞いたり話す間、マウスボタンを押したままにします。

相手と話す

以下を使用することで、カメラに取り付けられているスピーカーを通じて、オーディエンスに話しかけることが可能です:

- 左側の[音声]ペイン
- オーバーレイボタン
- マップ上のスピーカー機能

カメラに取り付けられたスピーカーから送信された音声は、特定のXProtectシステムでのみ録音できます。ページ36の監視システムの別の特徴も参照してください。

スマートマップ

スマートマップ(説明付き)

この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

スマートマップを使用すると、地理的に正確に世界各地の複数の場所にあるカメラを表示したり、カメラにアクセスしたりできます。各場所で異なる地図を使用するのと違い、スマートマップではひとつのビューで全体像を把握することができます。

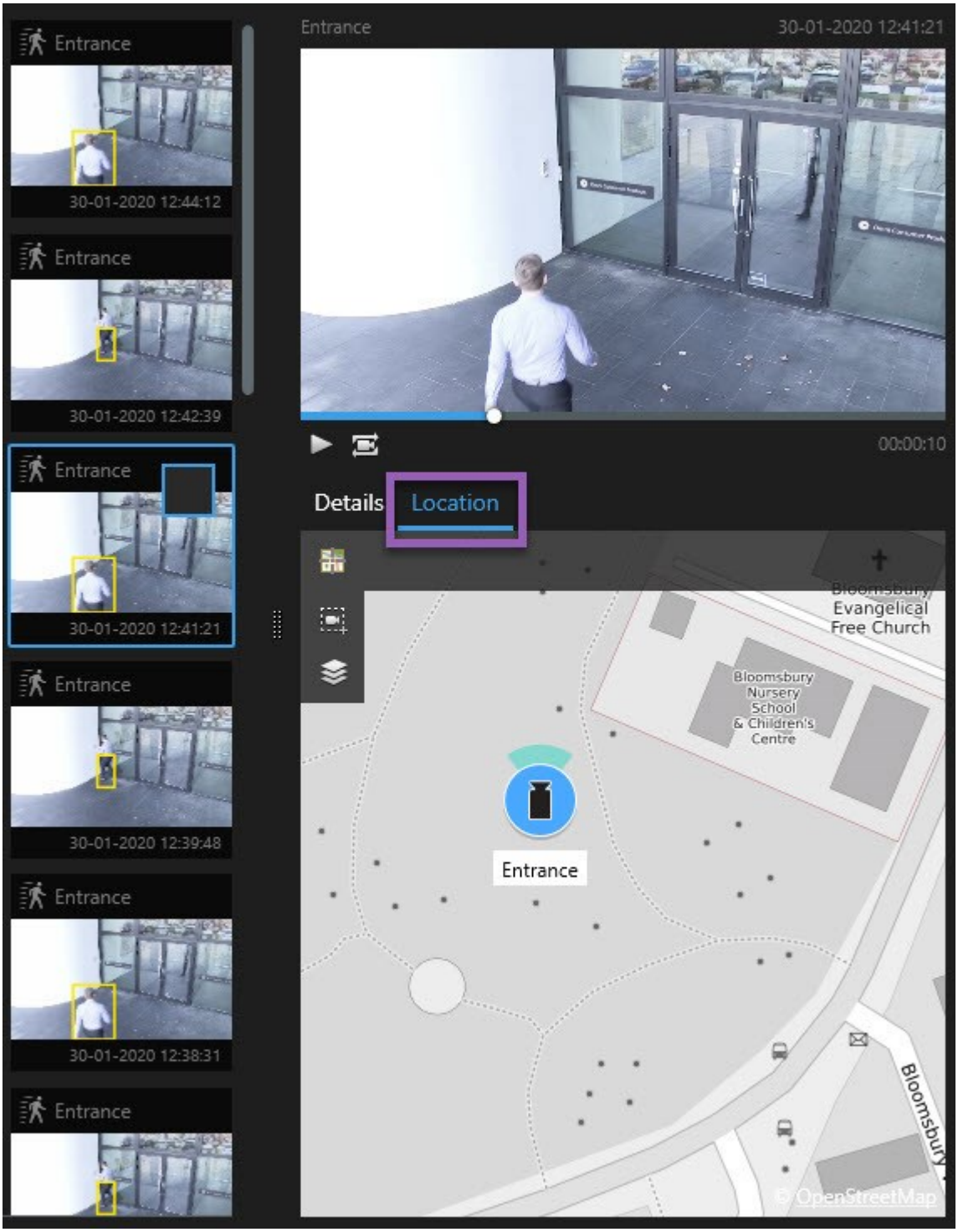
スマートマップには、カメラでトリガーされた場合、およびカメらたスマートマップに追加された場合にアラームが表示されます。スマートマップへのカメラ追加の詳細については、ページ98のスマートマップ上のカメラの追加、削除または編集を参照してください。

複数の都市、地域、国、および大陸のあらゆる場所をズームアウトで確認したり、各場所に迅速に移動してカメラのビデオを表示することができます。たとえば、ローマにある営業所の映像のプレビューを表示し、ズームアウトした後、一回のドラッグ操作で世界各地のカメラをパンし、ロサンゼルスのオフィスのカメラにズームインするといったことが可能です。

スマートマップの1つの重要な利点は、背景の空間参照データです。詳細については、ページ90の背景地図(説明付き)を参照してください。

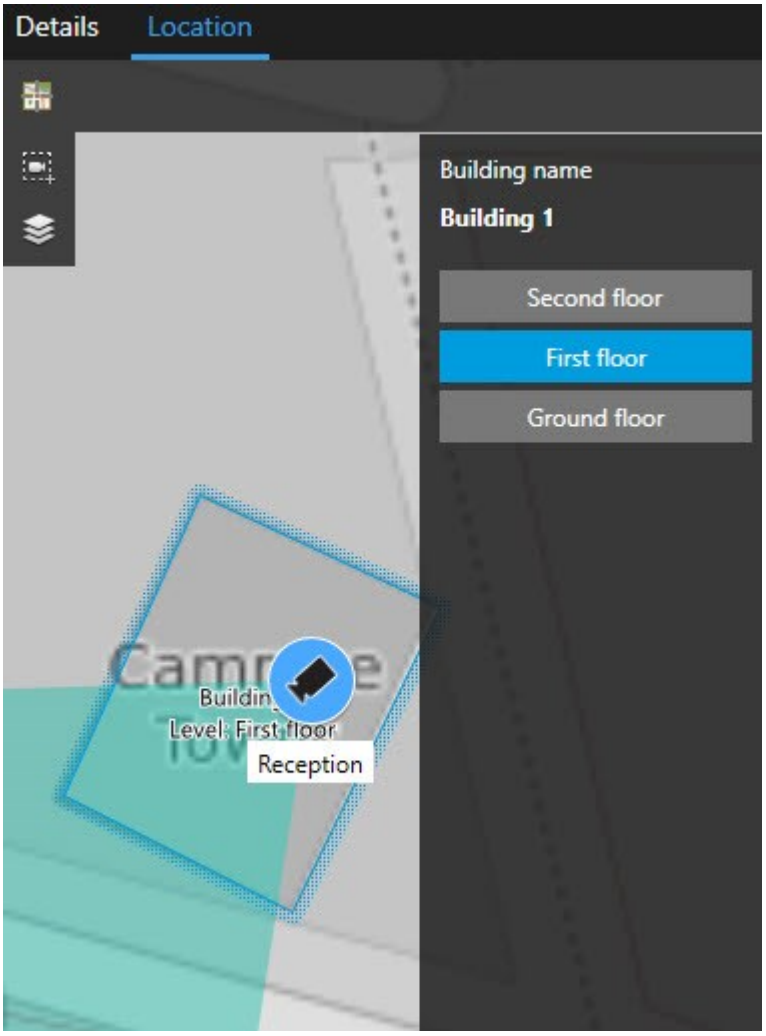
スマートマップと検索(説明付き)

検索タブでビデオと関連データを検索しながら、プレビューエリアでカメラの地理的位置を特定することができます。



検索結果を選択すると、スマートマップが該当する地理的位置にある関連カメラにズームインします。周辺を広く見渡せるよう、ズームアウトが必要な場合もあります。

高層建築物内のどこかにカメラを配置した場合、カメラが配置された階数が示されます：



カメラが複数のレベルで表示される場合、最初に指定したレベルのみが下から上に表示されます。

ズームイン& ズームアウト

スマートマップ上で異なるエリアをカバーする複数のカメラが近くに存在する場合、カメラはグループ化され、アイコンで表示されます。例えば、このアイコン「 」はこの領域に6,001台のカメラがあることを意味します。ズームインすると、アイコンが複数のアイコンに分割し、特定のズームレベルに応じて、カメラのグループされている状態やスマートマップ全体に分散する状態が画面に反映されます。縮小すると、グループ化されているアイコンの数が減り、グループそのものの数が増大します。

手順：

- マウスのスクロールホイールを使用、または右または左ボタンをダブルクリックします
- SHIFTキーを押しながら、ポインターをドラッグしてマップ上のエリアを選択します。地図にズームインして、選択した場所が中心に移動します

背景地図としてBing Maps、Google Maps、またはOpenStreetMapを使う場合、サービスがそこまでの深さの画像を供給できない場合は、ズームインが制限される場合があります。この場合、表示項目は背景地図の表示を停止します。カメラまたはシェープファイル画像などの他のレイヤーには、引き続き表示されます。

1台のカメラからビデオをプレビューする

スマートマップ上のカメラからのビデオフィードをプレビューし、調査することができます。ビデオを調査および再生する場合は、新規フローティングウィンドウでそれを開くことができます。これをおこなう場合、スマートマップは前回終了した位置で背景にとどまります。

手順：

1. カメラへナビゲートします。
2. カメラからのビデオフィードをプレビューするには、ダブルクリックします。ビデオフィードはプレビューウインドウに表示されます。カメラを右クリックして、ライブプレビューを選択することもできます。
3. ビデオの詳細を再生及び調査するには、以下のいずれか1つを実行します。
   - 個別再生ボタンをクリックします。個別再生のコントロールが使用可能になります。
   - ウインドウを閉じてから、右クリックをして、カメラの送信>新規フローティングウィンドウを選択します。

複数のカメラからのビデオプレビュー

スマートマップの複数のカメラからのビデオを同時にプレニューすることができます。ビデオを調査および再生する場合は、新規フローティングウィンドウでカメラを開くことができます。これをおこなう場合、スマートマップは前回終了した位置で背景にとどまります。

手順：

1. スマートマップ上のカメラが配置されている場所へとナビゲートします。
2. 1台以上のカメラ映像をプレビューウィンドウで閲覧するには、以下のいずれかを行ってください：
   - CTRLキーを長押ししながらカメラを選択し、カメラアイコンを右クリックしてライブプレビューを選択します。
   - 複数のカメラを選択をクリックして、スマートマップでクリック、ドラッグしてカメラを選択します。カメラを選択した後、キーボードのENTERキーを押します。
   - カメラ群をダブルクリックします。グループの最大25台のカメラをプレビューできます。グループ中、1台以上のカメラが選択されている場合、プレビューウィンドウには、選択されたカメラからのみのビデオが表示されます。

3. ビデオの詳細を再生及び調査するには、以下のいずれか1つを実行します。
   - プレビューウインドウで、個別再生ボタンをクリックします。個別再生のコントロールが使用可能になります。
   - カメラが既に選択されている場合は、右クリックをして、カメラの送信>新規フローティングウィンドウを選択します。

> クラスターオプションを選択した場合：カメラグループのアイコンは、例えば のように、グループ内の一部のカメラのみが選択されているかどうかを示します。

スマートマップでカメラのビデオを閲覧するにはホットスポットを使用します。

カメラのビデオのプレビューを一度に行ったり、ビデオフィードをセカンダリーディスプレイに送る代わりに、ホットスポットを使用してスマートマップ上でカメラを迅速にシフトすることが可能です。

要件

ホットスポットを用いてビューをすでに設定しました。詳細については、ページ80のホットスポットをビューに追加を参照してください。

手順：

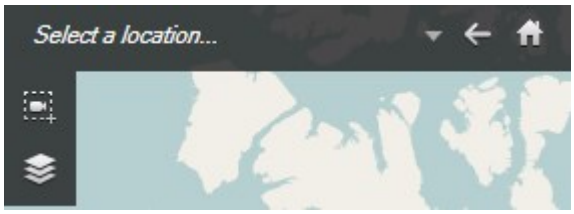
1. スマートマップが含まれるビューを選択します。
2. ビューがホットスポットも含んでいる場合：
   1. スマートマップ上のカメラに行ってください。
   2. ご希望のカメラをクリックしてください。クリックスルト、ホットスポット・ビューアイテム内にビデオフィードが表示されます。
3. ビューがホットスポットも含んでいない場合：
   1. ビューペインにて、ホットスポットを含んでいるビューを右クリックしてください。
   2. にビューを送るを選択し、フローティングウィンドウといったディスプレイオプションを選択します。
   3. お使いのモニター(あるいは複数のモニター)でビューをアレンジし、両方のビューが閲覧できるようにしてください。
   4. スマートマップ上のカメラに行ってください。
   5. ご希望のカメラをクリックしてください。クリックスルト、ホットスポット・ビューアイテム内にビデオフィードが表示されます。

スマートマップの場所に移動

スマートマップ上のXProtect Smart Clientで自分または他の人が追加した場所へ、手動でパンすることなくすばやくジャンプすることができます。場所のリストには、最後に選択した場所が表示されます。

手順：

1. スマートマップが含まれるビューを選択します。
2. ビューの左隅で、場所の選択リストを開きます。



3. 移動するスマートマップ上の場所を選択します。

スマートマップ上のカメラにアクセス

その地理的観点からカメラを閲覧したい場合は、スマートマップ上のカメラがある場所まで飛ぶことができます。これは、例えばもしカメラのロケーションを忘れてしまったり、近くのカメラをチェックしたい場合に便利です。

要件

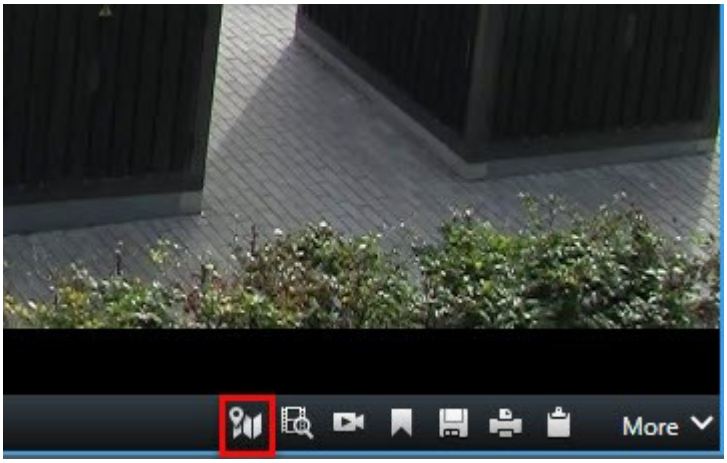
以下の2種類のいずれかの方法で、カメラが地理情報と併せて配置された場合にのみ、そのカメラに移動できます。

- XProtect Management Clientで、カメラプロパティにカメラの地理座標が指定されている
- XProtect Smart Clientでスマートマップにカメラが配置されている

手順：

1. カメラを探し、それに飛ぶには
    1. ライブタブまたは再生タブで、ビューペインへ移動します。
    2. カメラを探します。カメラが存在する場合は、検索結果に表示されます。
    3. ジャンプしたいカメラの上をスクロールします。
    4. カメラにジャンプするために をクリックします。スマートマップがフローティングウィンドウ上に現れます。

2. ビューアイテムからカメラを見るには
    1. ライブタブまたは再生タブで、カメラを含むビューアイテムを選択します。
    2. ビューアイテムにおけるボタンにて、カメラがツールバーに表示されるまで黒いバーの上をマウスオーバーします。



    3. カメラにジャンプするためにをクリックします。スマートマップがフローティングウィンドウ上に現れます。

スマートマップ上でカスタムオーバーレイに飛ぶ

スマートマップ上でカスタムオーバーレイにすばやくナビゲートする必要がある場合は、オーバーレイがある場所にジャンプできます。

1. スマートマップで、レイヤーおよびカスタムオーバーレイを表示または非表示にするをクリックします。ウィンドウが表示されます。
2. カスタムオーバーレイセクションへ移動します。
3. 検索するオーバーレイの横のをクリックします。これでスマートマップ上のその場所へ移動します。

以前の場所に後戻りする(説明付き)

ある場所から他の場所へ移動する場合、XProtect Smart Clientは訪問した場所の履歴を保存します。戻るをクリックすると、後戻りできます。履歴は、クリックするロケーションに基づいています。これは、場所をクリックせずにパンのみ行った場合は、その場所は履歴に追加されません。

後戻りすると、XProtectSmartClientはたった今閲覧していた場所を履歴から削除します。履歴には、前進移動のみが含まれます。

ビューを去ると、システムにより履歴はクリアされます。

マップ

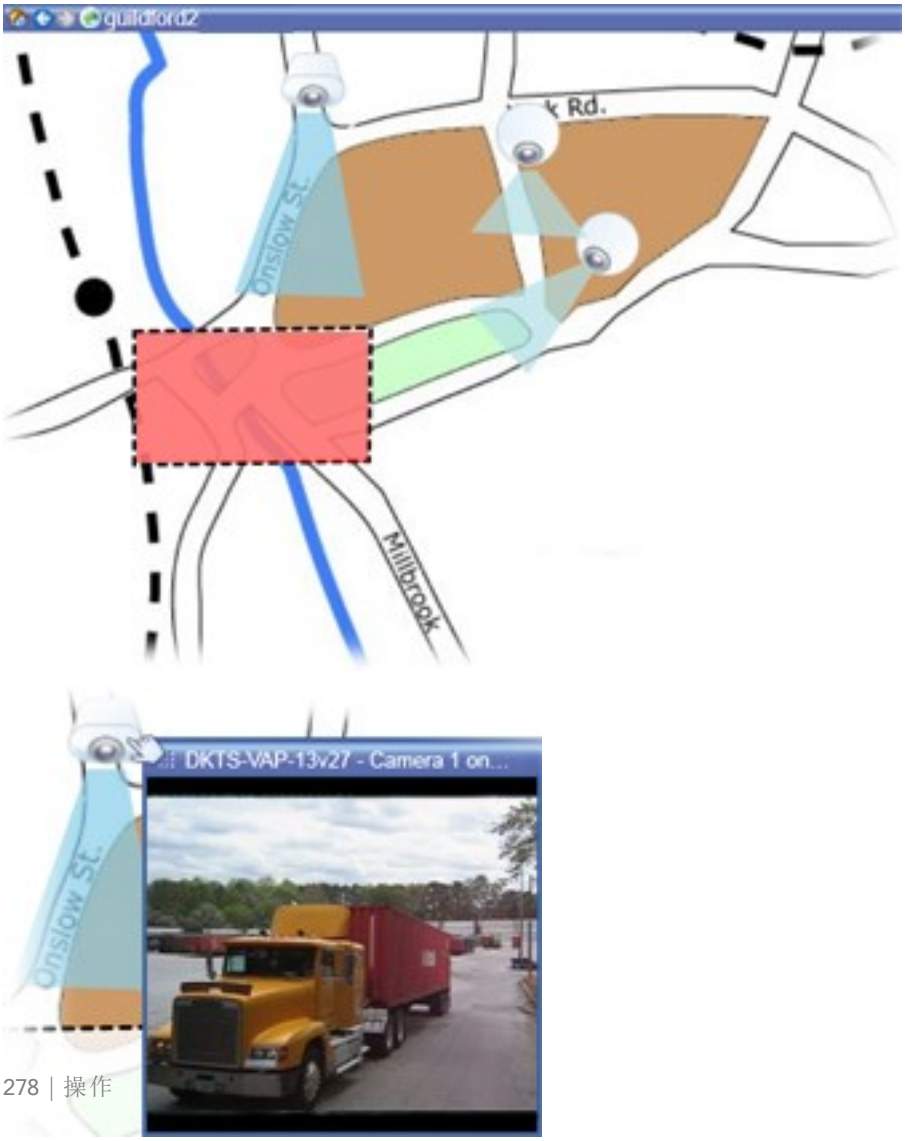
Milestone Federated Architectureをサポートしている監視システムに接続している場合、追加できるのはログインしている監視システムサーバーからのマップだけであることに注意してください。

マップ(説明付き)

マップで、監視システムの物理的概観を把握できます。どのカメラがどこに配置されているか、どちらの方向を指しているかをすぐに確認できます。マップはナビゲーションに使用できます。マップは階層にグループ分けすることができます。これにより、大きな視点から詳細な視点へ(たとえば、市レベルから町村レベルへ、建物レベルから部屋レベルへなど) と、ホットゾーンを掘り下げることができます。

マップ位置にはライブビデオは再生されません。マップは常に静止画像です。

マップには通常、カメラ、マイク、および類似の技術などを示すエレメントが含まれています。マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウで再生することができます。再生モードのステータス情報は、記録されたデータを基にして生成されたものではなく、ライブモードで再生されるものと同様、エレメントの現在のステータスから取得されていることに注意してください。



カメラエレメントおよびホットゾーンを含むマップ

マップの大半は地理的なマップですが、それ以外であっても構いません。組織のニーズによって異なりますが、写真およびその他の種類の画像ファイルもマップとして使用できます。

> マップは、スマートマップと同じではありません。詳細については、ページ271のスマートマップを参照してください。

エレメントとマップの関係

以下の方法で、マップエレメントを使用して実際のデバイスを操作できます：

カメラ

マウスポインタをマップのカメラの上に置くと、カメラからのライブプレビューが表示されます。プレビューのタイトルバーをクリックすると、別のフローティングウィンドウに表示します。フローティングウィンドウのサイズは、その隅を引っ張って変更できます。録画を開始するには、必要なカメラを右クリックして、#分間録画を開始を選択します。この機能を使用するには、特定のユーザー権限が必要な場合があります。

固定カメラは、関連付けられたビューゾーンと共にマップに表示され、カメラのビューアングルが表示されます。カメラのビューアングルと一致するように、マップ上の角度を調節する必要があることに注意してください。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。

PTZカメラは、監視システムのカメラに対して定義されているPTZプリセットを使用して、マップに表示されます。プリセットは、PTZカメラのアイコンから放射状に広がる色付きの角度で図示されます。それぞれの角度は、特定のプリセットを表しています。カメラのプリセット角度と一致するように、角度を調節する必要があることに注意してください。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。カメラに25以上のプリセットがある場合、角度が小さすぎるので最初は角度は表示されません。このような場合、エレメントの選択ウィンドウからマップへ、該当するカメラからプリセットを個別にドラッグして必要な角度を追加することができます。マップ上のプリセットをクリックするだけで、PTZカメラのプリセットのいずれかに移行できます。これは、マップ自体のフローティングプレビューウィンドウおよびホットスポットの位置で機能します(をページ175のホットスポット(説明付き)参照)。または、カメラを右クリックし、PTZプリセットを選択してから、必要なプリセットを選択します。

マイク

マイクの上にマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、マイクからの受信音声を聞くことができます。または、マイクを右クリックし、マイクの使用を選択します。再生モードのマップビューでマイクを使用することはできません。

スピーカー

スピーカーにマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、スピーカーから話すことができます。再生モードのマップビューでスピーカーを使用することはできません。

イベント

これをアクティベートするには、マップ上のイベントをクリック(ページ242のアラーム(説明付き))するかイベントを右クリックしてアクティベートイベントを選択。を選択します。イベントを左クリックすると、マウスポインタが一瞬、稲妻の記号に変わり、イベン

トが起動中であることを示します。

アラーム

マップにあるアラーム(ページ242のアラーム(説明付き) を参照) をクリックして表示するか、アラームを右クリックし、アラームを有効化するを選択します。右クリックして、アラームを確認します。

出力

マップにある出力をクリックすると有効化されます。または、出力を右クリックし、出力の有効化を選択します。出力を左クリックすると、マウスポインタが一瞬、稲妻のアイコンに変わり、出力が起動中であることを示します。

ホットゾーン

ホットゾーンには通常色が付いており、識別しやすくなっています。ホットゾーンに関連付けられたサブマップに移行するには、ホットゾーンをクリックします。または、必要なホットゾーンを右クリックし、サブマップへ移行を選択します。

ホットゾーンが点線で囲まれて表示された場合は、そのホットゾーンに関連付けられたマップはありません。

監視システムの種類によっては、複数の異なるサーバーからのマップが、マップ階層に含まれることがあります。これは、ホットゾーンをクリックした時に、サーバーが使用できないためにサブマップが使用できないことがあることを意味します。サーバーが使用できない理由は、定期メンテナンスからネットワークの問題までさまざまです。問題が解決しない場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

ホットゾーンが、ユーザーがアクセス権を持たないマップを指していることもあり、この場合、XProtect Smart Clientによってユーザーに通知されます。ユーザー権限は時間に基づいているため、以前にアクセスできたマップにアクセスできない場合もあります。これは、1日の特定の時間帯、あるいは特定の曜日にアクセス権がないことが理由である可能性があります。ユーザー権限に関して不明な点は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

プラグイン

プラグインエレメントは、監視システムで使用されている場合にのみ使用できます。プラグイン要素の例：入退室管理システム、火災検知システムなど

内部接続されたハードウェア

Milestone Interconnectシステムの一部の内部接続されたハードウェアはオフラインのことがあるため、内部接続されたハードウェア要素のエラーステータスが頻繁にマップに表示される場合があります。

ステータス可視化

ステータス可視化は、マップに追加されたエレメントのステータスをグラフィックに表示する機能です。マップが完全に使用でき正常な状態にある場合、視覚的なステータス表示はありません。ステータス可視化ウィンドウでは、マップのステータス表示の視覚的表現を定義できます。

インジケータ	説明
	要注意–エレメントがまだ作動しているが、対処が必要な場合(たとえば、サーバーのディスクの空き容量がなくなってきている場合)。問題のデバイスがマップに含まれているとは限らないことに注意してください。デフォルトの表示色は黄色です。
	使用できません–エレメントにエラーがある場合(たとえば、サーバーがマイクやスピーカーに接続できない場合) 。デフォルトの表示色はオレンジ色です。
	アラーム–エレメントにアラームがある場合。デフォルトの表示色は赤色です。
	無効/ステータス不明–エレメントが監視サーバー上で無効になっているか、サーバーからステータス情報を取得できない場合。デフォルトの表示色は紫色です。
	ステータスを無視する–エレメントのステータスが対応を必要としない場合(たとえば、すでに何が問題であるか判明している場合)。デフォルトの表示色は青色です。

マップのステータスは、マップ上のすべてのエレメントのステータスと同じです。影響を受けたサーバーの名前は、最高4つまでマップのタイトルバーに表示できます。使用できないサーバーがあるためにマップ上のエレメントが無効になり、そのサーバー自体はマップに含まれていない場合は、マップに無効なエレメントしか含まれていない場合でも、マップに使用できません状態で表示されます。使用できないサーバーがマップに含まれている場合は、マップには単純に無効/ステータス不明と表示されます。ステータス情報については、マップ概要も参照してください。

ステータスが表示されたマップの例
ステータス表示の外観の変更

マップ概要ウィンドウ(説明付き)

マップ概要ウィンドウは、XProtect Smart Clientで設定されたマップ階層の概要を示します。マップ概要ウィンドウを開くには、マップを右クリックし、マップ概要を選択するか、マップのタイトルバーにあるアイコンをクリックします。

マップ名の横に+記号が付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがホットゾーンとして含まれていることを示します。マップ概要のマップをクリックすると、選択したマップがすぐにビューに表示されます。

> 多数のマップを含む大規模な監視システムに接続している場合、マップ概要のコンテンツを読み込むのに時間がかかる場合があります。

> Milestone Federated Architectureをサポートしている監視システムに接続している場合、追加できるのはログインしている監視システムサーバーからのマップだけであることに注意してください。Milestone Federated Architectureは、関連していても物理的に離れている監視システムのステム設定です。例えば、こうした設定は、多数の個別の監視システム(ただし関連している)を持つショップのチェーンに関連しています。

> どの監視システムがMilestone Federated Architectureをサポートしているかについては、XProtect比較表https://www.milestonesys.com/を参照してください。

マップからフロートウィンドウへカメラを送信

フロートウィンドウで同時にマップ上にすべてのカメラを表示する方法(各ビューにつき最大25台):

1. ライブタブまたは再生タブで、フローティングウィンドウに表示するカメラを含むマップを選択します。
2. マップのタイトルバーの上部で、すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信アイコンをクリックします。

フロートウィンドウでは、ビューに最大25台のカメラが表示されます。

> マップに25台を超えるカメラがある場合、このボタンをクリックすると、表示されるカメラは常に同じではなくなります。

マップのカメラから録画されたビデオを表示

マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウで再生することができます。再生モードのステータス情報は、カメラの現在のライブステータスから取得されます。

- カメラがサポートしている場合は、カメラプレビューからデジタルズームとPTZコントロールを使用できます。プレビューウィンドウで、詳細ボタンをクリックしてデジタルズームを選択するか、表示されるPTZコントロールを使用(ページ263のPTZ画像(説明付き)を参照)します。特定のカメラでPTZプリセットが設定されている場合は、プレビューでプリセットを選択して、プリセットを有効にすることができます
- フロートウィンドウでマップ上で同時にすべてのカメラ(1つのビューに最大25台)を表示するには、マップのタイトルバーの上部にある[すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信]をクリックします。

> マップに25台を超えるカメラがある場合、このボタンをクリックすると、表示されるカメラは常に同じではなくなります。

ステータス詳細の表示

カメラ(たとえば、解像度、画像サイズやビットレート、およびFPS)とサーバー(たとえば、CPU使用率、メモリ、ネットワーク使用率)の詳細ステータスを表示できます。

- 詳細ステータスを表示するには、必要なエレメントを右クリックし、詳細ステータスを選択します。詳細ステータスは、個別のフローティングウィンドウに表示されます

> エラーメッセージ「イベントサービスのレコーディングサーバーへのアクセス権が不十分です」が表示された場合、レコーディングサーバーから詳細ステータスは表示できません。このエラーメッセージは、監視システムのマップ関連の通信を処理する、イベントサーバーサービスに関係します。イベントサーバーサービスは、監視システムサーバーで管理されます。この問題を処理できる監視システムの管理者にお問い合わせください。

ズームと自動最大化

マップが、XProtect Smart Clientのビューエリアより大きい場合、またはマップでズームインしている場合は、マップをパンして、マップの隠れている部分を表示できます。追加されたエレメントの外側のマップの任意の場所をクリックすると、クリックした場所が中心になるようマップが移動します。マップをクリックしてパンし、任意の方向にマップをドラッグします。

- マップのズーム機能を使用するには、マップを右クリックし、必要に応じてズームインまたはズームアウトを選択します。または、標準サイズへズーム機能を使用して通常のサイズに戻します

> または、マウススクロールホイールを使用してズームします。上にスクロールするとズームインし、下にスクロールするとズームアウトします。

マップを自動最大化が有効で、複数の位置があるビューの一部にマップビュー位置がある場合、設定モードで、プロパティペインで指定されている時間が経過すると、マップが画面全体に自動的に最大化されます。元のビューに戻るには、任意の追加されたエレメントの外側にあるマップの場所をダブルクリックします。

Matrix

> この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。システムの機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

Matrix (説明付き)

Matrixは、任意の監視システム カメラからネットワーク上の任意のモニター(Matrix受信モニターと呼ばれる) にビデオを配信する機能です。一般的なMatrix設定では、たとえばモーションが検知された場合や別のユーザーが重要なライブ画像を共有する場合など、定義されているイベントが発生すると指定されたMatrix受信モニターにライブビデオが自動的に再生されます。Matrixが監視システムサーバーで設定されている場合に、MatrixのビューにXProtect Smart Clientのコンテンツを含めることができます。特定のイベントが発生したり、別のユーザーがビデオを共有する場合、使用しているMatrixのビューにライブビデオが自動的に表示されます。

Matrixコンテンツを表示(説明付き)

MatrixMatrixの設定でどのイベントやカメラを使用するかは、監視システムサーバー設定や他のユーザーが共有しようとしている内容によって決まります。XProtectSmartClientでこれを制御することはできません。ただし、Matrixのコンテンツを必要な数のビューの位置に追加することはできるので、複数のMatrixによりトリガされたソースからのライブビデオを同時に見ることが可能です。

Matrix位置はツールバーのMatrixアイコンで表示されます: 。Matrixをダブルクリックすると、最大化できます。

ビューに複数のMatrix位置が含まれている場合があります。これによって、複数のMatrixによりトリガされたソースからのライブビデオを同時に見ることが可能です。複数のMatrix位置がビューにある場合、それらの位置は、Matrixの一次ポジション、二次ポジション、というように必ず順位が付けられます。最初にMatrixでトリガされたライブビデオストリームが受信されると、Matrixの一次ポジションにそのライブビデオストリームが自動的に表示されます。次のMatrixでトリガーされたビデオストリームを受信すると、FIFO(First-In First-Out) 方式が適用され、その前に受信したビデオストリームを第二Matrixポジションへすばやく送信し、最新のビデオストリームをビューのメインMatrixポジションへ送ります。このように、受信した順に送信し、表示していきます。Matrix位置のランクが自動的に適用されます。追加した最初のMatrix位置がMatrixの一次位置となり、次に追加した位置は自動的に二次位置などとなります。設定モード内のこの順位は変更できます。

再生タブでは、Matrixの位置に、Matrixライブタブで最後に使用したの位置のカメラからのビデオが表示されます。[再生]タブのナビゲーション機能を使用して、このビデオを再生できます。

ビデオをMatrix受信者に手動で送信

> ビデオをホットスポット(ページ175のホットスポット(説明付き)を参照)または画面自動切替(ページ177の画面自動切替(説明付き)を参照)に送信することはできません。

要件

Matrixコンテンツが表示に追加されました。ページ122のMatrixをビューに追加を参照してください。

1. ビューを選択します。
2. カメラのツールバーで、詳細>**Matrix**をクリックして、関連するMatrixの受信者を選択します。

XProtect Smart Wall

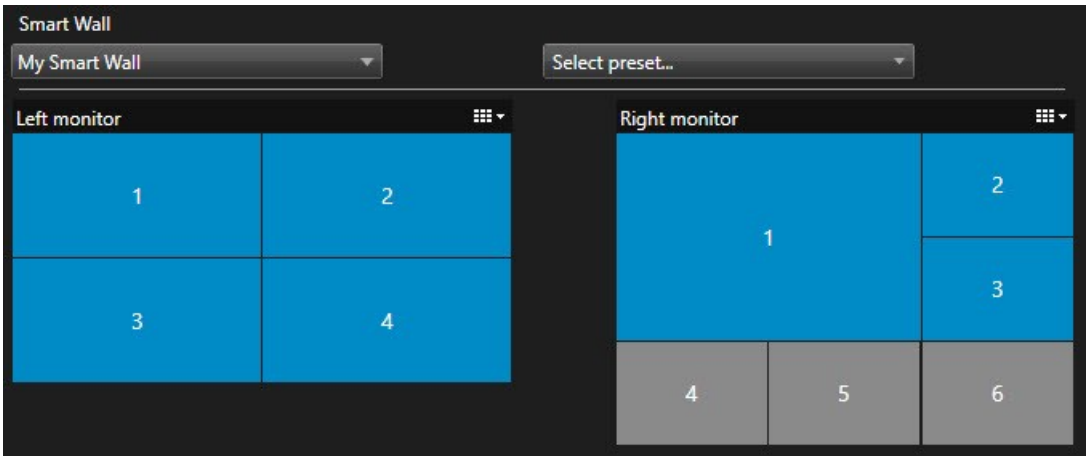
システム管理者がSmart Wallを構成した後、XProtect Smart Clientでその作業を行えるようになります。システム管理者は、Smart Wallを構成しているモニター、モニターのレイアウトとサイズ、そして場合によってはモニターにどのカメラが表示されるかを定義します。

XProtect Smart Wallの使用は、基本的には以下を意味します:

- ページ286のSmart Wallコンテンツの表示 - Smart Wallモニターをさまざまなディスプレイまたは物理モニターで開きます
- ページ288のSmart Wallでのコンテンツの表示 - Smart Wallを使用している他のオペレータとコンテンツを共有するほか、どのコンテンツが表示されるかを管理します

> システム管理者が指定したモニターのレイアウトまたはプリセットを変更する方法については、ページ124のSmart Wallモニターのレイアウトを変更を参照してください。

Smart Wall概要(説明付き)



Smart Wall概要は、Smart Wallと、これを構成しているモニターを図で表したものです。概要では、Smart Wallに何が表示されるかを制御できます。

この画像は、2台のモニターでSmart Wallの概要を表示します。

- 左モニターのレイアウトは**2x2**です
- 右モニターのレイアウトは**1+5**です

Smart Wall概要の青色のタイルはコンテンツを表示しています。灰色のタイルは空です。

組織に複数のSmart Wallが存在する場合は、必要なSmart Wallを**Smart Wall**リストで選択します。

プリセットの選択リストでは、既定のSmart Wallプリセットを選択して有効にできます。

> Smart Wallとプリセットの選択後、他のユーザーは異なるSmart Wall、プリセット、または両方を選択できます。

タイルに表示されているコンテンツタイプを特定

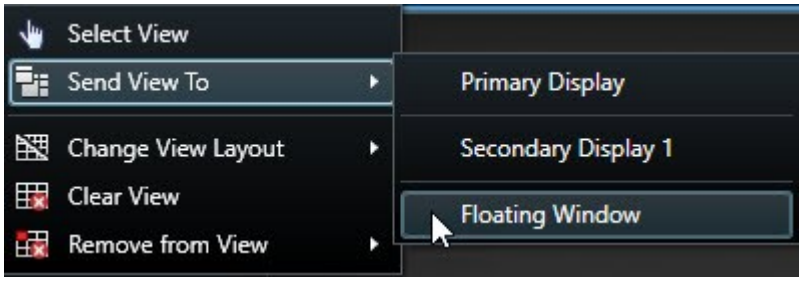
- カーソルをタイルの上に動かします。タイル番号がカメラなどのアイコンに変わり、コンテンツのタイプを示します。
- タイルをクリックすると、プレビューウィンドウにコンテンツが表示されます。プレビューウィンドウのツールバーには、コンテンツの印刷または別のSmart Wallに送信するためのオプションがあります。

Smart Wallコンテンツの表示

現在どのタブが開かれているかに応じて、Smart Wallにライブビデオと録画ビデオの両方が表示されます。Milestoneでは、Smart Wallの表示専用のコンピュータを使い、Smart Wall概要の処理に別のコンピュータを使用するようお勧めしています。

> ユーザー権限で、カメラがSmart Wall上でビデオを表示できないようにすることができます。

1. ビューペインでSmart Wallを展開します。
2. 表示したいSmart Wallを展開します。
3. 一度に1台ずつモニターを右クリックし、希望のディスプレイに送ります。
4. ビューを送信をクリックし、以下のいずれかのオプションを選択します。
   - プライマリディスプレイ - 現在のディスプレイがフルスクリーンモードで開きます
   - セカンダリディスプレイ - 該当する場合、セカンダリディスプレイがフルスクリーンモードで開きます
   - フローティングウィンドウ - 新しいフローティングウィンドウが開きます



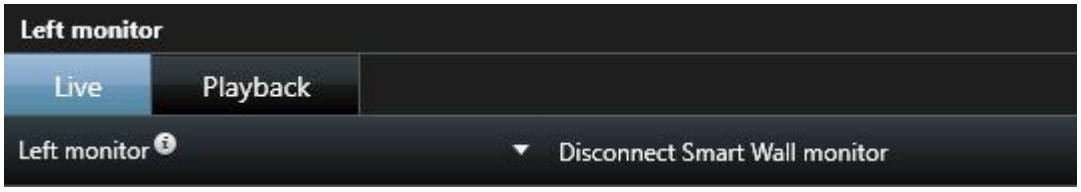
メインビューでSmart Wallコンテンツを表示

1. ビューペインでSmart Wallを展開します。
2. 表示したいSmart Wallを展開します。
3. 一度に1台ずつモニターを開き、メインビューでコンテンツを表示します。

Smart Wallモニターの切断

Smart Wallコンテンツは、他の人物によるSmart Wallコンテンツの視聴を妨げることなく表示できます。

1. ページ286のSmart Wallコンテンツの表示で説明されている手順に従ってください。
2. 表示したいモニターごとにSmart Wallモニターの切断をクリックします。



ここで加えた変更は、再接続時に元に戻されます。

Smart Wall表示オプション

次の表には、別のウィンドウまたはセカンダリディスプレイでSmart Wallコンテンツを表示する方法について説明します。

オプション	説明
フルスクリーン	現在表示中のディスプレイで、コンテンツをフルスクリーンモードで表示します。Smart ClientはSmart Wallコンテンツの背景で開いたままになります。
セカンダリディスプレイ	別のディスプレイでコンテンツを表示し、現在のディスプレイでSmart Clientの表示を続けます。
フローティングウィンドウ	コンテンツを新しいフローティングウィンドウで表示します。これは、ビデオウォールが複数のモニターで構成されている場合などに便利です。

望ましい表示オプションかどうかにかかわらず、ウィンドウを最大化するか、サイズを変更できます。

Smart Wallでのコンテンツの表示

Smart Wallは、特定のカメラからのビデオを表示するよう事前定義されている可能性があります。ただし、これはXProtect Smart Clientでカメラを変更するか、他のコンテンツタイプ(アラーム、ホットスポット、画像、スマートマップなど) をSmart Wall概要に追加すると変更できます。

監視の状況および環境によっては、さまざまなコンテンツタイプを組み合わせることで応答時間と効率を向上させることができます。たとえば、不審者の画像を表示し、パトロール中の担当者が不審者認識できるようにする場合は、画像を追加できます。応答測定のガイダンスを提供する場合は、テキストを追加できます。

Smart Wallでカメラを追加または変更

Smart Wallで表示中のカメラは変更することができます。変更した直後に、同じSmart Wallを使用している他のオペレータもこの変更を目にすることになります。

要件：

Smart Wall概要が含まれるビューが設定されている。詳細については、ページ123のSmart Wall概要をビューに追加を参照してください。

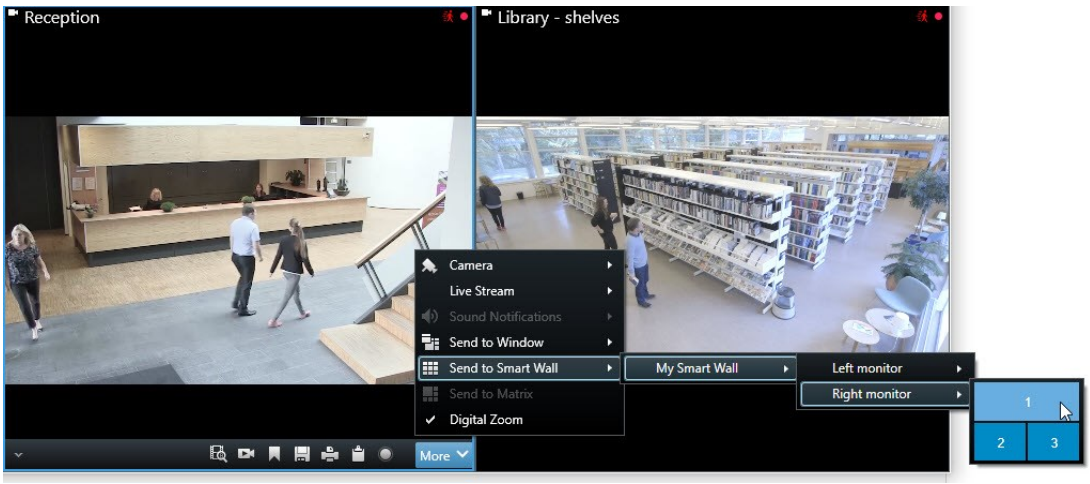
手順：

1. お使いになっているSmart Wallがページ285のXProtect Smart Wallの説明どおりに実行されていることを確認します。
2. SmartWallが別のコンピュータで実行されている場合、現在使用中のコンピュータでXProtectSmartClientを開きます。
3. ライブまたは再生タブに移動します。

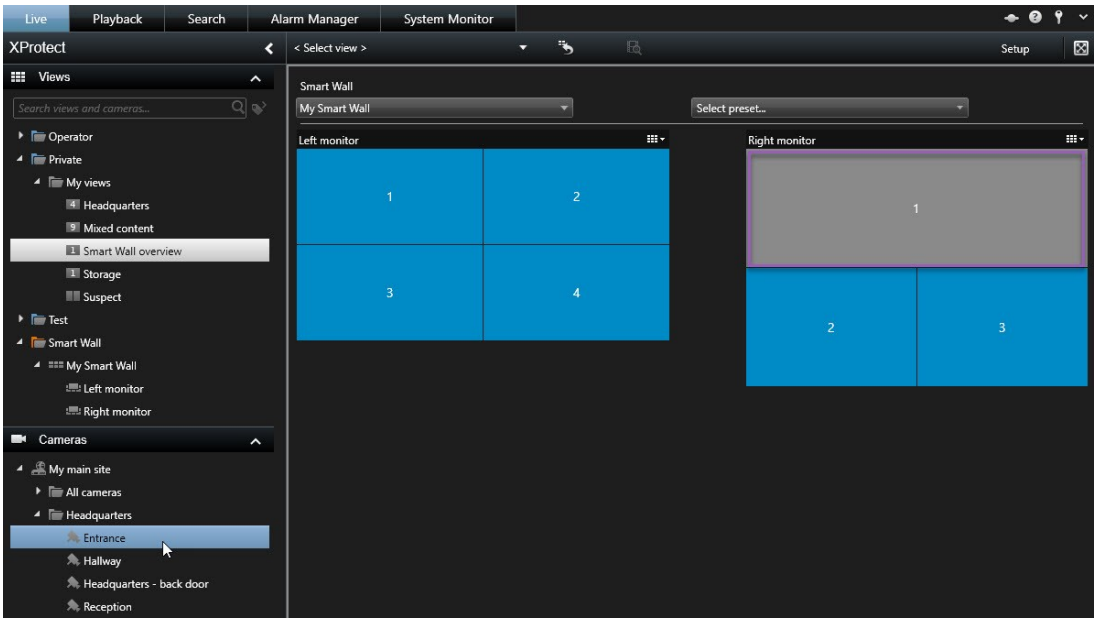
4. ビューからカメラを追加するには：

   1. 追加したいカメラが含まれているビューを開きます。

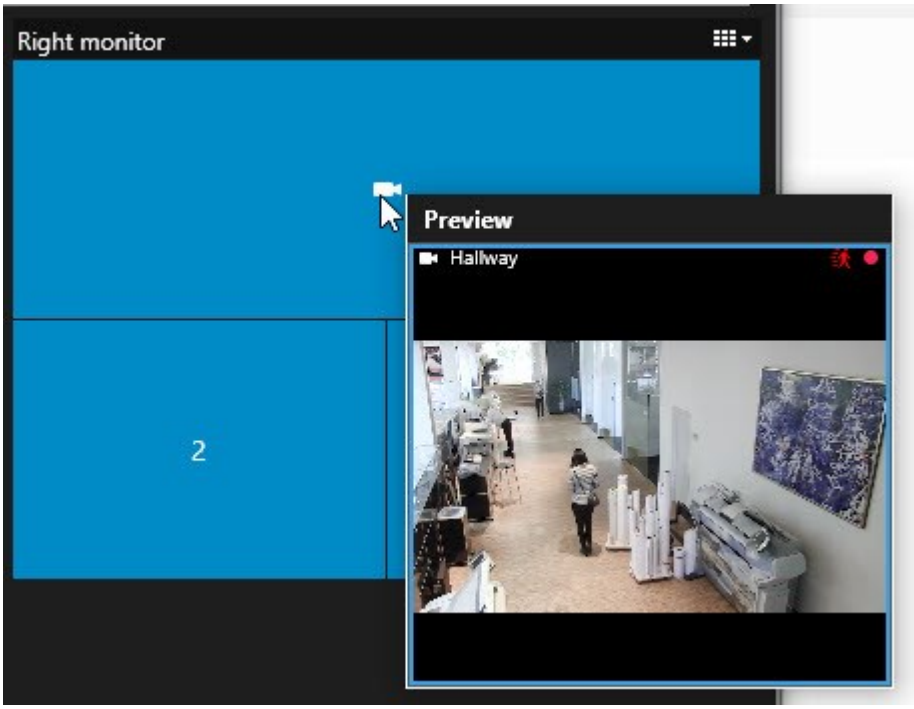
   2. カメラビューアイテムで、詳細 > **Smart Wall**に送信をクリックします。次に、Smart Wall、モニターを選択し、最後にモニター内のタイルを選択します。



5. カメラペインからカメラを追加するには：
    1. ビューペインで、Smart Wall概要を含むビューを選択します。
    2. カメラペインで、追加したいカメラを探します。
    3. カメラをSmartWall概要にあるモニター内のタイルにドラッグします。カメラからのビデオがSmartWallに表示されます。



4. 適切なカメラが追加されたことを確認するには、Smart Wall概要でカメラアイコンをクリックします。プレビューが表示されます。



ビュー全体をSmart Wallに追加

ビューをSmart Wallモニターに送信すると、Smart Wallを介してビュー全体を他のオペレータと共有できます。現在、そのモニターで表示中の内容が、カメラなどが含まれるビューのコンテンツに置き換えられます。

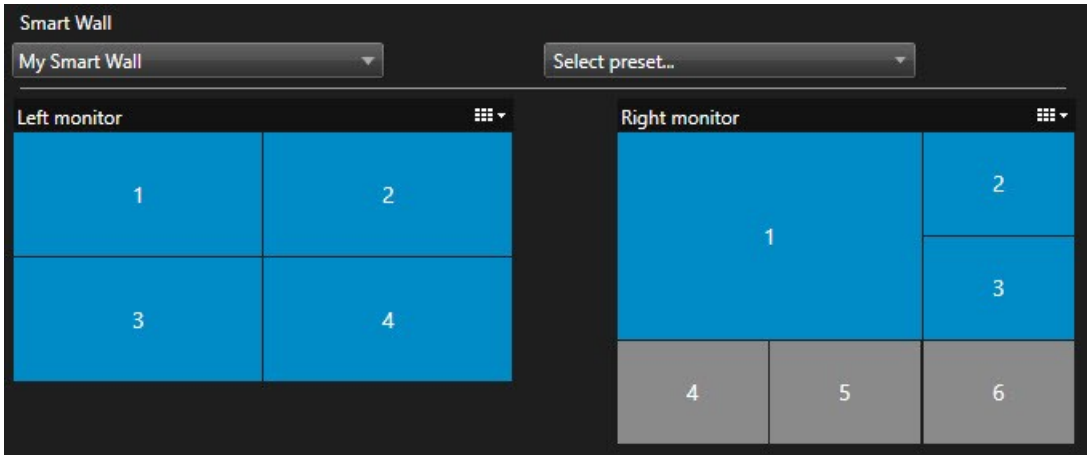
要件：

Smart Wall概要が含まれるビューが設定されている。ページ123のSmart Wall概要をビューに追加を参照してください。

手順：

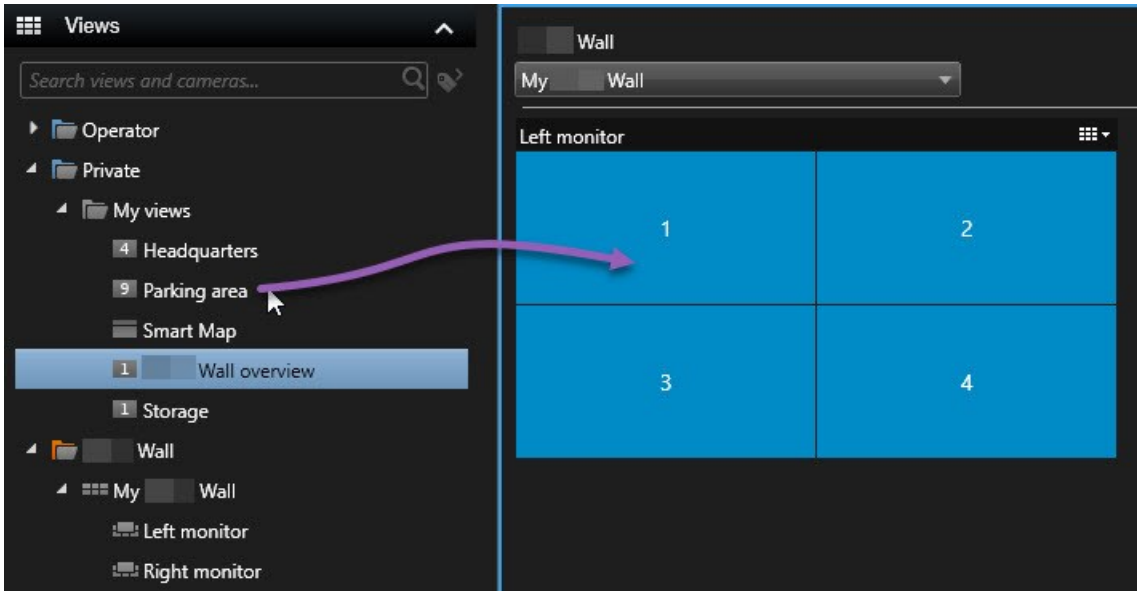
1. お使いになっているSmart Wallがページ285のXProtect Smart Wallの説明どおりに実行されていることを確認します。
2. SmartWallが別のコンピュータで実行されている場合、現在使用中のコンピュータでXProtectSmartClientを開きます。

3. ライブタブまたは再生タブに移動し、Smart Wall概要が含まれているビューを開きます。



4. ビューペインで、Smart Wallに送信したいビューを探します。

5. ビューを希望するモニター内のタイルにドラッグしてリリースします。



6. モニターを元の表示にリセットしたり、モニター全体またはSmart Wall概要内の特定のタイルをクリアする方法については、ページ299のSmart Wallの上でコンテンツを表示するのをストップするを参照してください。

Smart Wallで他のコンテンツタイプを追加または変更

Smart Wallで表示中のコンテンツは、(たとえば容疑者の画像を共有するなどして)変更できます。変更した直後に、同じSmart Wallを使用している他のオペレータもこの変更を目にすることになります。

追加できるもの

- アラーム

- ブックマーク
- カメラまたはビュー全体
- カメラナビゲーター
- 画面自動切替
- 画像とスナップショット
- ホットスポット
- HTMLページ
- マップ
- スマートマップ
- テキスト

要件

Smart Wall概要にドラッグできるテキストとカメラ。ただし、他のコンテンツタイプをSmart Wallに追加するには、そのコンテンツがビューに追加されている必要があります。ページ59のコンテンツをビューに追加を参照してください。

手順：

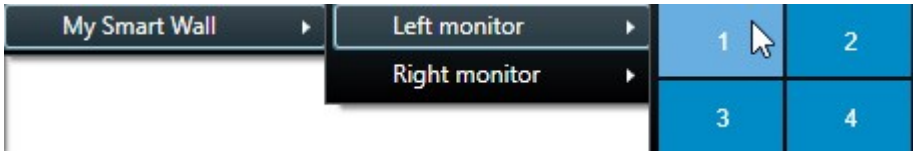
1. お使いになっているSmart Wallがページ285のXProtect Smart Wallの説明どおりに実行されていることを確認します。
2. SmartWallが別のコンピュータで実行されている場合、現在使用中のコンピュータでXProtectSmartClientを開きます。
3. ライブまたは再生タブに移動します。
4. 追加したい要素が含まれているビューを開きます。

> カメラを追加したい場合は、カメラペインからカメラを直接ドラッグすることも可能です。テキストを追加するには、テキストエディターでテキストを選択し、これをSmart Wall概要内のタイルにドラッグします。

5. ビューアイテムの上にカーソルを置きます。カメラツールバーが表示されます。

6. **Smart Wall**に送信をクリックして、Smart Wallを選択します。

7. モニターを選択し、最後にモニター内のタイルを選択します。



Smart Wallモニター内で選択したタイルが適宜、更新されます。

Smart Wallにテキストを表示

XProtect Smart Wallでのテキストの表示は、Smart Wallを視聴できる人に情報を提供したい場合に役に立ちます。

要件

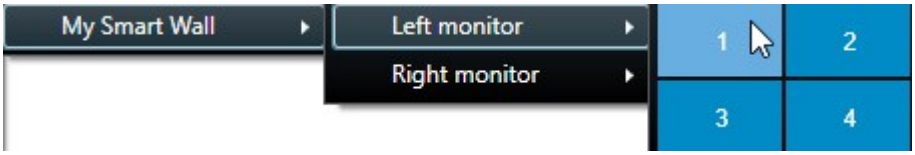
- 既存のビューからテキストを送信するには、最初にテキストをビューに追加する必要があります。ページ59のコンテンツをビューに追加を参照してください。
- ドラッグ＆ドロップ操作でテキストを追加する場合、テキストエディターがドラッグ＆ドロップ操作に対応していることを確認してください。

手順：

1. サードパーティのテキストエディターからテキストを追加するには：
    1. Smart Wall概要が含まれているビューを開きます。
    2. 希望のテキストエディターにテキストを書き込みます。
    3. テキストを選択します。
    4. テキストをドラッグし、Smart Wallモニター内のタイルにドロップします。
    5. 表示されるウィンドウでは、テキストをさらに編集できます。保存をクリックします。
    6. その直後に、テキストがSmart Wallのディスプレイに表示されます。

2. すでにビューに追加されたテキストを追加するには：
    1. テキストが含まれているビューを開きます。
    2. ビューアイテムの上にカーソルを置きます。カメラツールバーが表示されます。

    3. 詳細 > Smart Wallに送信をクリックし、希望するSmart Wallを選択します。
    4. モニターを選択し、最後にモニター内のタイルを選択します。

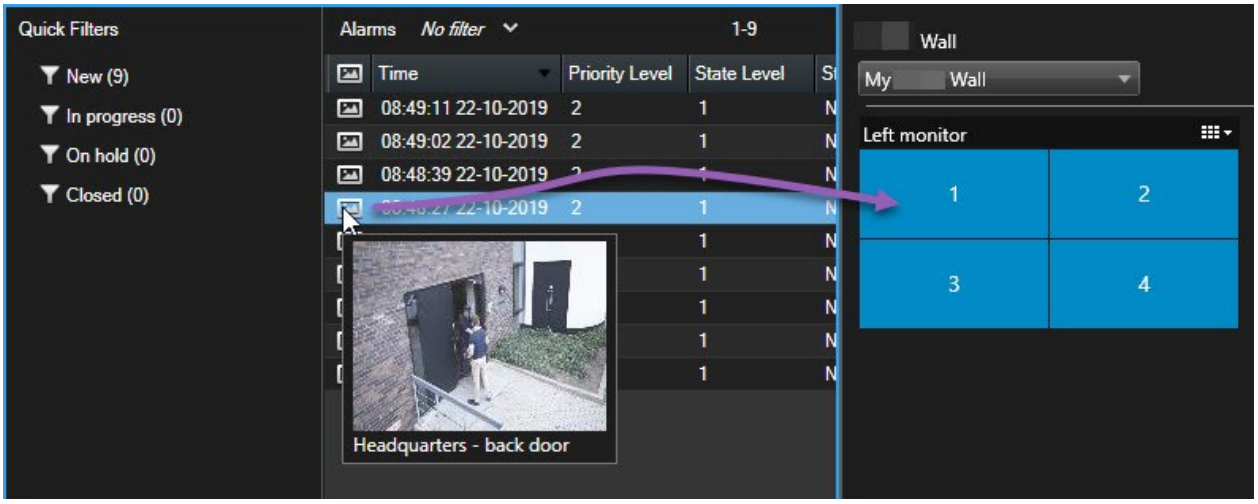


その直後に、テキストがSmart Wallのディスプレイに表示されます。

Smart Wallのアラーム(説明付き)

アラームリストをSmart Wallへ追加すると、全アラームの優先順序付けされた概要を共有できます。これにより、Smart Wallでアラームを詳細に表示し、操作できるようになります。ページ288のSmart Wallでのコンテンツの表示を参照してください。

アラームリストからアラームをドラッグ＆ドロップして、個々のアラームをSmart Wallで表示することもできます。



アラームの詳細

- イベントがアラームをトリガーした日時
- アラームをトリガーしたデバイスの名前とビデオフィード、そのデバイスに関連付けられたすべてのデバイス

- 詳細を表示し、アラームの一部の設定を変更するには、ビューの右上の矢印をクリックします。詳細は次のとおりです。
    - アラームが割り当てられたユーザー、優先度、アラームの状態。これは任意の時点で変更できます
    - ソースまたはアラームをトリガーしたもの(カメラによる動作検知やアナリティクスイベントの発生など)
    - アラームへの応答方法の手順
    - アクティビティ。これはユーザーが入力したコメントです。一般的に、アラームに関連付けられた決定またはアクションを示します。また、誰かがアラームの詳細を変更すると、アクティビティのリストに変更が追加されます。
    - イベントの発生時にビデオを録画していた場合は、再生タブをクリックしてからアラーム時間へ移動をクリックすると、アラームがトリガーされた時点のビデオを表示できます。

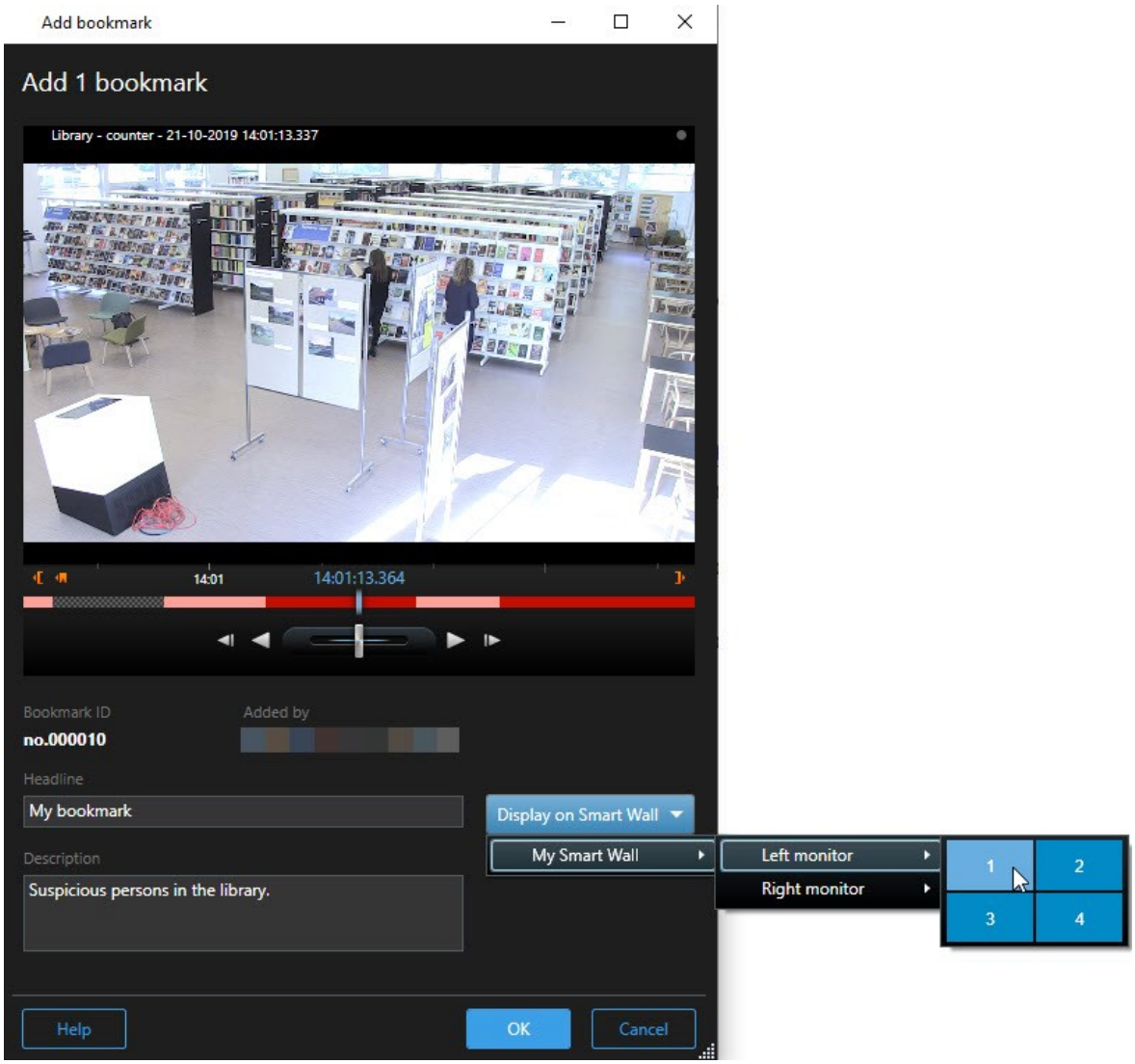
ブックマークをSmart Wallに送信

Smart Wallにブックマークを送信すると、人物やインシデントのビデオシーケンスの画像などをすばやく配信できます。

手順：

1. ページ240のブックマークを追加または編集するあるいはページ221の検索結果のブックマークの説明に従ってブックマークを作成します。

2. 表示されるウィンドウでSmart Wallに表示をクリックし、希望するSmart Wallを選択します。



3. モニターを選択し、続いてモニター内のタイルを選択します。ブックマークが付いたビデオシーケンスがSmart Wallディスプレイに表示されます。

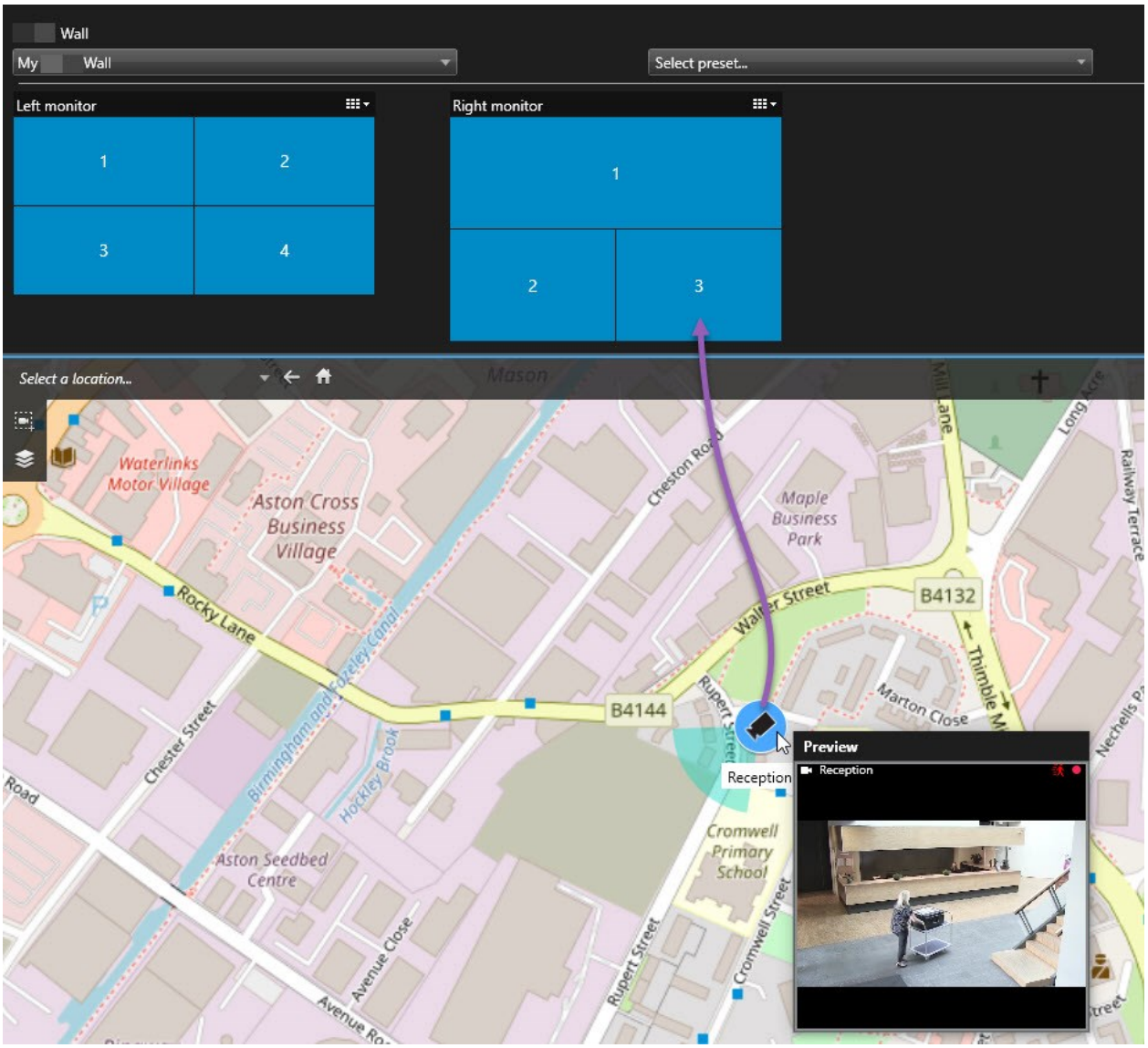
4. ビデオシーケンスの代わりに静止画像を送信するには、静止画像のみを送信チェックボックスを選択します。

スマートマップとSmart Wall(説明付き)

Smart Wallを使用すれば、Smart Wallを使用している他のオペレータとスマートマップを共有できます。現行のズームレベル、ナビゲートさせたロケーション、そして目に見えるレイヤーもまた、Smart Wallに送信されます。

マップまたはスマートマップをSmart Wallにドラッグ

マップまたはスマートマップ上の特定のカメラによってインシデントが記録されており、そのカメラにあるビデオを共有したい場合は、カメラをマップからSmart Wallのモニターにドラッグできます。



フローティングウィンドウとセカンダリディスプレイでカメラをマップからドラッグすることもできます。

Smart Wallの上でコンテンツを表示するのをストップする

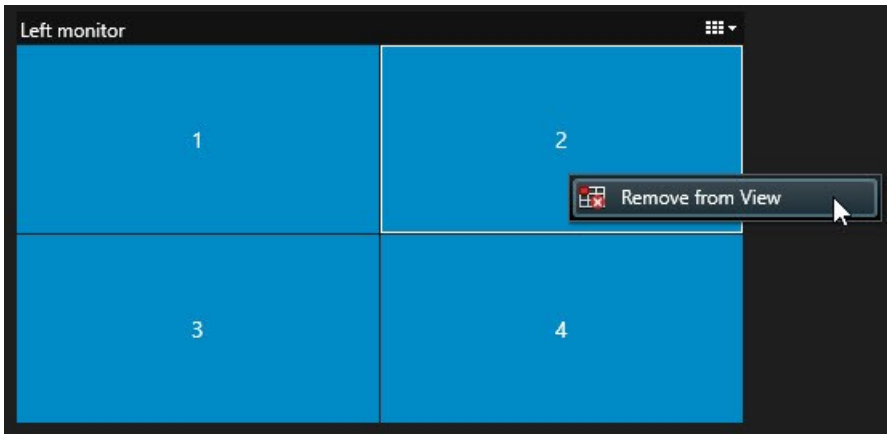
インシデントへの対応が完了した場合やコンテンツが無関係となった場合などに、SmartWallでのコンテンツの表示を停止できます。

Smart Wallモニターでの全コンテンツの表示を停止

1. Smart Wall概要で、消去したいモニターに移動します。
2. アイコンをクリックします。
3. ビューのクリアを選択します。(Smart Wall概要)。タイルがグレーに変化し、全コンテンツがSmart Wallディスプレイから削除されます。

特定のコンテンツをSmart Wallモニターから削除

1. Smart Wall概要で、削除したいコンテンツが含まれるモニターに移動します。
2. 消去したいタイルを右クリックし、ビューから削除を選択します。

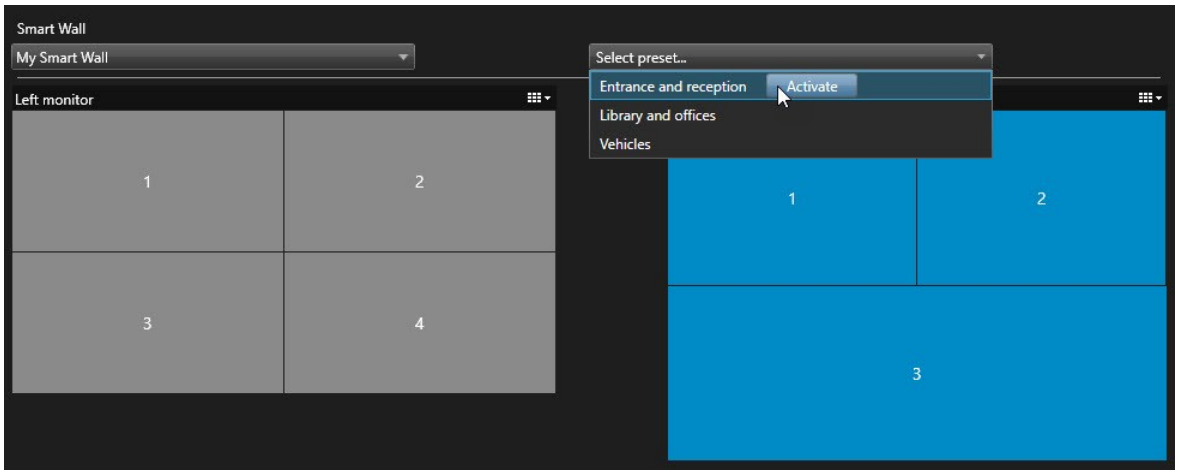


タイルがグレーに変化し、Smart Wallの該当する位置からコンテンツが削除されます。

Smart Wallのリセット

モニターからコンテンツを削除した場合、モニターと関連付けられているプリセットをリセットすると、これらを再度表示させることができます。

1. プリセットの選択をクリックします。
2. 消去したモニターに該当するプリセットにカーソルを置きます。
3. 有効化をクリックします。Smart Wall概要内のグレーのタイルが再度青くなります。



他のオペレータはSmart Wallのコンテンツを手動で変更できるほか、コンテンツをスケジュールしたり、ルールに沿って変更することも可能です。つまり、削除するコンテンツは後から再表示できます。永久的にコンテンツが表示されないようにするには、システム管理者に問い合わせてください。

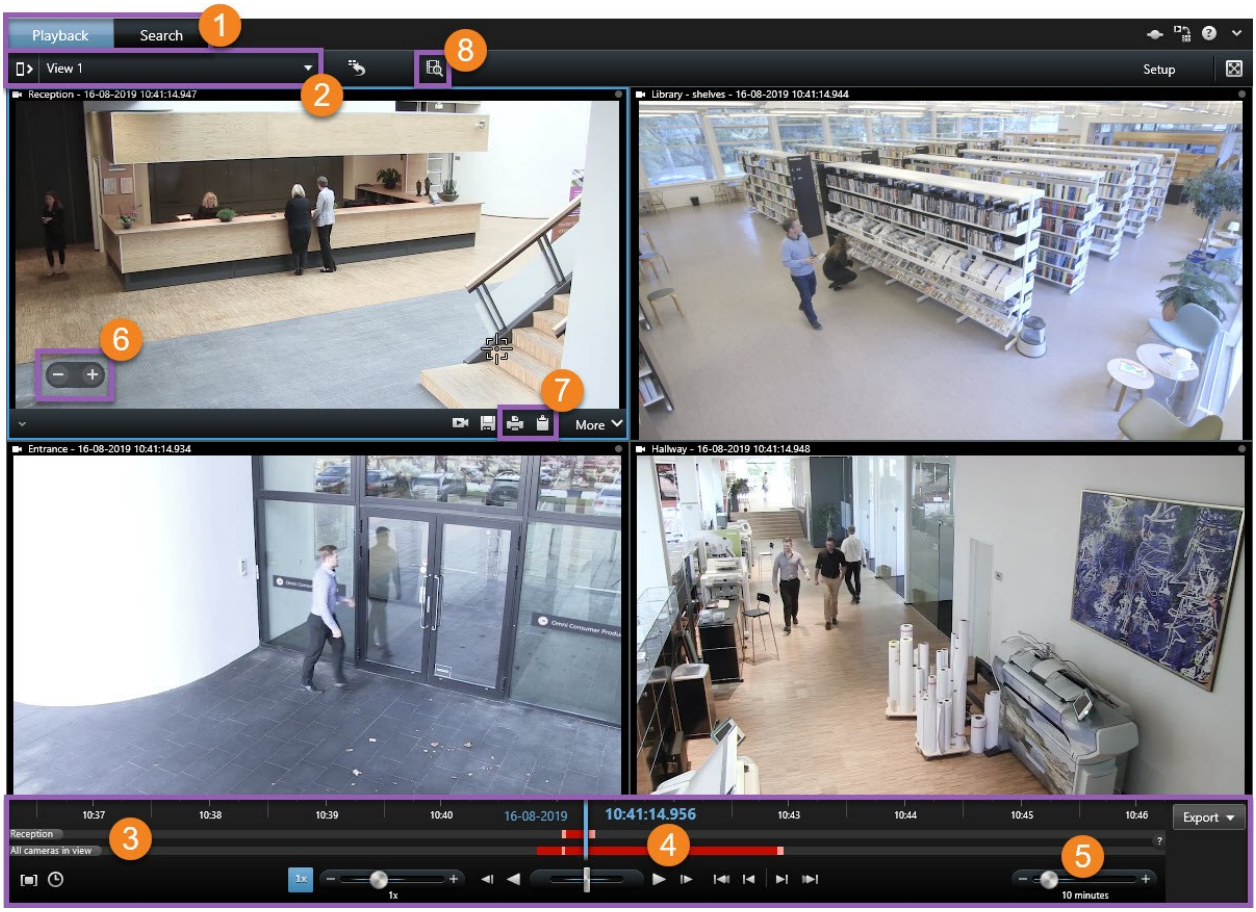
XProtect Smart Client - Player

XProtect Smart Client - PlayerはXProtect Smart Clientのライトバージョンであり、エクスポートしたビデオデータに含めることができます。XProtect Smart Client - Playerでは、監視ソフトウェアをインストールしなくても受信者がエクスポート済みのファイルを再生できます。

XProtect Smart Client - Playerは自動的にビデオアーカイブと録画データベースに含まれるため、録画を含むディスクが取り外されても録画を利用できます。

XProtect Smart Client - Playerを使用してビデオデータとアーカイブの再生、ならびに壊れたデータベースの修復ができます。このアプリケーションには、XProtect Smart Clientの多くの機能があり、外観も似ています。

XProtect Smart Client - Playerの概要



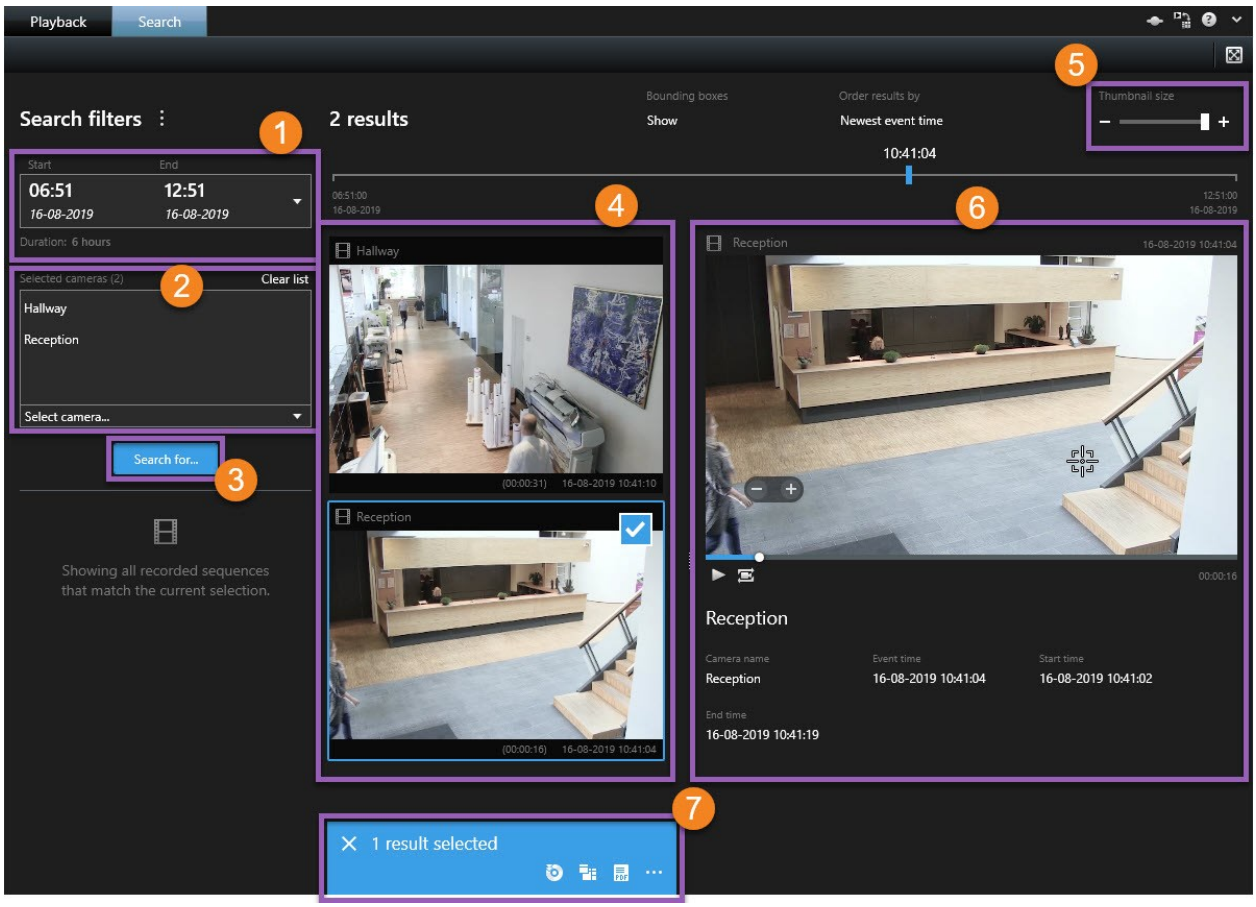
番号	説明
1	[再生]タブでエクスポートされた録画を調査し、[検索]タブで検索を実行します。
2	興味のあるカメラが含まれているビューを選択します。
3	タイムラインをドラッグして、録画されたビデオを参照します。ページ183のタイムライン(説明付き)を参照。
4	時間ナビゲーション コントロールを使用してビデオを再生するか、特定の時点にジャンプします。ページ185のタイムナビゲーションのコントロール(説明付き)を参照。
5	タイムスパンを変更します。範囲は5分～4週間までです。

番号	説明
6	ズームインまたはズームアウトします。
7	静止画像をクリップボードにコピーします。これをドキュメントに張り付けたり、静止画像と関連情報を含む監視レポートを印刷したりできます。
8	事前に選択された現在のビューのカメラを使い、新しい検索ウィンドウで検索を開始します。

での検索XProtect Smart Client - Player

[検索]タブでは、カメラのサブセットを検索したい場合などに、エクスポートに含まれる録画を検索できます。

記録、モーション、ブックマークを検索できます。



番号	説明
1	タイムスパンは、エクスポートのタイムスパンに基づいて自動的に設定されます。独自の時間帯を選択できます(カスタム間隔など)。
2	検索したいカメラを追加します。
3	何を検索するのか指定します ([モーション]など)。検索カテゴリは組み合わせることができます。
4	検索結果のリストをレビューします。スクロール操作で、前または次の検索結果を表示します。
5	[サムネイルのサイズ] スライダーを使用して、サムネイル画像のサイズを変更します。
6	検索結果からビデオを再生します。
7	検索結果に基づいてさらなるアクションを行います (PDFレポートを作成してエビデンスを共有または印刷するなど)。アクションバーは、検索結果内の青いチェックボックスを選択すると表示されます。

[検索]タブの機能の詳細については、ページ201のビデオの検索を参照してください。

デジタル署名の検証

Smart Client - Playerでエビデンスビデオを閲覧していて、エクスポートされたファイルにデジタル署名が施されていた場合は、録画された時点以降、またはエクスポートされたあと、あるいはその両方で録画された映像に何らかの改変があったかを確認できます。

XProtect VMSシステムのバージョン2017 R2以降に接続されているXProtect Smart Client 2017 R1以前のバージョンでは、デジタル署名が機能せず、エクスポートできません。

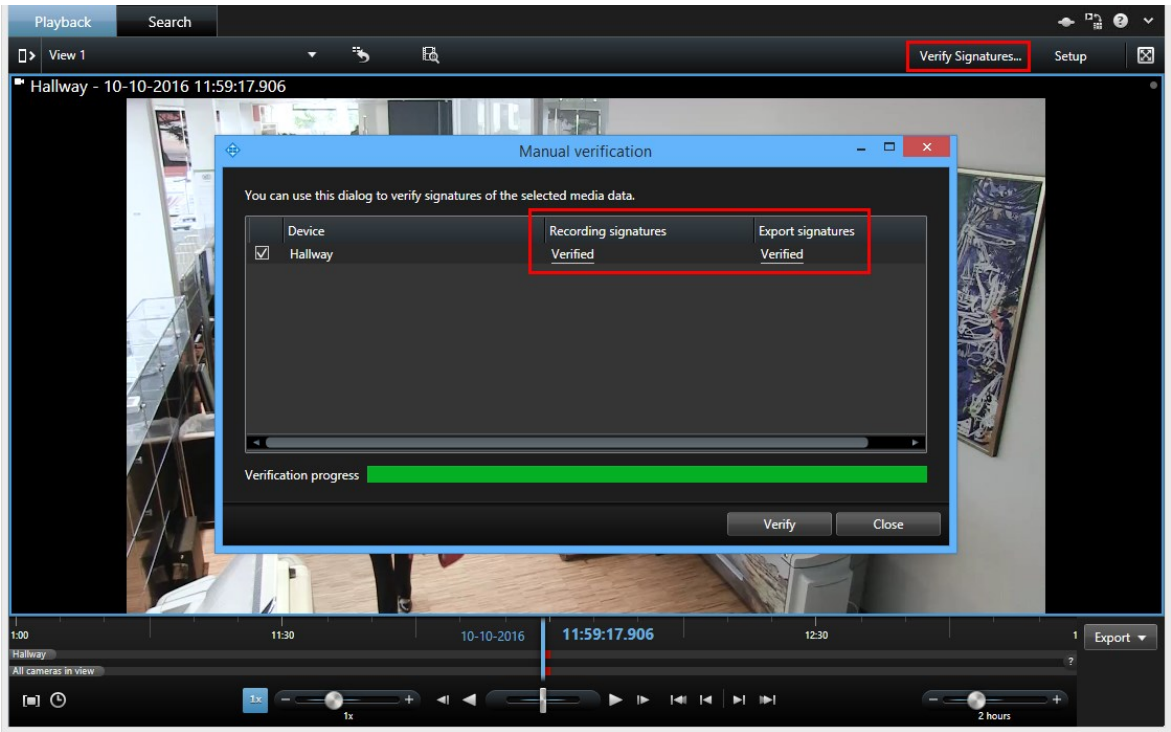
要件

- XProtect Management Clientで、レコーディングサーバーの署名がオンになっている。
- XProtectSmartClientで、エクスポート処理中、**XProtect**形式とデジタル署名を含めるのチェックボックスが選択されました

手順:

1. ツールバーで[署名の検証]ボタンをクリックします。[手動検証]ウィンドウが表示されます。ここでは、エクスポート用に選択されたデバイスを見ることができます。

2. [検証]をクリックして検証プロセスを開始します。システムは録画の署名とエクスポートの署名の真偽を確認します。



3. 録画の署名の検証結果を信頼できるか確認するには：

   1. [録画中の署名]列で、[確認済み]リンクをクリックします。[証明書]ダイアログが表示されます。

   2. **public_ key** と **signature** の値と **PublicKey.xml** ファイル（**C:\ProgramFiles\Milestone\ManagementServer\Tools\CertificateIssuer**）の対応する値とを比較します。これらの値が異なる場合は、録画された内容は改変されています。

4. エクスポートの署名の検証結果を信頼できるか確認するには：

   1. [エクスポートの署名]列で、[確認済み]リンクをクリックします。[証明書]ダイアログが表示されます。

   2. **public_ key** および **signature** の値と **Public Key Certificate.xml** ファイル（**<export destination folder>\<export name>\Client Files\Data\Mediadata\<camera name>\<camera name>\Export signatures**）の対応する値とを比較します。これらの値が異なる場合は、エクスポートされたファイルは改変されています。

データベースは、確認済み、部分的に確認済み(一部のファイルに署名がない)、または署名なしのいずれかになります。

データベースまたは以前にエクスポートされていたエビデンスを表示する

[データベースを開く]ウィザードでは、アーカイブまたは以前にエクスポートされていた資料からデータベースを開き、プロジェクトに追加することができます。また、[データベースを開く]ウィザードは、壊れたデータベースを自動的に修復します。

手順：

1. 右上で[設定]ボタンをクリックします。左側のペインがオレンジ色になります。
2. [概要]ペインを展開します。
3. クリック. [データベースを開く]ウィザードが表示されます。

> ライブデータベースまたはライブアーカイブを開こうとしないでください。システムが損傷する可能性があります。

4. 関連するファイルを含むフォルダーを選択します。データベースを選択すると、カメラ、マイク、またはスピーカーフィールドの横にデバイス名が表示されます。

> システムがカメラを認識しない場合、たとえば、アーカイブされた録画を開いても、名前が[不明]である場合は、3種類のデバイスすべてが[不明]デバイスとして(デバイスが存在しない場合も)追加され、データベースのファイル名が割り当てられます。デバイスがない場合、フィールドには該当なしと表示されます。

5. 開こうとしているデータベースが壊れている場合、ウィザードで修復することができます。
6. データベースを追加した後にデータベースがデジタルシグネチャーを含むかどうかを見ることができます。そこで録画のオーセンシティを確認できます。ページ128のデジタル署名(説明付き)を参照してください。

XProtect Access

2つ以上の入退室管理システムがXProtect Accessアドオンを介してVMSシステムと統合していれば、ドアのモニタリング、ドアの状態のコントロール、入退室管理イベントの調査、アクセスリクエストへの応答、カードホルダー情報の管理が可能です。

ライブタブの入退室管理(説明付き)

ライブタブで、ビデオの右側にイベントのリストとともに表示される、入退室管理ソースに関連付けられたカメラのライブビデオを表示できます。

リスト内のイベントのいずれかをクリックすると、ライブビデオが自動的に一時停止し、イベントの個別再生に変更されます。ライブビデオの表示に戻るには、イベントを再びクリックするか、カメラツールバーの個別再生アイコンをクリックします(ページ188のタイムラインとは別に録画されたビデオを表示を参照)。

システムとイベントにカードホルダー情報が保持されている場合、選択したイベントのカードホルダー名の横にある検索アイコンをクリックし、入退室管理タブにジャンプして、そのユーザーに関連付けられたすべてのイベントを表示できます。

マップを使用したドアのモニタリング

モニタリングと入退室管理タスクをサポートするマップ機能を使用する場合は、マップに入退室管理ユニットを追加できます。

1. 設定モードで、ライブタブのシステム概要ペインを展開します。
2. リストからマップを選択し、ビューアイテムまでドラッグします。
3. マップファイルを探し、**OK**をクリックします。
4. 表示されるマップツールボックスで入退室管理の追加をクリックします。
5. 表示されるリストで、ドアなどの該当する入退室管理ユニットをマップにドラッグします。ドアアイコンがマップに表示されます。
6. 設定をクリックし、ライブ表示に切り替えます。
7. ユーザーがアクセス権を要求すると、ドアはロック解除されます。アクセスリクエスト通知またはマップ自体でコマンドボタンを使用してアクセスを許可されたため、ドアのロックが解除されます。アクセスが付与されると、ドアアイコンが緑色になり、開いているドアとして表示されます。
8. 自動または手動でドアがもう一度ロックされると、ドアアイコンが赤色になり、閉じたドアとして表示されます。
9. ドアアイコンを右クリックすると、コマンドのトリガーなどの操作ができます。

   入退室管理ユニットの状態は常に表示されているため、このような方法でマップを使用することで、モニタリングしているエリアや建物の入退室管理ユニットの状態の概要を視覚的に簡単に確認できます。

入退室管理イベントの調査

入退室管理イベントの検索とフィルタリング

イベントにフィルタをかける複数の方法により、関心のあるデータを表示できます。

1. 入退室管理タブでイベントリストを選択します。
2. リストの最上部で任意のフィルターをクリックし、条件を指定します。
3. あるいは、リストで特定の時間、イベント、ソース、またはカードホルダーを右クリックし、値を使用してフィルタリングします。

   適用するフィルターが直ちにリストに反映されます。

次の項目でフィルタリングできます。

イベントリスト	説明
時間	その特定期間のデータを参照するには、利用可能な時間帯のいずれか1つを選択します。例えば、今日をクリックすると、今日起こったイベントだけを参照します。または特定の期間を指定するには、カスタム間隔を使用します。 ライブ更新を選択すると、フィルター条件に一致する新しいイベントが発生した時に、イベントのリストがすぐに更新されます。リストには、最大で100のイベントが表示されます。ライブ更新モードで操作を行う際には、カードホルダーを検索できません。
イベント	イベントカテゴリと未分類イベントのリストから使用可能なイベントタイプを1つ以上を直接選択するか、特定の入退室管理イベントのいずれかを選択します。
ソース	ドアのリストから利用可能なソースの1つ以上を直接選択するか、他のソースのいずれか(例えば、入退室管理システムのアクセスポイントまたはコントローラー)を選択して、そのユニットのイベントのみを表示します。
入退室管理システム	XProtectシステムが複数のアクセスコントロールシステムと統合する場合は、イベントを表示するアクセスコントロールシステムを選択します。
カードホルダー	使用可能なカード所有者を一人以上選択します。

イベントリスト(説明付き)

1つのイベントを選択すると、入退室管理タブの右側のプレビューで、そのイベントの関連ビデオシーケンスを見ることができます。プレビューカメラタイトルバーは、イベントをトリガーしたユニットに関連するカメラを示します。

- ドアに複数のカメラが関連付けられていると、それらはすべてプレビューに表示されます。
- 標準の再生オプションは、ツールバーから利用可能です。
- 関連するカードホルダー情報は、選択したイベントに関する詳細とともにビデオのプレビューの下に表示されます。
- をクリックすると、フローティングウィンドウでライブビデオを表示したり、録画ビデオを再生することができます。

アクセスレポートのエクスポート

ライブ更新モードではない場合には、入退室管理タブで、PDFファイルにイベントリストのレポートを作成するかエクスポートできます。

1. レポートで任意のイベントをフィルタリングまたは検索します。

   イベント数が非常に高い場合、検索を改良する推奨を受け取り、これによって検索結果の数を低減できます。

2. アクセスレポートボタンをクリックします。

3. フィールドを入力します。レポートに含まれる内容：
   - レポート名
   - レポート先
   - 適用されるフィルターのリスト
   - コメントフィールド
   - スナップショットを含めるオプション

4. **OK**をクリックして、レポートが完了するのを待機します。

5. 右上端で詳細をクリックし、表示されるダイアログボックスで開くをクリックします。

   レポートがPDF形式で開きます。

イベントリストのライブ更新モードの切り替え

ライブタブで入退室管理のライブビデオを見る代わりに、入退室管理タブでライブ更新モードを使用できます。新しいイベントがフィルター基準に一致する場合、イベントリストは即座に更新されます。

1. 入退室管理タブでイベントリストを選択します。

2. 期間を選択するフィルターのドロップダウンリストで、ライブ更新を選択します。

   検索フィールドの横には、モードを変更したことが表示されます。フィルタリング条件を満たすイベントが発生するとすぐにリストが更新されます。

   > ライブ更新モードで操作するときには、カードホルダーを検索できません。アクセスレポートも作成できません。

3. ライブ更新モードから戻すには、新しい期間でフィルタリングします。

ドア状態の監視と制御

ドアリストには、ドア、各入退室管理システム内のアクセスポイントおよび他の入退室管理のユニット、およびそれらの現在の状態が一覧表示されます。これは、特定のドアの状態を把握する必要がある場合などに有用です。

ドアリストにフィルタをかける複数の方法により、関心のあるデータを表示できます。

1. 入退室管理タブでドアリストを選択します。
2. リストの最上部で任意のフィルターをクリックし、条件を指定します。
3. フィルターを組み合わせるか、検索フィールドに条件を入力し、ドアを検索します。
4. あるいは、リストでドアまたは状態を右クリックし、値を使用してフィルタリングします。

   適用するフィルターが直ちにリストに反映されます。

何がフィルターできるか?

ドアのリスト	説明
名前	利用可能なドア、アクセスポイントおよび未分類タイプのうち1つ以上を選択するか、他の入退室管理のユニットのいずれかを選択して、選択したものの状態のみを表示します。
入退室管理システム	XProtectシステムが複数のアクセスコントロールシステムと統合する場合は、ドアを表示するアクセスコントロールシステムを選択します。
ステータス	状態カテゴリと未分類状態のリストから使用可能な状態を1つ以上、直接選択するか、特定の入退室管理状態のいずれかを選択します。

監視領域のドア状態をモニタリングするもうひとつの方法は、マップにドアを追加することです(ページ306のマップを使用したドアのモニタリングを参照) 。

ドアリスト(説明付き)

入退室管理タブのドアリストでドアを選択すると、スクリーンの右側に詳細情報とともに関連カメラがライブビデオを表示します。

- ドアに複数のカメラが関連付けられていると、それらはすべてプレビューに表示されます。
- 標準の個別再生オプションは、ツールバーから利用できます。
- アクションボタンを使うと、ドアのロック/ロック解除といったドアに関連する特定のコマンドを実施できます。使用可能なコマンドはシステム構成によって異なります。
- 選択したドアに関連付けられた情報は、ライブビデオプレビューの下に表示されます。
- をクリックすると、フローティングウィンドウでライブビデオを表示したり、録画ビデオを再生したりできます。

カードホルダーの調査

カードホルダーリストには、各入退室管理システムのカードホルダーと詳細が一覧表示されます。これは、特定の人に関する詳細情報が必要な場合に有用です。

カードホルダーリストに複数の方法でフィルターをかけると、関心のあるデータを表示できます。

1. 入退室管理タブでカードホルダーリストを選択します。
2. リストの最上部にあるフィルターをクリックし、カードホルダーを調査する入退室管理システムを指定します。一度に1つの入退室管理システムを操作できます。
3. フィルターを組み合わせるか、検索フィールドに条件を入力し、カードホルダーを検索します。
4. あるいは、リストでカードホルダーまたはタイプを右クリックし、値を使用してフィルタリングします。

   適用するフィルターが直ちにリストに反映されます。

何をフィルタリングできるか?

カードホルダーリスト	説明
名前	使用可能なカードホルダーのいずれかを選択し、この人の詳細情報を表示します。
タイプ	使用可能なカードホルダータイプのいずれかを選択し、このタイプのカードホルダーを一覧表示します。

カードホルダーを選択するときには、この人の詳細情報が画面の右側に表示されます。システムによっては、画像または入退室管理システムでカードホルダー記録を管理するためのリンクが含まれることがあります(ページ130のカードホルダー情報の管理を参照)。

アクセスリクエスト通知(説明付き)

あなたの組織では、誰かが建物に入る際にセキュリティ担当者がドアを開けなければならないように選択している場合があります。そのような条件が適用される場合、例えば、ある人が1つ以上のエリアに入る際にアクセスリクエストの通知を受け取ることがあります。アクセスリクエストの通知をトリガーするすべての条件は、動画管理システムで指定しなければなりません。通知には、アクセスリクエストに関連するライブビデオが表示されるため、誰がアクセスを要求しているかを確認することができます。開くべきドアの名前は、例えば、アクセスリクエスト- フロントドアなど、見出しとして表示されます。ドアの状態(例えば、開、閉または強制開)も表示されます。ドアに複数のカメラが関連付けられていると、それらは互いの下に表示されます。

アクセスリクエストの通知は一時的なものです。アクセスリクエストの通知を閉じると、この通知はシステムから消去されます。アクセスリクエストの通知が表示されているときにXProtect Smart Clientを閉じると、再起動してもこの通知は復元されません。

アクセスリクエスト通知管理(説明付き)

XProtect Smart Clientが実行中の場合は、他のアプリケーションを使用している場合でも、画面上にアクセスリクエスト通知がポップアップ表示されます。

フローティングウィンドウでライブビデオを表示している場合は、 をクリックします。

アクセスリクエストがアクセスリクエスト通知ウィンドウに重なって表示され、同じ通知ウィンドウからすべての受信したアクセスリクエスト通知を処理することができます。画面の反対側または別の画面(接続されている場合)に通知をドラッグします。

必要に応じて、アクセスリクエスト通知ウィンドウを最小化して、機能をバックグラウンドで続行させることもできます。新しい通知がある場合は、XProtect Smart Clientアイコンがタスクバーで点滅します。

アクセスリクエストへの応答

VMSシステムが双方向音声をサポートし、スピーカーとマイクが、アクセスリクエスト通知を表示する該当カメラに接続されている場合は、アクセスリクエスト通知によって、入室を許可する人と会話できます。

1. アクセスを要求している人の話を聞くには、 ボタンをクリックします。
2. 例えば、エリア内でどう進むか、またはどう行動するかの指示を与えるために、アクセスを要求している人に話しかけるには、 ボタンをクリックしたまま保持します。
3. 他のアクションを実行するには、マイクとスピーカーボタンの右側のコマンドボタンを使用。最も標準的なアクションは、アクセスを要求する人のためにドアのロックを解除することですが、関連する出入口に近いエリアのライトをオンにすることもあります。

> 入退室管理システムがこのような情報をXProtectシステムに提供している場合は、カードホルダー情報を確認できます。カードホルダー情報の例：カードホルダーのID番号、名前、部署、電話番号、承認レベル システム構成によっては、カードホルダー情報を管理できる場合があります(ページ130のカードホルダー情報の管理を参照)。

XProtect LPR

ライブタブのLPR(説明付き)

ライブタブには、ナンバープレート認識(LPR)に設定されたカメラからのライブビデオが表示されます。複数のLPRカメラからのライブビデオを同時に表示することができます。 ビューアイテムの右側には、一致するLPRイベントがあるたびに表示されます。設定モードで、ナンバープレートの番号のリストの表示方法を定義する設定を変更することができます。

LPRイベントリスト内のいずれかのナンバープレートをクリックすると、ライブビデオが自動的に一時停止し、イベントの個別再生に変更されます。ライブ映像の表示に戻るには、ナンバープレートを再度クリックするか、カメラツールバーの個別再生アイコンをクリックしてください。

検索タブのLPR(説明付き)

検索タブでは、車両に関連付けられているビデオ録画を検索できます。

LPRタブ(説明付き)

LPRタブでは、検索とフィルタリングを使用してすべてのLPRカメラからのLPRイベントを調査し、関連付けられたビデオ録画とナンバープレート認識データを表示します。一致リストを最新の状態に保ち、レポートを作成します。

このタブにはLPRイベントリスト、個別のLPRイベントに関連付けられたビデオのLPRカメラでのプレビューがあります。プレビューの下には、ナンバープレートに関する情報が、関連付けられているナンバープレート一致リストの詳細と共に表示されます。

イベントリストには、期間、国モジュール、ナンバープレート認識カメラ、ナンバープレート一致リストでフィルターをかけることができます。検索フィールドを使用して、特定のナンバープレート番号を検索することができます。デフォルトでは、このリストには直前1時間のLPRイベントが表示されています。

関連するイベントをPDF形式で指定し、エクスポートすることができます。

ナンバープレート一致リスト機能を使用すると、既存の一致リストを更新できます。

LPRイベントリスト(説明付き)

LPRイベントリストには、すべてのLPRイベントが表示されます。デフォルトでは、このリストには、直前1時間のLPRイベントが、最新のイベントが一番上に表示されますが、システム管理者はこれを変更することもできます。

リストからLPRを選択すると、右側にプレビューが表示され、そのイベントに関連するビデオシーケンスを表示できます。プレビューのタイトルバーは、LPRイベントが起こったLPRカメラの名前を示します。 また、ライセンス番号、国モジュール、イベントの時刻、トリガーしたイベントに割り当てられている一致リストなども表示できます。

LPRイベントリストの表示方法は変更することができます。列で並び替えたり、別の位置にドラッグすることができます。リスト上部のフィルターを使用してLPRイベントにフィルターをかけたり、検索フィールドを使用して検索を行ったりできます。

> LPRイベントリストには、検索またはフィルター時のLPRイベントのみが表示されます。最新のLPRイベントを表示するには、更新ボタンをクリックします。

LPRイベントのフィルタリング(説明付き)

LPRイベントリストにフィルターをかける方法は複数あり、関心のあるLPRイベントだけを表示することができます。そのフィルターに関連付けられたLPRイベントだけを参照するには、リストの上部にあるフィルターのいずれかをクリックします。適用するフィルターが直ちにリストに反映されます。

- 期間:特定の時間内のLPRイベントを見るには、可能な期間のうち1つを選択
- 国モジュール:国モジュールを選択または選択解除して、特定の国、州、地域のナンバープレートにリンクされているLPRイベントのみを表示させることができます。
- LPRカメラ: 使用可能なLPRカメラを1つ以上選択すると、選択したカメラのLPRイベントのみが表示されます。
- ナンバープレート一致リスト:ナンバープレートリストを1つ以上の選択すると、それらのリストから生成されたLPRイベントのみが表示されます。

フィルターを組み合わせることも可能です(ある日付の特定の国モジュールなど) 。

また、検索フィールドを使って、特定のナンバープレートを検索することもできます。文字の組み合わせを入力して、それらの文字の組み合わせによる結果を出力します。たとえば、文字「XY12 」を入力すると、番号に「XY」と「12」の両方が含まれているナンバープレートが検索できます。[XY12] と入力すると、番号に「XY12」が含まれているナンバープレートを検索できます。

ナンバープレート一致リストを編集

ナンバープレート一致リストから、ナンバープレートをつけ加えたり消したりすることができます。

1. LPR タブのウィンドウの右上でナンバープレート一致リストをクリックすると、ナンバープレート一致リストダイアログボックスが開きます。
2. ナンバープレート一致リストを選択で、編集したいリストを選択します。
3. ナンバープレートを追加するには、追加をクリックします。関連する情報を入力して、OK をクリックします。
4. 既存のナンバープレートを編集する場合は、検索機能を使って、関連するナンバープレートを見つけます。
5. 単一の列をダブルクリックして編集するか、複数の行を選択して、編集をクリックします。
6. ダイアログボックスに情報を入力して、OK をクリックします。一致リストに複数の列が含まれている場合、すべてのフィールドの情報を編集することができます。
7. ナンバープレートを削除する場合は、検索機能を使って、関連するナンバープレートを見つけます。
8. 必要に応じて複数の行を選択して、削除をクリックします。
9. 閉じるをクリックします。

> あるいは、リストされていないLPR イベントを右クリックして、リストに追加を選択することで、ナンバープレートをナンバープレート一致リストに追加することもできます。また、プレビューの右下で関連するLPR イベントを選択して、リストから削除アイコンをクリックしてナンバープレートを削除することも可能です。

ナンバープレート一致リストをインポートまたはエクスポートする

ナンバープレート一致リストで使いたいナンバープレートのリストが含まれているファイルをインポートすることができます。インポートには、以下のオプションがあります。

- ナンバープレートを既存のリストに追加します。
- 既存のリストを置換します。

たとえば、リストを中央で集中管理している場合には、これが便利です。次に、ファイルを配信することで、すべてのローカルインストールを更新することができます。

同様に、ナンバープレートの完全なリストを、一致リストから外部の場所へエクスポートすることもできます。

1. ナンバープレート一致リストをインポートするには：
    1. LPRタブのウィンドウの右上でナンバープレート一致リストをクリックすると、ナンバープレート一致リストダイアログボックスが開きます。
    2. 関連するリストを選択します。
    3. ファイルをインポートするには、インポートをクリックします。
    4. ダイアログボックスで、インポートファイルの場所およびインポートのタイプを指定します。次へをクリックします。
    5. 確認を待ってから、閉じるをクリックします。
2. ナンバープレート一致リストをエクスポートするには：
    1. エクスポートをクリックします。
    2. ダイアログボックスで、エクスポートファイルの場所を指定して、次へをクリックします。
    3. 閉じるをクリックします。
    4. エクスポートしたファイルは、たとえば、Microsoft Excelで開いて、編集することができます。

サポートされているファイル形式は.txtまたは.csvです。

LPRイベントをレポートとしてエクスポートする

LPRイベントのレポートをPDFファイルにエクスポートできます。

1. LPRタブで、レポートに含めたいイベントにフィルターをかけたり、検索することができます。

    検索結果のイベント数が非常に多い場合、検索を絞り込むよう推奨されます。これによって検索結果の数を低減できます。
2. LPRレポートボタンをクリックします。
3. 以下の値を指定して、OKをクリックします。
    - レポート名
    - レポート先
    - コメントフィールド
    - スナップショットを含めるオプション

    XProtect Smart Clientウィンドウの右上隅に進捗バーが表示されます。
4. 詳細をクリックして、レポートを表示します。

> 用紙サイズあるいはフォントを変更する場合は、設定ウィンドウを開き、詳細を選択し、PDFレポート形式あるいはPDFレポートフォント設定を変更します。

アラームマネージャタブのLPR

アラームマネージャタブで、LPRに関連するアラームを表示して、調べることができます 情報を表示する前に、若干のカスタマイズが必要です。

- ページ132のLPR固有のエレメントを有効にする
- アラームリストはイベントモードでなければなりません(ページ315のLPR認識を表示を参照)

XProtect Smart Client機能の詳細一般については、アラーム管理のセクションを参照してください。

LPR認識を表示

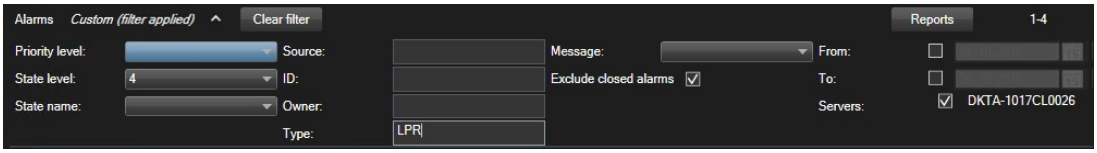
アラームリストでLPR認識を表示することができます。データソースとしてイベントを選択すると、すべての認識が表示されます。データソースとしてアラームを選択する場合は、アラームに関連づけられた認識のみが表示されます。

要件

以下のステップで参照されるタイプフィールドを使用するには、システム管理者によってManagement ClientまたはManagement Applicationでフィールドが有効化されていなければなりません。

手順：

1. アラームマネージャタブをクリックします。
2. 設定ボタンをクリックして設定モードに移ります。
3. アラームに関連付けられている認識を表示するには：
    1. データソースリストでアラームを選択します。
    2. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。認識がアラームリストに表示されます。
    3. 着信するナンバープレート認識アラームを表示するには、タイプフィールドにLPRと入力します。



4. すべての認識を表示するには：
    1. データソースリストでイベントを選択します。
    2. 設定を再度クリックし、設定モードを解除します。認識がアラームリストに表示されます。
    3. 着信するナンバープレート認識イベントをすべて表示するには、タイプフィールドにLPRと入力します。

アラームリストに、変更したフィールドを離れたときのみフィルターされた結果が表示されます。

XProtect Transact

XProtect Transactがシステム内で設定されている場合は、いくつかの方法でライブトランザクションを観察し、トランザクションを調査して、トランザクションをプリントできます。

XProtect Transactの概要

このトピックでは、XProtect Smart ClientのXProtect Transactを使用して実行できることの概要を説明します。機能はタブごとに説明されています。

タブ	説明
ライブ	ライブタブでは、トランザクションを監視するカメラからライブトランザクションと監視ビデオを観察できます。ビューには複数のトランザクションビュー項目が表示されます。トランザクションは、最大2台のカメラのビデオストリームと同期して画面を移動するレシートとして表示されます。 設定モードでは、トランザクションビューを作成して変更できます。
再生	再生タブでは、トランザクションを監視するカメラから過去のトランザクションと監視ビデオを確認できます。ビューには複数のトランザクションビュー項目が表示されます。トランザクションは、最大2台のカメラのビデオストリームと同期して画面を移動するレシートとして表示されます。 設定モードでは、トランザクションビューを作成して変更できます。
アラームマネージャ	アラームマネージャタブでは、トランザクションに関連するアラームとイベントを表示して、調べることができます イベントはイベントリストとして表示されます。トランザクションイベントをグループ化するには、タイプがトランザクションのイベントでフィルタリングする必要があります。イベントリストの行をクリックすると、イベントに関連付けられたビデオがプレビューに表示されます。
トランスアクト	トランスアクトタブでは、フリーテキスト検索を実行しフィルターを適用することによりトランザクションを調査できます。トランザクションラインは、時間、トランザクションソース、およびライン名別に並べ替えることができるリストに表示されます。行をクリックすると、関連付けられたカメラの関連付けられたビデオの静止フレームが表示されます。ビデオプレビューアの下には、レシートが表示されます。

ライブトランザクションを観察する

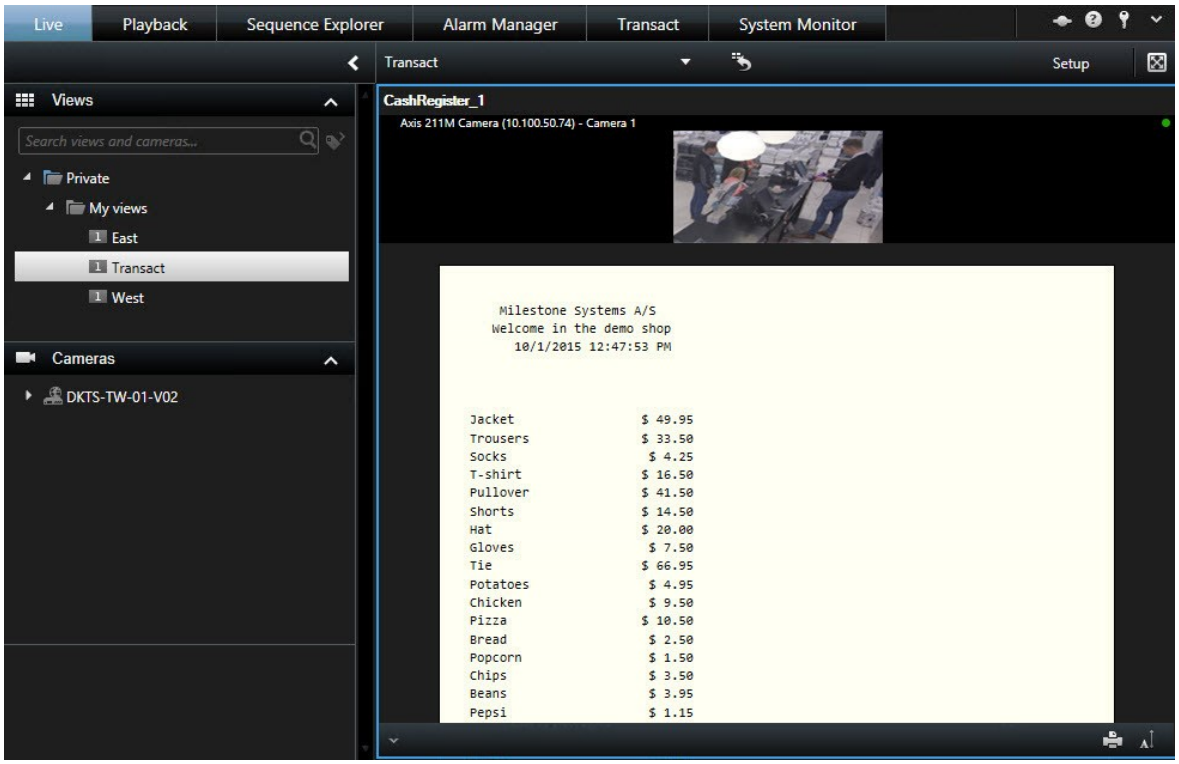
トランザクションを録画するカメラのライブビデオ監視と組み合わせて、リアルタイムのトランザクションを観察できます。たとえば、キャッシュレジスタ、販売員、および実行中のトランザクションを観察できます。

要件

トランザクションを表示するビューを設定していること。詳細については、ページ135のトランザクションのビューを設定を参照してください。

手順：

1. ライブタブで、ビューペインを選択します。
2. トランザクションに設定されたビューを選択します。実行中のトランザクションがある場合は、レシートが画面を移動し、関連付けられたカメラのライブビデオが表示されます。



トランザクションビューアイテムがレシートより狭い場合は、横のスクロールバーを使用すると、非表示のレシートの部分を表示できます。スクロールバーにアクセスしようとすると、ビューアイテムツールバーが表示され、スクロールバーを覆います。スクロールバーにアクセスするには、カーソルをビューアイテム領域に移動している間、**Ctrl**キーを押したままにします。

を選択して受信のフォントサイズを変更します。

トランザクションの調査

ビューのトランザクションの調査

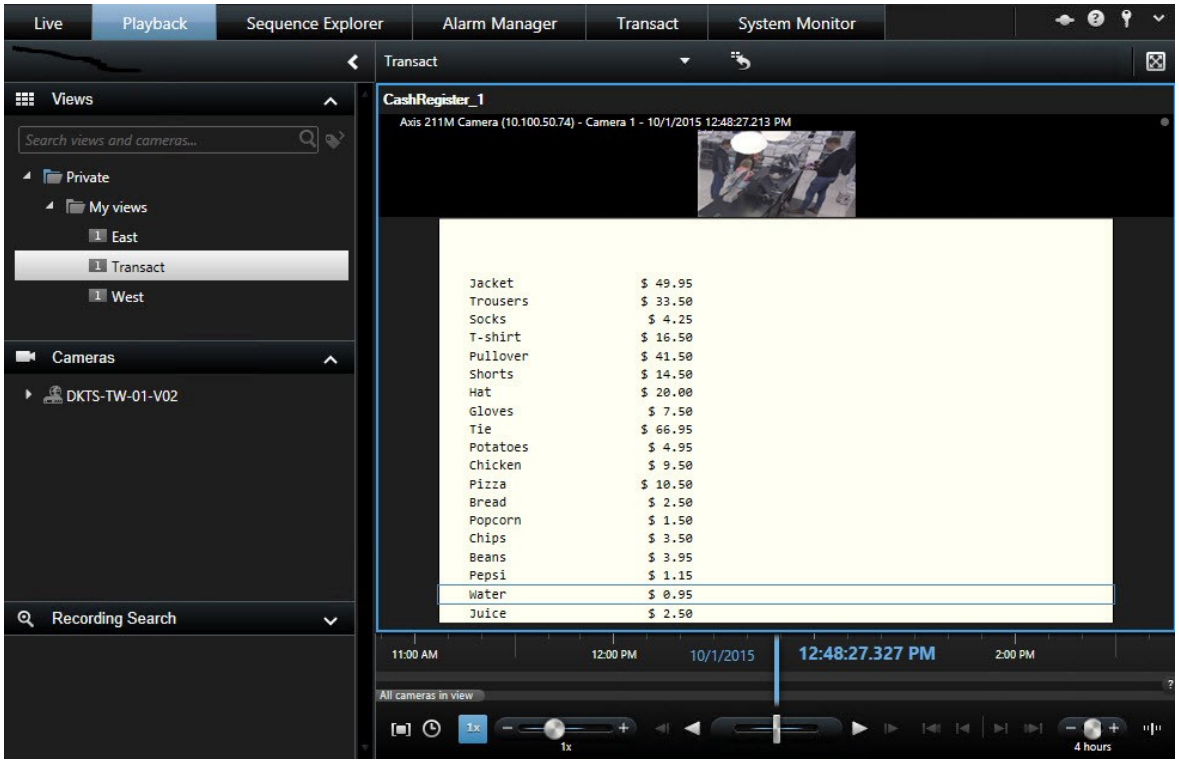
トランザクションを調査する最も簡単な方法は、ビューでトランザクションを確認することです。ここでは、ビデオの録画と同期して、レシートが画面を移動します。

要件

トランザクションを表示するビューを設定していること。詳細については、ページ135のトランザクションのビューを設定を参照してください。

手順：

1. 再生タブをクリックします。
2. ビューペインで、トランザクションビューを選択します。ビューの構成方法によっては、1つ以上のレシートと、トランザクションソースに関連付けられたカメラが表示されます。



3. 逆方向モードでビデオシーケンスを表示する場合は、タイムラインを右側にドラッグします。
4. 順方向モードでビデオシーケンスを表示する場合は、タイムラインを左側にドラッグします。
5. ◀または▶ボタンを使用して、逆方向または順方向再生モードでビデオ録画を再生します。

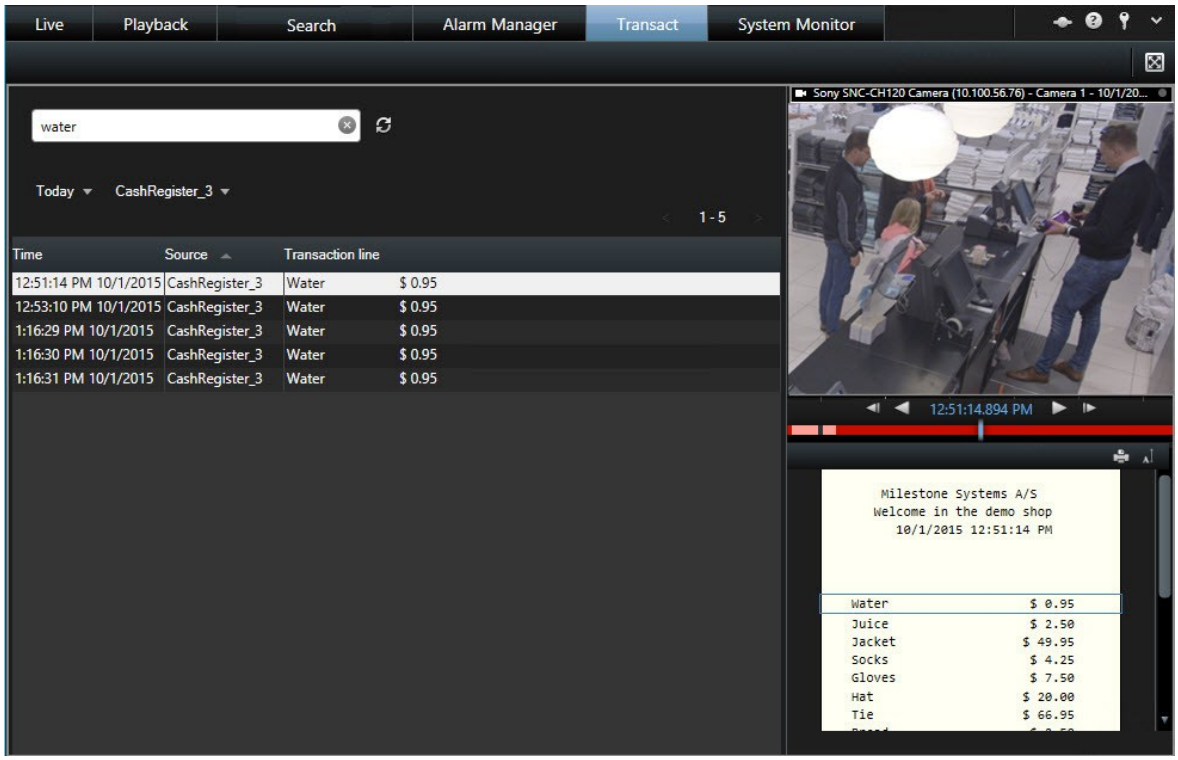
トランザクションビューアイテムがレシートより狭い場合は、横のスクロールバーを使用して、非表示のレシートの部分を表示できます。スクロールバーにアクセスしようとすると、ビューアイテムツールバーが表示され、スクロールバーを覆います。スクロールバーにアクセスするには、カーソルをビューアイテム領域に移動している間、**Ctrl**キーを押したままにします。

Aを選択して受信のフォントサイズを変更します。

検索とフィルターを使用したトランザクションの調査

フィルターと検索語を使用すると、トランザクションと関連付けられたビデオの録画を調査できます。フィルターを使用すると、過去7日間のトランザクションや特定のキャッシュレジスタなど、検索を絞り込むことができます。検索語を使用すると、販売員の名前や未承認の割引など、トランザクションの特定のデータを特定できます。

1. トランスアクトタブをクリックします。
2. 今日ドロップダウンリストでタイムインターバルを選択します。
3. ソースドロップダウンリストで、調査するトランザクションソースを選択します。無効なソースには「()」が表示されます(例："(CashRegister_)")。



4. 検索語を入力します。検索結果はフィルタの下にトランザクションラインとして表示されます。レシートでは検索項目がハイライト表示されます。
5. リストを更新するには、をクリックします。
6. トランザクションラインをクリックし、関連付けられたビデオの静止フレームを表示します。または ボタンを使用して、逆方向または順方向再生モードでビデオ録画を開始します。

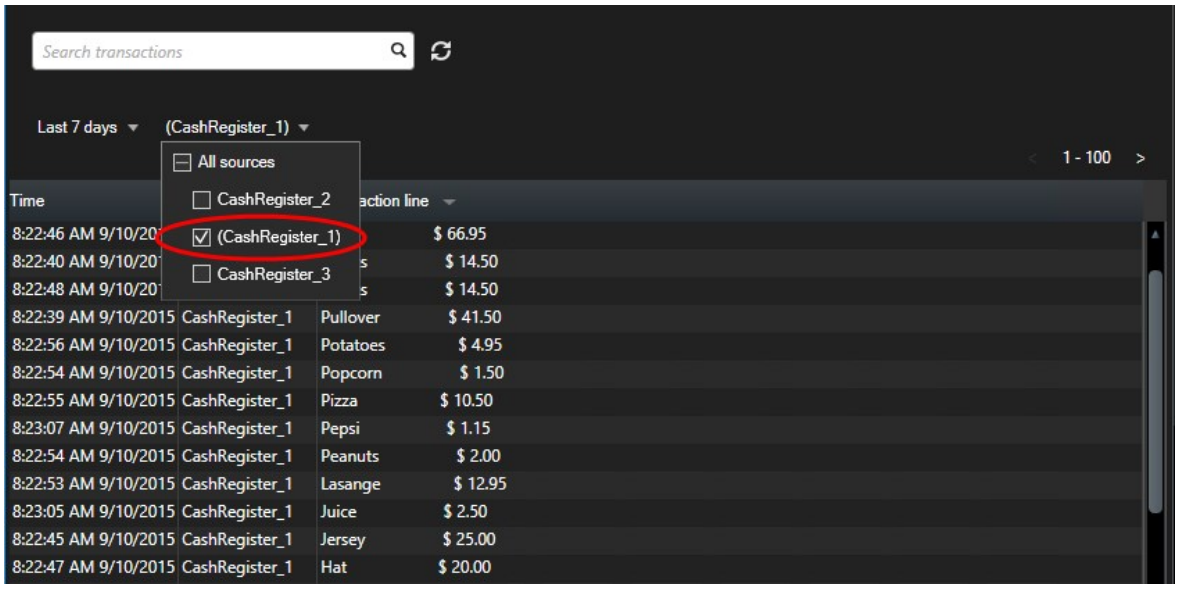
> デフォルトでは、トランザクションデータは30日間保存されますが、構成によっては、データを最大1000日間保存できます。

無効なソースからのトランザクションの調査

トランザクションソースがシステム管理者によって無効にされている場合でも、関連付けられたビデオ録画と組み合わせて、そのソースの過去のトランザクションを表示できます。

手順：

1. トランスアクトタブをクリックします。
2. すべてのソースドロップダウンリストで、無効なトランザクションソースを選択します。かっこは括弧はソースが無効であることを示します(例："(CashRegister_1)".)



3. 過去7日間などのタイムインターバルを選択するか、カスタム期間を設定します。
4. をクリックして、指定されたタイムインターバルのトランザクションラインを表示します。
5. トランザクションラインを選択し、正確な特定の時点から、関連付けられたビデオ静止フレームを表示します。
6. または ボタンを使用して、逆方向または順方向再生モードでビデオ録画を再生します。

> デフォルトでは、保存されたトランザクションデータは30日後に削除されます。ただし、システム管理者が、1～1000日の間で保持期間を変更している場合もあります。

トランザクションイベントの調査

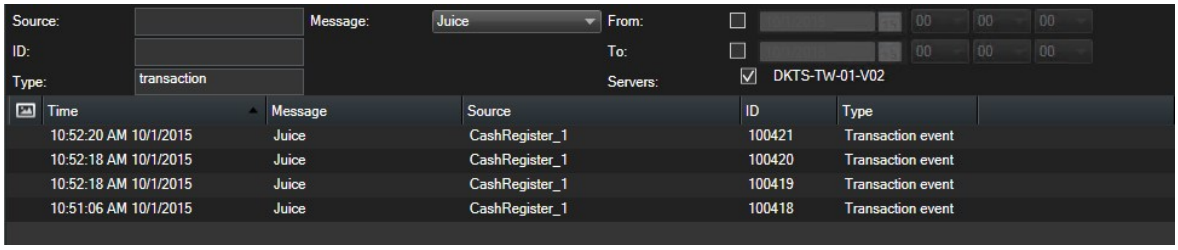
特定の項目が購入されたトランザクションの特定などによって、トランザクションイベントを調査できます。トランザクションイベントの調査では、アラームリストのイベントと関連付けられたビデオの録画の詳細が表示されます。

要件

トランザクションイベントでフィルタリングするには、タイプフィールドがXProtect Smart Clientに追加される必要があります。これはシステム管理者のみが実行できます。

手順：

1. アラームマネージャタブをクリックします。
2. 右上端の設定をクリックし、設定モードに切り替えます。
3. プロパティペインを展開します。
4. データソースリストで、イベントを選択し、もう一度設定をクリックして、設定モードを終了します。すべてのイベントはリストに表示されます。最新のデータが一番上に表示されます。
5. トランザクションイベントのみを表示するには、フィルターセクションを展開し、タイプフィールドにトランザクションイベントと入力します。自動的にフィルターが適用され、トランザクションイベントのみがリストに表示されます。



6. システム管理者が定義した特定のイベントを表示する場合は、メッセージリストを開き、イベントを選択します。
7. イベントに関連付けられたビデオの録画を表示するには、リストのイベントをクリックします。ビデオがビデオプレビューアで再生されます。

トランザクションアラームの調査

トランザクションイベントによってトリガーされたアラームを調査できます。アラームはアラームリストに表示され、アラームと関連付けられたビデオの録画に関する詳細を確認できます。

要件

トランザクションイベントでフィルタリングするには、タイプフィールドがXProtect Smart Clientに追加される必要があります。これはシステム管理者のみが実行できます。

手順：

1. アラームマネージャタブをクリックします。
2. 右上端の設定ボタンをクリックし、設定モードに切り替えます。
3. プロパティペインを展開します。
4. データソースリストで、アラームを選択し、もう一度設定をクリックして、設定モードを終了します。最新のアラームは、一番上に表示されます。
5. トランザクションイベントによってトリガーされたアラームのみを表示するには、フィルターセクションを展開し、タイプフィールドにトランザクションイベントと入力します。自動的にフィルターがリストに適用されます。

6. 特定のイベントによってトリガーされたアラームを表示する場合は、メッセージリストを開き、イベントを選択します。
7. アラームに関連付けられたビデオの録画を表示するには、リストのアラームをクリックします。ビデオがビデオプレビューアで再生されます。

トランザクションの印刷

トランスアクトワークスペースでトランザクションを表示しているときには、1度に1つずつトランザクションを印刷できます。印刷物には、トランザクションラインと一致する時間の、関連付けられたカメラのレシートと静止画像が表示されます。

手順：

1. トランスアクトタブをクリックします。
2. ページ318のトランザクションの調査の説明に従い、印刷できるトランザクションを検索します。

3. 印刷するトランザクションの下の印刷をクリックします。Windowsダイアログボックスが表示されます。
4. 必要なプリンタを選択して、**OK**をクリックします。

トラブルシューティング

インストール (トラブルシューティング)

エラーメッセージと警告

Milestone XProtect Smart Client(64ビット) をこのオペレーティングシステムにインストールすることはできません。 OSが対応外です。

お使いのコンピュータのWindows OSの現バージョンに対応していないXProtect Smart Clientのバージョンをインストールしようとしました。問題を解決するには、XProtect Smart Clientの旧バージョンをインストールするか、OSをアップグレードします。

各種システム要件については、https://www.milestonesys.com/systemrequirements/をご覧ください。

ログイン(トラブルシューティング)

エラーメッセージと警告

現在のユーザー権限では、ログインが認められません。ユーザー権限は、時間帯や曜日などによって異なる場合があります。

ユーザー権限によりログインが許されていない時にログインを行なっています。 この問題を解決するには：

ログインが許可されるまでお待ちください。ユーザー権限に関して不明な点は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

アプリケーションのどの部分にもアクセスする権限がありません。システム管理者に連絡。

現在のところXProtect Smart Clientの一部へのアクセス権限がないのでログインできません。 この問題を解決するには：

必要に応じて、アクセス権限を変更できる監視システムの管理者に連絡してください。

認証失敗：自分自身を認証することはできません。

自分の資格情報を[承認者名]フィールドに入力しました。自分自身をオーソライズできません。この問題を解決するには：

認証権限を持つ人に連絡する必要があります。これは、スーパーバイザーかシステム管理者になります。この人は、自分の資格情報を入力して、あなたのログインを認証する必要があります。

認証失敗：認証する権限がありません。

ユーザーとしてオーソライズしようとしましたが、あなたにその権限はありません。この問題を解決するには：

他のユーザーを認証するのに必要な権限を持っていることを確認するようにシステム管理者に依頼する。あるいは、十分な権限を持っている他の人にユーザーの認証を依頼する。

接続できませんでした。サーバーのアドレスを確認してください。

ある特定のサーバー アドレスの監視システム サーバーに接続することができませんでした。この問題を解決するには：

入力したサーバーアドレスが正しいか確認してください。サーバー アドレスの一部として*http://*のプレフィックスとポート番号が必要です (例: *http://123.123.123.123:80,:80*はポート番号) 詳しくは、監視システム管理者にお問い合わせください。

接続できませんでした。ユーザー名とパスワードを確認してください。

特定のユーザー名 *と*または パスワードによるログインができませんでした。この問題を解決するには：

入力したユーザー名が正しいことを確認してから、正しいパスワードを再度入力して間違いがないことを確認してください。ユーザー名とパスワードはケースセンシティブです。例えば、「**Amanda**」と「**amanda**」とタイプするのでは異なります。

接続できませんでした。最大限の数のクライアントがすでに接続しています。

監視システム サーバーに接続を許されたクライアントの最大数に同時に達しました。この問題を解決するには：

しばらく待ってからもう一度接続してください。すぐに監視システムへ接続する必要がある場合は、監視システムの管理者へ連絡してください。同時に接続できる許容クライアント数を変更できる可能性があります。

2台(以上)のカメラが同じ名前またはIDを使用しているため、アプリケーションが起動できません...

このエラーメッセージは、1つの監視システムからバックアップされた設定が、何も変更を加えられずに他の監視システムに対して誤って使用された、という非常にまれな状況で発生します。これによって、同じIDを持つ異なるカメラが「競合」し、XProtect Smart Clientからの監視システムへのアクセスがブロックされます。このメッセージが表示されたら、ユーザーでは問題を解決できません。この問題を処理できる監視システムの管理者にお問い合わせください。

接続できませんでした。**XProtect Smart Client**をダウンロードしてください。

XProtect Corporate、XProtect Expert、XProtect Professional+、XProtect Express+、XProtect Essential+をXProtect ExpressとXProtect Professional用のXProtect Smart Clientに接続しようとしました。これはこの製品に適しています。

- XProtect Professional
- XProtect Express

このWebページからXProtect Smart Clientをダウンロードしてください：https://www.milestonesys.com/downloads/。次に再度ログインします。

接続できませんでした。**XProtect Express**と**XProtect Professional**に対応した**XProtect Smart Client**をダウンロードしてください。

XProtect ExpressまたはXProtect ProfessionalをXProtect Smart Clientの1バージョンを使用して接続しようとしました。これはこの製品に適しています。

- XProtect Corporate
- XProtect Expert
- XProtect Professional+
- XProtect Express+
- XProtect Essential+

XProtect Express およびXProtect Professional用のXProtect Smart Client をこのWebページからダウンロードしてください: https://www.milestonesys.com/downloads/。次に再度ログインします。

一部のメッセージは、ビューの上にオレンジ色の帯で表示されます:

この操作を行う権限がありません

時間によって変わるユーザー権限で、以前は可能だったことが許可されなくなった場合に発生します。これは、あるタイプのサーヴェイランスシステムに接続した時、(ページ36の監視システムの別の特徴を参照。)あなたのユーザー権限は1日の時間帯、あるいは1週間のうちの日にちによって異なるためです。このため、後ほどアクションを実行できるようになる場合もあります。

XProtect Smart Client監視システムの設定により、製品セッションは次の期間内に失効します**[...]**

現在のXProtect Smart Clientセッションの終了が近い場合に、発生します。あるタイプのサーヴェイランスシステムに接続した時、(ページ36の監視システムの別の特徴を参照。) XProtect Smart Clientあなたのユーザー権限は1日の時間帯、あるいは1週間のうちの日にちによって異なります。

このようなケースの場合、あなたのセッションが閉時られる数分あるいは数秒前にこのようなメッセージが表示されます;監視システム サーバー上に定義された正確な分/秒の数字

XProtect Smart Clientユーザー活動が最近検出されなかったため、のセッションは次の**[...]**で終了します。

XProtect Smart Clientをしばらく使用していない場合に発生します(具体的な時間は監視システムサーバーで定義します) 。この場合、XProtect Smart Clientのセッションはセキュリティの理由のため、終了します。

この場合、通常はセッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。具体的な分数/秒数は監視システムサーバーで定義します。

Milestone Federated Architecture

このサイトに接続できませんでした。**XProtect Smart Client**の最新バージョンをダウンロードし、もう一度お試しください。

子サイトがXProtect VMSシステムのバージョン2019 R2以降を使用しており、XProtect ExpressとXProtect Professionalに対応したXProtect Smart Clientを使用している場合に、**[**ステータス**]**ダイアログで起こります。

問題を解決するには、MilestoneWebサイトを開き2019 R2以降のバージョンをダウンロードXProtect Smart Clientします。https://www.milestonesys.com/downloads/。親サイトに再度ログインし、**[**ステータス**]**ダイアログを開きます。

このサイトの情報を見ることはできません。**XProtect Smart Client**の最新バージョンをダウンロードし、もう一度お試しください。

子サイトがXProtect VMSシステムのバージョン2019 R2以降を使用しており、XProtect ExpressとXProtect Professionalに対応したXProtect Smart Clientを使用している場合に、**[**システムモニター**]**タブで起こります。

問題を解決するには、MilestoneWebサイトを開き2019 R2以降のバージョンをダウンロードXProtect Smart Clientします。https://www.milestonesys.com/downloads/。次に親サイトにログインして**[**システムモニター**]**タブをクリックします。これで、以前利用できなかった子サイトを選択できるようになります。

エクスポーティング(トラブルシューティング)

エクスポートを受け取りましたが、**SmartClient-Player.exe**または「**Exported Project.scp**」ファイルを実行できません

そのエクスポートは、64ビットWindowsオペレーティング システムのコンピュータで作成され、現在は32ビットのオペレーティング

システムを使用している可能性があります。

この問題を解決するには、以下の1つ以上を試してください:

- **SmartClient-Player.exe**ファイルを64ビットのWindowsコンピューターで開きます。
- XProtect Smart Clientの32-ビットバージョンとともにエクスポートをオープン。これを行うには、次の手順に従います:
  1. このリンクを開きます: https://www.milestonesys.com/downloads/.
  2. 例えば、XProtect Corporate、バージョン、および言語といった製品を選択します。
  3. アプリケーションをダウンロードするには、**XProtect Smart Client32-**ビットをクリック。
  4. インストールしたら、エクスポートフォルダーへ行き、クライアントファイルフォルダーをオープン。
  5. **ExportProject.scp**ファイルをダブルクリックします。XProtect Smart Client - Playerが開くはずです。これで、ビデオを再生できます。
- エクスポートを提供した人に、32ビットXProtectSmartClientを使用して新しいエクスポートを作成するよう要請します。
- エクスポート-ビットを使用して新しいエクスポートクリエイトするために、エクスポートを提供した人に聞く。例えばAVIまたはMKV。

また、現在のXProtect Smart Clientバージョンとは異なる暗号化アルゴリズムを使用してエクスポートが作成されていた場合にもこの問題が発生します。ページ327のも参照してください。

エラーメッセージと警告

1つ以上のデータベースファイルが、サポートされていない暗号化アルゴリズムを使用している

現在のXProtect VMSシステムは、エクスポートされたビデオデータを暗号化するためにAES-256を使用してFIPS 140-2セキュリティ基準を順守します。ただし、エクスポートの作成に使用されたシステムは、異なる暗号化基準を使用しています。

この問題を解決するには: 以下のいずれかを行ってください。

- XProtect Smart Clientのアップグレードされたバージョンを使用してビデオデータを再度エクスポートします。このバージョンは、現在使用しているバージョンよりも新しくなくてはなりません。
- Milestoneでは、常にXProtect Smart Clientの最新バージョンを使用するよう推奨していますが、オフラインモードでXProtect Smart Clientの旧バージョンを使用してエクスポートを開くこともできます。
- FIPSモードが無効になっているコンピュータでエクスポートを開きます。https://docs.microsoft.com/en-us/windows/security/threat-protection/fips-140-validation#using-windows-in-a-fips-140-2-approved-mode-of-operation も参照してください。

Milestoneでは、データをパスワードで保護するようお勧めしています。これを行うには、[エクスポート]ウィンドウで[パスワードで暗号化]チェックボックスを選択します。

このプロジェクトの整合性を検証できませんでした...

ビデオのエクスポートに不正なキーは含まれていません。不正なキーが削除されたか、MIP SDK 2020 R2以前のバージョンに基づくスタンドアロン型のサードパーティアプリケーションを使用してビデオのエクスポートが作成されています。不正なキーがない場合、ビデオプロジェクトファイルの認証を確認する方法はありません。

この問題を解決するには、以下のいずれか、または複数を行ってください。

- 新しいビデオエクスポートをリクエストし、不正キーが含まれていることを確認する
- MIP SDK 2020 R3以降に基づくサードパーティのアプリケーションを使用してビデオデータを再度エクスポートする

検索(トラブルシューティング)

エラーメッセージと警告

レポートを作成できません

1件または複数の検索結果にもとづいて監視レポートを作成しようと試みましたが、レポートを作成できませんでした。これには、いくつかの理由が考えられます:

- 同じ場所に同じ名前のレポートがすでに作成されており、現在そのレポートが開かれている。この問題を解決するには、レポートを閉じてから再試行してください。
- レポート先にレポートを保存するためのユーザー権限がない。この問題を解決するには、[レポートの作成]ウィンドウで別のパスを指定してください。

特定のデータソースが利用できないため、この検索を開くことができません

検索を開けない理由として、いくつかの原因が考えられます:

- 検索を作成した人物が、あなたが利用できない1つまたは複数の検索カテゴリを使用していた。この問題を解決するには、新しい検索を作成してください。
- 開こうとしている検索において、現在使用中のXProtect Smart Clientのバージョンでは利用できない検索カテゴリが使用されている。この問題を解決するには、XProtect Smart Clientの新しいバージョンをダウンロードしてください。
- 現在利用できない検索カテゴリに追加ライセンスが必要な可能性がある。システム管理者にお問い合わせください。

このカメラはまだスマートマップに配置されていません

検索結果が選択されていますが、関連カメラがプレビューエリアのスマートマップに表示されていません。カメラが位置情報と併せて配置されていないことが理由です。この問題を解決するには、以下のいずれかの処理を行ってください。

- スマートマップに移動してカメラを追加します。ページ99のスマートマップにカメラを追加するを参照してください
- XProtect Management Clientでカメラプロパティの座標を指定するようシステム管理者に要求してください。

スマートマップ(トラブルシューティング)

スマートマップにマイカメラが表示されない。

スマートマップに1台または複数台のカメラが表示されなければならないのに表示されていない場合は、カメラの地理情報が入力されていない可能性があります。この問題を解決するには：以下のうちの1つの処理を行なってください。

- 階層表示されたカメラのリストから、スマートマップに該当するカメラをドラッグします。この操作のためにはユーザープロファイルであらかじめカメラの編集を有効にしておく必要があります。
- XProtect Management Clientでカメラプロパティの地理座標を指定するようシステム管理者に要求してください。

エラーメッセージと警告

マップを保存できません。オペレーションを実行できません。

XProtect Smart Clientでカメラを手動でスマートマップに追加しようとしています。XProtect Corporate 2017 R2インストールに対してXProtect Smart Client 2017 R1を実行していることが原因になっている可能性があります。XProtect Smart Clientはイベントサーバーでカメラの位置を探しますが、XProtect Corporateの2017 R2以降のバージョンではマネジメントサーバーに地域座標が保存されています。

問題を解決するには、XProtect Smart Clientを2017 R2以降のバージョンにアップグレードします。

このカメラはまだスマートマップに配置されていません

検索結果が選択されていますが、関連カメラがプレビューエリアのスマートマップに表示されていません。カメラが位置情報と併せて配置されていないことが理由です。この問題を解決するには、以下のいずれかの処理を行ってください。

- スマートマップに移動してカメラを追加します。ページ99のスマートマップにカメラを追加するを参照してください
- XProtect Management Clientでカメラプロパティの座標を指定するようシステム管理者に要求してください。

Webページ(トラブルシューティング)

Webページをビューに追加すると、スクリプトエラーが発生します

そのWebページは、Webページの表示で使用されるブラウザーにサポートされていないスクリプト使っています。Webページのプロパティで表示モードを変更すると、問題を解決できるかもしれません。

Webページが含まれているビューを読み込むと、スクリプトエラーが発生します

そのWebページは、Webページの表示で使用されるブラウザーにサポートされていないスクリプト使っています。Webページのプロパティで表示モードを変更すると、問題を解決できるかもしれません。

スクリプトを使用して、ナビゲーションボタンやクリック可能な画像をHTMLページに追加しましたが、HTMLページが思い通りに機能しません。以下を検討してください。

- [表示モード]は[互換性]に設定されていますか? スクリプトをサポートできるのは、[互換性]だけです。

- HTMLコードで正しい構文を使用しましたか?
- HTMLスクリプトは、XProtect Management ClientとClient.exe.configファイルのどちらで有効になっていますか?
- 対象のオーディエンスは、特定のカメラ、ビュー、機能、またはXProtect Smart Client内のタブにアクセスするためのユーザー権限を持っていますか?

XProtect Smart Wall(トラブルシューティング)

モニターがで指定したレイアウトを表示していないSmart Wall

一般的に、システム管理者がモニターのプリセットをアクティブ化していないことが原因です。システム管理者に問い合わせ、プリセットがManagement Clientでアクティブであることを確認してください。

カメラがプリセットされていません。プリセットをアクティブ化するときに削除されない。

空のプリセット項目がプリセットで選択されていない可能性があります。システム管理者に問い合わせ、Management Clientのプリセットの設定を確認してください。

例えばカメラ、ビューへ、のようなアイテムがドラッグできません。項目をクリックしても何も表示されない

これはMicrosoft Windowsの既知の問題であり、XProtect Smart Wallでも発生することがあります。回避策として、ESCを1回押すと、ドラッグ機能が再び動作するようになります。

ビューからのイメージを自分のSmart Wallへドラッグしても、画面に表示されません。

ビューに画像を埋め込んでいない可能性があります。また、Smart Wallを実行するコンピュータが画像ファイルにアクセスできません。確実に全員が画像を表示できるようにするには、ビューに埋め込むことをお勧めします。詳細については、ページ288のSmart Wallでのコンテンツの表示を参照してください。

自分のSmart Wallモニターは一番上に表示されます

システム管理者がモニターをSmart Wallに追加したときに、システム管理者がモニターのレイアウトを定義していません。管理者がモニターを追加すると、モニターは追加された順序で自動的にレイアウトに積み上げられます。管理者はニーズに応じてモニターを配置する必要があります。

Windows Explorerから自分のSmart Wallモニターに画像をドラッグできません。カーソルはアロードロップアイコンに変わりません

Smart ClientがWindows Explorerと同じユーザープロファイルで実行されていないことが原因です。たとえば、ローカル管理者ユーザープロファイルでSmart Clientを実行しているのに、Windows Explorerを標準ユーザーとして実行する場合です。この問題を解決するには、両方のプログラムが同じユーザープロファイルで実行されていることを確認します。

ビューアイテムにアラームリストを加えましたが、詳細を見るためのスクロールバーが使用できません

これはXProtect Smart Wallの既知の問題です。スクロールバーを使用するには、ビューアイテム外にポインターを置き、CTRLキーを長押しします。これにより、ビューアイテムのツールバーがスクロールバーに重なりません。これでポインターをビューアイテムに移動し、スクロールバーを使用できます。

XProtect Transact(トラブルシューティング)

エラーメッセージと警告

イベントサーバーからのトランザクションデータの検索に失敗しました。

イベントサーバーが実行中ではないか、応答していません。あるいは、サーバーへの接続が失われました。

これはイベントサーバーまたは関連付けられたデータベースの内部エラーです。これには、データベースへの接続に関する問題が含まれる場合があります。この問題を解決するには、システム管理者にお問い合わせください。

完了前に検索がタイムアウトしました。検索期間を短くして、検索を絞り込んでください。

これはイベントサーバーまたは関連付けられたデータベースの内部エラーです。これには、データベースへの接続に関する問題が含まれる場合があります。この問題を解決するには、システム管理者にお問い合わせください。

アップグレード

XProtect Smart Clientアップグレード

ログイン中に、XProtect Smart Clientあなたが接続しているサーバーより古いバージョンのサーバーを使用している場合は、メッセージがダウンロードアプリケーションの場所も含めた新しいバージョンが可能であることを教えてくれます。XProtect Smart ClientMilestoneでは、新しいバージョンのダウンロードをお勧めします。

もしXProtect Smart Clientがあなたが接続しているサーバーより新しい場合は、特定の機能が使用できません。

FAQ

FAQ: アラーム

アラームのデスクトップ通知はが表示されていますが、応答する前に消えてしまいます。どうすればアラームを再度表示できますか?

アラームマネージャータブに移動し、アラームリスト内でアラームを探してください。アラームが見つからない場合は、フィルターで除外されている可能性があります。フィルター設定を変更してみてください。

> アラームではなくイベントが表示されるようアラームリストが構成されている場合は、設定ボタンをクリックします。左側のプロパティペインのデータソースリストでアラームを選択し、再び設定をクリックします。

FAQ: 音声

なぜスピーカーリストを使用できないのですか?

監視システムの中には、双方向音声に対応していないものがあります。

XProtect VMSで利用できる機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

カメラに接続しているマイクの録音音量を調整することはできますか?

この機能は、XProtect Smart Clientにはありません。ただし、マイク、あるいはマイクが付いているカメラデバイスの設定インターフェースを使って録音音量を調整することができます。詳しくは、監視システム管理者にお問い合わせください。

カメラに接続しているマイクの出力音量を調整することはできますか?

この機能は、XProtect Smart Clientにはありません。ただし、音声ペインのレベルメーターで入力レベルを確認できるので、出力レベルを推測できます。

スピーカー、あるいはスピーカーが付いているカメラデバイスの設定インターフェースを使って出力音量を調整することができます。Windowsで、音声設定を調整することも可能です。詳しくは、監視システム管理者にお問い合わせください。

他のXProtect Smart Clientユーザーは、スピーカーを通して話す声を聞くことができますか?

概して、XProtect Smart Clientユーザーはスピーカーを通して話しかけている声を聞くことはできません。ただし、話しかけているスピーカーの近くにマイクがあれば、聞くことができます。

同時に複数のスピーカーを通して話すことはできますか?

はい。監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており(それらにアクセスするために必要な権限がある場合)、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。音声ペインのスピーカーリストで、すべてのスピーカーを選択し、会話ボタンを押したまま話します。

音声ペインで[現在のビューのデバイスのみをリスト]を選択している場合は、[すべてのスピーカー]は表示されません。

カメラに付いているマイクの音声は録音されますか?

ビデオを録画していなくても、カメラに付いているマイクから入ってくる音声を録音します。

スピーカーを通して話したことは録音されますか?

監視システムは、ビデオを録画していなくても、マイクから入ってくる音声を録音できます。ただし、スピーカーを通して送信される出力音声は特定の監視システムでしか録音、再生、エクスポートできません。XProtect VMSで利用できる機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

そのため、使用する監視システムによっては、たとえば、録音を使用して、XProtect Smart Clientのオペレータがスピーカーを通して相手に特定の指示を与えたことを証明できる場合があります。

スピーカーを通して話す場合、自分の声の音声レベルは表示されますか?

はい。音声ペインのレベルメーターが、話し手の音声のレベルを示します。レベルが非常に低い場合は、マイクに近づく必要があることがあります。レベルメーターがまったくレベルを示さない場合は、マイクが接続され、正しく設定されていることを確認してください。

FAQ: ブックマーク

ブックマークが付いたインシデントを検索するには?

検索タブに移動して時間帯を設定し、インシデントを録画している可能性のあるカメラを選択してから、検索対象 > ブックマークをクリックします。

特定のブックマークが見つかりません。なぜですか?

ブックマークを検索できない原因はいくつか考えられます:

- 現在のユーザー権限では表示することができない
- ブックマークの削除権限が十分あるユーザーがブックマークを削除した
- ブックマークしたビデオがデータベースにもう存在しない

検索結果にブックマークを付けることはできますか?

可能です。検索を実行して検索結果のリストが返された後、これらの検索結果にブックマークを付けられます。ページ221の検索結果のブックマークを参照してください。

FAQ: カメラ

ジッターとは?

ジッターは、ビデオ内の小さな変動であり、見ている人は、例えば、歩行中の人物などの異常な動きとして認識します。

音による通知は頻繁に実行されますか?

常にオンを選択している場合、モーションを感知したことを知らせる音声通知は、そのカメラに対して設定されているモーション検知の感度によって頻度を設定できます。モーション検知の感度を高に設定すると、非常に頻繁に通知を受けることもあります。カメラのモーション検知感度は監視システムサーバーで設定します。複数のカメラに対して音による通知を設定すると、通知を受ける頻度が高くなる可能性がありますが、これもカメラに設定されている感度によって異なります。

通知音を変更することはできますか?

デフォルトでは、XProtect Smart Clientは音声による通知に単純なサウンドファイルを使用しています。このサウンドファイルの名前はNotification.wavで、XProtect Smart Clientのインストールフォルダー(通常はC:\Program Files\Milestone\XProtect Smart Client)にあります。別の.wavファイルを通知音として使用する場合は、そのファイルの名前をNotification.wavに変更して、XProtect Smart Clientのインストールファイルにある元のファイルと置き換えてください。Notification.wavファイルは、イベント検知とモーション検知の通知に使用されます。カメラによって音を変えたり、イベントとモーション検知の通知に異なる音を使用することはできません。

カメラとのサーバー接続が失われました。なぜでしょうか?

カメラはさまざまな理由で動作を停止することがあります。例として、カメラが1日の特定の時刻にのみ利用可能となるよう構成されている、カメラまたはネットワークのメンテナンスが行われている、あるいはVMSサーバーの構成が変更された場合などが挙げられます。

カメラインジケータとは何を指すのでしょうか?

カメラインジケータには、カメラビューアイテムに表示中のビデオのステータスを表します。「ページ181のカメラインジケータ(説明付き)」を参照してください。

FAQ: デジタルズーム

光学ズームとデジタルズームの違いは何ですか?

光学ズームの場合、カメラのレンズ部分が物理的に動作して、画質を低下させることなく必要なビューアングルを提供します。デジタルズームの場合、画像の一部だけを切り取って拡大表示し、元の画像のピクセルサイズへ戻すことができます。これは補間と呼ばれるプロセスです。そのため、デジタルズームは光学ズームと同じように動作しますが、デジタルズームされた部分は元の画像よりも画質が低くなります。

デジタルズームはPTZカメラに関係がありますか?

パン/チルト/ズーム(PTZ)カメラのライブビデオを見る場合、PTZカメラの光学ズームを使用できるため、デジタルズームはPTZカメラにはあまり関係がありません。ただしデジタルズーム機能は、たとえば、PTZカメラの光学ズーム機能を使用するユーザー権限がない場合に使用できます。

ナビゲーションボタンが表示されないのはなぜですか?

ビデオを再生しているカメラがPTZカメラでなければ、ズームインできるエリアは1つだけであり、ズームボタンは1つしかありません。画像のあるエリアにズームインすると、PTZナビゲーションボタンへのアクセスが可能となり、このズームエリア内で移動できます。

FAQ: 表示とウィンドウ

セカンダリディスプレイはいくつまで使用できますか?

XProtect Smart Clientでは、制限はありません。ただし、使用できるセカンダリディスプレイの数は、ハードウェア(ディスプレイアダプタなど)やお使いのWindowsのバージョンによって異なります。

プライマリディスプレイまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューを閉じるボタンはどこにありますか?

表示エリアを最大限化するため、フルスクリーンまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューのタイトルバーは非表示になっ

ています。タイトルバーを表示して閉じるボタンを使うには、ビューの一番上へマウスポインタを移動させてください。

2つの異なるウィンドウで同じ画面自動切替が同期されていないのはなぜですか?

画面自動切替は、設定モードで設定した一定の間隔でカメラを切り替えます。例：10秒間隔の場合、画面自動切替は、カメラ1に10秒間表示し、次にカメラ2に10秒間というように表示します。このタイミングは、画面自動切替を設定したビューの表示を始めるときに開始されます。後から別のビューで画面自動切替を表示し始めると、別のウィンドウや別のディスプレイであっても、その画面自動切替のインスタンスのタイミングが開始されます。これが画面自動切替が同期していないように見える理由です。つまり、画面自動切替の2つのインスタンスを見ていることになります。さらに情報が必要な時は、ページ80の自動切替設定 を参照。

FAQ: エクスポート

音声もエクスポートできますか?

メディアプレイヤーのフォーマットおよびXProtectのフォーマットをエクスポートする場合、監視システムが音声に対応していれば、録音音声もエクスポートできます。データベースフォーマットでエクスポートできるのは、選択した監視システムに接続している場合のみです。JPEG(静止画)フォーマットでエクスポートする場合は、音声を含めることはできません。

> XProtect VMSで利用できる機能の詳細については、ページ36の監視システムの別の特徴を参照してください。

ブックマークビデオクリップをエクスポートすると、何がエクスポートに含まれますか?

指定されたクリップの開始時間から指定されたクリップの終了時間まで、ブックマークビデオクリップ(ページ237のブックマーク(説明付き)を参照)の全体が含まれます。

シーケンスをエクスポートするとき、何がエクスポートに含まれますか?

シーケンスの最初の画像からシーケンスの最後の画像まで、シーケンス全体が含まれます。

証拠ロックをエクスポートすると、何がエクスポートに含まれますか?

削除から守られているすべてのデータが含まれています：すべてのカメラおよびカメラに関連するデバイスからのデータ、選択した間隔の最初の画像から選択した間隔の最後の画像まで。

魚眼レンズ記録をエクスポートできますか?

はい。監視システムが魚眼レンズカメラ(例、360°のパノラマ画像を録画できる特殊カメラ)をサポートしている場合は可能です。

エクスポートパスを指定できないのはなぜですか?

通常独自のパスを指定できますが、の特定のタイプに接続している時は、(ページ36の監視システムの別の特徴 を参照)サーヴェイランスシステム サーバーがコントロール エクスポートパスセッティングを管理し、独自のパスは指定できません。

エクスポートしたビデオから、デジタル署名が削除されているのはなぜですか?

エクスポートプロセスでデジタル署名が除外される、次の2つのシナリオがあります。

- プライバシーマスクのあるエリアがある場合、録画サーバのデジタル署名はエクスポートで削除されます。
- エクスポートしているデータが現在の日付および時刻と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にしか追加されません。

エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的にOKになっていることが分かります。

不正な変更や悪意のあるユーザーから、エクスポートする証拠を保護できますか?

可能。XProtectフォーマットにエクスポートする際、パスワードによってエクスポートされたエビデンスをプロテクトし、エクスポートされたマテリアルに署名を付け加えることで、受信者がマテリアルを再エクスポートすることを防ぐことができます。ページ194のXProtectフォーマットの設定を参照してください。

FAQ: マップ

マップに使用できる画像ファイルの形式とサイズは?

マップにはbmp、gif、jpg、jpeg、png、tif、tiff、およびwmpのフォーマットのファイルを使用できます。

画像ファイルサイズと解像度は、10MGおよび10メガピクセル以下にすることをお勧めします。大きな画像ファイルを使用すると、XProtect Smart Clientのパフォーマンスが低下することがあります。20MBまたは/および20メガピクセル、またはその両方以上の画像は使用できません。

マップは、グラフィックファイルのプロパティに基づき、Microsoftの標準に従って、XProtect Smart Clientに表示されます。マップが小さく表示される場合は、ズームインできます。

マップの背景を変更しても、カメラの相対位置を保つことはできますか?

可能。マップは更新するが、その中のすべての情報をそのまま保持する場合、マップの背景だけを交換できます(マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、プロパティペインで、マップの背景を変更するを選択します。

FAQ: 通知

新しいアラームがXProtectVMSシステムで発生しても、デスクトップ通知を受け取れないのはなぜでしょうか?

アラームのデスクトップ通知は、システム管理者がXProtect Management Clientで有効にする必要があります。これを行わないと、どの通知も受け取れません。

アラームのデスクトップ通知が表示されていますが、応答する前に消えてしまいます。どうすればアラームを再度表示できますか?

[アラームマネージャー]タブに移動し、アラームリスト内で対象のアラームを探してください。アラームが見つからない場合、フィルターで除外されている可能性があります。フィルター設定を変更してみてください。

アラームではなくイベントが表示されるようアラームリストが構成されている場合は、[設定]ボタンをクリックします。左側の[プロパティ]ペインの[データソース]リストで[アラーム]を選択し、再度[設定]をクリックします。

数秒の間に複数のアラームが生じた場合、デスクトップ通知が複数表示されるのですか?

デスクトップ通知は画面に15秒間は表示され続けます。しかしながら、数秒の間に複数のアラームが連続して生じた場合でも、1件のデスクトップ通知しか表示されません。デスクトップ通知をクリックすると、アラームウィンドウに最新のアラームが表示されます。前のアラームを表示するには、アラームリストに移動します。

FAQ: 検索

個々のカメラから検索を開始することはできますか?

可能。[ライブ]または[再生]タブで特定のカメラを視聴している際に、カメラを新しい[検索]ウィンドウに送ることができます。検索を開始するには、カメラツールバーの をクリックします。

ビューにあるすべてのカメラから検索を開始することはできますか?

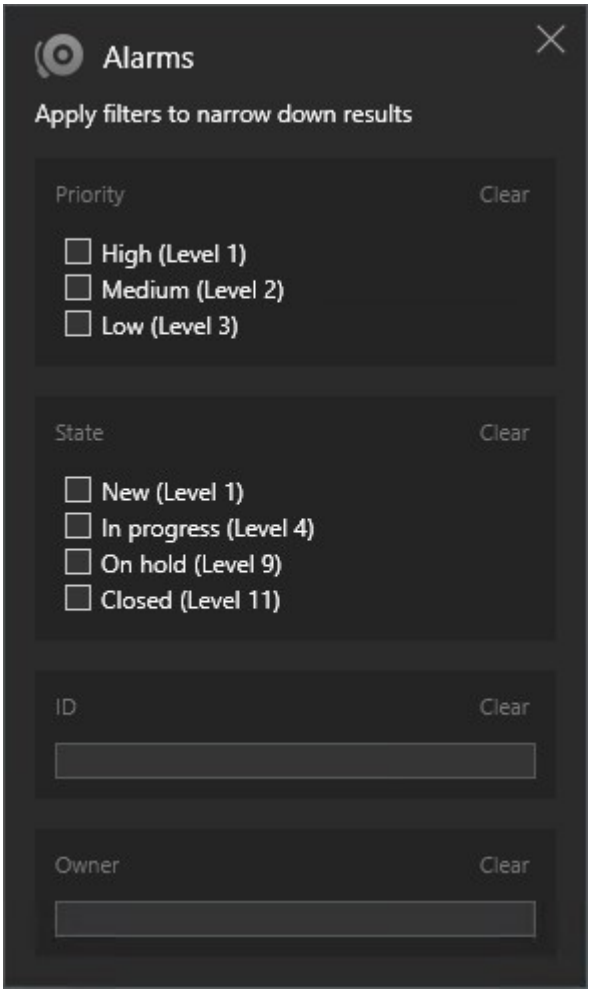
可能。[ライブ]または[再生]タブでビュー内のカメラを視聴している際に、これらのカメラを新しい[検索]ウィンドウに送ることができます。検索を開始するには、ビューの上にある をクリックします。

検索を行っていますが、しばらく待ってもXProtect Smart Clientはまだ検索しているようです。なぜですか?

[期間]に広範なタイムスパンが含まれている場合 (2週間など)、または多くのカメラを選択している場合は、検索結果が数千件にのぼり、XProtect Smart Clientが検索結果をすべて見つけるのに時間がかかる可能性があります。

Milestoneでは、検索結果を絞り込むには検索を微調整するようお勧めしています。

検索においてフィルターはどのように機能しますか?



[優先度]と[状態]の両方など、複数のフィルターを適用すると、これらのフィルターにすべて適合する結果が抽出されます。

1つのフィルター内で複数の値を選択した場合(優先度フィルター内で高、中、低の値を選択した場合など)、これらのいずれか1つの値と一致する結果が抽出されます。

一部のサムネイル画像がグレー表示されているのはなぜですか?

検索結果リストでグレー表示されているサムネイル画像は、トリガーされた時点でカメラに利用できる録画が現在存在しないことを意味しています。これには、レコーディングサーバーがダウンしているなど、複数の原因が考えられます。

必要なアクションをアクション バーで利用できないのはなぜですか?

検索結果を選択した後、青いアクション バーで特定のアクションを利用できなくなることがあります。

これは、複数のカテゴリに同時に一致する検索結果を選択している場合に発生します。実行しようとしているアクションは、これらの検索カテゴリのいずれもサポートしません。

例: [ブックマーク] と[モーション]で検索すると、検索結果のひとつにモーションとブックマークが両方とも含まれていました。このような場合は、ブックマークの編集や削除が不可能になります。

> このセクションで説明されているシナリオは、XProtect VMSシステムに統合されているサードパーティソフトウェアに関わるアクションにも該当する可能性があります。

必要なアクションが、検索結果の一部にのみ該当するのはなぜですか?

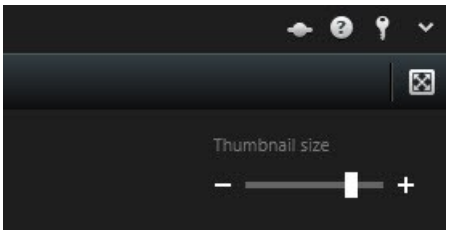
複数の検索結果で青いアクション バーのアクションのいずれかを使用しようとすると、ツールチップが表示され、そのアクションは検索結果のサブセットにのみ適用される可能性があることを通知します。

これは、選択した検索結果のひとつ以上が、実行しようとしているアクションによってサポートされていない場合に発生します。

> このセクションで説明されているシナリオは、XProtect VMSシステムに統合されているサードパーティソフトウェアに関わるアクションにも該当する可能性があります。

検索結果に表示されるサムネイル画像が小さすぎます。どうすれば大きくできますか?

サムネイルのサイズは、画像の右側にあるスライダーをドラッグすることで拡大できます。



新しい検索条件を保存しようとしています。 [プライベートサーチ]チェックボックスが無効になっているのはなぜでしょうか?

[プライベートサーチ]チェックボックスが事前選択されたままグレー表示になっている場合は、[パブリックサーチの作成]を行う許可がないことを表しています。検索条件は、ご自身が利用できるものしか保存できません。

検索条件を検索または開こうとしています。 [自身のプライベートサーチのみ表示]チェックボックスが無効になっているのはなぜでしょうか?

[検索条件を開く]または [検索条件の管理]ウィンドウで、[自身のプライベートサーチのみ表示]チェックボックスが事前選択されたままグレー表示になっている場合は、[パブリックサーチの読み取り]を行う許可がないことを表しています。ご自身のプライベートサーチしか表示できません。

検索条件を変更しましたが、変更を保存できません。なぜでしょうか?

既存の検索条件の構成を変更した後(カメラの追加など)、[保存]ボタンが無効になっている場合、[パブリックサーチの編集]を行う許可がないことを表しています。また、名前や説明といった検索条件の詳細を変更することもできません。

なぜ検索条件を削除できないのでしょうか?

[検索条件の管理]ウィンドウで [削除]ボタンが無効になっている場合、[パブリックサーチの削除]を行う許可がないことを表しています。

開始時刻とイベント時刻の違いは何ですか?

[検索]タブでビデオを検索すると、それぞれの検索結果に開始時刻、終了時刻、イベント時刻が示されます。開始時刻と終了時刻は、それぞれイベントの開始と終了を表しています。イベント時刻は、ビデオシーケンスにおける最も重要な部分、または注目すべき部分を指します。たとえばモーションを探している場合、イベント時刻とはモーションが開始した時点となります。あるいはオブジェクトを識別する際には、イベント時刻は最も信頼性の高い識別が行われた時点となります。

現在ブックマークを検索しています。検索によって、開始/終了時間が検索期間内にないブックマークが見つかることはありますか?

可能。重なっている時間が存在する限り、ブックマークは検索されます。以下に例を示します。検索期間として本日の1:00～3:00 pmと設定した場合、開始時間が本日の11:00 am、終了時間が本日の2:00 pmのブックマークであれば検索の対象となります。

「相対的な時間帯」とは何ですか?

既定の時間帯(過去6時間など)が選択された検索条件を保存する際には、時間帯に相対性があることが伝えられます。つまり、「過去6時間」とは現在の時刻に相対したものです。そのため、どの時点で検索を行おうと、常に「過去6時間」に該当する検索結果が返されます。

FAQ: スマートマップ

カメラをスマートマップから削除することはできますか?

はい。詳細については、ページ102のカメラをスマートマップから削除するを参照してください。

ビル内の複数のレベルで同じカメラを表示することはできますか?

はい、1つのレベルにカメラを配置して始めます。次に、カメラを右クリックして複数レベルでカメラを表示を選択し、そのカメラを表示するレベルを追加指定します。

ビルのアウトラインを円形に合わせることはできますか?

スマートマップでは、ビルのアウトラインは正方形です。コーナーハンドルでビルの形を調整して実際のビルをカバーするようMilestoneではおすすめしています。

ビルの間取り図に使えるファイルのタイプは何ですか?

対応するカスタムオーバーレイであれば、どれでも使用できます。

- Shapefiles
- CADの描画
- 画像

詳細については、ページ94のカスタムオーバーレイの追加、削除および編集を参照してください。

同一のレベルに複数の間取り図を追加できますか?

はい、同じレベルにいくつもの間取り図を追加することができます(例:北ウィングと南ウィング1つずつ)。

ビル内のカメラがどのレベルにも関連付けられていない場合はどうなりますか?

その場合、カメラはすべてのレベルで見えるようになります。

カメラをレベルに関連付けないことは、例えばエレベーター内のカメラなどの場合に意味があります。カメラをビルに追加するとき、そのカメラは選択したレベルに自動的に関連付けられます。カメラの関連付けを解除するには設定モードでカメラを右クリックし、複数レベルでカメラを表示を選択してどのレベルも選択しないようにします。

間取り図でビルを移動すると、間取り図もそれに伴って移動しますか?

いいえ。間取り図は元の位置に留まり、設定モードだけで見えるようになります。間取り図は手動で位置修正してください。

ビル内でレベルを並べ替えると、カメラはそのレベルに留まりますか?

はい、カメラは同じレベルのままです。

ビルを削除すると、間取り図とカメラはどうなりますか?

間取り図は削除されますが、カメラは残ります。

FAQ: ビュー

ビューを設定せずにすぐにビデオを再生することはできますか?

可能。多くのXProtect Smart Clientユーザーが、まずビューを設定することなく、XProtect Smart Clientですぐにビデオを再生することができます。

プライベートビュー:特定の種類の監視システム(ページ36の監視システムの別の特徴を参照)¯主として数台のカメラが付いた小規模の監視システム¯に接続されている場合、監視システムサーバーは、システムのすべてのカメラを使用して、単一のプライベートビューを自動的に生成できます。そのようなビューはデフォルトビューと呼ばれます。デフォルトビューへのアクセス権がある場合、XProtect Smart Clientに初めてログインしたときにデフォルトビューが自動的に表示されるため、ビデオの再生をすぐにXProtect Smart Clientで開始できます。

共有ビュー:共有ビューは、監視システムの管理者または同僚によって、すでに作成されていることがあります。共有ビューがすでに存在し、共有ビューおよび、それに含まれているカメラへのアクセス権がある場合は、XProtect Smart Clientでビデオの再生をすぐに開始できます。

ビューを再作成する必要がある理由は何ですか?

監視システムの管理者が、監視システム側でカメラやユーザープロパティを変更する場合があります。こうした変更がXProtect SmartClientで有効になるのは、変更後に初めてログインしたときであり、ビューを作り直さなければならなくなることがあります。

個人ビューや共有できる共有ビューを作成できないと、何が起こりますか?

通常、組織内で、共有ビューを作成して編集できる権限を持つユーザーは限られています。監視システムの管理者は、共有ビューを多数作成して保持できます。ユーザーがログインすると、共有ビューが自動的に使用可能になり、それ以上ビューを作成する必要はありません。

どのビューにアクセスできるか確認する方法は?

通常、ユーザーが共有ビューへアクセスできるかどうかは監視システムの管理者によって通知されます。まだ通知されていない場合でも、共有ビューが使用できる場合は、簡単に確認できます。

ライブまたは再生タブのビューペインには必ず個人フォルダーという名前の第1階層フォルダーが表示されています。この個人フォルダーはプライベートビューへアクセスするための第1階層フォルダーであり、内容は作成したビューによって(作成した場合)異なります。

ビューペインにある他の第1階層フォルダーは、共有ビューへアクセスするためのフォルダーです。これらの第1階層フォルダの名前は、設定によって異なります。

ビューペインに共有ビューへアクセスするための第1階層フォルダーが1つまたは複数あっても、実際にそれらの共有ビューを見ることができるとは限りません。第1階層フォルダーの下にある共有ビューへアクセスできるかどうか確認するには、フォルダーを展開します。

どのビューを編集できるか確認する方法は?

フォルダーに錠前アイコンが付いている場合は、保護されているため、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集することはできません。

ビューを別のコンピュータで表示できますか?

ビューに関する情報を含むユーザー設定は、監視システムサーバー上で中央管理されています。これは、ユーザー名とパスワードを使ってXProtect Smart Clientへログインすれば、個人ビューと共有ビューのどちらもXProtect Smart Clientがインストールされているコンピュータで使用できることを意味しています。

アクションを実行する権限を持っていない場合でも、そのアクションに対するオーバーレイボタンを追加できますか?

可能。これによって、ボタンを共有ビューで表示することが可能になり、自分は使用する権限がなくても、必要な権限を持っている同僚はボタンを使用できます。

権限を持っていないアクションのボタンを追加すると、設定モードではボタンは灰色表示され、ライブタブを使用する場合は表示されません。必要な権限を持っている同僚は、ライブタブのボタンを使用できます。

オーバーレイボタンを追加した後に、自分の権限を変更するとどうなりますか?

権限を変更すると、ボタンをどのように使用できるかが変わり、アクションに対する権限があるかないかによって、灰色表示されるか、使用可能になります。たとえば、自分自身が実行する権限を持っていないアクションのボタンを追加した後、必要な権限を持てるようにユーザー権限が変更されると、ボタンも使用可能に変わります。

オーバーレイボタンはどうやって削除できますか?

設定モードで、ボタンを右クリックして、削除を選択します。

オーバーレイボタンは、エクスポートしたビデオでも表示されますか?

いいえ。ビデオをエクスポートする場合、オーバーレイボタンはエクスポートには含まれません。

用語集

A

AVI
ビデオでよく使用されるファイル形式。この形式のファイルには.aviというファイル拡張子が付いています。

C

CPU
「Central Processing Unit(中央処理装置)」の略。コンピュータの中にあるコンポーネントで、OSとアプリケーションを実行。

D

DirectX
高度なマルチメディア機能を提供するWindowsの拡張機能。

F

FIPS
「連邦情報処理標準」の略語。

FIPS 140-2
ソフトウェアまたはハードウェアを米国政府機関に販売する前にベンダーが暗号化で使用する必要のある重要なセキュリティパラメータを定義する米国米府基準。

FPS
フレーム数/秒。ビデオに含まれている情報量を示す単位。各フレームは1つの静止画像を表しますが、数多くのフレームを連続して表示することでモーションを見ているように見えます。FPSの値が高いほど、より滑らかなモーションになります。ただし、FPSが高くなるとビデオを保存したときのファイルサイズも大きくなります。

G

GOP
画像グループ(GOP、Group Of Pictures):個別のフレームをグループ化し、ビデオモーションのシーケンスを形成します。

GPU
「Graphics Processing Unit(画像処理装置)」の略。画像の処理を扱う演算装置。

H

H.264
デジタルビデオ圧縮の標準です。MPEGと同様、キーフレーム間の変更のみを保存するため、標準は損失圧縮を使用します。これは、しばしば相当量の余計な情報を削除しながら行われます。特定の間隔で保存されるキーフレームは、カメラのビュー全体を録画し、その後のフレームは変更するピクセルのみを保存します。大規模圧縮と併用すれば、H.264フォーマットのビデオサイズが大幅に縮小できます。ただし、H.264の大規模圧縮では、データ通信に使用するデバイスで大量のリソースを使用します。たとえば、XProtect Smart Clientを実行しているコンピュータでは、監視システムから受信したH.264ビデオを解凍することで、大量のリソースを使用できる可能性があります。

I

iフレーム
イントラフレームの略語。デジタルビデオ圧縮用のMPEG標準で使用されます。Iフレームは指定された間隔で保存される1つのフレームです。Iフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレーム(Pフレーム)は変化したピクセルのみを録画します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。Iフレームはキーフレームと類似しています。

J

JPEG
画像圧縮方法の1つで、JPGまたはJoint Photographic Experts Groupとも呼ばれます。この方法はいわゆる不可逆圧縮で、画像詳細の一部が圧縮時に失われることを

意味します。この方法で圧縮した画像は、通常JPGまたはJPEGと呼ばれます。

JPG
JPEGを参照してください。

L

LPR
「License Plate Recognition(ナンバープレート認識)」の略。

M

MACアドレス
メディア入退室管理アドレスの意味で、ネットワーク上の各デバイスを一意に識別する12文字の16進数です。

Matrix
一部の監視システムに組み込まれている製品で、分散表示を可能にするためにリモートコンピュータ上でライブカメラビューを制御できます。Matrixによってトリガーされたビデオを表示でき、Matrix受信者と呼ばれるコンピュータ。

Matrix受信者
Matrixによってトリガーされたビデオを表示できるコンピュータ。

MIP
「Milestone Integration Platform」の略語。

MIP SDK
「Milestone Integration Platformソフトウェア開発キット」の略。

MPEG
Moving Pictures Experts Group(MPEG)によって開発された、デジタルビデオの圧縮標準とファイルフォーマットの集合。MPEG標準は不可逆圧縮を使用しており、キーフレーム間の変化だけを保存し、冗長する情報の多くを除外します。キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータだけを保持します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。

P

PoS
「Point of Sale(販売時点管理)」の略。通常は小売店などのレジまたはレジカウンターを指します。

PTZ
パン/チルト/ズームの意味で、動きと柔軟性に優れたカメラです。

PTZパトロール
複数のプリセット位置間でPTZカメラを自動的に作動。

PTZプリセット
PTZプリセットを使用すると、特定のイベントが発生したり、PTZパトロールプロファイルを指定した場合に、PTZカメラを自動的に特定のプリセット位置に移動させることができます。

Pフレーム
予測フレームの略語。デジタルビデオ圧縮のMPEG標準は、Pフレームとフレームを使用します。Iフレームはキーフレームとも呼ばれ、指定した間隔で保存される1つのフレームです。Iフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレーム(Pフレーム)は変化したピクセルのみを録画します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。

S

SCS
XProtect Smart Clientのコントロールを目的とするスクリプトの種類で使用されるファイル拡張子(.scs)。

T

TCP
Transmission Control Protocol(伝送制御プロトコル):ネットワーク上でデータパケットを送信する際に使用するプロトコル(標準)。TCPは多くの場合、別のプロトコルであるIP(インターネットプロトコル)と組み合わせて使用されます。この組み合わせをTCP/IPと呼び、ネットワーク上の2つのポイント間でデータパケットを長時間にわたって送受信す

ることができます。コンピュータとインターネット上にある別のデバイスの接続でも使用します。

TCP/IP
伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル：インターネットなど、ネットワーク上でコンピュータと他のデバイスを接続する際に使用するプロトコル(標準) の組み合わせ。

V

VMD
ビデオモーション検知。IP ビデオ監視システムでは、多くの場合、モーションを検知するとビデオの録画が開始されます。これにより不必要な録画を防ぐことができます。ビデオの録画は、その他のイベントや時間スケジュールによって始めることもできます。

VMS
「ビデオマネジメントソフトウェア」の短縮形

X

XProtect Transact
監視システムのアドオンとして使用できる製品。XProtect Transactでは、時間にリンクしたPOS またはATM トランザクションデータとビデオを組み合わせることができます。

あ

アーカイブ
カメラのデフォルトのデータベースから、別の場所へ自動的に録画を転送します。これにより、保存できる録画の量は、カメラのデフォルトのデータベースの最大サイズによる制限を受けません。アーカイブによって、任意のバックアップメディアに録画データを保存することもできます。

アスペクト比
画像の高さと幅の関係。

アダプティブストリーミング
ビデオデコーディング能力を向上させることで、XProtect Smart Clientまたは他のビデオ視聴クライアントが実行されているコンピュータのパフォーマンス全般を高めるための機能です。

アラーム
XProtect Smart Clientでアラームをトリガーするように監視システムで定義したインシデント。組織でこの機能を使用している場合、トリガーされたアラームは、アラームのリストまたはマップを含んでいるビューで表示されます。

い

イベント
監視システムで発生する定義済みの状態で、これを基に監視システムはアクションをトリガーします。監視システムの設定によっては、外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータによって、イベントが発生します。また、ユーザーの入力を通じて手動でイベントを発生させることも可能です。イベントの発生は、特定のフレームレートでのカメラ録画、出力の開始、電子メールの送信や操作の組み合わせなどからトリガーするよう設定できます。

お

オーバーレイボタン
ライブタブのビューの個別のカメラ位置にマウスのカーソルを移動させた際、ビデオにレイヤーとして表示されるボタンです。オーバーレイボタンは、スピーカーの起動、イベント、出力、PTZ カメラの移動、録画開始、カメラからの信号の消去に使用します。

オペレータ
XProtect クライアントアプリケーションのプロフェッショナルユーザー

か

カードホルダー
入退室管理システムが認識できるカードを所有し 1 つ以上のエリアや建物、その他にアクセス権限を与えられている人。入退室管理も参照。

カスタムオーバーレイ
建物内の間取り図を解説したり、地区の間に境界線をマークするなど、ユーザーがスマートマップに追加できるユーザー定義の地理的要素。カスタムオーバーレイは画

像、CADドローイング、あるいはシェイプファイルの可能性があります。

カメラナビゲーター
たとえば、間取り図に基づいて配置されているかなど、すべてのカメラの相対位置を表示して確認できる機能です。カメラナビゲーターを使用して、1つのビューで、1つのカメラから次のカメラに移動できます。

き

キーフレーム
デジタルビデオ圧縮の標準(MPEGなど)で使用されます。キーフレームは指定された間隔で保存される1つのフレームです。キーフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレームは変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。キーフレームはiフレームに類似しています。

こ

コーデック
エクスポートされたAVIファイルなど、音声とビデオデータを圧縮および解凍するテクノロジー。

し

シーケンスエクスプローラ
シーケンスエクスプローラは、ビュー内の各カメラまたはすべてのカメラからの録画シーケンスを表わすサムネイル画像を一覧表示します。サムネイル画像をドラッグして簡単に時間を移動でき、サムネイル画像を隣り合わせて比較できるため、多数のシーケンスでも簡単にアクセスでき、最も関係のあるシーケンスを特定して、すぐに再生できます。

す

スナップショット
特定の時点におけるビデオフレームのインスタントキャプチャ。

スマートサーチ
特定のカメラからのレコーディングの1つ以上の選択されたエリアのモーション付きビデオ見つけるサーチ機能。

スマートマップ
地理的情報システムを使用して、地理的に正確、かつ実世界のイメージで、監視システムのカメラ、構造、およびトポグラフィカル要素を視覚化する地図機能。この機能の要素を使用するマップは、スマートマップと呼ばれます。

て

デッドゾーン
デッドゾーンは、情報をシステムに送信するためのジョイスティックハンドルの動作範囲を決定します。ジョイスティックのハンドルは、使用していない時は完全に垂直なのが理想的ですが、多くの場合、少し傾いています。PTZカメラの制御にジョイスティックを使用している場合、ジョイスティックが少しでも傾いているとPTZカメラが動きます。このため、デッドゾーンを設定可能としておくことが望ましい場合があります。

は

パトロールプロファイル
PTZカメラを用いたパトロール実行方法の正確な定義(プリセット位置間の移動シーケンス、タイミング設定など)。「パトロールスキーム」とも呼ばれます。

ひ

ビュー
1つまたは複数のカメラからのビデオ群で、XProtect Smart Clientでともに表示されます。ビューには、HTMLページや静止画像など、カメラからのビデオ以外のコンテンツが含まれている場合もあります。ビューには、個人ビュー(作成したユーザーだけが閲覧可能)と他のユーザーと共有できる共有ビューがあります。

ふ

ブックマーク
ビデオ録画の中の重要な時点で、ユーザーやユーザーの同僚が後から簡単に見つけられるように、ある時点にマークを付け、オプションとして注記を付けることもできます。

プライバシーマスク
カメラビュー内のビデオの領域をカバーするぼかし、あるいは単色。定義されたエリアは、クライアントのライブ、再生、ホットスポット、画面自動切替、スマートマップ、スマートサーチ、エクスポートモードで、ぼかされるか、隠されます。

プリセット
XProtect Smart Clientにおける個々のモニター用の事前定義レイアウト。プリセットには、どのカメラが表示されるのか、ビデオウォールの各モニターでコンテンツをどのように構成するのかなどを事前定義した設定が含まれます。

フレームレート
モーションビデオに含まれている情報量を示す単位。通常、FPS(秒当たりのフレーム数) で計算します。

へ

ペイン
XProtect Smart Clientウィンドウの左側にあるボタン、フィールドなどの小さな集まり。 ペインでは、XProtect Smart Clientのほぼすべての機能にアクセスできます。表示されるペインは、使用している設定および実行しているタスクによって異なります。たとえば、ライブタブでライブビデオを見ている場合と、再生タブで録画されたビデオを見ている場合ではペインが異なります。

ほ

ポート
データトラフィックの論理的エンドポイント。ネットワークでは、データトラフィックの異なる種類ごとに異なるポートが使用されます。そのため、場合によっては、特定のデータ通信でどのポートを使用するのか指定する必要があります。ほとんどのポートは、通信に含まれるデータの種類に基づいて自動的に使用されます。TCP/IPネットワークの場合、ポート番号は0～65536ですが、0～1024までは特定用途向けです。たとえば、ポート80はWebページの表示に使用されるHTTPトラフィック用です。

ホットスポット
XProtect Smart Clientのビューで、拡大されるか高品質で表示されるカメラ画像の特定の位置。

ま

マップ
1) XProtect Smart Clientナビゲーションやステータス可視化で、マップ、間取り図、写真などを使用する機能。2) ビューで使用される実際のマップ、間取り図、写真など。

れ

レイヤー
スマートマップ上の地理的背景、カスタムオーバーレイ、あるいはカメラなどのシステム要素。レイヤーは、スマートマップ上に存在するすべての地理的要素です。

漢字

画面自動切替
XProtect Smart Clientビューで、複数のカメラからのビデオを次々に再生できる特定の位置。

魚眼レンズ
360°のパノラマ画像を作成、表示できるレンズ。

出力
コンピュータから送られるデータ。IP監視システムで、出力はゲートやサイレン、ストロボなどのデバイスを起動するため、頻繁に使用されます。

静止画像
単一の静止画像。

入退室管理
建物や敷地に侵入する人や車やその他をコントロールするセキュリティシステム。

録画
IPビデオ監視システムでは、録画とはビデオを保存することを意味し、場合によってはカメラからの音声を監視システムのデータベースに保存することも意味します。多くのIP監視システムでは、カメラから受信したビデオと音声のすべてを保存する必要はありません。ビデオと音声の保存は、多くの場合、モーションの検知、特定のイベントの発生、あるいは特定の時刻などの理由がある場合にのみ開始されます。そのため、モーションが検知されなくなったり、他のイベ

ントが発生しなくなってから一定時間後に録画は停止します。元々記録は、録音 / 録画ボタンを押すまでビデオや音声をテープに保存できなかったアナログの世界の用語です。

JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター

固定電話 0120−2727−87
携帯電話･PHS 0570−010−114
一部のIP電話など 045-450-8950
FAX 045-450-2308
〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

ホームページ https://jkpi.jvckenwood.com/

© 2021 JVCKENWOOD Public & Industrial Systems Corporation

B5A-3750-00